

社会科指導計画(第五次)

(令和5年11月発行)

上 卷

(第3学年・第4学年)

東京都小学校社会科研究会

目 次（上 巻）

指導計画の改訂にあたって	会 長	和田 幹夫……………	1
本指導計画の活用にあたって	委員長	浅野 正道……………	2
第3学年年間指導計画 ……………			5
第3学年の指導のポイント 小单元ごとの展開 等			
第4学年年間指導計画 ……………			47
第4学年の指導のポイント 小单元ごとの展開 等			
指導計画作成委員会名簿 ……………			138

都小社研 社会科指導計画の改訂（第五次）にあたって

東京都小学校社会科研究会会長 和田 幹夫

私たち都小社研では、これまで学習指導要領の改訂にあわせて、全国に先駆けてそれに基づく社会科指導計画を発行してきました。現行の学習指導要領についても、平成29年3月の告示を受け、都小社研では、その年の4月からプロジェクトチーム「指導計画作成委員会」を立ち上げ、平成30年2月「社会科指導計画（第一次）」を配付、その後、平成31年2月「社会科指導計画（第二次）」、令和2年2月に「社会科指導計画（第三次）」と版を重ね、全都、全国に配付してきました。

そして、令和4年2月には、今までの指導計画をベースにしながらも、研究の深まり、実践の成果と課題を踏まえながら2年かけて見直しを行い、「問いの構成の工夫」「評価の工夫」を加えるとともに、学習の展開をより具体的に示すことができるように指導計画を2ページに広げるなど、全面的に充実を図った第四次改訂版を発行しました。

さらに、この度、一つ一つの活動や問い、評価などをもう一度確認しながら、子供たち一人一人が社会的事象の見方・考え方を働かせて自ら問いを見いだし、主体的・協働的に追究することを通して、目指す資質・能力を確実に身に付けていくことができるように、第五次の改訂を行い、第61回全国小学校社会科研究協議会・第22回関東地区小学校社会科研究協議会 東京大会にあわせて、全国の皆様にお渡しすることとなりました。

本指導計画は、現行学習指導要領の趣旨や内容を踏まえ、それを確実に実現することができるよう、子供たちに獲得させたい知識を明確にするとともに、それを子供自らが獲得することができるように、「社会的な見方・考え方」を働かせながら子供たちにもたせたい「問い」を思考の流れに即して構成しています。また、子供の社会的事象の見方・考え方が働くような学習活動、主体的に問いを見いだし追究することができる活動、子供の学びを確かにする評価などについても、できる限りお示しをすることができるようにしています。

しかしながら、これが完全なものとは、考えておりません。あくまでモデルの一つです。各市区町村や各学校におかれましては、この指導計画を参考に子供や学校の実態に合わせた指導計画をつくり、子供が主体的に学習の課題を追究したり解決したりする活動を充実させながら社会の形成者として必要な資質・能力を育む社会科学習の充実に取り組んでいただければ幸いです。

この間、3年半に渡る新型コロナウイルス感染症の流行がありながらも、5回7年間にわたり、地道に指導計画の改訂を積み重ねてきたのは、学習指導要領の趣旨と内容を具現化する社会科授業の具体像を全国に発信していきたいという都小社研関係者の強い使命感と熱意があったからこそだと思います。それを形にして、この度、全国に皆様にお渡しできることはこの上ない喜びです。

結びになりますが、本指導計画の作成に当たって丁寧な指導をいただきました大妻女子大学教授：澤井陽介先生をはじめ、研究授業でご指導をいただきました講師の先生方に心より感謝申し上げます。また、作成委員としてご尽力をいただいた担当副会長（委員長）、調査研究部長・副部長の皆様に重ねて感謝申し上げます。ありがとうございました。

指導計画の活用にあたって

東京都小学校社会科研究会 社会科指導計画（第五次）改訂委員会委員長 浅野 正道

平成30年2月に東京都小学校社会科研究会は、『社会科指導計画（第一次）』を全国に先がけて発刊しました。そして、次のとおり改訂を重ね、その充実を図ってきました。

- ＜平成29年度（第一次）＞ 新学習指導要領の趣旨を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、新しい学習内容にも対応した年間指導計画を全国に先駆けて作成した。
- ＜平成30年度（第二次）＞ 初版について選択事例の追加を図るとともに、新しい内容を中心に実践・資料のページを作成し、授業のさらなる改善を目指した。
- ＜令和元年度（第三次）＞ 第二版について、特に単元の目標や評価規準、評価の観点等について全単元を見直すとともに、事例選択のある単元については、事例をさらに充実した。
- ＜令和3年度（第四次）＞ 令和2年度から2年間をかけて改訂を進め、「問いの構成」を図で分かりやすく示した。また、指導計画を2ページ構成として、評価規準や評価方法を具体的に示し、「つかむ」「まとめる」「つなぐ」段階の内容をより具体的に記述した。

この間、都内各地域はもちろん、全国においても、本指導計画は社会科の授業充実や改善に対し、大きな役割を果たしてきたと自負しています。しかし、改訂を重ねても、実践された先生方や、東京都小学校社会科研究会においてご指導をいただく先生方から、さらなる見直しや改訂の必要性についてご指摘をいただきました。

そこで、今回は、令和4年度、令和5年度の2年間をかけて、以下の点を中心に改訂を進めて参りました。

【見直しと改訂の主なポイント】

- ①誤字・脱字、語句や表記の統一や修正（研究主題「社会とつながり未来を創る子供の育成」に基づき、全て「児童」の表記を「子供」に変えて統一した。）
- ②評価の充実
 - 各時間の評価規準を見直し、小単元の評価規準をそのまま使うのではなく、具体的評価規準とすることにより、評価の充実につなげるようにした。
 - 5、6年において「思考・判断・表現」の観点で評価する時間においては、子供が説明したり議論したりする力を育むような活動を設定し、それを評価につなげることとした。
 - 「主体的に学習に取り組む態度」の評価について、学習調整に関わる力の評価の充実を図った。ただし、必ずしも学習調整の段階をつくるということではなく、友達と考えを交流する場面では、必ず自分の学びを見直すことになるので、その場面で意識的に評価していくようにした。
- ③「まとめる」段階の「問い」の検討
 - 「まとめる」段階では、学習問題と同じではなく、前時までに調べる中で明確になったり深まったりした「問い」を設定することとした。すなわち、「目標の実現に向かう問い」や「深まった問い」を設定する。
 - 第四次までは、主として「学習問題について自分の考えをまとめる。」という簡単な表記をしていたが、今回、何をまとめるのか明確にするためにも、「学習問題に対して分かったことや考えたことをまとめる。」という表記の方が適切であると考え、できるだけ揃えるようにした。

今回の改訂にあたり、東京都小学校社会科研究会の社会科指導計画改訂委員が見直しと最終確認を行いました。それでもまだ完全なものではありませんが、この度、『社会科指導計画（第五次）』としてまとめ、CDの形で発刊し、第61回全国小学校社会科研究協議会研究大会東京大会に参加された皆様にお渡しすることができました。本指導計画は、各教室で社会科の授業充実や改善に資することを目的として作成した基本プランです。各地域や子供の実態に合わせて、各校においてさらなる詳細な指導計画を作成することをお願いいたします。

1) 「各学年指導計画作成のポイント」について

ここでは、各学年の目標と改訂のポイントについて、今回の改訂で言われている生きる力に必要な三つの資質・能力（「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」）の視点でまとめています。

- 社会的事象の見方・考え方を働かせて育成を目指す資質・能力を明確化しています。
- 内容においては、学習指導要領の内容がどのように変わったか明記しています。
- 単元配列案を学年の合計時数に合わせて作成しました。この案を基に、各地域や学校で組み立ててください。
- 学習指導要領の内容ごとの「着目すること」「考えること」「理解すること」を整理してあります。
- 授業を組み立てる上で指導するポイントをまとめています。
- 本指導計画を基に、例えば、3年生においては生活科とのつながりを重視したり、警察・消防のどちらかを重点化したりするなど、学校や地域にあったカリキュラム・マネジメントを行ってください。

2) 各小単元について

今回の学習指導要領では、社会的事象の見方・考え方を働かせて学習を展開できるように「問い」が重視されています。各学年の内容のイに書かれている「着目すること」に基づいて、子供にもたせたい主な「問い」を設定しています。(※以下1、2等は、本ページの図を参照ください。)

1 目標と評価規準について

育成を目指す資質・能力を統一的に育むことを意図して、目標を一文表記としました。小単元の観点別評価規準も見直すとともに、いつ、どの観点で、どのように評価するのか、具体的な評価規準も含めて指導計画に記しました。

2 教材や資料の工夫、学習展開や学習活動の工夫について

「教材や資料の工夫」では、教材開発等の視点や、取り上げる事例、教材の良さ、白地図、資料の活用等について示しました。また、「学習展開や学習活動の工夫」では、主体的・対話的で深い学びを実現する学習展開や学習活動、指導の工夫について示しています。小学校社会科では、社会的事象を「位置や空間的な広がり」「時期や時間の経過」「事象や人々の相互関係」などに着目して捉え、比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすることを、「社会的事象の見方・考え方」と整理しています。これは、社会的事象の特色や意味を考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする際の視点や方法になります。この見方・考え方を働かせるための学習展開や活動、指導の工夫も示しています。

The diagram illustrates the interconnected nature of the curriculum components. It features several main boxes:

- Box 1 (Top Left):** Focuses on 'Objectives and Evaluation Standards'. It details the goals for each grade level (1st to 6th) and the specific evaluation criteria for each of the six learning objectives.
- Box 2 (Middle Left):** Focuses on 'Efforts in Materials and Learning Activities'. It provides examples of how to use textbooks, supplementary materials, and real-world examples to achieve the learning objectives.
- Box 3 (Top Right):** Contains the 'Social Studies Learning Objectives' (社会的科の学習目標). These are the broad goals for the subject, such as understanding social phenomena and participating in community activities.
- Box 4 (Middle Right):** Contains the 'Learning Objectives' (学習目標). These are more specific goals for each grade level, derived from the social studies learning objectives.
- Box 5 (Bottom Left):** Contains the 'Learning Objectives and Evaluation Standards' (学習目標と評価規準). This section links the learning objectives to the specific evaluation criteria for each grade level.

Arrows indicate the flow of information: the learning objectives (3) inform the social studies learning objectives (4), which in turn inform the learning objectives and evaluation standards (5). The objectives and evaluation standards (1) and the efforts in materials and learning activities (2) both provide detailed support and examples for achieving the learning objectives (4) and the social studies learning objectives (3).

3 「問いの構成の工夫」について

「問いの構成の工夫」という項目を設け、どのような社会的現象から、どのような問いを見だし、どのような問いをもって追究していくか示しました。特に、問いを見だし学習問題をつくる「つかむ」段階では、予想される子供の反応も加えて、子供の学びと問いを関連付けて示しています。

4 「評価の工夫」について

特に、記録に残す評価に重点を置き、小単元の内容や学習展開に即した評価場面を取り上げ、具体的な作品や記述なども示しながら、評価の実際について示しています。

5 指導計画について

2ページ構成として、毎時間の展開をより具体的に表しています。特に、学習問題をつくり学習計画を立てる「つかむ」段階や、小単元の目標に迫る「まとめる」段階、学びを未来につなげる「つなぐ」段階などは、できる限り具体的に表しました。また、各時間の具体的評価規準、方法及び、指導に生かす評価(☆)を示しました。

6 学習過程について

基本的な学習過程を「つかむ」「しらべる」「まとめる」として学習を進めるようにしました。さらに、内容の取扱いに、社会に見られる課題を把握し、課題の解決について構想したり、自らの関わりを選択・判断したりすることが示されている内容を中心に、「まとめる」段階の後に「つなぐ」段階を設定している小単元もあります。

また、「主体的に学習に取り組む態度」として、自らの学習を振り返り調整する力等も含まれるため、評価規準に「学習を振り返ったり見直したりして」という学習過程を取り入れています。特に、調べる内容が多岐に渡り、「しらべる」段階の長い小単元、内容を選択して調べる活動を取り入れた小単元などに意識して設定しています。

3) 資料ページについて (※掲載内容は、あくまで実践に基づく資料です。指導計画と異なる部分もあります。ご了承ください。)

1 学習過程と「問い」について

指導計画の中の主な学習過程についてまとめています。その時間の「問い」に迫るための資料や指導上の留意点も示しています。

2 指導上の留意点について

どのようなことを重点的に子供が捉えられるとよいか、白地図等の使い方、学習活動、学習問題への迫り方などを示しています。

3 着目する点について

「社会的な見方・考え方」を働かせることができるように、子供が着目する点について明記しました。示したような点に着目して授業を進めることで、より主体的に学習に取り組むことができると考えています。

4 子供の発言について

それぞれの時間に予想される子供の発言を示しました。子供からこのような気付きが出てくるように、具体的に教師の発問や支援を工夫していく必要があります。

第3学年

年間指導計画

第3学年の指導計画作成のポイント

1 目標と改訂のポイント

社会的事象の見方・考え方を働かせ、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 身近な地域や市区町村の地理的環境、地域の安全を守るための諸活動や地域の産業と消費生活の様子、地域の様子の移り変わりについて、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、調査活動、地図帳や各種の具体的資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。 <知識及び技能>
- (2) 社会的事象の特色や相互の関連、意味を考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを表現する力を養う。 <思考力、判断力、表現力等>
- (3) 社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う。 <学びに向かう力、人間性等>

これまで「第3学年及び第4学年」というように2学年を一括りとされていた目標及び内容が、系統的・段階的に再整理され、「第3学年」「第4学年」と分けて示された。

(1) <知識及び技能>の改訂のポイント

- ・第3学年で取り上げる「地域」の範囲が「自分たちが生活している市区町村」と明示された。
- ・「人々の生活との関連」を考えることを通して、「地域における社会生活」について理解することが示された。
- ・「観察、調査」をまとめて「調査活動」とし、「地図帳」の活用が新たに示された。

(2) <思考力、判断力、表現力等>の改訂のポイント

- ・第3学年にも「社会的事象の意味を考える力」「社会の関わり方を選択・判断する力」が新たに示された。
- ・「考えたこと」に加え、「選択・判断したこと」を文章で記述したり資料などを用いて説明したり話し合ったりする力を養うよう示された。

(3) <学びに向かう力、人間性等>の改訂のポイント

- ・「主体的に学習の問題を解決しようとする態度」「学習したことを社会生活に生かそうとする態度」が示された。
- ・「地域社会に対する誇りと愛情」「地域社会の一員としての自覚」は学習活動を通して考えたり理解したりしたことを基に涵養されるものであることが示された。

2 内容の改訂ポイントと単元配列案

- 内容(1)「身近な地域や市区町村の様子」 ← 旧第3学年及び第4学年内容(1)のA
- 内容(2)「地域に見られる生産や販売の仕事」 ← 旧第3学年及び第4学年内容(2)のA、イ
- 内容(3)「地域の安全を守る働き」 ← 旧第3学年及び第4学年内容(4)のA、イ
- 内容(4)「市の様子の移り変わり」 ← 旧第3学年及び第4学年内容(5)のAを変更

*内容(4)「市の様子の移り変わり」は、「昔の道具、それを使っていたころの暮らしの様子」を改めたもので、交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具を時期による違いに着目して調べ考えるよう示された。

★単元配列案

*第3学年は「自分たちが生活している市区町村」を学習対象として取り上げる。 合計時数 70時間

新学習指導要領の内容		単元・小単元名	配当時数
(1)	身近な地域や市区町村の様子	わたしたちの〇〇市(区町村)のようす	16時
(2)	地域に見られる生産や販売の仕事	〇〇市(区町村)の農家(工場)の仕事 *農家と工場などの中から選択	10時
		わたしたちのくらしとお店の仕事	11時
(3)	地域の安全を守る働き	火事から地域の安全を守る	9時
		事故から地域の安全を守る	7時
(4)	市の様子の移り変わり	〇〇市(区町村)のうつりかわり	17時

3 新学習指導要領の内容構成及び内容の取扱い

	内容構成			内容の取扱い
	着目すること	考えること	理解すること	
内容(1)	(ア) 都内における市の位置、市の地形や土地利用、交通の広がり、市役所など主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布など	場所ごとの様子を比較したり、土地利用の様子と社会的な条件や地形条件を関連付けたりして、市内の様子は場所によって違いがあることを考える。	身近な地域や自分たちの市の様子を大まかに理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学年の導入で扱う。 ・「自分たちの市」に重点を置くように配慮する。 ・「白地図などにまとめる」際に、地図帳を参照し、方位や地図記号について扱う。
内容(2)	(ア) 仕事の種類や産地の分布、仕事の工程など	生産の仕事の様子と地域の人々の生活を結び付けて、地域に見られる生産の仕事と地域の人々の生活との関連を考える。	生産の仕事は、地域の人々の生活と密接な関わりをもって行われていることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・農家、工場などの中から選択して取り上げる。
	(イ) 消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりなど	観点を設けて販売の仕方を分類したり、それらと消費者の願いを関連付けたりして、販売の仕事に見られる工夫を考える。	販売の仕事は、消費者の多様な願いを踏まえ売上げを高めるよう、工夫して行われていることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・商店を取り上げ、「他地域や外国との関わり」を扱う際には、地図帳などを使用して都道府県や国の名称と位置などを調べるようにする。 ・またその際には、我が国や外国には国旗があることを理解し、それを尊重する態度を養うよう配慮する。
内容(3)	(ア) 施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応など	連携・協力している関係機関の働きを比較・分類したり、結び付けたりして、関係機関相互の関連を考えるとともに、関係機関に従事する人々の活動と地域の人々の生活を関連付けて関係機関の働きを考える。	消防署や警察署など関係機関は、地域の安全を守るために、相互に連携して緊急時に対処していることや、関係機関が地域の人々と協力して火災や事故などの防止に努めていることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・火災と事故はいずれも取り上げる。その際、どちらかに重点を置くなど効果的な指導を工夫する。 ・法やきまりについて扱うとともに、地域や自分自身の安全を守るために、自分たちにできることなどを考えたり選択・判断したりできるように配慮する。
内容(4)	(ア) 交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いなど	駅や鉄道、公共施設ができたこと、人口の変化、土地利用や生活道具の変化などを相互に関連付けたり、市の様子の変化と人々の生活の様子の変化を結び付けたりして、市全体の变化の傾向を考える。	市や人々の生活の様子は、時間の経過に伴い、移り変わってきたことを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「年表などにまとめる」際には、昭和、平成など元号を用いた言い表し方などがあることを取り上げる。 ・「公共施設」については、市が公共施設の整備を進めてきたことを取り上げる。その際、租税の役割に触れる。 ・「人口」を取り上げる際には、少子高齢化、国際化などに触れ、これからの市の発展について考えることができるよう配慮する。

4 各内容のポイント

- (1) 内容(1)「身近な地域や市区町村の様子」では、「自分たちの市」に重点を置いた効果的な指導を行うように計画することが求められている。また、「市役所など主な公共施設の場所と働き」を扱う際は、公共施設の運営や災害時の避難場所の指定を市役所が行っていることに触れることが大切である。本内容は、学年の導入で扱うよう明示されている。本単元の学びが以後の学びの基になることを踏まえ、充実を図ることが大切である。
- (2) 内容(2)「地域に見られる生産や販売の仕事」では、生産は「身近な地域や市の人々の農作物や工業製品などを生産する仕事」を対象としている。販売は、消費者・販売者双方の立場から調べ、販売の仕事が消費者の多様な願いを踏まえて売上げを高めるよう工夫していることを指導することが求められている。
- (3) 内容(3)「地域の安全を守る働き」では、緊急時に対処する体制をとっていることについては「火災」に重点を置き、防止に努めていることについては「事故」に重点を置くなど、取り上げ方に軽重を付け、効果的に指導することが大切である。また、地域社会の一員として自分たちにも協力できることや自分自身の安全を守るために自分たちにできることを考えたり選択・判断したりして、話し合うことなどが大切である。
- (4) 内容(4)「市の様子の移り変わり」では、内容(1)「身近な地域や市区町村の様子」にはなかった「人口」「生活の道具」にも着目して交通、公共施設、土地利用などを相互に関連付け、「市や人々の生活の様子」の変化を考えさせ、年表などにまとめる活動が考えられる。その際、内容(1)の学習で作成した地図などの活用も考えられる。また、これからの市の発展、将来について考えたり討論したりすることができるよう指導することが大切である。

単元名	わたしたちの中野区の様子	配当 16 時間	内容 (1) アの(ア)及び(イ)とイの(イ)
-----	--------------	----------	-------------------------

＜主として「地理的環境と人々の生活」の区分＞

1 単元の目標と観点別評価規準

(1) 単元の目標

身近な地域や中野区の様子について、東京都内における中野区の位置、中野区の地形や土地利用、交通の広がり、区役所など主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などに着目して、観察・調査をしたり地図などの資料で調べたりして、白地図などにまとめ、身近な地域や中野区の様子を捉え、場所による違いを考え、表現することを通して、身近な地域や中野区の様子を大まかに理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究し、解決しようとする態度を養う。

(2) 単元の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①東京都内における中野区の位置、中野区の地形や土地利用、交通の広がり、区役所など主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などについて、観察・調査をしたり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、身近な地域や中野区の様子を理解している。 ②調べたことを白地図や文などにまとめ、身近な地域や中野区の様子を大まかに理解している。	①東京都内における中野区の位置、中野区の地形や土地利用、交通の広がり、区役所など主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などに着目して、問いを見いだし、身近な地域や中野区の様子について考え、表現している。 ②場所ごとの様子を比較したり、土地利用と地形的な条件や社会的な条件を関連付けたりして、中野区の様子は場所によって違いがあることを考え、適切に表現している。	①身近な地域や中野区の様子について、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

2 指導計画の作成に当たって

(1) 学習指導要領との関連

①本単元は、内容 (1) 「身近な地域や市区町村の様子」に関する内容で構成した単元である。「身近な地域や市区町村の様子」とは、自分たちが通う学校の周りの地域や自分たちの住んでいる市の様子を指している。この内容は、「都道府県内における市の位置、市の地形や土地利用、交通の広がり、市役所など主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布」などに着目して調べることを通して、身近な地域や自分たちの市の様子を大まかに理解できるようにしていく。本指導計画においては、中野区を事例として取り上げている。

②内容の取扱い (1) のイに示された「方位や主な地図記号について扱うこと」については、「つかむ」段階で、中野区の位置を確かめる際に必要となる方位を、また、「しらべる」段階で、区の様子を調べる際に必要となる地図記号を、地図帳を参照して理解し、活用するように意図している。

(2) 教材や資料の工夫

①単元の導入で、「グーグルマップ」を利用することで、日本から東京、中野区とクローズアップでき、社会的事象の見方・考え方 (位置や空間的広がり) を働かせながら、都内全体から見た中野区や隣接する区などの位置や位置関係、区内の様子について調べたり考えたりできるようにする。

②公共施設の場所と働きでは、「中野区役所」を取り上げる。区役所の場所について、前時までに学習した地形や土地利用の様子、交通の広がりに関連付けて考えられるようにする。区役所の働きでは、多くの区民が利用し、区民が安心・快適に暮らしていけるように手助けする場所であることを押さえるようにする。そのために、区役所で働いている方の話を紹介したり、見学 (区内巡り) をしたりして理解を深められるようにする。

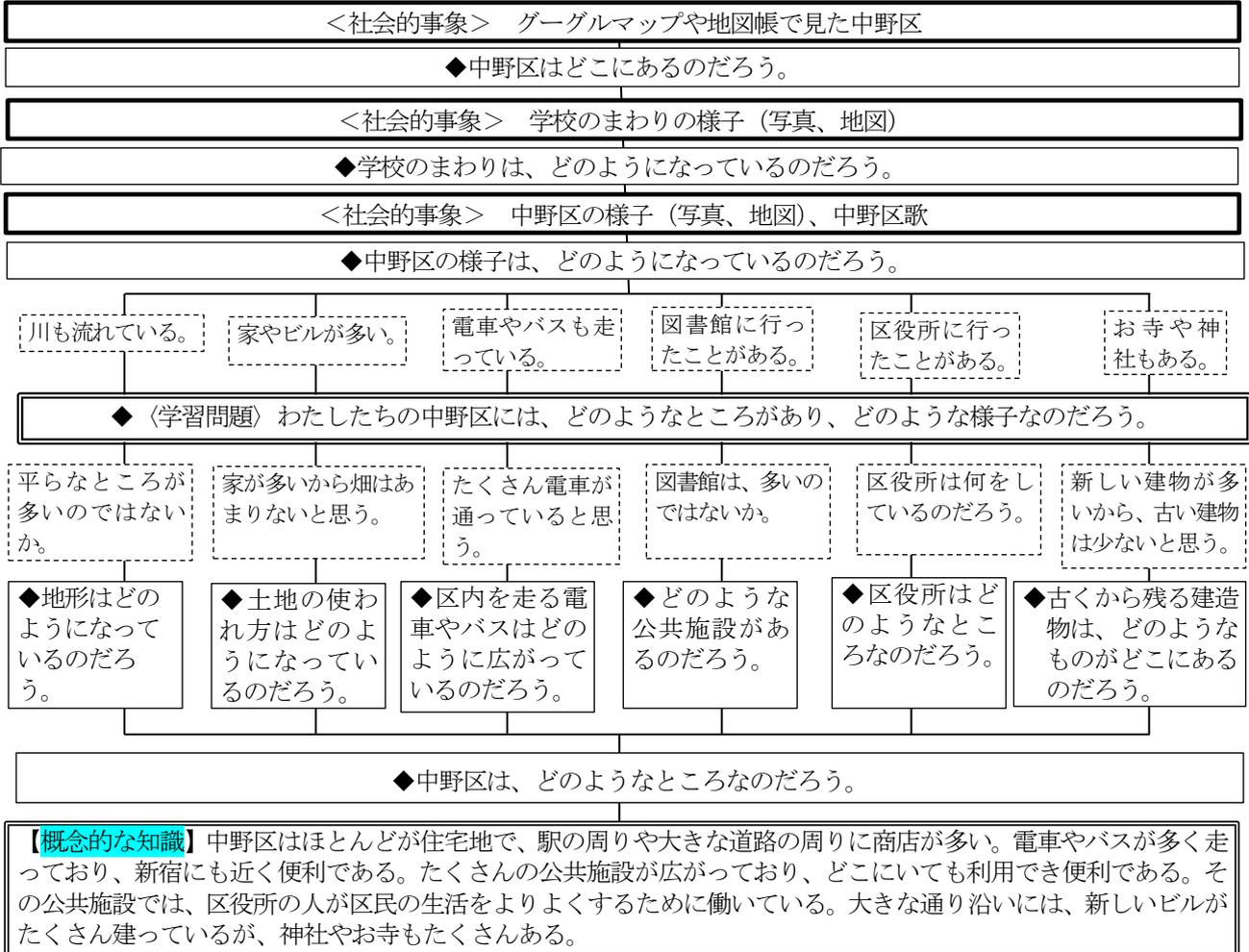
③中野区の様子を捉えるために、学習計画に沿った中野区の地図を毎時間提示する。1 時間に 1 種類の地図を提示することで、中野区の様子を具体的に捉えることができるようにする。

(3) 学習展開や学習活動の工夫

①「つかむ」段階において、身近な学校の周りの様子を捉え、丁寧に学習問題づくりを行うが、「中野区 (自分たちの市)」が学習の重点となるように配慮する。その際、学校の周りの様子から得た調べる視点を、「しらべる」段階で活用できるようにする。また、学習問題に対する一人一人の予想を基に、地図帳や写真資料、VTRなどの資料を使って、地形や土地利用の様子、交通の様子、主な公共施設、古くから残る建造物を調べ、白地図にまとめられるようにする。

- ②単元の終末では、「しらべる」段階での問いに沿って整理し、調べたことを関連させながら、ノートにまとめられるようにする。「まとめる」段階では、作品づくりに固執するのではなく、学習問題の解決に結び付くように指導する。
- ③「主体的・対話的で深い学び」を行うために、少人数グループで表や写真の部分に着目させ、部分同士を比較し、話し合うことを通して、考えを深められるようにする。
- ④「まとめる」段階では、学んできたことを関連付けて総合し、中野区の特徴（場所による違い等）やよさを考えられるように、中野区のガイドマップを作成する活動を行う。そして、自分が考えたガイドマップを交流し、お互いのガイドマップの共通点や相違点を比較することで、それぞれの考えを深められるようにする。

(4) 問いの構成の工夫



(5) 評価の工夫

「まとめる」段階では、中野区のガイドマップを作成する活動を設定し、「知識・技能」の観点について、中野区の大まかな様子を捉えているか評価する。その際、土地利用の様子や交通の広がり、公共施設や文化財の位置等を正しく白地図に記入しているか、区の様子を解説文などに適切にまとめているかに着目して評価する。下のガイドマップは、中野区の交通や土地利用の様子、地形など学習したことを適切に一つのマップにまとめており、中野区全体の様子を大まかに理解しているといえる。

そして、ガイドマップを交流し合った後、調べたことをもとに区の様子について話し合う活動を設定する。その際、「思考・判断・表現」についてノートの記述や発言などから評価する。「駅や大きい通りの周辺にはお店が多い」「駅や大きな道から離れたところは住宅が多い」「公共施設は駅やバス停の近くに多い」など、土地利用、交通、公共施設、文化財について分かったことを比較したり関連付けたりして場所ごとの違いを考えていけば、「概ね満足できる」状況と捉えられる。



▲子供が作成したガイドマップの例

3 単元の指導計画と評価計画 (16時間扱い)

過程	ねらい ○数字は第○時を表す	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される子供の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点 ◎資料 ☆★評価【観点】)
つかむ	①東京都における中野区の位置を理解できるようにする。	○中野区の形を白地図から捉える。 ◆中野区は、どこにあるのだろう。 ○東京都の白地図で中野区を探し、色塗りをし、近隣の区を確かめる。また、地図帳で確かめる。	□日本から東京、中野区とクローズアップし、位置を確かめる。 ◎グーグルマップ ☆発言や記述から「地図などの資料で調べ、必要な情報を集め、読み取り、中野区の位置について理解しているか」を評価する。【知①】
	②四方位の表し方を理解できるようにする。	◆地図はどう読めばいいのだろう。 ○地図帳を開き、四方位と地図記号について調べる。 ・中野区は東京都の東側にある。 ・中野区の東(西南北)には、～区がある。 ・鉄道、市役所、警察署、小中学校、工場、図書館、神社、寺院等	□教室の中で具体的に、窓側が南など四方位を確認する。 ◎地図帳 ☆発言や記述から「地図などの資料で調べ、必要な情報を集め、読み取り、四方位について理解しているか」を評価する。【知①】
	③④⑤学校の周りの様子を、視点に沿って調べ、身近な地域の様子を理解できるようにする。	◆学校の周りはどうなっているのだろう。 ○商店と住宅街の写真を比べて気付いたことを話し合い、白地図にまとめる。 ・土地利用 ・交通 ○学校の周りがある坂道や川の写真を見て気付いたことを話し合い、白地図にまとめる。 ・地形 ○学校の周りがある公共施設や古くから残る建造物を調べ、白地図にまとめる。	□学校周辺について以下の点に着目して調べるようにする。 ・地形・土地利用・交通・公共施設・古くから残る建造物 ◎地図帳 ◎白地図 ◎学校の周りの写真 ☆地図から身近な地域の様子について調べたことを白地図や文などにまとめ、身近な地域について大まかに理解しているか」を評価する。【知②】
	⑥中野区の様子に関心をもち学習問題をつくり、学習の見通しをもつことができるようにする。	◆中野区の様子は、どのようになっているのだろう。 ○中野区の区歌、地図や写真から知っていることや疑問に思ったことを話し合い、学習問題をつくる。 ・歌詞の川って神田川のことかな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">私たちの中野区にはどのようなところがあり、どのような様子なのだろう。</div> ○学習問題に対する予想をし、調べる計画を立てる。 ・平らなところが多いのではないか。 ・家が多いから畑は少ないのではないか。 ・たくさん電車が通っていると思う。 ・区役所もある。古い建物は少ないのでは…。	◎地図 ◎中野区の写真 ◎区歌 ☆発言や記述から「区の地形や土地利用、交通、公共施設、文化財などの様子に着目して、問いを見いだしているか」を評価する。【思①】 □学校の周り調べから得た視点を活用し学習計画を立てる。 ★発言や記述から「学習問題や解決に向けた予想をもとに、学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。【態①】
つらなる	⑦中野区の地形の様子を調べ、理解できるようにする。	○学校の周りの地形の様子について振り返る。 ◆中野区の地形は、どのようになっているのだろう。 ○中野区の地形図から地形の様子を調べる。 ・高い土地と低い土地が南北に順番にならんでいる。 ○中野区の土地の高低図から地形の様子を調べる。 ・川は低いところを流れている。	◎中野区の地形図(高い土地:茶色、低い土地:緑色) □資料を見て読み取った事実を発表させる。次に、特徴を表す内容を発表させることで地形の概観を捉えさせる。 ☆発言や記述から「地図などの資料で調べ、必要な情報を集め、読み取り、中野区の地形について理解しているか」を評価する。【知①】

し ら べ	⑧中野区の土地利用の様子について調べ、理解できるようにする。	◆中野区の土地の使われ方は、どのようになっているのだろう。 ○土地利用に関する写真を読み取る。 ・道路の周りに高い建物があるな。マンションかな。 ○中野区の土地の使われ方について調べる。 ・ほとんど住宅地になっているな。 ・中野駅の周りには、お店が多いな。	□写真の様子と学区内の様子を比べながら、中野区全体の土地の使われ方について調べさせる。 ◎中野区の土地利用図 ☆発言や記述から「地図などの資料で調べ、必要な情報を集め、読み取り、中野区の土地利用の様子について理解しているか」を評価する。【知①】
る	⑨中野区の交通の広がり調べ、理解できるようにする。	◆中野区内を走る電車やバスは、どのように広がっているのだろう。 ○鉄道の広がり方について調べる。 ・北、中央、南に電車が東西に通っている。 ○バスが通る道路の広がり方について調べる。 ・中野駅を通っている。 ・たくさんの道路をバスが通っている。	◎区内の電車路線図 □路線名だけを理解させるのではなく、交通網の広がりについて東西南北を意識して理解させる。 ☆発言や記述から「地図などの資料で調べ、必要な情報を集め、読み取り、中野区の交通の広がりについて理解しているか」を評価する。【知①】
	⑩中野区の公共施設の場所と働きについて調べ、理解できるようにする。	◆中野区には、どのような公共施設がどこにあるのだろう。 ○公共施設の分布を調べる。 ・小中学校 ・図書館 ・児童館 ○公共施設が複数ある理由を考える。 ・図書館は近くにあった方が使いやすい。	◎公共施設の分布が分かる地図 ☆発言や記述から「地図などの資料で調べ、必要な情報を集め、読み取り、中野区の子な公共施設の場所と働きについて理解しているか」を評価する。【知①】
	⑪中野区役所の場所と働きについて調べ、理解できるようにする。	◆中野区役所は、どのようなところなのだろう。 ○区役所の人などにインタビューする仕方を考える。 ○中野区役所は、どのような場所にあり、どのような働きがあるか話し合う。	◎区役所の写真、区役所の人からの手紙 ◎地図帳、避難所マップ ☆発言や記述から「地図などの資料で調べ、必要な情報を集め、読み取り、中野区役所の場所と働きについて理解しているか」を評価する。【知①】
	⑫古くから残る建造物について調べ、理解できるようにする。	◆中野区古くから残る建造物は、どのようなものがどこにあるのだろう。 ○古くから残る建造物について調べる。 ・中野区東の方にお寺が集中しているところがある。	◎地図帳 ◎白地図 ◎史跡の写真 ◎VTR ☆発言や記述から「地図などの資料で調べ、必要な情報を集め、読み取り、中野区古くから残る建造物について理解しているか」を評価する。【知①】
	⑬⑭見学を通して、中野区各地域の様子を理解できるようにする。	◆実際様子は、どのようになっているのだろう。 ○見学(バスでの区内巡り)を通して、区内各地域の様子を調べる。 ○実際の様子を観察して気付いたことを話し合う。	□見学を通して、今までの学びを確かめるようにする。 ◎記録カード ☆記録カードから「中野区の地形や土地利用、交通の広がり、公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などに着目して見学し、必要な情報を集め、読み取り、中野区の様子を理解しているか」を評価する。【知①】
ま と め る	⑮⑯調べたことを基にガイドマップにまとめ、中野区の大まかな様子を理解できるようにするとともに、中野区の特徴やよさを考え表現できるようにする。	◆中野区はどのようなところなのだろう。 ○中野区のガイドマップを作る ○ガイドマップを交流し合い、中野区の様子について場所ごとの様子を比較して違いを考え、調べたことや考えたことを表現する。	★ガイドマップから、「調べたことをまとめ、中野区の様子を大まかに理解しているか」を評価する。【知②】 ★ノートの記述や発言から「中野区の様子について場所ごとの様子を比較して違いを考え、調べたことや考えたことを表現しているか」を評価する。【思②】

第1時の資料(つかむ)

東京都内における中野区の位置に着目する。

◆自分たちの住む中野区はどこにあるのだろう。



中野区はこんな形をしているんだ。

中野区の周りには、どんな区があるのだろう。



資料 わたしたちの東京都 (東京都小学校社会科研究会 明治図書)

第6時の資料(つかむ)

資料 区歌 (中野区歌「未来カレンダー Forever Nakano」より一部抜粋)

◆写真や歌詞から中野区がどんなまちか予想しよう。

資料 区内の写真



畑だ。ここも中野区？

歌詞の川は、神田川のことかな。

綺麗な川や坂や建物
絵のような景色 胸に思い描けば
春 長く続く桜並木

たとえば道や駅や広場で
小鳥の囀(さえず)り ハーモニー
重ねる



なんの建物だろう？

<学校>



大きなお寺だな。何というお寺だろう。

【指導上の留意点】区内の写真や子供の生活経験などをもとに学区から徐々に区全体へ視野を広げられるようにする。

【学習問題】

私たちの中野区にはどのようなところがあり、どのような様子なのだろう。

第7時の資料（調べる）

地形や土地利用、交通の広がりに着目する。

◆中野区の土地利用の様子は、どのようになっているのだろう。

【指導上の留意点】場所ごとの様子を比較して違いを考えたり、調べたことを表現したりできるようにする

資料 駅前の写真、畑の写真



学校のまわりと同じで、駅や大きな通りの周りには、店や大きな建物がある。中野区の北には、畑がある。

資料 白地図



第11時の資料（調べ）

区役所の場所と働きに着目する。

◆中野区役所は、どのようなところなのだろう。



資料 区内の地図
区役所で働く人の話

一日に約300人も区役所を利用しているんだ。

中野区役所は、わたしたちが利用しやすい場所にあるんだね。わたしたちのために、たくさんの人が働いていて、相談に応じて場所が分かっているんだね。

第16時の資料（まとめる）

◆私たちの中野区には、どのようなところがあり、
どのような様子なのだろう。

中野区には、わたしたちのために話をしてくれる区役所や中野サンモールなどの商店街、新井薬師などの神社があります。中野区は場所によって違いがあることが分かりました。住みやすいいい区です。

中野区は、住たく地が多くあり、北の方に少し畑があります。駅の周りや大きな道路の周りには、大きなビルやお店がたくさんあり、人もたくさんいてにぎやか

【指導上の留意点】調べたことを手がかりに、関連付けながら身近な地域や区の様子を文章や白地図にまとめることができるようにする。



小単元名	武蔵村山市の工場の仕事	配当10時間	内容(2)の(ア)及び(イ)とイの(ア)
------	-------------	--------	----------------------

<主として「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」の区分>

1 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 小単元の目標

地域に見られる生産の仕事について、仕事の種類や産地の分布、仕事の工程などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、白地図などにまとめ、生産に携わっている人々の仕事の様子を捉え、地域の人々の生活との関連を考え、表現することを通して、生産の仕事は、地域の人々の生活と密接な関わりをもって行われていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

(2) 小単元の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①市内の生産の仕事の種類や産地の分布、仕事の工程などについて、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、工場で働く人々の仕事の様子を理解している。 ②調べたことを白地図や文などにまとめ、工場の仕事は、地域の人々の生活と密接な関わりをもって行われていることを理解している。	①市内の生産の仕事の種類や産地の分布、仕事の工程などに着目して、問いを見だし、工場で働く人々の仕事の様子について考え、表現している。 ②工場の仕事と市の人々の生活を結び付けて、地域に見られる生産の仕事と地域の人々の生活とを結び付けてその関連を考え、適切に表現している。	①市内にある織物づくり工場の仕事について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

2 指導計画の作成に当たって

(1) 学習指導要領との関連

- ①本小単元は、内容(2)の「地域に見られる生産や販売の仕事」に関する内容で構成した小単元である。この内容は、「主として『現代社会の仕組みや働きと人々の生活』の区分」の経済・産業に関する学習として位置付けられ、「仕事の種類や産地の分布、仕事の工程」を取り上げるように示された。これらを調べることを通して、生産の仕事は、地域の人々の生活と密接な関わりをもって行われていることを理解できるようにしていく。
- ②内容の取扱い(2)のアでは、「事例として農家、工場などの中から選択して取り上げるようにすること」となっている。選択する際には、地域の実態に応じた学習が展開できるか、市の人々の仕事の特色を具体的に捉えることができるかなどに留意することが求められている。本小単元では、武蔵村山市を例にして、都内でも特色のある織物工場を取り上げ、見学や体験活動を取り入れながら、生産の仕事の様子を具体的に追究できるようにする。

(2) 教材や資料の工夫

- ①本教材は、武蔵村山市の生産の仕事の中から、織物をつくる中小工場を取り扱う。子供自身が日常的に着用する衣類などとの比較から、その技術の高さや丁寧さに気付き、問いを容易にもつことができる。また、人の手による作業が多いことから、生産工程そのものや、その中で見られる工夫や努力が分かりやすいことも特徴である。
- ②工場の人々の仕事の様子については、この工場で作られる織物を家庭で使っている人がいることを取り上げるなど、社会的事象の見方・考え方(事象や人々の相互関係、関連)を働かせて、生産の仕事と地域の人々の生活を関連付けて調べたり考えたりできるようにする。また、子供の身近な生活の中にあるだけでなく、市のホームページでも取り上げられるなど、市の名産品として大切にされていることも捉えられるようにする。
- ③本教材は、工場や資料館での見学だけでなく、実際に子供が体験を行うことができ、工場で働く人々の仕事の様子を具体的に捉えることができる。

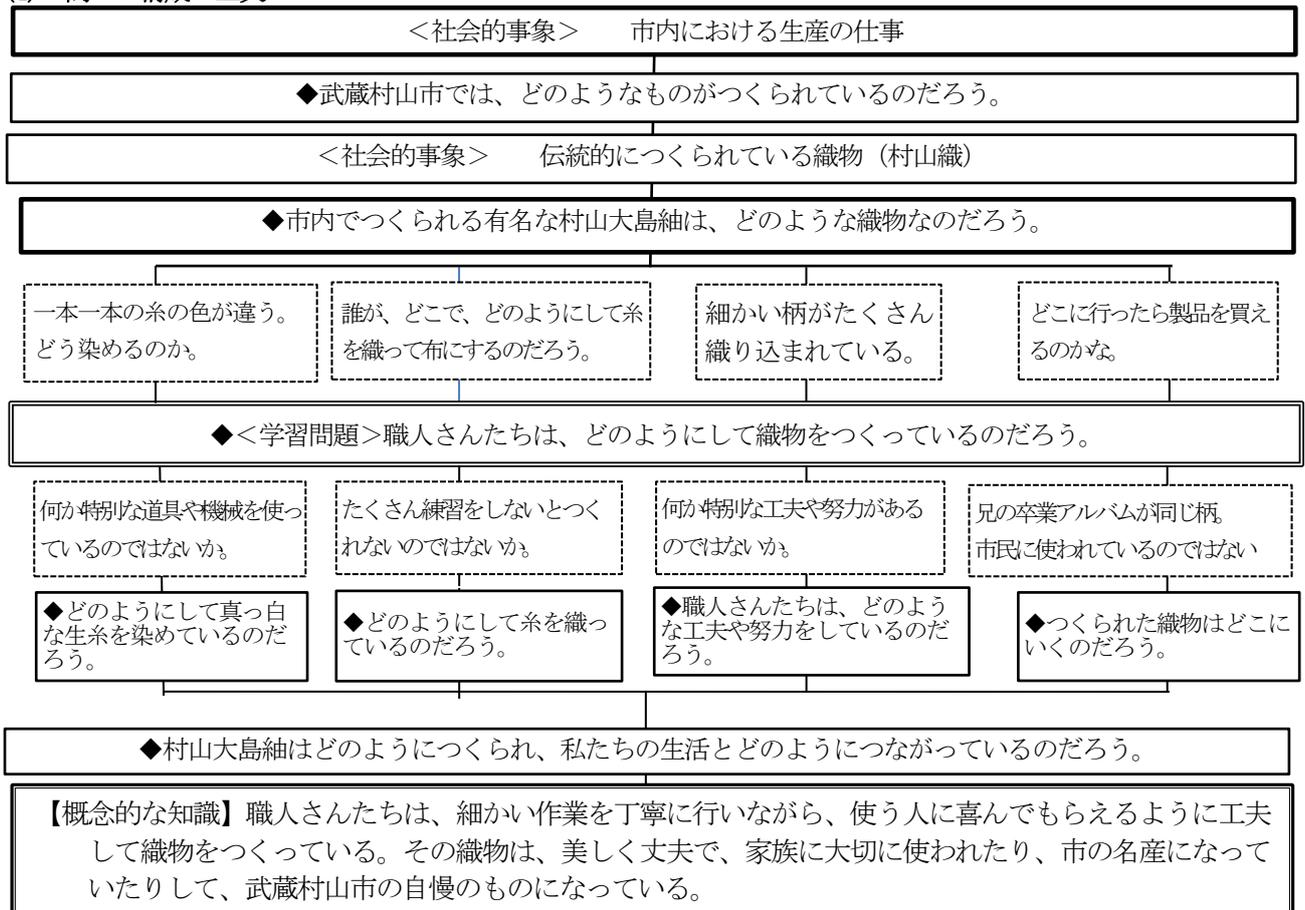
(3) 学習展開や学習活動の工夫

- ①「つかむ」段階では、社会的事象の見方・考え方(位置や空間的な広がり)を働かせ、地図を用いて市内の生産活動の分布を捉えられるようにし、様々な生産活動があることを理解した上で本教材につなげるようにする。学習問題をつくる場面では、武蔵村山市で生産されている村山大島紬の実物を手に取って観察する。「上手」「すごい」といった感想で終わらないよう、「手触りはどうか」「端の部分を見ると糸はどうなっているか」など視点を与えることで、「どのようにつくっているのだろう」という疑問をもてるようにする。さらに、職人が手づくりでつくっている事実を提示することで、「職人さんたちは、どのようにして織物をつくっているのだろう。」という学習問題をつ

くり、主体的な問題解決ができるようにする。

- ②「しらべる」段階では、織物づくりの見学・体験をする学習活動を設定する。その際には、写真やビデオを用いて事前学習を行い、実際に見学で確かめたいことを明確にすることで、子供が見学の視点を持ち、より主体的な見学ができるようにする。また、織機の操作や糸の染色を実際に体験させてもらい、その難しさや職人の技術の高さを体感することで、理解を深める。
- ③「まとめる」段階では、学習問題の解決の際に、作業工程図にまとめることを通して、様々な工夫があることに改めて気付けるようにする。また、製品のよさや働く人の工夫を伝えるポスター作りをすることで、子供が理解したことや考えたことを表現できるようにするとともに、地域社会の一員として、自分たちの住む市の伝統的な産業を大切にしていきたいという気持ちをもたせる。

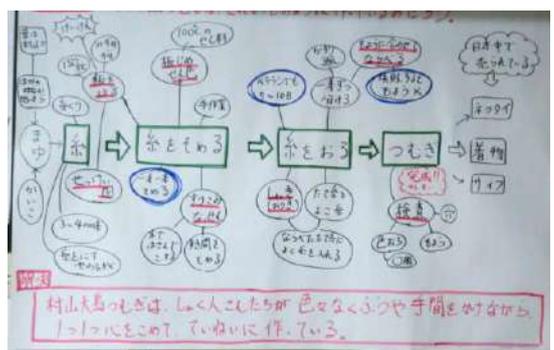
(4) 問いの構成の工夫



(5) 評価の工夫

「まとめる」段階では、調べてきたことを基に作業工程図を完成させる活動を通して、「糸を染める」「糸を織る」という作業の流れや、一つ一つの作業における工夫、つくられた製品の行方などを自ら書き加えることができているか、「知識・理解」を評価する。自分のノートや見学の記録を活用しながらまとめることはもちろんだが、まとめる前に必要な情報を板書して共有したり、継続的に教室掲示などを残しておいたりすることで、一人ひとりが学びを振り返り、自分の力でまとめられるようにする。そして、完成させた作業工程図を基にして、学習問題に対する考えをまとめることを通して、「思考・判断・表現」を評価する。その際には、「職人さんは、織機を使って糸を織っている。」などといった、具体的な工夫についてだけを取り上げてまとめるのではなく、「職人さんが、様々な工夫をして、手間を掛けてつくったものが、私たちの生活の中で使われている。」など、調べたことと自分たちの生活を結び付けてまとめられるよう助言をする。

また、ポスター作りにおいては、誰に見せるのか、どこに貼ってもらうのかなどを決め、相手意識をもたせるとよい。それによって、一番伝えたい学習内容をどう捉えているかを評価する。



▲工程図の例

3 小単元の指導計画 (10時間扱い)

過程	ねらい (○数字は第○時を表す)	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される子供の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点◎資料☆★評価【観点】)
つ か む	①武蔵村山市の生産の仕事に関心を持ち、市の生産されている織物について理解できるようにする。	○市のHPの写真から、市内でつくられているものについて話し合う。 ◆武蔵村山市では、どこで、どのようなものがつくられているのだろう。 ○地図を読み取り、市の生産の様子を知る。 ・野菜だけでなく、果物などもよく作られている。 ・工場が集まっている地域もある。 ○織物に触れ、詳しく観察する。 ・細かく織られている。 ・糸の色が一本一本違う。	◎武蔵村山市HP写真、武蔵村山市の産業分布地図、織物 □市内には様々な生産活動があることを理解できるようにする。 ☆記述や発言の内容から「地図などの資料で調べ、必要な情報を集め、読み取り、市内の生産の仕事の種類や産地の分布について理解しているか」を評価する。 【知①】
	②織物づくりについて問いを見だし、学習問題をつくり、予想を基に学習計画を立てることができるようにする。	◆市内でつくられる有名な村山大島紬は、どのような織物なのだろう。 ○織物づくりについて気付いたことや知りたいことを話し合い、学習問題をつくる。 ・糸一本一本の色が違う。どうやって染めるのか。 ・誰が、どこで、どのようにして、糸から布を織っているのか。 ・細かい柄がたくさん織り込まれている。難しそう。 ・どんなどころで買うことができるのか。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">職人さんたちは、どのようにして織物をつくっているのだろう。</div> ○学習問題に対する予想をし、学習計画を立てる。(予想→調べる問い) ・どのようにして白い生糸を染めているのか。特別な道具や機械を使っているのか。 →どのようにして白い生糸を染めているのか。 ・たくさん練習をしないとつくれないのではないのか。 →どのようにして糸を織っているのか。 ・特別な工夫や努力があるのではないのか。 →職人さんは、どのような工夫や努力をしているのか。 ・兄の卒業アルバムに使われていた。市民に使われているのではないのか。 →つくられた織物はどこにいくのだろうか。 <方法> ・工場の見学(織り方、染め方などの工程、道具) ・インタビュー	◎織物、作業の様子や道具の写真 □実物の観察を通して、美しさや丈夫さ、丁寧さに気付かせ、製造過程についての疑問をもつことができるようにする。 ☆記述や発言の内容から「織物の作りや作業の様子に着目して問いを見いだしているか」を評価する。【思①】 □生活経験だけでは分からないので、予想の根拠となる資料(写真や映像、材料や製品等)を用意する。 □予想を基に、調べるための問いを見いだしていく。 □積極的に見学や聞き取り等の調査活動を取り入れていく。 ★記述や発言の内容から「学習問題の解決に向けた予想を基に、学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。【態①】
しらべる	③糸の染色方法を調べ、つくり方やその工夫や難しさを理解できるようにする。	◆どのようにして真っ白な生糸を染めているのだろう。 ○独自の染色方法について、資料から読み取る。 ・木を彫るところから始めている。 ・染める液がとても熱い。 ○見学の際に調べたいことを発表する。 ・どうしてこんなに大変なやり方をするのか。 ・失敗しないためのコツはあるのか。	◎作業の様子や道具の写真 ◎映像資料(染色の様子) □映像を流すだけでは理解は難しいので、随時止めて、細部を確認していく。 ☆記述や発言の内容から「資料から必要な情報を集め、糸の染色方法やその工夫を理解しているか」を評価する。【知①】

し ら べ る	④糸の織り方を調べ、様々な工夫や難しさを理解できるようにする。	<p>◆どのようにして糸を織っているのだろう。</p> <p>○織り方について、資料から読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設計図に合わせて糸を上手く並べた状態にしてある。 ・一つ間違えると全てやり直しになる。 <p>○見学の際に調べたいことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職人さんでも多くの時間がかかるなんて、どれだけ練習したのか。 ・機械でやるよりもどんなところがいいのだろう。 	<p>◎作業の様子や道具の写真</p> <p>◎映像資料（織機の様子）</p> <p>□「なぜ手間と時間のかかるやり方をするのか」という疑問に迫り着かせたい。</p> <p>☆記述や発言の内容から「資料から必要な情報を集め、糸の折り方やその工夫を理解しているか」を評価する。【知①】</p>
	⑤⑥⑦工場での見学や体験を通して、織物をつくる人々の工夫について理解できるようにする。	<p>◆工場で働く人々は、どのような工夫や努力をしているのだろう。</p> <p>○実際に使う道具や歴史について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔からこの市でつくり続けられてきた。 ・手作業の上に、使う道具がたくさんある。 <p>○染色や織機の使い方を体験する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・織機を間違えないように動かすのは難しい。 ・糸に色を塗りこんでいく作業が大変。 <p>○織物をつくる人々にインタビューをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔ながらのつくり方を大切にしている。 ・つくる人は減ってきているけれど、市の祭りなどで体験を開くなど、みんなにもっと知ってもらおうとしている。 	<p>□「人々の工夫や努力」「作る難しさと職人のすごさ」に気付くことができるような内容になるよう、事前打ち合わせを行う。</p> <p>☆行動や発言、記録などから「追究の問いを意識して主体的に見学や聞き取りなどを行おうとしているか」を評価する。【態①】</p> <p>☆見学の様子や発言、記録から「見学や体験を通して、織物をつくる人々の作業の様子や工夫を理解しているか」を評価する。【知①】</p>
	⑧製品の行方を調べ、織物と自分たちの生活とのつながりについて考え表現できるようにする。	<p>◆つくられた織物は、どこにいくのだろう。</p> <p>○つくられた織物が取り扱われているところについて調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・店に特別なコーナーがあった。 ・家で使っていた。 ・お兄さんの卒業証書入れに使われていた。 <p>○調べたことを基に、自分たちの生活とのつながりを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの身近なところで使われている。 ・生活の中でも使われている。 	<p>◎市のポスター</p> <p>◎販売の様子の写真</p> <p>☆記述や発言の内容から「資料を基に、つくられた織物が身近にあり、自分たちの生活と繋がっていることに気付き、表現しているか」を評価する。【思①】</p>
ま と め る	⑨⑩学習問題について調べたことや考えたことをまとめ、生産の仕事の仕事と地域の人々の生活との関わりを考え、理解できるようにする。	<p>◆村山大島紬はどのようにつくられ、私たちの生活とどのように繋がっているのだろう。</p> <p>○調べた事実を基に、織物ができるまでの様子や流れを図にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業 ・工程 ・道具 ・工夫や努力 等 <p>○まとめた図について交流し合い、学習問題について分かったことや考えたことをまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>・職人さんたちは、細かい作業をていねいに行いながら、使う人に喜んでもらえるよう工夫しており物をつくっている。また、そのおり物は、美しく丈夫で、家族に大切にに使われたり、市の名産になっていたりして、武蔵村山市のじまんの物になっている。</p> </div>	<p>□働く人の工夫や努力に着目して、作業工程図にまとめる。</p> <p>★作業工程図から「調べたことを基に、織物づくりの仕事では様々な工夫や努力がされ、自分たちの生活ともつながっていることを理解しているか」を評価する。【知②】</p> <p>★記述や発言の内容から「まとめた内容を基に、織物づくりをしている人の仕事は、地域の人々の生活と関わっていることに気付き、表現しているか」を評価する。【思②】</p>

小単元名	葛飾区の農家の仕事	配当10時間	内容(2)の(ア)及び(イ)とイの(ア)
------	-----------	--------	----------------------

<主として「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」の区分>

1 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 小単元の目標

地域に見られる生産の仕事について、仕事の種類や産地の分布、仕事の工程などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、白地図などにまとめ、生産に携わっている人々の仕事の様子を捉え、地域の人々の生活との関連を考え、表現することを通して、生産の仕事は、地域の人々の生活と密接な関わりをもって行われていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

(2) 小単元の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①区内の生産の仕事の種類や産地の分布、仕事の工程などについて、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、農家の人々の仕事の様子を理解している。 ②調べたことを白地図や文などにまとめ、農家の仕事は、地域の人々の生活と密接な関わりをもって行われていることを理解している。	①区内の生産の仕事の種類や産地の分布、仕事の工程などに着目して、問いを見だし、農家の人々の仕事の様子について考え、表現している。 ②農家の仕事と区の人々の生活を結び付けて、地域に見られる生産の仕事と地域の人々との関連を考え、適切に表現している。	①区内にある農家の仕事について予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

2 指導計画の作成に当たって

(1) 学習指導要領との関連

- ①本小単元は、内容(2)の「地域に見られる生産や販売の仕事」に関する内容で構成した小単元である。この内容は、「主として『現代社会の仕組みや働きと人々の生活』の区分」の経済・産業に関する学習として位置付けられ、「仕事の種類や産地の分布、仕事の工程」を取り上げるように示された。これらを調べることを通して、生産の仕事は、地域の人々の生活と密接な関わりをもって行われていることを理解できるようにしていく。
- ②内容の取扱い(2)のアでは、「事例として農家、工場などの中から選択して取り上げるようにすること」となっている。選択する際には、地域の実態に応じた学習が展開できるか、市の人々の仕事の特色を具体的に捉えることができるか、などに留意することが求められている。本小単元では、葛飾区を事例にして、東京23区でも数少ない農業地帯であるという特色を生かし、小松菜作り農家の仕事を取り上げる。

(2) 教材や資料の工夫

本小単元では、東京近郊で盛んに生産されている小松菜農家を取り上げ、子供が「自分たちの住む葛飾区には野菜の生産に関する仕事をしている人がおり、安定しておいしい小松菜を生産するために様々な工夫をしていることや、葛飾区の人々の生活と関わりがあること」を具体的に理解できるようにする。葛飾区は東京23区で、農業が存続している数少ない区の一つである。その中でも、小松菜は、江戸時代より生産が始まるとともに、年間を通して栽培されており、収穫量は都内でもトップクラスである。また、区内で生産された小松菜は学校給食にも使われるとともに、区内各地にある直売所において販売されるなど、子供にとっても身近であり、地域の人々の生活と密接な関わりをもっていることを具体的に理解できる教材である。小松菜と子供、区民との具体的な関わりを取り上げ、社会的対象の見方・考え方(事象や人々の相互関係、関連)を働かせて、生産の仕事と地域の人々の生活を関連付けて調べたり考えたりできるようにする。

(3) 学習展開や学習活動の工夫

- ①「つかむ」段階では、第1単元で学習した区内の土地利用の様子を振り返り、地図から市内の生産活動の分布を捉え、具体例として農家の仕事に焦点化する。学習問題をつくる場面では、葛飾区で生産されている野菜の収穫量のグラフから、収穫量が最も多い野菜は何だろうという疑問をもたせ、野菜の収穫期の表や小松菜が使われている給食の写真などを提示する。小松菜が一年中収穫できることや、自分たちに身近な野菜であることを捉えさせ、「葛飾区の農家では、どのようにして小松菜をつくっているのだろう。」という学習問題へとつなげていく。

- ②「しらべる」段階では、農家の人々の仕事の様子を具体的に捉えられるように、小松菜農家を見学したり資料から必要な情報を集めたりする活動を設定する。安全でおいしい野菜を届けるために、工夫や努力をしている農家の人の思いや願いに触れながら学習を進めることで、子供が主体的に追究できるようにする。また、子供相互の対話や、農家の方などとの対話を通して、協働的に追究や考えを深めることができるようにする。見学や調査については、事前に農家と打ち合わせを行い、見学の仕方や範囲、農産物の様子などを確認しておくようにする。また、見学の計画を立てる際には、畑の様子や作業の様子などの「見て調べること」と、小松菜のつくり方や仕事の工夫などの「聞いて調べること」に整理して、子供が視点をもって見学に行くことができるように留意する。
- ③「まとめる」段階では、学習問題に対するまとめを行った後に、小松菜のよさを伝えるキャッチフレーズを作るという活動を設定する。キャッチフレーズ作りを通して、農家の人々の仕事の様子と、地域の人々の生活を結び付けて考えることができるようにするとともに、地域社会の一員として、自分たちの住む区の農産物をこれからも大切にしていきたいという気持ちをもたせる。

(4) 問いの構成の工夫



(5) 評価の工夫

「しらべる」段階における見学・調査の場面で、ノートや見学カードの記述内容から「見学・調査を通して必要な情報を集め、仕事の工程などについて理解しているか」を評価する。

具体的には、右の見学カード(例)のように、調べる事柄に即して仕事の手順を意識しながら、見たり聞いたりしたことが具体的に記述されていれば、「おおむね満足できる」状況と評価することができる。その段階に達していない子供については、具体的な見学の視点や着目する点を助言する。また、次時において、仕事の手順を確認する活動を通して、作業の工夫や農家の人の思いについて、友達と分かったことや考えたことを交流し合い、それらに関連付けて、小松菜づくりの仕事についての理解を深めていけるようにする。

事前の授業で見学や聞き取りの視点を具体的に記入しておく。

【見学カード(例)】

<見て調べること>

- 畑の広さや施設、設備、道具
- ・ビニールハウスには、虫や草を防ぐネットがある。
- ・機械を使って、同じ間隔で種をまく。
- ・一つの畑の中でも、種をまく時期をずらしている。

<聞いて調べること>

- おいしい小松菜をつくる工夫
- ・肥料をまいたり、耕したりしてよい土にする。
- ・収穫したら、根をつけたままテープで束ねて、水で洗って土を落とす。
- 収穫した小松菜は、どこに運ばれるのか。
- ・直売所や市場、学校に運んでいる。

▲見学カードの例

3 小単元の指導計画（10時間扱い）

過程	ねらい ○数字は第○時を表す	主な問い（◆）と主な学習活動（○） 予想される子供の反応（・）	教師の指導・支援 （□留意点 ◎資料 ☆★評価【観点】）
つかむ	①葛飾区の生産の仕事に関心をもち、葛飾区では小松菜などの野菜づくりが行われていることが分かるようにする。	◆わたしたちの葛飾区では、どのようなものがつくられているのだろう。 ○地図を読み取り、葛飾区の実産の様子を知る。 ・鉛筆を作っている工場がある。 ・畑では、いろいろな種類の野菜をつくっている。 ○複数の資料を関連付けて、葛飾区で収穫量が多い野菜が何であるか考える。 ・住宅地の中に畑が点在している。 ・一年中、収穫できる。 ・給食で食べている。 ・葛飾区では、小松菜の収穫量が多い。	◎葛飾区の実産分布地図 □区内には、様々な生産活動があることを理解できるようにする。 ◎葛飾区の実産の分布地図、野菜の収穫量、野菜の収穫期の表、小松菜が使われている給食の写真 ☆ノートの記述や発言内容から「区内の実産の仕事の種類や畑の分布について、地図などの資料で調べ、読み取り、その様子を理解しているか」を評価する。【知①】
	②学習問題をつくり、学習問題に対し予想したことから、学習計画を立てることができるようにする。	◆小松菜は、どのようにつくられているのだろう。 ○小松菜農家の小松菜づくりについて、疑問や知りたいことを話し合い、学習問題をつくる。 ・小松菜の実産量が多い。どのようにしてたくさんつくっているのか。 ・1年中とれるのは、ビニールハウスがあるからではないか。中は、どのようになっているのか。 ・農家の人は、どのようなことに気を付けて、小松菜をつくっているのか。 ・どのようにして、私たちのもとに、おいしく安全な小松菜が届くのか。 葛飾区の実産では、どのようにして小松菜をつくっているのだろう。 ○学習問題に対する予想をする。 ・水や肥料をあげて、大きく育つようにしている。 ・ビニールハウスの中で虫に葉を食べられないようにして、1年中、小松菜をつくっている。 ・機械も使っているのではないか。 ・収穫したら、すぐにお店や学校に届けている。 ○学習計画を立てる。 ・生産の工程 ・施設・設備の工夫 ・販売先	□前時の学習を基に、問いをもたせる。 ◎小松菜畑、ビニールハウスの写真 ☆ノートの記述や発言内容から「小松菜農家や作業の様子、仕事の手順などに着目して、問いを見いだしているか」を評価する。【思①】 □理科や生活科での栽培の経験を基に予想させる。 ★ノートの記述や発言内容から「学習問題の解決に向けた予想を基に学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。【態①】
しらべ	③小松菜づくりの仕事の工程について調べ、理解できるようにする。	◆小松菜は、どのような手順でつくられるのだろう。 ○小松菜づくりの作業工程を調べる。 ・土を耕す ・種をまく ・育てる ・収穫 ・出荷 ○小松菜づくりの一年間の仕事を調べる。 ・種をまく時期を、少しずつずらしている。 ・一年中、計画的に収穫できるようにしている。	◎小松菜ができるまで（写真資料）、ビニールハウス内部の写真、小松菜づくりのカレンダー、種の仕入れ先 □不明な点については、どのような作業なのか、何のために行っているのかを予想させ、次時につなげる。 ☆ノートの記述や発言内容から「必要な情報を集め、読み取り、小松菜づくりの仕事の工程を理解しているか」を評価する。【知①】
	④小松菜農家を見学する計画を立て、見学の視点をもつことができるようにする。	◆小松菜農家は、どのようなところで、どのようにして小松菜をつくっているのだろう。 ○農家見学のための計画を立てる。 <見て調べること> ・畑の広さや施設、設備、道具 ・働く人の様子 <聞いて調べること> ・おいしい小松菜をつくる工夫 ・収穫した小松菜は、どこに運ばれるのか。	□疑問点を出し合い、見学の視点をもたせる。そして、見学カードに見学の視点や質問を記入させておく。 ★ノートや見学カードの記述内容から「畑の様子や作業の様子などの見て調べることと、小松菜のつくり方や仕事の工夫などの聞いて調べることを整理し、見学の視点をもっているか」を評価する。【態①】

	<p>⑤⑥小松菜農家に見学に行き、生産の様子や工夫を調べ、仕事の工程や様子などを理解できるようにする。</p>	<p>◆小松菜農家は、どのようなところで、どのようにして小松菜をつくっているのだろう。</p> <p>○小松菜農家を見学する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・畑やビニールハウス、様々な道具を観察する。 ・小松菜づくりの仕事の工程や、農家の人々の工夫や努力について、話を聞く。 ・気になったことや、さらに知りたいことを質問する。 	<p>◎見学カード</p> <p>□見学が難しい場合は、写真やビデオ等を活用して、小松菜づくりの様子を具体的に理解できるようにする。</p> <p>☆ノートや見学カードの記述内容から「見学・調査を通して必要な情報を集め、小松菜づくりの手順や様子などについて理解しているか」を評価する。【知①】</p>
	<p>⑦小松菜農家を見学して分かったことを基に、生産の様子や工夫を考え、表現できるようにする。</p>	<p>◆小松菜農家は、どのようなところで、どのようにして小松菜をつくっているのだろう。</p> <p>○小松菜農家の工夫を話し合い、まとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1つのビニールハウスの中でも、少しずつ時期をずらして種をまくことで、収穫できる時期もずれるので、小松菜を計画的に収穫できる。 ・葉が虫に食べられないようにビニールハウスの周りにネットをはり、虫が入らないようにしている。 ・元気に育つように、土づくりや害虫の駆除など多くの作業をしている。 	<p>◎見学カード</p> <p>□一年中収穫できる工夫、害虫を防ぐ工夫、おいしい小松菜をつくる工夫など、項目ごとにまとめる。</p> <p>☆ノートの記述や発言内容から「見学で分かったことを整理し、作業の目的に着目して、小松菜農家の工夫を考えているか」を評価する。</p> <p>【思①】</p>
	<p>⑧小松菜の販売先について調べ、自分たちの生活とのつながりを理解できるようにする。</p>	<p>◆収穫された小松菜は、どこに送られるのだろう。</p> <p>○収穫された小松菜の販売先について調べ、白地図にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市場 ・スーパー ・直売所 ・収穫後は市場に運び、その後、スーパーマーケットなどに送られて販売される。 ・区内の直売所でも販売されている。 <p>○小松菜が、学校給食で使用されていることを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農家から直接、学校に小松菜が届けられている。 ・私たちは、地域で生産された小松菜を食べている。 	<p>◎小松菜の販売先、市場の写真、スーパーの野菜売り場の写真、直売所の写真、白地図</p> <p>□地域で生産された物が、直売所で販売されたり、給食で使用されたりして、私たちの生活と関わりがあることに気付かせる。</p> <p>☆ノートの記述や発言内容から「必要な情報を集め、読み取り、小松菜の販売先や自分たちの生活とのつながりを理解しているか」を評価する。【知①】</p>
<p>まとめ</p>	<p>⑨⑩学習問題について調べたことをまとめ、小松菜農家の仕事と地域の人々の生活のつながりを考え、生産の仕事は、地域の人々の生活と密接な関わりをもって行われていることを理解できるようにする。</p>	<p>◆葛飾区の小松菜はどのように作られ、私たちの生活とどのようにつながっているのだろう。</p> <p>○小松菜づくりの工程に沿って、農家の工夫や自分たちの生活とのつながりについて考え、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農家の人たちは、おいしく安全な小松菜ができるように、たくさんの工夫や努力をしている。 ・たくさんの仕事を経て、私たちの食卓に届く。 <p>○学習問題について考えをまとめ、話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>・農家では、住宅地の中にあるビニールハウスの中で、種をまく時期をずらして、一年中、小松菜をつくっている。農薬をまく回数を減らしたり、虫が入らないようにしたりして、おいしく、安心・安全な小松菜をつくっていて、私たちの給食にも使われている。</p> </div> <p>○小松菜のよさを伝えるキャッチフレーズを作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一年中 いつでもおいしい 安全な小松菜 ・たくさん食べよう とれたて 新鮮な小松菜 ・農家の人の工夫と思いがつまった おいしい小松菜 ・(説明) 小松菜農家の人は、安全でおいしい小松菜をたくさんの人に食べてほしいと願って、一生懸命に小松菜をつくっているから、農家の人の思いをたくさんの人に伝えたいです。 	<p>◎これまでの学習記録</p> <p>□追究を振り返り、工程に沿ってクフや努力、生活とのつながりを書き込ませた上で話し合うようにする。</p> <p>★図や記述、発言内容から「農家の仕事と区の人々の生活を結び付けて、小松菜農家の仕事と地域の人々との関連を考え、表現しているか」を評価する。</p> <p>【思②】</p> <p>★発言や記述の内容から「農家は『種まき、育てる、収穫』の手順で作物を育て、出荷された農産物は地域の人々の生活を支えていることを理解しているか」を評価する。【知②】</p> <p>□これまでの学習を根拠にして、キャッチフレーズの説明を書かせる。</p>

小単元名	わたしたちの暮らしとお店の仕事	配当11時間	内容(2)アの(イ)及び(ウ)とイの(イ)
------	-----------------	--------	-----------------------

＜主として「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」の区分＞

1 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 小単元の目標

地域に見られる販売の仕事について、消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりなどに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、白地図などにまとめ、販売に携わっている人々の仕事の様子を捉え、それらの仕事に見られる工夫を考え、表現することを通して、販売の仕事は、消費者の多様な願いを踏まえ売り上げを高めるよう、工夫して行われていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

(2) 小単元の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりなどについて、見学調査したり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、販売に携わっている人々の仕事の様子を理解している。 ②調べたことを白地図や文などにまとめ、販売の仕事は、消費者の多様な願いを踏まえ売り上げを高めるよう、工夫して行われていることを理解している。	①消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりなどに着目して、問いを見だし、販売に携わっている人々の仕事の様子について考え、表現している。 ②販売の仕方を分類したり、それらと消費者の願いを関連付けたりして、販売の仕事に見られる工夫を考え、文章や図表などにまとめ、適切に表現している。	①地域に見られる販売の仕事について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

2 指導計画の作成に当たって

(1) 学習指導要領との関連

- ①本小単元は、内容(2)「地域に見られる生産や販売の仕事」に関する内容で構成した小単元である。この内容は、「主として『現代社会の仕組みや働きと人々の生活』の区分」の経済・産業に関する学習として位置付けられ、「消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わり」を取り上げるように示された。これらを調べることを通して、販売の仕事は、消費者の多様な願いを踏まえ売り上げを高めるよう、工夫して行われていることを理解できるようにしていく。
- ②内容の取扱い(2)のイには、「他地域や外国との関わりを扱う際には、地図帳などを使用して都道府県や国の名称と位置などを調べるようにすること」とあり、特に地図帳の活用が求められている。また、外国を取り上げる際には国旗についても取り上げ、我が国や外国には国旗があることを理解し、それを尊重する態度を育てるようにする。

(2) 教材や資料の工夫

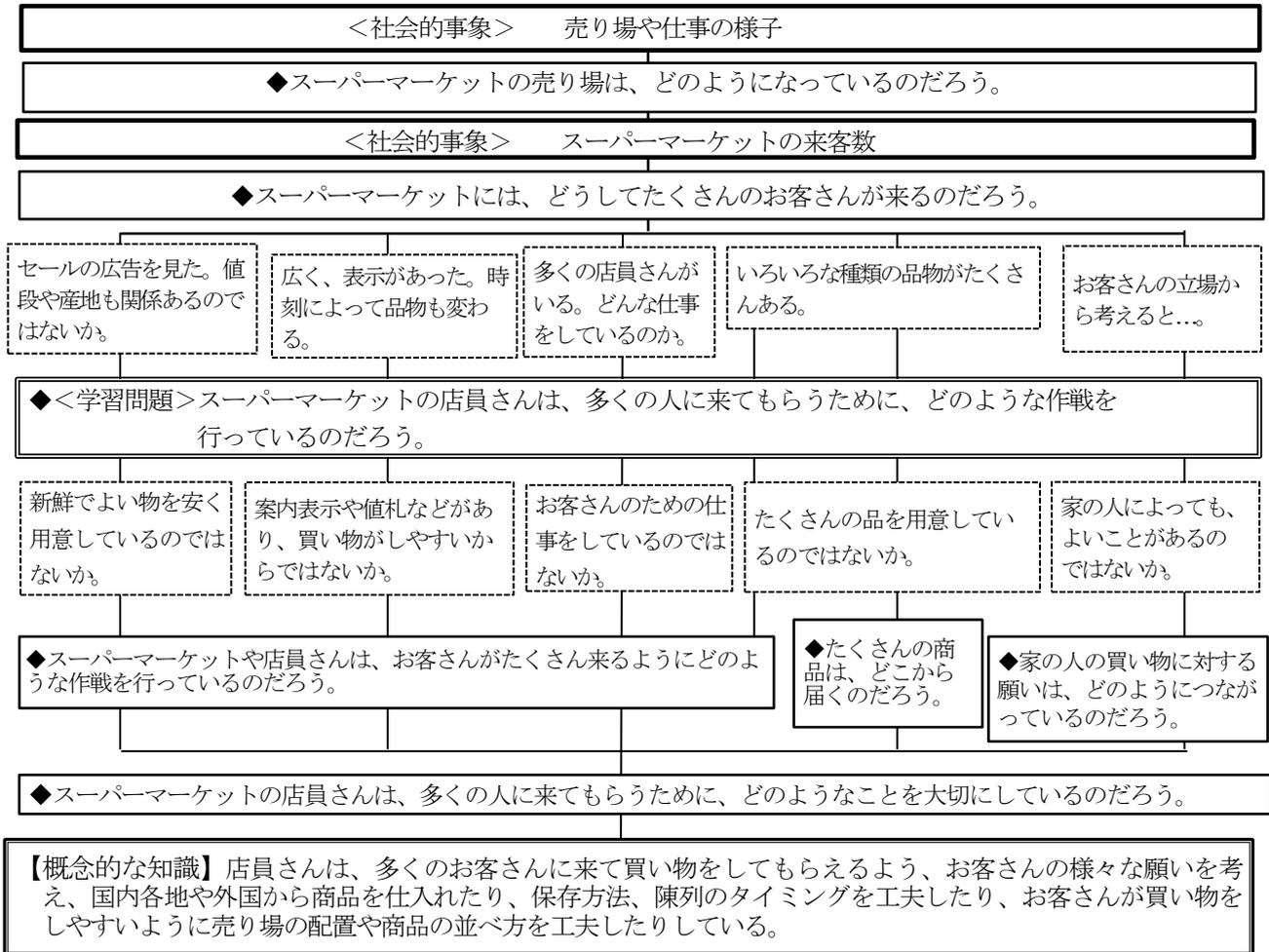
- ①地域や子供の生活の実態に応じて小売店、スーパーマーケット、コンビニエンスストア、デパート、移動販売などの中から選択して商店を取り上げ、それらとの事前の十分な打ち合わせを経て、子供が観点に基づいて見学や調査ができるよう留意する。本小単元においては、学区にあり子供にとっても身近であるとともに、学級単位での見学が可能なスーパーマーケットを取り上げた。
- ②消費者の願いを調べるには、買い物調べの活動が考えられるが、消費行動の多様化等により難しいこともある。本教材では、社会的事象の見方・考え方(事象や人々の相互関係、関連)を働かせて、消費者の願いや販売の工夫との関連を調べ、考えられるよう、販売の仕事の工夫として調べたことを消費者である保護者に確認するようにした。

(3) 学習展開や学習活動の工夫

- ①販売者、消費者双方の販売や買い物の様子、思いや願いについて調べ、販売の仕事は消費者の多様な願いを踏まえ売り上げを高めるよう、工夫して行われていることを理解できるように構成した。本指導計画では、子供が販売者と消費者、どちらの立場で考えているのか明確にして学習を進めることができるようにした。具体的には、第8時まで販売者の立場で学習を進め、第9時に消費者の立場から考えるようにした。
- ②子供にとっても対話への切実感が高まる場面を想定し、対話的な学習活動を意図的に設定した。特に、見学で調べた情報を共有、整理し、集客の工夫として概念化する場面においては、形態や手だてを工夫し、友達との学び合いを設定した。

③本指導計画では、小単元を通して、販売の工夫を「作戦」という言葉で追究させるようにした。あえて「作戦」とすることで、多くの客に来てもらうために、店員が意図的に様々な工夫を行っていることを、子供が自然に理解できるようにした。

(4) 問いの構成の工夫



(5) 評価の工夫

「しらべる」段階の最後の時間、それまでに調べてきたスーパーマーケットの工夫の意味について考える活動を行い、「思考・判断・表現」の観点から評価を行う。

まず、これまで調べてきた、お客さんを集め、売り上げを高めるためのスーパーマーケットの工夫について、消費者の視点から見つめ直し、ノートや図、表などにまとめさせていく。次に、それをグループや学級で話し合いながら深めていくようにする。話し合いの際、友達の意見からなるほどと思ったり、考えが変わったりしたときは、鉛筆の色を変えて修正を加えていくように指示をする。そして、ノート等の記述や発言内容等から、評価を行う。具体的には、以下のような内容が書かれていれば「おおむね満足できる」状況と捉えることができる。

	スーパーマーケットの工夫	お客さんにとって
商品	いろいろな商品を売り上げ等に合わせてたくさん揃えている。また、食品は小分けや調理品の販売もしている。	買いたいときに、買いたい物を、必要なだけ買うことができる。
	新鮮で安全な商品を揃え、冷蔵や冷凍などをして品質を管理している。	安心して買い物をすることができる。
	買い物をしやすいように、並べ方を工夫したり表示をわかりやすくしたりしている。	欲しいものや必要なものを見付けやすく、買い物がしやすい。
店内の様子	買い物がごやかカートをしている。	たくさんの品を買うことができる。
宣伝の仕方	チラシを配ったり、店内に大きく示したり、インターネットに掲載したりしている。	前もって買い物の計画を立てることができる。
店員さんの対応	気持ちのよい挨拶や、困ったことや分からないことの相談ののったり、商品の補充等を行ったりする。	気持ちよく、スムーズに買い物をすることができる。

3 小単元の指導計画 (11 時間扱い)

過程	ねらい ○数字は第○時を表す	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される子供の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点 ◎資料 ☆★評価【観点】)
つかむ	①スーパーマーケットの売り場の写真や店長の話から、仕事の様子を大まかに理解できるようにする。	○買い物の経験や、保護者からの聞き取りについて話し合う。 ○魚売り場の写真を見て気付きや疑問を話し合う。 ・様々な種類や形で売られている。おいしそう。 ・値段や産地、鮮度をアピールしている。 ◆スーパーマーケットの売り場は、どのようになっているのだろう。 ○時刻の異なる写真を提示し、比較して順序や気付いたこと、考えたことを話し合う。 ・商品の量が違う。たくさん売れて減ったのか。 ・店員さんが商品を追加したのかもしれない。 ○野菜売り場の比較と店長の話から店の意図を調べる。 ・意図的に売り場を変える。 ・新鮮さを大切にする。	◎魚売り場の様子(午前中、夕方) □事前にどこで、どのように、どのようなことに気を付けて買い物をしているか等、保護者に聞き取りをさせておく。 □日頃見ている売り場の様子に、改めて着目させる。 ◎野菜売り場の変化、店長の話 □新鮮な商品を確実に売るために、店員が意図的に売り場を変化させていることを捉えさせる。 ☆ノートの記述や発言内容から「魚売り場の様子から、販売の仕事は商品が多く売れるように意図的に行われていることを理解できているか」を評価する。 【知①】
	②③売り場の様子や来客数から学習問題をつくり、学習計画を立てることができるようにする。	◆スーパーマーケットには、どうしてたくさんのお客さんが来るのだろう。 ○前時の内容と来客数から学習問題をつくる。 ・なぜたくさんのお客さんが来るのか。 ・どのようにして客を集めているのか。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">スーパーマーケットの店員さんは多くの人に来てもらうために、どのような作戦を行っているのだろう。</div> ○店内図等から学習問題について予想し、スーパーマーケット見学の計画を立てる。 ・新鮮でよい物を用意しているのではないかと。→品質管理、衛生管理等 ・案内表示や値札などがあり、買い物がしやすいからではないかと。→案内や値札表示等 ・たくさんのお品を用意しているのではないかと。→品揃え、販売の仕方等 ・店員の人が親切にしてくれるからではないかと。→接客や服装等 ・方法：売り場やバックヤードの見学、店員へのインタビュー	◎一日の来客数、混雑の写真 ☆ノートの記述や発言内容から「来客数や売り場の様子などから、販売の仕方などに着目し、問いを見いだしているか」を評価する。【思①】 ◎店内の見取り図 □前時の学び(店員さんが意図的に行っている)や資料、既習事項や生活経験などを基に予想させる。 □予想を基に調べるための問いをつくり、調べる方法を考える。 □見学に向けて、気を付けて見てくることや質問したいことを見学カードに記入する。 ★ノートの記述や発言内容から「前時の学びや店内見取り図を基に予想をし、学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。【態①】
しる	④⑤スーパーマーケットを見学し、店内や仕事の様子を調べ、販売の仕方を理解できるようにする。	◆スーパーマーケットや店員さんは、どのような作戦を行っているのだろう。 ○スーパーマーケットを見学し、売り場や商品の様子を観察する。 ・仕事の様子(レジ、陳列、調理、接客等) ・商品の様子(数や種類、値札、並べ方等) ・服装や身だしなみ ・売り場配置や案内表示 ・バックヤードでの商品管理 ・施設面での配慮(バリアフリー、UD等) ○店員の話聞き、インタビューする。 ・見付けたこと理由、気を付けていること ・働く人の思い、大変なこと、嬉しいこと他	◎見学、店員の話 □見学や話の内容は、事前に十分に打ち合わせを行う。 ☆見学カード等の記述や発言内容から「働く人々や店内の様子を見学、聞き取った話等から、商品の品質や並べ方、値段の付け方などを工夫していることを捉えているか」を評価する。【知①】 ☆行動観察や振り返り等の記述から「調べることを意識して、主体的に見学したり聞き取りをしたりして追究をしようとしているか」を評価する。【態①】
	⑥⑦見学で分かったことから、スーパーマーケットで働く人々の工夫や努力について考え表現できるようにする。	◆スーパーマーケットや店員さんは、どのような作戦を行っているのだろう。 ○見学で集めた情報を交流し合い、その内容を見学計画に即して分類をまとめてみる。 ・品質管理、衛生管理等 ・案内や値札表示等 ・接客や服装等 ・品揃え、売り方等 ・その他	◎前時の見学メモ、写真 □各自で気付いたことを付箋等へ書き出し、それを班で共有して、同じような内容をまとめるなど整理する。さらに、見学計画に即して分類をまとめてみる。

し ら べ る		<p>○たくさんの客を集める工夫（作戦）について、大切に と考えるものについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新鮮で安全な商品を揃える作戦 ・欲しいものがいつでもある作戦 ・いろいろな人に合わせた売り方作戦 ・みんなに優しい作戦 ・見やすく便利な置き方作戦 ・時間に応じた売り方作戦 	<p>□「特に大切な3つ」など限定し、作戦の目的や意味について考えを深められるようにする。最初に班で話し合い、3つ選ぶ。それを学級全体で共有し、その意味や大切さについて話し合う。</p> <p>☆ノートの記述や発言内容から「見学で分かったことを整理し、販売の仕方に着目して、働く人々の工夫や努力について考えているか」を評価する。【思①】</p>
	<p>⑧国内各地や外国の商品により、豊富な品揃えが実現していることを理解できるようにする。</p>	<p>◆たくさんの商品は、どこから届くのだろう。</p> <p>○魚売り場の様子を見つめ直し、どこから商品が来るのか、調べる方法を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産地の表示 ・広告 <p>○魚売り場の商品から産地を調べ、白地図にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本や世界各地から商品を仕入れている。 ・同じ魚でも、異なる地域から届けられる。 <p>○国内各地や外国から仕入れる理由を考え、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おいしく新鮮な、様々な物を販売できる。 ・確実に仕入れることができる。 	<p>◎見学時の写真、魚売り場の商品の産地、広告、地図帳、店に魚が届くまで(図)、白地図</p> <p>□地図帳を活用し、国旗にも触れる。進み具合により、野菜や果物等についても調べる。</p> <p>□他地域から仕入れる意味を、販売の仕方と関連付けて考えるよう助言する。</p> <p>☆ノートの記述や発言内容から「地図などの資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、国内各地や外国の商品により、豊富な品揃えが実現していることを理解しているか」を評価する。【知①】</p>
	<p>⑨集客の工夫に対する消費者の思いを調べ、生活が支えられていることを考え表現できるようにする。</p>	<p>◆家の人の買い物に対する願いは、どのようにつながっているのだろう。</p> <p>○買い物に対する保護者の思いを振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新鮮、安全、安い、いつでも欲しい物を、欲しい量だけ、短時間で買い物、環境への配慮 <p>○作戦は消費者から見るとどのようなよさがあるのかについて考え、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旬のものや新鮮なもの→新鮮 ・豊富な品揃え→欲しいものをいつでも ・商品の並べ方関連商品、→便利、短時間 ・売り場の表示→探しやすい、短時間 ・冷蔵庫、冷凍庫、個別包装、品質表示等→安全、新鮮 ・多様な売り方→ニーズへの対応、環境、便利 <p>○保護者の話から、消費者が様々な願いをもって買い物をしていることを考える。</p>	<p>◎スーパーマーケットの店員さんの作戦（前時までの学習内容）、単元当初の聞き取りメモ、</p> <p>□消費者の立場から販売の工夫を考えられるようにする。</p> <p>□作戦が消費者の願いに添えており、さらなる消費者の願いがあることを捉えさせる。</p> <p>◎保護者（スーパーマーケットの利用者として）の話</p> <p>☆ノートの記述や発言内容から「分類した販売の仕方と消費者の願いを関連付けたりして、販売の仕事に見られる工夫を考えているか」を評価する。【思②】</p>
ま と め る	<p>⑩学習問題について調べたことや考えたことをまとめ、販売の仕事は消費者の願いを踏まえ売り上げを高めるよう工夫していることを理解できるようにする。</p>	<p>◆スーパーマーケットの店員さんは、多くの人に来てもらうために、どのようなことを大切にしているのだろう。</p> <p>○これまでの学習を振り返り、学習問題に対する自分の考えをまとめ、話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>・店員さんは、多くのお客さんに来てもらい買ってもらえるよう、お客さんの様々な願いを大切に、それに答えるために、国内各地や外国から商品を仕入れ、保存方法、陳列のタイミング、売り場の配置、商品の並べ方などを工夫して販売している。</p> </div>	<p>◎これまでの学習記録</p> <p>★ノートの記述や発言内容から「調べたことを基に、販売の仕事は、消費者の様々な願いを踏まえ売り上げを高めるよう、工夫して行われていることを理解しているか」を評価する。【知②】</p>
	<p>⑪学習したことを基に他の商店の工夫を調べ、よりよい買い物の仕方を考えようとする態度を養う。</p>	<p>◆他のお店は、お客さんが来るように、どのような工夫をしているのだろう。</p> <p>○単元の学習を基に、スーパーマーケット以外のお店の販売の工夫を調べ、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンビニエンスストア→時間、品の揃え、売り方 ・青果店、鮮魚店等→安心、つながり、丁寧さ ・ネットショッピング→いつでも、どこでも ・商店街→安心、つながり、多様なお店 <p>○単元の学習を振り返り、よりよい買い物の仕方を考える。</p>	<p>◎各種店舗の様子や販売の仕方の写真、店舗の方のお話</p> <p>□課外で見学したり、保護者から聞き取りをしたり、買い物経験を想起させたりして、具体的に考えられるようにする。</p> <p>★ノートの記述や発言内容から「学んだことを基に、よりよい買い物の仕方を具体的に考えようとしているか」を評価する。【態①】</p>

小単元名	火災から地いきの安全を守る	配当9時間	内容(3)アの(ア)及び(イ)とイの(ア)
------	---------------	-------	-----------------------

＜「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」の区分＞

1 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 小単元の目標

○地域の安全を守る働きについて、施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応に着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりしてまとめ、関係機関や地域の人々の諸活動を捉え、相互の関連や従事する人々の働きを考え、表現することを通して、消防署などの関係機関は、地域の安全を守るために、相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、関係機関が地域の人々と協力して火災の防止に努めていることを理解できるようにするとともに、火災から地域の安全を守る働きについて、主体的に学習問題を追究・解決し、学習したことを基に地域や自分自身の安全を守るために地域社会の一員としてできることを考えようとする態度を養う。

(2) 小単元の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応などについて見学・調査したり地図などの資料などで調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、関係機関や地域の人々の諸活動を理解している。</p> <p>②調べたことを文などにまとめ、消防署などの関係機関は、地域の安全を守るために、相互に連携して、緊急時に対処する体制をとっていることや、関係機関が地域の人々と協力して火災などの防止に努めていることを理解している。</p>	<p>①施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目して、問いを見だし、関係諸機関や地域の人々の諸活動について考え、表現している。</p> <p>②連携・協力している関係機関の働きを比較・分類したり、関連付けたりして消防署などの関係機関の相互の関連を考えたり、関係機関に従事する人々の活動と地域の人々の生活を関連付けて、従事する人々の働きを考えたりするとともに、学習したことを基に、地域や自分自身の安全を守るためにできることなどを考えたり選択・判断したりして適切に表現している。</p>	<p>①地域の安全を守る働きについて、予想や学習計画を立てたり、振り返ったり見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。</p> <p>②学習したことを基に、地域や自分自身の安全を守るために、自分たちにできることなどを考えようとしている。</p>

2 指導計画の作成に当たって

(1) 学習指導要領との関連

①本小単元は、内容(3)「地域や事件からの安全を守る働き」に基づき、消防署の働きを中心に取上げて構成した単元である。この内容は「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」に区分され、政治を対象としているものである。また、「緊急時の対処」と「防止の取組」について、「火災から安全を守る働き」と「事故などから安全を守る働き」のいずれも取り上げることとされている。実際の指導にあたっては、それぞれの働きの特徴やカリキュラム・マネジメントの観点から、どちらかに重点を置き、効果的に指導する。本小単元では、延焼を防ぐために迅速に対応できる体制をつくっている消防の特徴を踏まえ、「防止に努めていること」に重点を置き、時間配分を行う。

②内容の取扱い(3)のイに示された「社会生活を営む上で大切な法やきまりについて扱う」の具体的な指導事項としては、「防火設備の設置や点検」、「消防訓練の義務」等となっている。消防署の人や校内の防火責任者である副校長、消防団の人の話などを取り入れた活動を工夫するとよい。また、「地域や自分自身の安全を守るために自分たちにできることなどを考えたり選択・判断したりできるよう配慮すること」については、警察や地域の火災防止の取組における課題に気付かせ、学びを生かして、地域社会の一員として地域や自分自身の安全を守るため、自分たちにも協力できることや、日頃から心がけるべきことについて、考えたり選択・判断したりできるようにする。

(2) 教材や資料の工夫

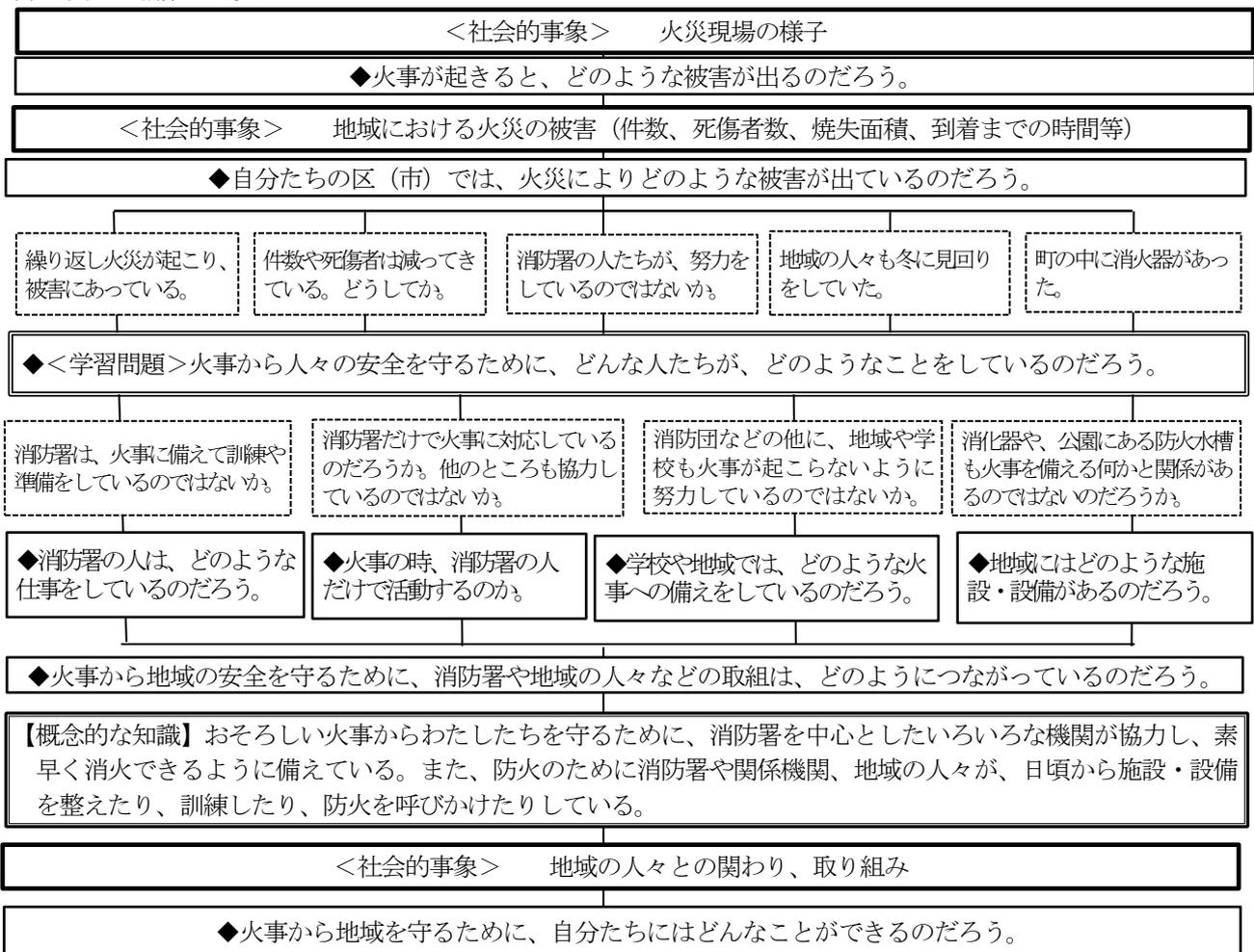
①「地域の安全を守るために、相互に連携して緊急時に対応する体制をとっていることや、関係機関が地域の人々と協力して火災の防止に努めていることを理解する」ために、地域の消防に関わる施設・設備や消防団の取組を取り上げ、社会的事象の見方・考え方(事象や人々の相互関係、関連)を働かせながら調べたり考えたりして、地域住民も連携して活動していることを理解できるようにする。

②小単元全体を通して、写真や俯瞰図、映像などの資料を効果的に活用し、子供がより身近に感じたり、消防署を中心とする関係機関の連携の様子や働きを捉えたりできるようにする。

(3) 学習展開や学習活動の工夫

- ① 「つかむ」段階では、例えば実際の火災の写真や映像資料を提示し、人命や財産を奪う火災の恐ろしさや悲惨さを捉えられるようにする。主体的な学びについては、現場に数分で到着し火事現場で活躍する消防士や、身近な地域の火事等の事実から、火災時は誰がどのように活動しているのかという学習問題をつくり、学習の方向付けや解決の見通しをもたせる。
- ② 「火災発生時の消防署を中心とした関係機関の連携」を構造的に理解できるように、119番つくり通報から出動・消火までの流れを、関係諸機関のつながりを矢印で結んだ一つの図にまとめる活動を取り入れる。
- ③ 「しらべる」段階では、消防署、校内の防火施設、地域の防火施設の見学・調査を行う。可能であれば、地域の人たちがどのような防火の取組をしているのか、見学や聞き取りをできるようにしたい。
- ④ 小単元の終末に「つなぐ」段階を設定し、地域の防火のために自分たちができることを話し合い、選択・判断する。それを標語やポスター等にまとめ、保護者や他学年子供、地域の人に発信する活動を設定する。

(4) 問いの構成の工夫



(5) 評価の工夫

「まとめる」段階では、調べたことを基に、火災から地域の安全を守る働きについて関連図にまとめる活動を設定する。「思考・判断・表現」の観点から、消防署を中心に、警察署や関係会社等の関係機関、地域のそれぞれの取組や協力・連携、そして、地域の生活との関連を考え、その様子を言葉や記号等を用いて図に表すことができているかを評価する。その際、付箋等を活用するとよい。付箋に関係する機関や地域、自分たちを書き込み、それを用紙に位置付ける。そして、それぞれの働きを書き加えるとともに、相互の関係について言葉とともに、矢印や図形（○や□などで囲む等）、色などを活用して表すようにする。教師が的確にその図を評価するためには、その矢印や図形、色などが何を意味するのかをしっかりと捉える必要がある。子供に問いかけたり、その意味を書かせたりすることが必要である。消防署を中心に、関係機関や地域が協力して地域の人々の安全を守っていることが表現できて入れば、「おおむね満足できる」状況であると捉えられる。なお、「知識・理解」については、学習問題についてのまとめを基に評価する。

3 小単元の指導計画と評価計画（9時間扱い）

過程	ねらい ○数字は第○時を表す	主な問い（◆）と主な学習活動（○） 予想される子供の反応（・）	教師の指導・支援 （□留意点 ◎資料 ☆★評価【観点】）
つかむ	①②火災を防ぐ働きに関心を持ち、学習問題をつくり、学習の見通しをもつことができるようにする。	<p>◆火事が起きると、どのような被害が出るのだろうか。</p> <p>○火事の写真や映像から気付いたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・激しい炎、煙に家が包まれている。 ・消防の服を着た人が火を消している。 <p>○身近な地域や区市における火災の現状や火災現場の様子、消防の対処の様子から疑問に思うことを話し合い、学習問題をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・件数や被害が減っている。誰かの働きがあるのか。 ・火災の通報から短時間で消防車が到着している。どうして短時間で行くことができるのか。 ・消防以外の人たちも現場に来ている。どのような人たちが来ているのか。連絡はどうしているのか。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 火事から人々の安全を守るために、どんな人たちが、どのようなことをしているのだろうか。 </div> <p>○学習問題の予想をし、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消防署の人たちは、速く出動したり火を消したりできるように、訓練や準備をしているのではないか。 →消防署の人は、どのような仕事をしているのだろうか。 ・消防署以外のところも協力しているのではないか。 →火事の時、消防署の人だけで活動するのだろうか。 ・学校にも火事を防いだり早く消したりする工夫があるのではないか。 ・地域にも消火・防火の施設があり、取組をしているのではないか。 →学校や地域では、どのような消火・防火のための設備や取組があるのだろうか。 <p>[調べる方法]・見学 ・インタビュー ・調査</p> <p>○消防署見学で知りたいことを整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消防車の中はどうなっているのか。 ・火事のないとき、どのようなことをしているのか。 	<p>◎火事現場の写真、絵、映像</p> <p>□現場の写真や絵、映像を提示し、火災の様子、悲惨さを実感できるようにする。</p> <p>◎地域消防署管内の出火件数（区市の火災発生件数）、一件当たりの消失面積、通報から消防車到着までの時間</p> <p>☆ノートの記述や発言内容から「恐ろしい火災から安全を守るための関係機関や人々、その働きに着目して、問いを見いだしているか」を評価する。【思①】</p> <p>□これまでの学習や資料等から予想し、それを基に調べる内容を明確にできるようにする。</p> <p>□調べる内容と方法を整理し、学習の見通しが立てられるようにする。</p> <p>★ノートの記述や発言内容から「現場や消火の様子などから学習問題について予想し、学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。【態①】</p>
	③④消防署員の方々の働きや努力、施設の工夫を理解できるようにする。	<p>◆消防署の人は、どのような仕事をしているのだろうか。</p> <p>○消防署を見学して、設備や仕事の様子を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消防車の中にいろいろな機械がある。 ・火事に備えていつも訓練や点検をしている。 ・すぐに出動、消火できるように、設備や道具など様々な工夫がある。 ・消防士は命がけで人々を守るために働いている。 <p>○消防署の見学で分かったことや疑問点を整理する。</p> <p>◆火事の時、消防署の人だけで活動するのだろうか。</p> <p>○119番通報から消火までの活動の流れを調べ、図にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害救急情報センターが各機関へ連絡している。 ・警察署、水道局、ガス・電気会社が協力している。 <p>○気付いたことを文にしてまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害救急情報センターが中心となっている。 ・1つの火事にたくさんの人や機関が動いている。 	<p>□消防署を見学できない場合は、事前に消防署取材し、動画や写真撮影、聞き取りなどを基に資料を作成するなど、主体的な追究を促す工夫をする。</p> <p>□迅速な出動・消火、日常的な防火の工夫を捉えられるようにする。</p> <p>☆見学カード等の記述から「見学を通して勤務体制や待機の仕方、訓練、施設・設備の点検など、消防署で働く人々は常に緊急時に備えていることを理解しているか」を評価する。【知①】</p> <p>◎火事現場の写真、119番の仕組み</p> <p>□多くの機関が短時間で連携し、火災に対処していることを捉えられるようにする。</p> <p>☆ノートの記述や発言内容から「通信司令室を中心とするネットワークや関係機関の働き、相互の連携などを基に、関係機関が連携して緊急時に対応していることを理解しているか」を評価する。【知①】</p>
しらべる	⑤通報の流れについて調べ、火災発生時に、関係機関がどのように連携しているかを理解できるようにする。	<p>○消防署の見学で分かったことや疑問点を整理する。</p> <p>◆火事の時、消防署の人だけで活動するのだろうか。</p> <p>○119番通報から消火までの活動の流れを調べ、図にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害救急情報センターが各機関へ連絡している。 ・警察署、水道局、ガス・電気会社が協力している。 <p>○気付いたことを文にしてまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害救急情報センターが中心となっている。 ・1つの火事にたくさんの人や機関が動いている。 	<p>◎火事現場の写真、119番の仕組み</p> <p>□多くの機関が短時間で連携し、火災に対処していることを捉えられるようにする。</p> <p>☆ノートの記述や発言内容から「通信司令室を中心とするネットワークや関係機関の働き、相互の連携などを基に、関係機関が連携して緊急時に対応していることを理解しているか」を評価する。【知①】</p>

	<p>⑥校内の消防・防火施設や取組を調べ、学校でも消防と連携して火災に備えていることについて考え表現できるようにする。</p>	<p>◆学校には、どのような消火・防火のための工夫や取組があるのだろうか。</p> <p>○校内の消火・防火施設を調べ、校舎図に表す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消火器、防火バケツ、消火栓、火災報知器などの階にも置いてある。 <p>○副校長(防火責任者)の話聞き、学校では防火のためにどのような工夫があるか調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設備の点検、避難訓練を毎月行っている。 ・いつ、どこで火事が起きても対応できるように、計画的に消火設備を置いている。 	<p>◎校舎図</p> <p>□消火・防火施設の計画的な配置とともに、点検や避難訓練の義務にも触れる。</p> <p>☆ノートの記述や発言から、「調べたことを基に施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目し、学校の安全を守る取組について考えているか」を評価する。【思①】</p>
	<p>⑦地域の消防・防火施設や取組を調べ、消防や関係機関と連携して地域も共に火災に備えていることを理解できるようにする。</p>	<p>◆地域では、どのような消火・防火のための工夫や取組があるのだろうか。</p> <p>○地域の消防施設を調べ、地図にまとめ、気付いたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消火栓、消防水利、消防団倉庫 ・消火器はすぐに消せるように町全体に置いてある。 <p>○消防団の方や地域の方からインタビューしたことをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夜回りやパトロールをして、地域を見守っている。 ・消防団は、消防署と協力して火を消している。 ・消防団は地域の人。自分たちの力で皆を守っている。 	<p>◎学区の白地図、地域の防火設備の写真、消防団、地域の方のインタビュー</p> <p>□施設・設備だけでなく、消防団などの地域の方が、消防署と連携して防火に努めていることをつかませる。</p> <p>☆ノートの記述などから「地域における施設・設備などの配置、緊急時の備えや対応などについて調べたことを基に、地域の人々が消防署と連携して火災に備えていることを理解しているか」を評価する。【知①】</p>
<p>まとめる</p>	<p>⑧学習問題について、調べたことや考えたことをまとめ、火災から地域の安全を守る働きや、関係機関と地域との連携などを考え、理解できるようにする。</p>	<p>◆火事から人々の安全を守るために、どのような人たちが、どのようなことをしているのだろうか。</p> <p>○調べたことを関連図に整理して、考えたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消防を中心に、いろいろな機関がつながっている。 <p>○火災から地域の安全を守る働きについて、これまで調べたことや考えたことをまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>おそろしい火事からわたしたちを守るために、消防署を中心としたいろいろな機関が協力し、素早く消火できるように備えている。また、防火のために消防署や関係機関、地域の人々が、日頃から施設・設備を整えたり、訓練したり、防火を呼びかけたりしている。</p> </div>	<p>◎これまでの学習記録</p> <p>□消防、市、地域の人々、安全などを書き込んだカードを位置付け、そのつながりを書き込んでいく。</p> <p>★関連図や発言内容から「連携・協力している関係機関の働きを比較・分類したり関連付けたりして、消防署などの関係機関の相互の関連を考えたり、関係機関に従事する人々の活動と地域の人々の生活を関連付けて従事する人々の働きを考えたりして、関連図に表現しているか」を評価する。【思②】</p> <p>★ノートの記述から「消防署などの関係機関は、地域の安全を守るために、相互に連携して、緊急時に対処する体制をとっていることや、関係機関が地域の人々と協力して、火災などの防止に努めていることを理解しているか」を評価する。【知②】</p>
<p>つなぐ</p>	<p>⑨学習したことを基に、火災から地域や自分自身の安全を守るために、自分にできることを考えようとする態度を養う。</p>	<p>◆火事から自分や地域の安全を守るために、自分たちはどのようなことができるのだろうか。</p> <p>○学習したことや関係機関、地域の方の話を基に自分にできることを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練に参加する…【理由】地域の人たちや消火の仕方を知るため。 <p>○防火のために行動できることをポスターや標語に表す。</p> <p><例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・火遊びは ぜったいしない 火事のもと ・消防団と いっしょによびかけ「火の用心」 ・あいさつをして 地域の絆を ふかめよう 	<p>◎地域の方の話(消防署、消防団、地域)</p> <p>□なぜそのことをするのか、学習したことを根拠にして理由を説明させる。</p> <p>★記述や発言内容から「学習したことを基に、地域や自分自身を守るためにできることを考えたり選択・判断したりして適切に表現しているか」を評価する。【思②】</p> <p>□発信相手を具体的に設定する。</p> <p>□その標語の具体的な説明や、その言葉にした理由も書かせる。</p> <p>★記述や発言内容から「学習したことを基に、地域や自分自身の安全を守るために自分たちにできることを考えようとしているか」を評価する。【態②】</p>

小単元名	事ここから地いきの安全を守る	配当7時間	内容(3)アの(ア)(イ)及びイの(ア)
------	----------------	-------	----------------------

＜「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」の区分＞

1 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 小単元の目標

事故や事件から地域の安全を守る働きについて、施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応に着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりしてまとめ、関係機関や地域の人々の諸活動を捉え、相互の関連や従事する人々の働きを考え、表現することを通して、警察署などの関係機関は、地域の安全を守るために、相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、関係機関が地域の人々と協力して事故や事件などの防止に努めていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、学習したことを基に地域や自分自身の安全を守るために地域社会の一員としてできることを考えようとする態度を養う。

(2) 小単元の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①警察署などの施設、交通標識などの設備の配置やパトロールの体制などについて、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、警察署をはじめとした関係諸機関の人々の諸活動を理解している。</p> <p>②調べたことを白地図や図表、文などにまとめ、警察署などの関係機関は、地域の安全を守るために、相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、関係機関が地域の人々と協力して事件や事故などの防止に努めていることを理解している。</p>	<p>①警察署などの施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応に着目して、問いを見だし関係機関や地域の人々の諸活動について考え、表現している。</p> <p>②連携・協力している関係機関の働きを比較・分類したり、関連付けたりして、警察署などの関係機関の相互の関連を考えたり、関係機関に従事する人々の活動と地域の人々の生活を関連付けて、従事する人々の働きを考えたりするとともに、学習したことを基に、地域や自分自身の安全を守るためにできることなどを考えたり選択・判断したりして、適切に表現している。</p>	<p>①事故や事件から地域の安全を守る働きについて、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直しをしたりして、学習問題を追究・解決しようとしている。</p> <p>②学習したことを基に、地域の安全を守るために自分たちにできることなどを考えようとしている。</p>

2 指導計画の作成に当たって

(1) 学習指導要領との関連

①本小単元は、内容(3)の「事故や事件からの安全を守る働き」に基づき、警察署の働きを中心に取り上げて構成した小単元である。この内容は「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」に区分され、政治を対象としているものである。また、本小単元では、警察が事故や事件に対して、地域や関係機関と連携して事故や事件の未然防止に取り組んでいる様子が捉えやすいことから、「防止に努めていること」に重点を置く。

②内容の取扱い(3)のイに示された「地域や自分自身の安全を守るために自分たちにできることなどを考えたり選択・判断したりできるように配慮すること」については、単元終末に「つなぐ」段階を設定する。そして、学んだことを基に、安全の観点から再度自分たちのまちや生活を見つめ直し、子供が地域社会の一員として地域や自分自身の安全を守るため、自分たちにも協力できることや、日頃から心がけるべきことについて考えたり選択・判断したりできるようにする。

(2) 教材や資料の工夫

①「地域の安全を守るために、関係機関が地域の人々と協力して火災や事故などの防止に努めていることを理解したり、自分たちにできること考えたりすること」ができるように、地域の安全に関わる施設・設備や警察署の人々、安全指導員や地域の方々との取組を取り上げ、社会的事象の見方・考え方(事象や人々の相互関係、関連)を働かせながら、自分たちに関わる身近な問題として捉えられるようにする。

②地域の安全に関わる課題として、子供の自転車の事故や交通ルールの違反に関する事例や、地域の方の話を取り上げることで、道路交通法や自転車安全利用五則などの法やきまり、自分自身の安全を守るためにできることを考えられるようにする。

(3) 学習展開や学習活動の工夫

①前小単元における消防署の働きの学習で獲得した知識や、学び方を積極的に生かしながら、子供がより主体的に学

習を展開することができるように、学習の大まかな展開を揃えたり、意図的に前小単元の学びを想起させる場面をつくったりするなどの工夫をする。

- ②調べて分かったことを説明し合い、警察署、消防署、地域など関係する人々の取組を、消防の関係機関の連携と比較しながら整理し、図や表などにまとめる。
- ③学習問題をまとめた後に、警察や地域の人々が事故防止の努力をしているにもかかわらず事故がなくなるなど、地域の安全に関わる課題がまだまだあることに気付かせる。そして、自分たちにできることを考える「つなぐ」段階を設定し、情報交換を通して自分の考えを標語にまとめ、地域に発信する活動を行うようにする。

(4) 問いの構成の工夫



(5) 評価の工夫

「つなぐ」段階では、学習したことを基に、地域や自分自身の安全を守るためにできることを考えたり、選択・判断したりする活動を設定する。その中で、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の二つの観点から評価していく。基本的には、1時間に1観点が適切であるが、時数や学習展開により、2観点から評価しなければならないケースもある。その際は、的確に評価ができるように、それぞれの観点について評価の対象とする学習活動を、一つずつ設定するようにしたい。本小単元の第7時では、自分たちにできることを考え話し合う活動において「思考・判断・表現」の観点から、また、自分たちにできることを標語にまとめる活動において「主体的に学習に取り組む態度」の観点から評価していく。

自分たちにできることを話し合う活動では、警察を中心とする関係機関の活動や地域、学校の活動等を踏まえ、その効果を上げるための取組や、交通ルールの遵守等、個々の行動、また、周囲への働きかけ等をできる限り挙げられるようにする。「思考・判断・表現」を評価する際は、取組内容とともに、それを考えた根拠を重視する。考えと理由をノート等にしっかりと記述した上で、話し合いに入るようにしたい。標語にまとめる際には、関係機関や地域の方の思いなども踏まえながら、取組を考え、自分を含めた周囲に効果的に働きかけていこうとしているか、標語の内容やそれにした理由、取り組む様子から「主体的に学習に取り組む態度」を評価していく。

3 小単元の指導計画（7時間扱い）

過程	ねらい ○数字は第○時を表す	主な問い（◆）と主な学習活動（○） 予想される子供の反応（・）	教師の指導・支援 （□留意点 ◎資料 ☆★評価【観点】）
つかむ	<p>①②交通事故の様子や件数などから学習問題をつくり、学習問題に対し予想したことから、学習計画を立てることができるようにする。</p>	<p>○絵資料から、事故・事件の危険がある場所について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・信号のない交差点が危ない。 ・公園には不審者がいるかもしれない。 <p>◆わたしたちが暮らす地域では、どのくらいの交通事故が起きているのだろう。</p> <p>○地域の交通事故の様子について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たくさん起きている。死傷者も多い。 ・小学生も事故にあっている。 <p>◆どうして、交通事故の件数や死傷者数が減っているのだろう。</p> <p>○東京都の交通事故の発生状況や、死者・けが人の数が減少している事実から、その理由について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すぐにパトカーや救急車が到着する仕組みがあるのではないか。 ・火災のときと同じように、警察署など関係機関が協力しているのではないか。 ・地域の人も何か取組をしているのではないか。 ・ルールが厳しくなった。誰かが見回りをしているのではないか。 <p>交通事故からわたしたちの安全を守るために、どのような取組をしているのだろう。</p> <p>○学習問題に対する予想を話し合い、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事故が発生した時、警察など誰がどのような働きをしているのか。 ・事故から安全を守るために、どのような施設・設備があるのか。 ・警察や地域の人々は、事故を防ぐためにどのような取組をしているのか。 	<p>◎身近な地域の危ない場所を表した絵資料</p> <p>□事故と事件の両面から危険な要素を出し合う。</p> <p>◎区市の交通事故発生件数、死傷者数（総数と年代別）</p> <p>□自分たちの地域でも多くの事故が起きていることに気付かせる。</p> <p>◎交通事故の発生件数、死傷者数推移のグラフ、事故現場の写真またはイラスト資料</p> <p>□件数や死傷者数が減少していることに着目させ、その理由を考えさせることを通して、事故の防止に努める人々の働きについて関心や問題意識をもつことができるようにする。</p> <p>☆ノートの記述や発言内容から前小単元の学びを生かしながら「安全を守るための関係機関や人々、その働きに着目して、問いを見いだしているか」を評価する。</p> <p>【思①】</p> <p>警察署などの関係機関や地域の人々は、</p> <p>□予想を基に、緊急時の対応、ルール（交通規則）や施設・設備、防止の取組、人の働きや協力を視点に分類・整理し、学習計画につなげる。</p> <p>★ノートの記述や発言内容から「前小単元の学びを振り返り、予想を基に学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。【態①】</p>
しらべる	<p>③警察の仕事について調べ、交通事故発生時の取組や、その他に地域の人々の安全を守るために様々な活動をしていることを理解できるようにする。</p>	<p>◆警察の人々は、事故の対応や事故の防止などのために、どのような取組をしているのだろう。</p> <p>○110番の仕組みについて調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通報→通信指令室→関係機関→現場 ・火災のときと同じような仕組みだ。 <p>○交番の警察官の装備や仕事を調べ、気付いたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通事故や事件の対応をしている。 ・登校の見守りや、交通の取り締まりをしている。 ・交通事故の対応だけでなく、防止に努めている。 ・地域の人々と協力して安全を守っている。 	<p>◎交番の仕事、110番通報の流れ、写真、警察官の話（可能であれば、警察署や交番等の見学、聞き取りを取り入れる。）</p> <p>□調べたことを、事故への対応や防止、地域や関係機関等との協力、自分たちの生活との関連などに着目しながら整理する。</p> <p>□火災発生時の消防署などの関係機関の連携と比較して、共通点に気付かせる。</p> <p>☆ノート等の記述や発言内容から「警察の仕事について、通信指令室の働きを基に、警察を中心とした関係機関の取組から、関係機関は連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、登校の見守りや交通の取り締まりなどで、事故や事件を防止する体制をとっていることを理解しているか」を評価する。【知①】</p>

	<p>④警察署や地域の人々の安全を守る取組を調べ、警察と地域の連携について考え表現できるようにする。</p>	<p>◆(警察署や) 地域の人々は、安全を守るためにどのような取組をしているのだろう。 ○資料から安全を守る取組について調べる。 (警察)・交通安全教室 ・パトロール ・駐車違反のチェック ・防犯キャンペーン (地域)・登校の見守り ・自転車パトロール</p>	<p>◎警察署・地域の人々の話、活動の様子の写真、子ども110番のステッカー □身近な地域に、安全に関わる取組をしている人々がいることに着目させる。 ☆ノートの記述や発言内容から「警察や地域の人々による事故や事件を防止する取組から連携・協力に着目し、関係機関や地域の人々の諸活動について考えているか」を評価する。【思①】</p>
	<p>⑤地域の安全を守るための施設や設備を調べ、諸活動を捉えられるようにする。</p>	<p>◆地域には、安全を守るために、どのような施設・設備があるのだろう。 ○学校周辺にある安全を守る施設や設備について、小グループで調べる。 ・ガードレール ・信号 ・標識 ・子供110番の家 ・交番</p>	<p>◎学校周辺の白地図や周辺の写真 □登下校時や放課後に周辺を調べるように、事前に働きかけをするのもよい。 □白地図に整理し、身近にある安全を守る施設・設備に着目させる。 ☆記述や発言内容から「安全を守る施設・設備について、資料や調査から必要な情報を読み取り、関係機関や地域の人々は事故や事件を防止する体制をとっていることを理解しているか」を評価する。【知①】</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl;">まとめる</p>	<p>⑥学習問題について、調べたことや考えたことをまとめ、事故や事件から地域の安全を守る働きや、関係機関と地域との連携などを考え、理解できるようにする</p>	<p>◆地域の安全を守る警察署や関係機関、地域の人々の取組は、どのようにつながっているのだろう。 ○警察署などの関係機関や、地域の人々の取組と、安全な生活との関連について話し合い、図に整理する。 ・警察署を中心に関係機関や地域の人々が協力して、地域の安全を守っている。 ・特に、防止のための取組が大切。皆がルールを守ること大切。 ○話し合いを基に学習問題についてまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>・私たちの安全を守るために、警察や地域の人々などはパトロールをしたり、注意を呼びかけたりするなど、それぞれ協力しながら取り組んでいる。また、事故が起きた時は、警察や消防などと協力しながら、対応している。</p> </div>	<p>◎これまでの学習記録、カード □前小単元と同じような方法で関連図にまとめる。警察、市、消防、地域の人々、安全などを書き込んだカードを位置付け、その関連を書き込んでいく。そして、消防の図と比較しながら考えを深められるようにする。 ★関連図や発言内容から「警察署などの関係機関の相互の関連や、消防署や市役所などに従事する人々の活動と地域の人々の生活を関連付けて、従事する人々の働きを考え、表現しているか」を評価する。【思②】 ★ノートの記述から「警察署などの関係機関は、地域の安全を守るために、相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、関係機関が地域の人々と協力して事件や事故などの防止に努めていることを理解しているか」を評価する。【知②】</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl;">つなぐ</p>	<p>⑦地域の安全に関わる課題を調べ、学習したことを基に、自分にできることを考え、地域の安全を守るために自分たちができようとする態度を養う。</p>	<p>◆地域や自分の安全を守るために、自分たちには、どのようなことができるのだろう。 ○資料等から、自分たちのまちや生活を見つめ直し、安全に関する課題について考えたことを話し合う。 ・横断歩道を渡るときは、いったん止まって周囲の安全を確認しよう。 ・自転車に乗るときは、ヘルメットを被ったり自転車マークのところを走ったりして、ルールを守ろう。 ○みんなの安全を守るために、自分たちができることを標語にまとめる。 ・みんなの安全守るのは私たち一人一人 ・交差点 確認しよう 右左 ・交通の ルールを守って 皆笑顔</p>	<p>◎安全指導員の方の話、事故の件数、自転車安全利用五則、これまでの学習記録 □様々な努力があっても事故がなくなること、事故の起こりやすい場所があること、ルールを守る大切さに注目させる。 ★ノートの記述や発言内容から「学習したことを基に、地域や自分自身を守るためにできることを考え判断して、適切に表現しているか」を評価する。【思②】 □標語に理由や詳細について解説文を書き加えるようにする。 ★記述から「学習したことを基に、地域の安全を守るために自分たちができようとしているか」を評価する。【態②】</p>

単元名	世田谷区のうつりかわり	配当 17時間	内容 (4) アの(ア)及び(イ)とイの(ア)
-----	-------------	---------	-------------------------

<主として「歴史と人々の生活」の区分>

1 単元の目標と観点別評価規準

(1) 単元の目標

世田谷区の様子の変り変わりについて、交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、聞き取り調査をしたり地図などの資料で調べたりして、年表などにまとめ、区や人々の生活の様子を捉え、それらの変化を考え、表現することを通して、区や人々の生活の様子は時間の経過に伴い、移り変わってきたことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、学習したことを基に、これからの区の発展について考え、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う。

(2) 単元の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いについて、聞き取り調査をしたり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、区や人々の生活の様子を理解している。 ②調べたことを年表や文などにまとめ、区や人々の生活の様子は、時間の経過に伴い、移り変わってきたことを理解している。	①交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、問いを見だし、区や人々の生活の様子について考え、表現している。 ②駅や鉄道、公共施設ができたこと、人口が増えてきたこと、土地利用の様子や生活の道具が変わったことなどを相互に関連付けたり、区の様子の変化と人々の生活の様子の変化を結び付けたりして、区全体の変化の傾向を考えるとともに、これからの区の発展について考え、適切に表現している。	①区の様子や人々の生活の移り変わりについて、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。 ②学習してきたことを基に、地域社会の一員として、区の発展について考えようとしている。

2 指導計画の作成に当たって

(1) 学習指導要領との関連

①本単元は、内容(4)「市の様子の変り変わり」に関する内容で構成した単元である。本内容は、市の様子の変り変わりについて、交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などに着目して調べ、捉えていく。本指導計画においては、「つかむ」段階で生活の道具に着目して生活の様子の変化を調べ、それと関連付けて身近な地域の様子の変化を取り上げ、疑問をもたせて学習問題をつくる。そして、人口の変化に着目させ学習計画を立て、「しらべる」段階において交通や公共施設、土地利用について、時期による違いに着目して調べていく。

②内容の取扱い(3)のイに示された『「人口」を取り上げる際には、少子高齢化、国際化などに触れ、これからの市の発展について考えることができるよう配慮すること』については、単元終末の「つなぐ」段階で、子供が区民として世田谷区の発展に関心をもち、区の将来について考え、未来年表を作成し、区民の一人として自覚や世田谷区に対する誇りと愛情を養うようにしている。

(2) 教材や資料の工夫

- ①本単元では、グラフや数値・地図について第3学年の発達段階に応じた提示方法を工夫し、子供が見方・考え方を働かせながら追究できるようにしている。
- ②子供の興味・関心を高め、変化について大まかな見通しをもつことができるように、単元の導入場面において大正時代から続き、今も千歳烏山駅前で営業を行っている自転車屋近辺の写真を提示し、地域の変化を具体的に捉えられるようにする。身近にある自転車屋が昔からあることや、人々やまちの様子の変化から、地域の移り変わりについて興味・関心を高められるようにしている。
- ③世田谷区の公共施設の移り変わりについて第6時で扱うが、第7時では、公共施設の移り変わりの一例として、子供が通う自分たちの小学校の移り変わりを教材として取り上げる。これにより、自分たちの通う小学校が、地域の人々の願いによって変化したことを捉えられるようにする。第1期の卒業生であるTさんとの関わりを通して、身近な自分の学校を通して地域の移り変わりを捉えられるようにする。

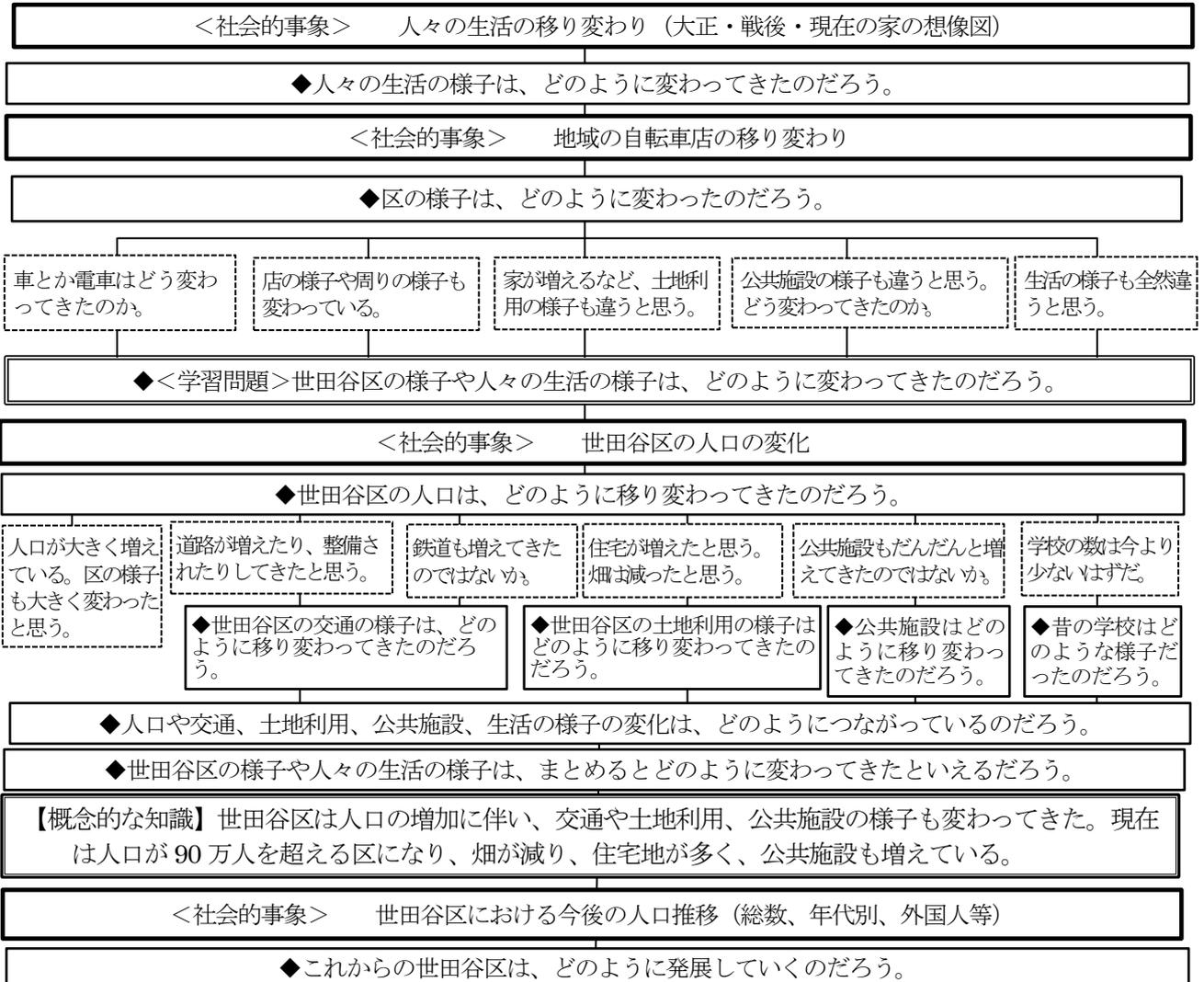
(3) 学習展開や学習活動の工夫

①本単元では、様々な資料や地域教材を通して子供が追究を進めていく。資料を基に、学習者同士で意見交換を行い、教師の発問によって対話的に学習を進められるよう、学習活動を工夫する。特に、地図や年表からの読

み取り場面では、読み取りの視点を明確にし、学習者同士が互いに気付いたことや考えたことを交流する場面を毎時間設定する。

- ②「しらべる」段階でのゲスト・ティーチャーの活用場面では、話を聞くだけでなく、子供が必要感をもって関わる場面を設定する。それまでの調べ学習において、疑問に思ったことや調べたいこと、ゲスト・ティーチャーの話を受けてもっと知りたいことなどについて、関わり合いながら、学びを深めるよう学習活動を工夫する。

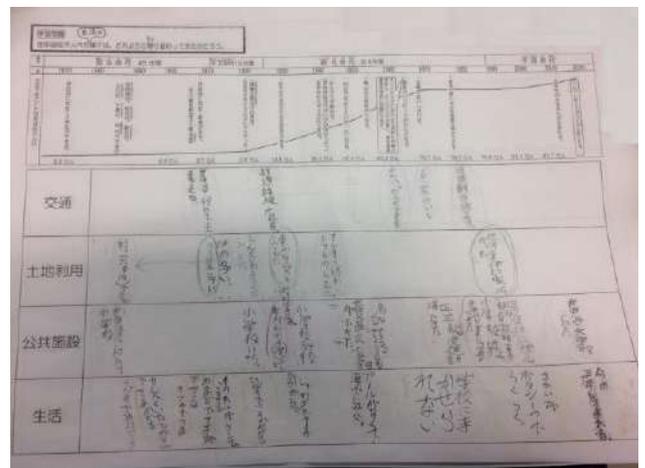
(4) 問いの構成の工夫



(5) 評価の工夫

「まとめる」段階では、調べてきたことを年表に整理した後、それを基に気付いたことや考えたことを書き込ませ、グループや班で話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

「人口が増えてきた頃、住宅地が広がり、公共施設もだんだんと増えてきた。」など、複数の事柄を関連付けて考えている記述がある場合は、「おおむね満足な状況」と評価することができる。そこまで至らない状況の児童については、「〇〇の頃、□□と同じように増えているものはないかな」などと問いかけ、複数の事柄を関連付けた思考を促す助言をする。さらに、「人口が増えた頃、鉄道も広がり駅も増えるとともに、住宅地が広がってきた。鉄道が広がり便利になってきたから、引っ越してきて住む人も増え、住宅や人口が増えてきたのではないかな。」など、その変化の様子を具体的に説明したり、変化の要因を考えたりする記述が見られる場合は、「十分に満足できる状況」と評価できる。



▲子供がまとめた年表の例

3 単元の指導計画と評価計画 (17時間扱い)

過程	ねらい ○数字は第○時を表す	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される子供の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点 ◎資料 ☆★評価【観点】)
	①②③生活の様子を比べたり、道具の移り変わりを調べたりすることを通して、人々の生活の様子や生活の道具が変化していることを理解できるようにする。	○3枚の写真の順に並び変える。 ◆人々の生活の様子は、どのように変わってきたのだろう。 ○昔の家の中の様子を調べ、話し合う。 ○生活の道具の移り変わりを調べる。 ・手で扱う→電化→全自動、リモート操作 ○人々の生活の変化について考え、話し合う。 ・昔と比べて便利な道具が多くなっているね。 ○学習のまとめをする。	□3つの時代の生活の様子を比べることで、移り変わりに気付かせる。 ◎戦前(大正)、戦後(昭和)の家、現在の家の中の想像図、昔の道具 ☆ノートの記述や発言内容から「3枚の想像図から変化を捉え、道具の移り変わりについて資料等を活用して必要な情報を集め、読み取り、道具の変化とともに生活の様子も変化していることを理解しているか」を評価する。【知①】
つかむ	④世田谷区の移り変わりについて関心をもち、学習問題をつくることができるようにする。	◆区の様子は、どのように変わったのだろう。 ○同じ場所の3枚の写真から読み取れることを話し合う。 ・走っている電車や車が違う。・畑が多い。 ○疑問に思うことを話し合う。 ・車とか電車ってどう変わってきたのかな。 ・今と昔の土地の様子は全然違うね。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">世田谷区の様子や人々の生活の様子は、どのように変わってきたのだろう。</div>	◎地域の自転車店の写真(3枚)、第1単元の白地図 □疑問を分類して学習問題をつくる。 ☆ノートの記述や発言内容から「交通や公共施設、土地利用や人口などの時期による違いに着目して、問いを見いだしているか」を評価する。【思①】
	⑤世田谷区の様子や人々の生活の様子の移り変わりについて学習問題の予想をし、学習計画を立てることを通して、追究の見通しをもつことができるようにする。	◆世田谷区の様子や人々の生活の様子は、どのように変わってきたのだろう。 ○現在と大正時代の世田谷区の人口を比べる。 ○グラフから人口の変化について調べる。 ○現在の世田谷区の様子を振り返り、区の様子がどのように変わったのかを予想し、話し合う。 ○学習の計画を立てる。 ・交通のこと・土地利用のこと・公共施設のこと ○学習の振り返りをする。	◎人口グラフ □人口の変化について、時代を追って捉えられるようにする。 ◎第1単元の白地図 □第1単元での視点を確認する。 ★ノートの記述や発言内容から「世田谷区の様子や人々の生活の様子の移り変わりについて、予想を基に学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。【態①】
し	⑥⑦鉄道や道路の様子の変化について資料を読み取り、世田谷区の交通の移り変わりについて理解できるようにする。	◆世田谷区交通の様子は、どのように移り変わってきたのだろう。 ○現在の世田谷区交通を確認する。 ○主な路線図と道路の変化の地図を調べる。 ○昭和初期に鉄道がほぼ現在の姿になった理由を考えることで、世田谷区に起きた変化を考える。 ○学習のまとめをする。	◎昔と今の千歳烏山駅の写真、第1単元の白地図、世田谷区交通の変遷の地図 □交通の様子の変化に着目できるよう、交通の変遷の地図を活用する。 ◎生活の変化を示す資料、地域の人の話 ☆ノートの記述や発言内容から「交通の移り変わりの様子について、変化の傾向を考えているか」を評価する。【思①】 ☆ノートの記述や発言内容から「区交通の移り変わりについて、地図や年表等で調べ、必要な情報を集め、読み取り、その変化を理解しているか」を評価する。【知①】
べらる	⑧⑨畑や住宅地などの写真や地図資料を読み取りを通して世田谷区土地利用の移り変わりについて理解できるようにするとともに、これまでの追究を振り返り、学習計画を見直そうとする態度を養う。	◆世田谷区土地利用の様子は、どのように移り変わってきたのだろう。 ○現在の世田谷区土地の様子から、どのように変わってきたのか予想し、話し合う。 ○土地利用の変化の地図を使って調べる。 ・人口が増えたから住宅が増えた。 ・関東大震災があり、被害が少なかった世田谷区に移り住んだ人がいるから、家が増えた。 ○これまでの追究を振り返り、十分に調べられていないことや、さらに調べたいことなどについて話し合う。 ・人口と土地利用は関係があった。これからは人口の様子と結びつけて調べていくとよい。 ・公共施設では、区役所に注目していきたい。	◎烏山地区の昔の農村風景と今の写真 ◎第1単元の白地図 ◎世田谷区土地利用の変遷の地図 □人口、交通の様子も関連付けて考えられるよう、掲示しておく。 ☆ノートの記述や発言内容から「区土地利用の様子について写真や地図で調べ、必要な情報を集め、読み取り、その変化を理解しているか」を評価する。【知①】 ★発言や記述の内容から「学習を振り返り、学習問題を解決するために、学習計画を見直したり、修正したりしようとしているか」を評価する。【態①】

し ら べ る	<p>⑩⑪世田谷区の公共施設の移り変わりについて資料を活用して調べ、その様子を理解できるようにする。</p>	<p>◆世田谷区の公共施設は、どのように移り変わってきたのだろう。</p> <p>○公共施設のできた順番で年代別に色を塗る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・だんだんと公共施設は増えてきた。 ・いろいろな場所にある。区全体に広がっている。 <p>○なぜ地図のように増えてきたのか話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遠い場所からだと区役所に行くのも大変だから、近い場所で同じことができるようにした。 ・区役所が公共施設をつくるのに大切な働きをしている。 	<p>□公共施設が増えていく様子が分かるよう、年代ごとに色分けをして塗る。</p> <p>□区が公共施設の整備を進めたことを取り上げ、租税の役割にも触れる。</p> <p>□人口や交通、土地利用の変化を関連付けて考えられるよう、掲示しておく。</p> <p>☆ノートの記述や発言内容から「公共施設の整備の様子について、どのような施設が造られてきたかなどを考えているか」を評価する。【思①】</p> <p>☆ノートの記述や発言内容から「区の公共施設の様子について地図や年表等の資料で調べ、必要な情報を集め、読み取り、その変化を理解しているか」評価する。【知①】</p>
る	<p>⑫昔と今の小学校の様子を比べ、昔と今では小学校の様子が変わってきたことを理解できるようにする。</p>	<p>◆昔の自分たちの学校はどのような様子だったのだろう。</p> <p>○現在の世田谷区の学校の様子を確認し、どのように移り変わってきたか予想し、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校に通う子供の数が多くなって、新しい学校ができたと思う。 <p>○ゲスト・ティーチャーの話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今の学校の様子と違うところが多いけれど、同じようなところもある。 	<p>◎世田谷区の小学校（ドット図）</p> <p>◎自分の学校の開校当初の写真</p> <p>□小学校の移り変わりの図を提示し、視覚的に捉えられるようにする。</p> <p>◎昔の小学校の授業の様子、同窓生の話</p> <p>☆ノートの記述や発言内容から「昔と今の小学校の様子についてゲスト・ティーチャーの話から調べ、小学校の様子が変化してきたことを理解しているか」を評価する。【知①】</p>
ま と め る	<p>⑬⑭調べてきたことを基に、世田谷区の移り変わりや人々の生活の変化を考え、年表に表現できるようにする。</p>	<p>◆人口や交通、土地利用、公共施設、生活の様子の変化は、どのようにつながっているのだろう。</p> <p>○調べてきた視点を確認する。</p> <p>○調べてきたことを年表にまとめ、考えたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活 ・交通 ・土地利用 ・公共施設 	<p>□調べたことを1枚の年表にまとめ、それらを関連付けて考え、気付いたことを書き込ませる。</p> <p>★年表への記述や発言内容から「駅や鉄道、公共施設ができたこと、人口が増えてきたこと、土地利用の様子や生活の道具が変わったことなどを相互に関連付けたり、区の様子の変化と人々の生活の様子の変化を結び付けたりして、区全体の変化の傾向を考えているか」を評価する。【思②】</p>
つ な ぐ	<p>⑮学習問題について分かったことや考えたことをまとめ、世田谷区や人々の生活が移り変わったことを理解できるようにする。</p>	<p>◆世田谷区の様子や人々の生活の様子は、まとめるとどのように変わってきたといえるだろう。</p> <p>○年表を基に自分の考えを書き、発表する。</p> <p>○学芸員の話聞く。</p> <p>○単元の振り返りをする。</p> <p>・世田谷区は人口の増加に伴い、交通や土地利用、公共施設の様子は変わってきた。現在は人口が90万人を超える区になり、畑が減り、住宅地が多く、公共施設も増えている。</p>	<p>◎世田谷区の移り変わり年表</p> <p>□年表を基に、世田谷区の様子が変わってきたきっかけに着目できるようにする。</p> <p>□学芸員には子供の考えに対して、必要なところを付け足ししていただく。</p> <p>★ノートの記述や発言から「区や人々の生活の様子は、時間の経過に伴い、移り変わってきたことを理解しているか」を評価する。【知②】</p>
つ な ぐ	<p>⑯⑰学習してきたことを基に、これからの世田谷区の発展について、考えようとする態度を養う。</p>	<p>○世田谷区は、これからも人口が増えていく見込みであることを確認する。</p> <p>◆これからの世田谷区は、どのように発展していくのだろう。</p> <p>○調べてきたことを基に、これからの世田谷区はどうなっていくか考え、年表の続きを書き、交流する。</p> <p>○区役所の方の話聞き、考えをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世田谷区は子供、高齢者、外国人など、いろいろな人がこれからも増えていきます。交通や公共施設などはもっと便利になって、人々の生活も変わっていくと思います。これからももっと世田谷区のことについて調べていきたいと思っています。 <p>○学習の振り返りをする。</p>	<p>□年表を基に、未来の世田谷区の様子について考えることができるようにする。</p> <p>□少子高齢化、国際化に触れ、様々な立場の人がいることを捉えられるようにする。</p> <p>★年表等の記述や発言から「学習したことを基に、これからの区の発展について考え、適切に表現しているか」を評価する。【思②】</p> <p>◎区役所の方の話、子供、高齢者、外国人の人口の予測推移のグラフ</p> <p>★ノートの記述等から「学習してきたことを基に、地域社会の一員として、区の発展について考えようとしているか」を評価する。【態②】</p>

第1・2時の資料（つかむ）

時期による違いに着目する。

◆今と昔の中野区は、どんなところが違うのだろう。

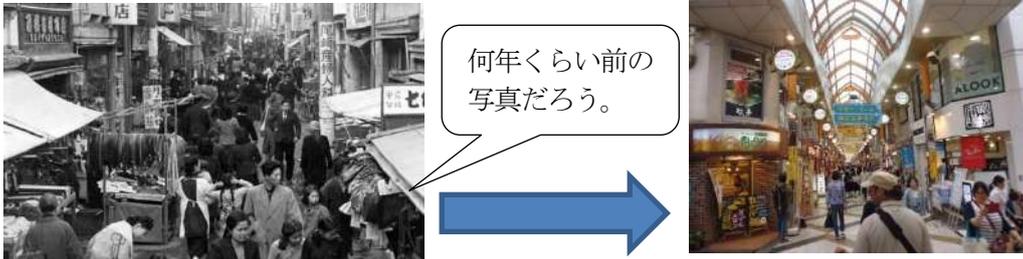
資料 駅舎・商店街・役場の昔と今（写真）

建物も乗り物も様子が
ずいぶん違うね。

中野駅



中野駅前
の商店街
(サンモール)



何年くらい前の
写真だろう。

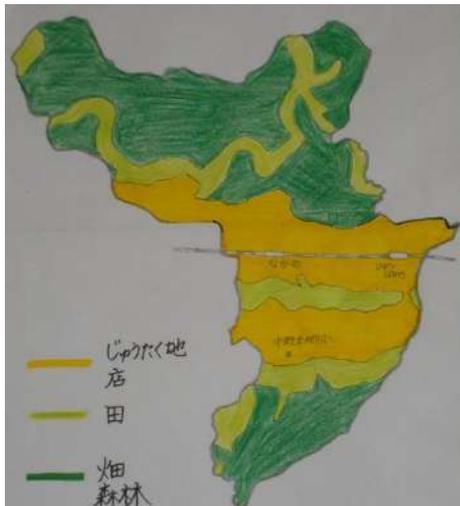
中野町役場・野方町役場
↓中野区役所



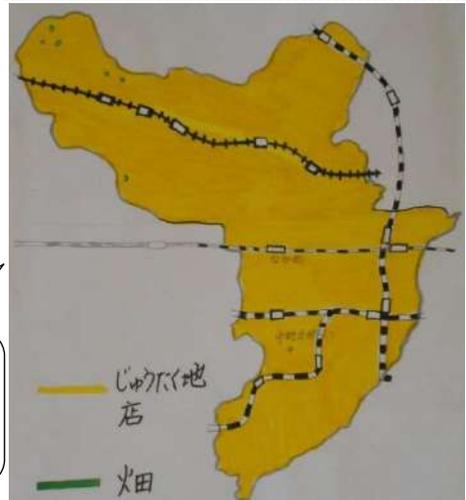
資料 土地利用の変化

昔は田や畑がたくさんあったんだ。

【指導上の留意点】比較するにあたっては、交通や公共施設、土地利用など第1単元との関連を図るようにする。



どんなふうにして、
こんなに変わって
いったのだろう。



【学習問題】

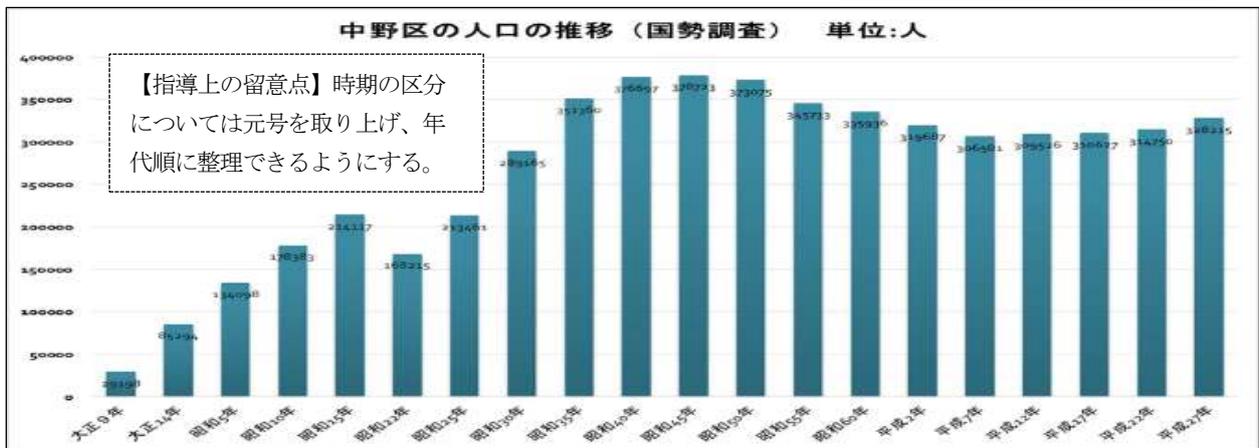
私たちの住む中野区の様子は、どのように変わってきたのだろう。

第4・5時の資料（調べる）

◆人口や土地の使われ方は、どのように変わってきたのだろう。

人口の変化と土地利用の移り変わりの関連に着目する。

資料 人口の変化 土地利用の移り変わり



大正のころ



昭和の初めころ



昭和30年ころ



平成のころ

第8・9・10時の資料（調べる）

◆どのような公共施設が建てられてきたのだろう。

公共施設と人口の関連に着目する。

資料 公共施設の分布(第1单元)
区役所で働く人の話

区役所の人の話

中野区には、公共施設がたくさんあります。昭和のはじめごろには少なかったのですが、人口が増えてきて必要になりました。つくるときには、たくさんのお金がかかります。みなさんがはらっている税金をつかっています。人口がふえると税金も増えるので、公共施設もたくさんつくれるのです。



公共施設はだんだん増えて、今のようになくなったんだね。

みんなが使うものだから、人口の変化と関係があるんだね。

税金が使われているから、人口が増えると公共施設も増えるんだ。

第16・17時の資料（いかす）

◆これからの中野区は、どのようになるといいのだろう。

資料

中野区歌「未来カレンダー」
中野区基本構想

だれもが住みやすい中野区にするために、自分たちができることを考えよう。

商店街がある
元気いっぱいなまち

- ・〇〇商店街を大きくする。
- ・外国の文化も取り入れ

地域の人の繋がりを
大切にするまち

- ・人にあいさつをする。
- ・イベントをふやし参加する。

緑がいっぱいあって
環境に優しいまち

- ・畑や公園をふやす。
- ・ポイ捨てをへらす。

公共施設が整った
公平なまち

- ・公園をふやす。
- ・住宅も緑もふやす。

ずっと住み続けられる
魅力的な町

- ・お店をふやしてまちを元気に。
- ・病院をふやして安心に。

災害への備えが進んだ
安心なまち

- ・逃げられる公園や畑をふやす。
- ・近所で仲良く助け合う。

単元名	多摩市のうつりかわり	配当 17時間	内容 (4) アの(ア)及び(イ)とイの(イ)
-----	------------	---------	-------------------------

<主として「歴史と人々の生活」の区分>

1 単元の目標と観点別評価規準

(1) 単元の目標

多摩市の様子の移り変わりについて、交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、聞き取り調査をしたり地図などの資料で調べたりして年表などにまとめ、市や人々の生活の様子を捉え、それらの変化を考え、表現することを通して、市や人々の生活の様子は時間の経過に伴い、移り変わってきたことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、学習したことを基にこれからの市の発展のために地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う。

(2) 単元の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いなどについて、聞き取り調査をしたり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、市や人々の生活の様子を理解している。 ②調べたことを年表や文などにまとめ、市や人々の生活の様子は、時間の経過に伴い、移り変わってきたこと理解している。	①交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、問いを見出し、市や人々の生活の様子について考え、表現している。 ②駅や鉄道、公共施設ができたこと、人口が変化したこと、土地利用の様子や生活の道具が変わってきたことなどを相互に関連付けたり、市の様子の変化と生活の様子の変化を結び付けたりして、市全体の変化の傾向を考えるとともに、これからの市の発展を考え、適切に表現している。	①市の様子の移り変わりについて、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。 ②学習してきたことを基に地域社会の一員として、市の発展について考えようとしている。

2 指導計画の作成に当たって

(1) 学習指導要領との関連

- ①本単元は、内容(4)「市の様子の移り変わり」に関する内容で構成した単元である。事例としては、「多摩市の様子の移り変わり」を交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して調べていく。
- ②内容の取扱い(4)のウに示された「『人口』を取り上げる際には、少子高齢化、国際化などに触れ、これからの市の発展について考えることができるよう配慮すること」については、単元終末の「つなぐ」段階で、児童が市民の一人として市の発展に関心を持ち、市の将来について考えたり討論したりすることができるように意図している。

(2) 教材や資料の工夫

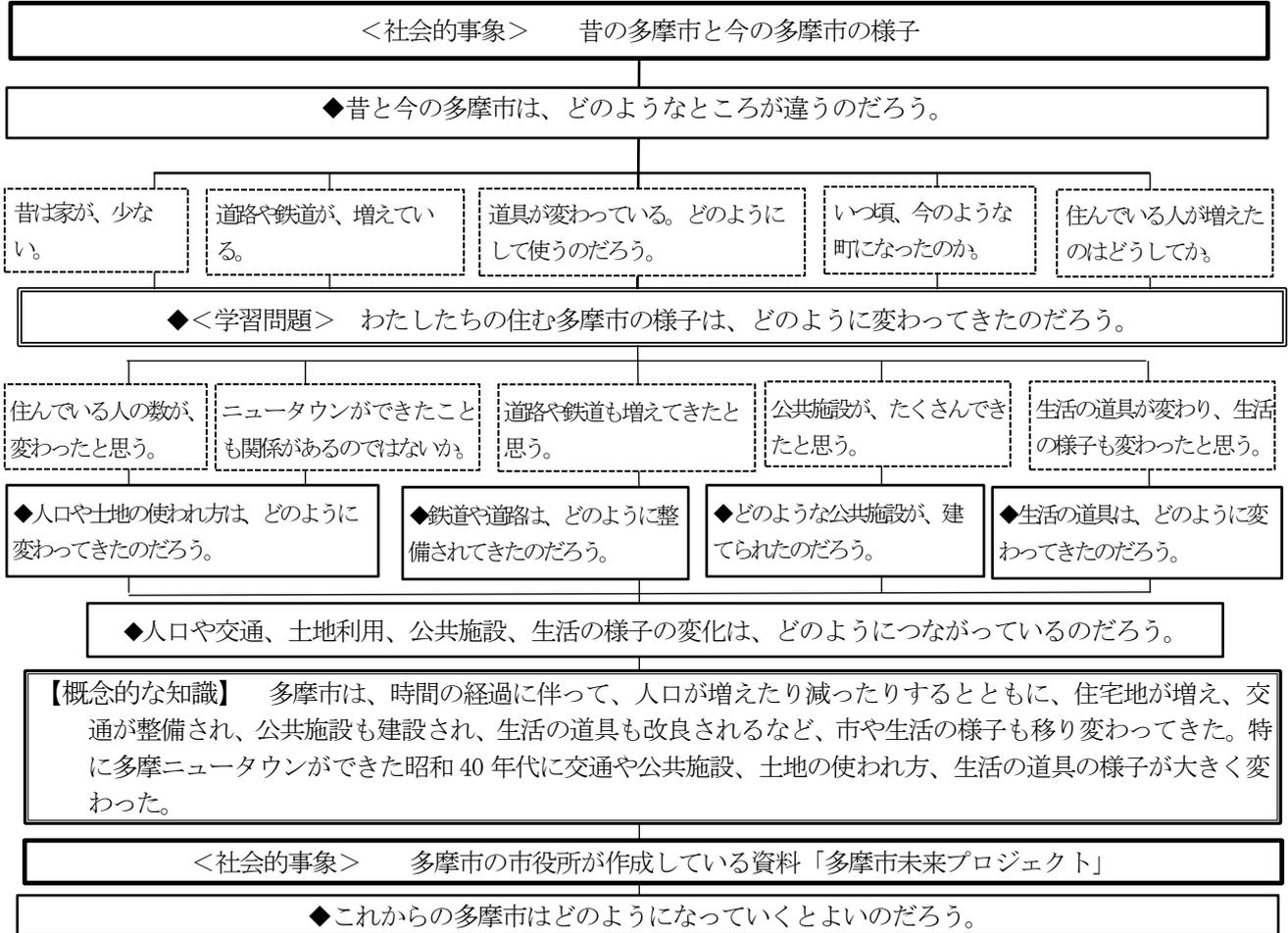
- ①本単元は、市や人々の生活の様子の移り変わりを理解することがポイントである。単元を通して、社会的事象の見方・考え方(時期や時間の経過、比較)を働かせて調べたり考えたりできるよう、時期による変化を捉えることができる写真や統計資料、地図資料等を教材、資料として工夫、開発をすることが大切である。
- ②「しらべる」段階では、統計資料(人口の移り変わり等)、地図資料等に加え、市の様子の変化や、生活の変化、市役所の働きなどを具体的に捉えることができるように、地域の高齢者や、市役所の人、地域の博物館や資料館の人などに聞き取り調査をする活動を取り入れている。
- ③本教材では「つなぐ」段階を設け、調べてきたことや少子高齢化、国際化の視点から、これからの市の発展について考え、話し合い、討論するなどの活動が考えられる。ここでは「多摩市未来プロジェクト」として、話し合ったことを市役所の人に発信していく活動を取り入れている。

(3) 学習展開や学習活動の工夫

- ①第1単元の「市の様子」の学習を振り返り、現在の市の様子や、それを捉えるための視点(土地利用、交通、公共施設、古くから残る建造物)を想起させ、本単元の学習に生かしていく。
- ②本単元では市の移り変わりの様子について、人口や土地利用、交通、生活の道具などの違いに着目して問いを見だし、学習問題をつくっていく。その疑問を生かして、調べるための問いを「～はどのように○○だろう」と設定して、追究していく。
- ③主体的に学ぶための工夫として、「しらべる」段階でそれぞれの視点の変化に着目しながら「交通は～のような変化をしていたから、土地利用は○○ではないか」のように1時間単位の予想を立てて調べることができるようにする。また、市役所の人や地域の高齢者への聞き取り調査を取り入れ、主体的・対話的な学びを充実させる。

- ④「しらべる」段階では、「①人口と土地利用」、「②交通」、「③「生活の道具」の順に年表や地図に整理しながら調べていくことで、人口の増減や市町村合併の時期など変化の大きい時期に着目して調べることができるようにする。人口の変化と着目したそれぞれの視点を関係付けることで変化の傾向を捉えやすくしていく。
- ⑤「まとめる」段階では、視点ごとに調べたことを整理して一つの年表にまとめ、相互に関連付けたり結び付けたりして変化の様子を考えられるようにする。

(4) 問いの構成の工夫



(5) 評価の工夫

「まとめる」段階では、これまで調べてきた人口、土地利用、交通、公共施設、生活の道具の変化を一つの年表にまとめ、それらを相互に関連付けたり、市の様子の変化と生活の様子の変化を結び付けたりして、市全体の変化の傾向を考える活動において、「思考・判断・表現」の観点から評価を行う。具体的には、年表にまとめた後、まず、同時期の市の様子や生活の様子について、調べたことを基に考えたことを書き込ませ、話し合う。次に、時間の経過に即して移り変わりの様子について、考えたことを年表に書き込ませ、話し合う。その記述や発言内容から、評価していく。

「人口が大きく増えたころ、鉄道や道路も広がり、住宅も増え、公共施設も増えてきた。電化製品も家庭に広まり、生活も便利になった。この頃、市が大きく発展し、今に近づいてきた。」という記述（発言）からは、調べたことを関連付けて一つの時期の様子を捉え、他と比較をして変化の大きさや、現在とのつながりを考えていることがうかがえ、「おおむね満足できる」状況と評価することができる。

また、「はじめは、人口も少ない町だったが、ニュータウンの建設をきっかけに人口が大きく増え、同じころ、交通も便利になり、公共施設も増え、電化製品も広まり、生活も便利になった。その後、人口の変化はあまりないが、みんなが豊かにくらせるための公共施設が増え、生活の道具は全自動などに変わり、市も生活もよりよくなってきた。」という記述（発言）からは、各時期の様子を的確に捉え、時間の経過に即して、市と生活の様子を結び付けて、「便利」、「みんなが、よりよく」などの言葉を用いて変化の傾向を表しており、「十分に満足できる」状況と捉えることができる。

しかし、年表への書き込みについては、このように整った文では書かれていないことが多い。それぞれの記述について、何を関連付けているのか、変化の様子を考えているかなどに気を付けて評価していくことが大切である。机間指導の際、問いかけたり、発言の際に問い直したりして、的確に考えを把握するとともに、個に応じた指導・支援を行うことも大切である。

3 単元の指導計画 (17時間扱い)

過程	ねらい (○数字は第○時を表す)	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される児童の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点 ◎資料 ☆★評価【観点】)
つかむ	①②多摩市の昔や今の様子を地図や写真で比較して、市や人々の生活の変化について関心を持ち、学習問題をつくることができるようにする。	○昔の多摩市の地図と今の多摩市の地図を比較して、違いを読み取る。 ◆昔(1960年頃)と今の多摩市は、どのようなところが違うのだろう。 ○2枚の写真資料から、昔の生活の様子と今の生活の様子を比較し、話し合い、学習問題をつくる。 ・知っている道が、昔はなかった。家も少ない。 ・昔は駅が少ない。 ・団地が立っているのに、昔は木がいっぱいあった。 ・駅前の様子も今とは全然違っている。 ・人々の服装なども違う。生活も今と違うのでは。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">わたしたちの住む多摩市の様子はどのように変わってきたのだろう。</div>	◎現在の多摩市の地図や写真と1960年頃の多摩市の地図や写真(ニュータウン周辺及び聖蹟桜ヶ丘駅前) □交通や公共施設、土地利用など第1単元との関連を図る。 □ニュータウンの開発で大きく変化があるため、その前と現在を比較することにより、変化の大きさへの関心を高める。 ☆ノートの記述や発言内容から「2枚の写真から昔と今の生活の様子を比べ、交通、公共施設、土地利用の変化とともに生活の様子も変化していることについて問いを見だし、表現しているか」を評価する。【思①】
しらべる	③学習問題に対して予想し、学習計画を立てることができるようにする。	○前時の資料を基に、学習問題に対する予想を話し合い、学習計画を立てる。 [予想]・住んでいる人の数が変わったと思う。 ・ニュータウンができた頃、大きく変わったのではないか。 ・道路や鉄道も増えているのではないか。 ・公共施設もたくさんできたと思う。 ・生活の道具が変わって、生活も変わってきたのではないか。 [計画]・人口の移り変わり ・土地利用の移り変わり ・交通の移り変わり ・公共施設の移り変わり ・生活道具の移り変わり	□前時の資料を基に調べる視点を明確にしていく。 ★ノートの記述や発言内容から「多摩市の様子や人々の様子の移り変わりについて、予想をもとに学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。【態①】
	④⑤人口や土地利用の変化について調べ、理解できるようにする。	◆人口や土地の使われ方は、どのように変わってきたのだろう。 ○人口の変化について調べる。 ・村や町だった頃と比べて人口が増えている。 ・ニュータウンができた頃、急に増えている。 ○土地利用の変化について調べる。 ・ニュータウンができた頃、田畑や林が減って、住宅が大きく増えてきた。 ○人口の変化と土地利用の変化を比較したり、関連付けたりして話し合う。 ・ニュータウンができた頃、畑や田んぼが減って、住宅ができたので人口も増えていった。 ・交通も、ニュータウンができた頃大きく変わったのではないか。	◎人口変化のグラフ ◎1950年代、ニュータウン開発後、現在の土地利用図 □人口の変化から村や町だった頃、ニュータウンができた頃、この後、現在の三つの時期に着目して変化を捉えていく。 □調べた項目ごとに年表にまとめる。 ☆ノートの記述や発言内容から「人口や土地利用の移り変わりについて、変化の傾向を考えたり、結びつけて様子を考えたりしているか」を評価する。【思①】 ☆ノートの記述や発言内容から「必要な情報を集め、読み取り、人口や土地利用の移り変わりの様子を理解しているか」を評価する。【知①】
	⑥⑦多摩市の交通網の変化について調べ、理解できるようにする。	◆鉄道や道路は、どのように整備されてきたのだろう。 ○鉄道や道路の整備される様子について写真や地図資料等を用いて調べる。 ○人口の変化と関連付けて、交通網の整備の様子について話し合う。 ・人口が増えた頃、駅も増えてきた。 ・モノレールができた年にも人口も増えている。 ・人口が増えるとともに、道路も増え、広がってきている。	◎鉄道や道路を示した地図資料 ◎地域の博物館や資料館の人の話 □変化を白地図にまとめる。 ☆ノートの記述や発言内容から「交通の移り変わりについて、変化の傾向を考えているか」を評価する。【思①】 ☆記述や発言内容から、「地図や年表等で調べ、情報を集めたり読み取ったりして、多摩市の交通の移り変わりを理解しているか」を評価する。【知①】

	<p>⑧⑨⑩どのような公共施設が建てられてきたかを調べ、その様子を理解できるようにするとともに、これまでの学習を振り返り学習計画を見直そうとする態度を養う。</p>	<p>◆どのような公共施設が建てられてきたのだろう。 ○公共施設ができたころと今の様子を調べる。 ○市役所の人の話から公共施設がどんな役割を果たしてきていたかを調べ、話し合う。 ・市役所の他に学校や高齢者施設、子供ための施設などが増えてきた。 ・市役所が中心になって建設を進めてきた。 ・みんなが払っている税金が建設に使われている。 ・多摩市に住んでいる人が少しずつ集めたお金で、町がよりよくなってきた。 ○これまでの学習を振り返り、学習計画を見直す。 ・人口の変化とともに、その他のことも変化している。 ・交通、公共施設も変わると生活も変わっているはず。生活の変化もこれから調べていきたい。</p>	<p>◎市役所の人の話 □公共施設の建設や運営に租税が重要な役割を果たしていること触れる。 ☆ノートの記述や発言内容から「市役所の人の話をもとに、公共施設の役割や租税について理解しているか」を評価する。【知①】 □これまでの追究を振り返り、十分に調べられていないことや、さらに調べていきたいことなどを話し合う。 ★発言や記述の内容から「学習を振り返り、学習問題を解決するために、学習計画を見直したり、修正したりしようとしているか」を評価する。【態①】</p>
	<p>⑪⑫⑬生活の道具の変化を調べ、理解できるようにする。</p>	<p>◆生活の道具は、どのように変わってきたのだろう。 ○道具の変化について調べる。 ・固定電話→携帯電話→スマートホン ・洗濯板→二層式洗濯機→全自動洗濯機 ・洗濯板はどのように使うのだろう。 ○地域の高齢者に聞き取り調査をする。 ○道具の変化や、生活の変化について話し合う。 ・町がよりよくなってきたのと同時に、道具も少しずつよりよいものに変化している。 ・昔使っていた道具も、その時代での工夫があった。 ・道具が改良されて、便利になり、家の仕事の時間が少なくなっていた。</p>	<p>◎昔と今の道具、地域の高齢者の話 □昔の道具が悪く、今の道具がいいという考えにならないよう、当時の道具の工夫に着目していく。 ☆ノートの記述や発言内容から「道具の移り変わりについて、変化の傾向や生活の様子と結びつけて考えているか」を評価する。【思①】 ☆ノートの記述や発言内容から「地域の高齢者の話をもとに、道具の使い方と生活の様子の変化について理解しているか」を評価する。【知①】</p>
ま と め る	<p>⑭⑮学習問題について調べてきたことを年表に表現し、それらに関連付けて考え、多摩市や人々の生活の様子の変化について理解することができるようにする。</p>	<p>◆人口や交通、土地利用、公共施設、生活の様子の変化は、どのようにつながっているのだろう。 ○調べてきた事項を1枚の年表に整理し、考えたことを話し合う。 ・ニュータウンができた頃、どれも大きく変化している。この頃、市全体が発展した。 ・人口の増加といっしょに交通や、住宅、公共施設も増えてきている。 ・市とともに生活の様子を変化している。 ◆わたしたちの住む多摩市の様子は、まとめるとどのように変わってきたといえるだろう。 ○年表から学習問題に対する自分の考えをまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ・多摩市は、ニュータウンができたころから人口が大きく増えるとともに、住宅地が増え、交通や公共施設も広がり、生活の道具も改良され、くらしも便利で豊かになってきた。特に多摩ニュータウンができた昭和40年代に市の様子や生活の様子が大きく変わり、今につながっている。 </div></p>	<p>□変化の様子を関係付けてまとめる。 □年表を作成する際は元号を用いる。 ★年表への記述や発言内容から「人口や土地利用、交通網、公共施設などの変化を相互に関連付けたり、市の様子の変化と人々の生活の様子の変化を結び付けたりして市の変化を考え、表現しているか」を評価する。【思②】 ★ノートの記述や発言の内容から「調べたことを年表や文などにまとめ、市や人々の生活の様子は、時間の経過に伴い、移り変わってきたこと理解しているか」を評価する。【知②】</p>
つ な ぐ	<p>⑯⑰学習したことを基に、これからの多摩市の発展について考えようとする態度を養う。</p>	<p>◆これからの多摩市は、どのようになっていくとよいだろう。 ○これからの多摩市の将来の姿「多摩市未来プロジェクト」について話を伺い、の課題を踏まえて話し合う。 ○これから多摩市がどのように ・多摩市は高齢者が多く住むので、老人にとって生活しやすい町になっていくといいと思う。 ・たくさんの人に住んでもらえるように、多摩市のよさを広めていくといい。 ・テーマパークがあるので、そのキャラクターを使って多摩市のよさを広めていけるといい。</p>	<p>◎市作成の資料、市役所の人の話 □少子化、高齢化、国際化などの課題を確認した上で、自分の考えをまとめる。それを基に多摩市未来会議を開き、これからの多摩市について話し合う。 ★ノートの記述や発言から「学習したことを基に、これからの市の発展について考え、適切に表現しているか」を評価する。【思②】 □話し合いを基に自分の考えをまとめる。 ★ノートの記述や発言内容から「市役所の人の話やこれまでの学習をもとに、地域社会の一員として市の発展について考えようとしているか」を評価する。【態②】</p>

第1・2時の資料（つかむ）

◆昔はどんな様子だったのだろう。

資料 昔の駅前の写真



昔の東小金井駅南口（今の東小方向）



昔の東小金井駅北口（今の東小方向）

人、土地利用、交通、公共施設に着目する。

どこの写真だろう。

楽しそうだな。何をしているのだろう。

昔、駅前には畑だったんだ。



昔の武蔵小金井駅前

【指導上の留意点】

他に、学校や地域の昔と今の写真を提示し、気付いたことや知りたいことを話し合わせる。

【学習問題】

私たちの住む小金井市の様子は、どのように変わってきたのだろう。

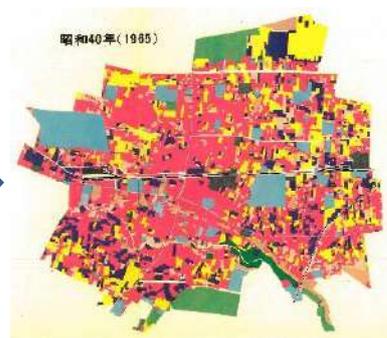
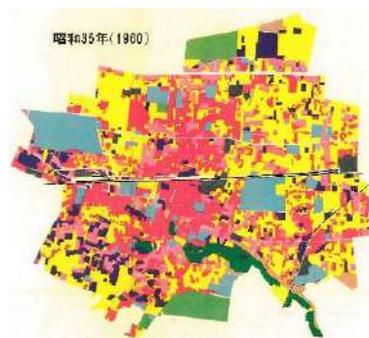
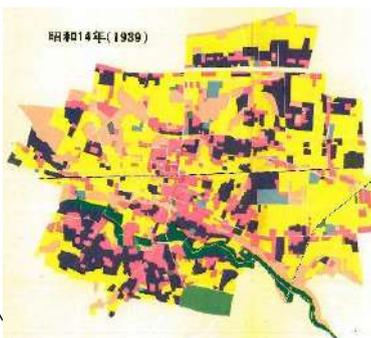
○授業中は、約30年ごとに年代を区切ったものを掲示し、どの年代の資料かを確認しながら提示。

明治	大正	昭和	平成
30	1 15	1 30	64 1 31



第4時の資料（調べる）

◆土地利用はどのように変わってきたのだろう。

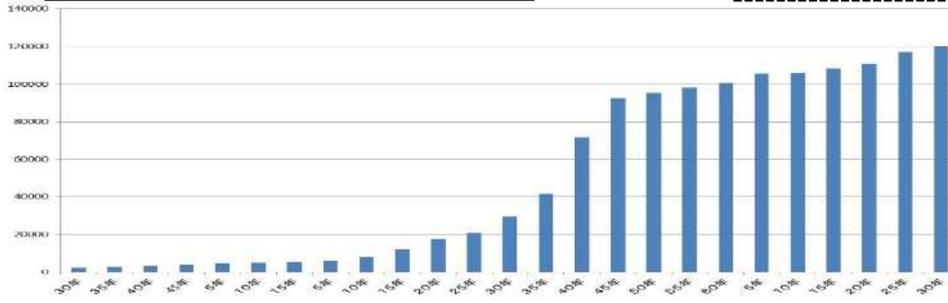


第5・6・7・8時の資料（調べる）

◆人口・土地利用・交通どのように変わってきたのだろう。

【指導上の留意点】土地利用や人口の推移と交通、公共施設の移り変わりを関連させて考えられるようにする。

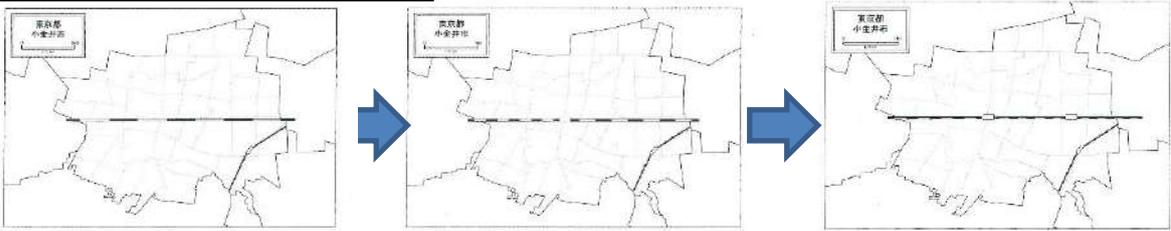
資料 小金井市の人口推移グラフ



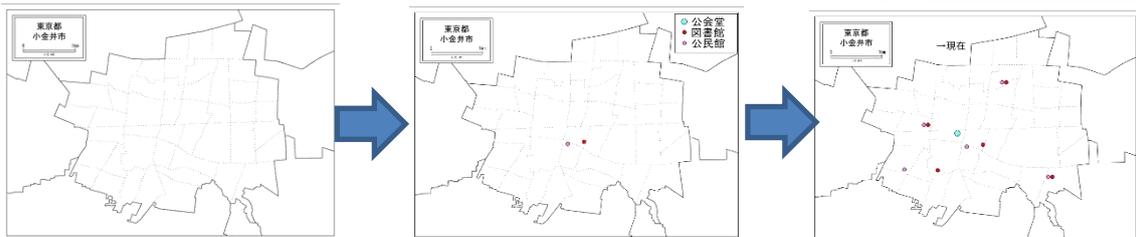
ずっと増え続けている。昭和30年頃すごく増えている。

駅ができると、人口も増えている。

資料 鉄道路線図の推移



資料 公共施設（小学校・図書館・公会堂）の推移（透明シートに印刷し重ねて使用）

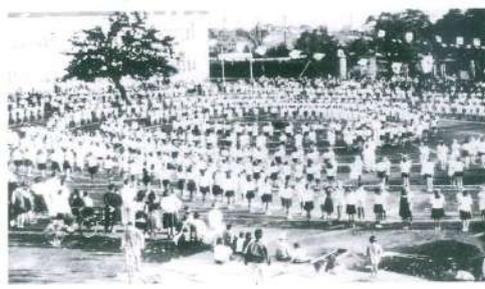


学校も増えている。

資料 昭和中ごろ（急激に人口が増えたころ）の写真



武蔵小金井駅 (S38)



第一小学校の運動会 (S26)



最後の頃の田植え (S41)

人口が増えると、駅も学校もぎゅうぎゅうだ。

第14・15時の資料（まとめ）

◆私たちのすむ小金井市のまちや人々のくらしは、まとめるとどのようにつり変わってきたといえるだろう。

【指導上の留意点】これまでまとめてきた年表から、分かったことを関連付けたり結び付けたりして、学習問題に対する考えをまとめられるようにする。

人口が増え、鉄道の駅や公共施設もできて便利になってきている。これからもよいまちになっていくと思う。



第4学年

年間指導計画

第4学年の指導計画作成のポイント

1 目標と改訂のポイント

- 社会的事象の見方・考え方を働かせ、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。
- (1) 自分たちの都道府県の地理的環境の特色、地域の人々の健康と生活環境を支える働きや自然災害から地域の安全を守るための諸活動、地域の伝統と文化や地域の発展に尽くした先人の働きなどについて、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、調査活動、地図帳や各種の具体的資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。 ＜知識及び技能＞
- (2) 社会的事象の特色や相互の関連、意味を考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを表現する力を養う。 ＜思考力、判断力、表現力等＞
- (3) 社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う。 ＜学びに向かう力、人間性等＞

(1) ＜知識及び技能＞の改訂のポイント

- ・第4学年で取り上げる地域の範囲が「自分たちの都道府県」と明確に示され、人々の生活との関連を踏まえて理解することが重視された。また、技能については、「必要な情報をまとめる技能」を身に付けられるようにする。これは、第3学年と同様の目標で、2年間を通して身に付けさせていくこととなる。

(2) ＜思考力、判断力、表現力等＞の改訂のポイント

- ・第3学年と同様の目標となっている。旧学習指導要領と比較し、思考力については「意味」を考えること、判断力として「社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力」が追加されている。また、表現力についても「選択・判断」したことを表現する力が新たに明記されている。2年間を見通して、学習内容や発達の段階に応じて、思考力・判断力・表現力等を確実に身に付けさせていくことが重要である。

(3) ＜学びに向かう力、人間性等＞の改訂のポイント

- ・これまでの「地域社会に対する誇りと愛情」「地域の一員としての自覚」に加え、思考や理解を通して「主体的に問題を解決しようとする態度」や「学習したことを社会生活に生かそうとする態度」を養うことが示された。

2 内容の改訂ポイントと単元配列案

- | | |
|--------------------------|---|
| ○内容(1)「都道府県の様子」 | ← 旧第3学年及び第4学年内容(6) |
| ○内容(2)「人々の健康や生活環境を支える事業」 | ← 旧第3学年及び第4学年内容(3) |
| ○内容(3)「自然災害から人々を守る活動」 | ← 旧第3学年及び第4学年内容(4) 取り上げる事例から風水害、地震などの自然災害を分けて設定 |
| ○内容(4)「県内の伝統や文化、先人の働き」 | ← 旧第3学年及び第4学年内容(5)イ、ウ
「県内の～」として、学習対象の範囲を明記 |
| ○内容(5)「県内の特色ある地域の様子」 | ← 旧第3学年及び第4学年内容(6)ウ |

☆単元配列案

合計時数 90 時間

新学習指導要領の内容		単元・小単元名	配当時数
(1)	都道府県の様子	都道府県を調べよう～東京都の様子	8 時
(2)	人々の健康や生活環境を支える事業	水はどこから	10 時
		ごみのしよりと利用	10 時
(3)	自然災害から人々を守る活動	(選択) 地震から暮らしを守る	12 時
		(選択) 水害から暮らしを守る	
(4)	県内の伝統や文化、先人の働き	東京都に残る「くらやみ祭」	10 時
		(選択) 届けよう命の水～玉川兄弟と玉川上水の開発～	10 時
		(選択) 東京のまちを築いた人～後藤新平～	
		(選択) 病とたたかった人々～伊東玄朴らと種痘所～	
(5)	県内の特色ある地域の様子	染め物のさかんな新宿区	10 時
		(選択) 環境を守る小笠原	10 時
		(選択) 江戸の文化を伝える浅草のまち	

3 新学習指導要領の内容構成及び内容の取扱い

	内容構成			内容の取扱い
	着目すること	考えること	理解すること	
内容(1)	(ア) 我が国における自分たちの県の位置、県全体の地形や主な産業の分布、交通網や主な都市の位置など	調べたことを総合して県の地理的環境の特色を考える。	自分たちの県の地理的環境の概要を理解する。 47 都道府県の名称と位置を理解する。	・都道府県の名称については、国語科との連携を図り、漢字の表記に慣れるよう配慮する。
内容(2)	(ア) 供給の仕組みや経路、県内外の人々の協力など	仕組みや人々の協力関係と地域の人々の健康や生活環境を関連付けて、飲料水、電気、ガスを供給する事業が果たす役割を考える。	飲料水、電気、ガスを供給する事業は、安全で安定的に供給できるよう進められていることや、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・現在に至るまでに仕組みが計画的に改善され公衆衛生が向上してきたことに触れる。 ・ア(イ)イ(イ)については、飲料水、電気、ガスの中から選択して取り上げる。ア(イ)イ(イ)については、ごみ、下水のいずれかを選択して取り上げる。 ・飲料水等の供給や廃棄物の処理をする事業について、節水や節電、ごみの減量や水を汚さない工夫など、自分たちにできることを考えたり選択・判断したりできるよう配慮する。 ・廃棄物を処理する事業については、法やきまりについて取り扱う。
	(イ) 処理の仕組みや再利用、県内外の人々の協力など	仕組みや人々の協力関係と地域の人々の健康な生活環境を関連付けて、廃棄物を処理する事業が果たす役割を考える。	廃棄物を処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていることや、生活環境の維持と向上に役立っていることを理解する。	
内容(3)	(ア) 過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力など	自然災害の発生した際の被害状況と災害から人々を守る活動を関連付けて、自然災害から人々を守る活動の働きを考える。	地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対して、様々な備えをしていることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・地震災害、津波災害、風水害、火山災害、雪害などの中から、過去に県内で発生したものを選択して取り上げる。 ・「関係機関」については、県庁や市役所の働きを中心に取り上げ、防災情報の発信、避難体制の確保などの働き、自衛隊など国の機関との関わりを取り上げる。 ・地域で起こり得る災害を想定し、自分たちにできることなどを考えたり選択・判断したりできるように配慮する。
内容(4)	(ア) 歴史的背景や現在に至る経過、保存や継承のための取組など	受け継ぐ人々の工夫や努力と地域の人々の願いを関連付け、文化財や年中行事を保存していることの意味を考える。	県内の文化財や年中行事は、地域の人々が受け継いできたことや、それらには地域の発展など人々の様々な願いが込められていることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・県内の主な文化財や年中行事がだまかに分かるようにする。当時の世の中の課題や人々の願いなどについては、それらの中から具体的事例を取り上げる。 ・地域の発展に尽くした先人については、開発、教育、医療、文化、産業などの事例から選択して取り上げる。 ・地域の伝統や文化の保存や継承に関わって自分たちにできることなどを考えたり選択・判断したりできるよう配慮する。
	(イ) 当時の世の中の課題や人々の願いなど	先人の働きと地域の人々の生活の向上を関連付けて、先人が当時の地域や人々の生活の向上に貢献したことを考える。	地域の発展に尽くした先人は、様々な苦心や努力により当時の生活の向上に貢献したことを理解する。	
内容(5)	(ア) 特色ある地域の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係など	特色ある地域の人々の活動や産業とそれらの地域の発展を関連付けたり、自分たちの住む地域と比較したりして、その地域の特色を考える。	県内の特色ある地域では、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統的な技術を生かした地場産業の盛んな地域、国際交流に取り組んでいる地域及び地域の資源を保護・活用している地域を取り上げる。保護・活用の事例では、自然環境、伝統文化のいずれかを選択して取り上げる。 ・国際交流に取り組んでいる地域を取り上げる際には、我が国や外国には国旗があることを理解し、それらを尊重する態度を養うよう配慮する。

4 教材や指導の工夫

- (1) 内容(1)「都道府県の様子」では、県の位置、県全体の地形や産業の分布、交通網や都市の位置などに着目しながら追究し、県の概要を捉え、地理的環境の特色を考え表現できるようにする。また、実際の指導にあたっては、県の地図や地図帳を十分に活用することも大切である。
- (2) 内容(2)「人々の健康や生活環境を支える事業」では、「飲料水、電気、ガス」、「ごみ、下水」から、地域の実態や単元構成などを考慮し、各1事例を選択をする。また、供給や処理の仕組みが過去から現在に至るまでに計画的に改善され、公衆衛生が向上してきたことを取り上げて、それらの事業の働きを考えたり、追究したことを基に自分たちにできることを考えたり選択・判断したりできるようにすることが大切である。
- (3) 内容(3)「自然災害から人々を守る活動」では、過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、過去にどのような自然災害が発生し、どのような被害をもたらしたのか、また、被害を減らすために関係機関や人々はどのように協力しているのかなどの問いを設けて調べたり、人々の生活と関連付けて考えたりしていくことが大切である。
- (4) 内容(4)「県内の伝統や文化、先人の働き」では、歴史的背景や時間的な経過をとらえながら、当時の人々の思いや苦勞、伝統や文化を継承する人々の思いや努力などを追究していくことが大切である。そして、このような学びを基に、地域の伝統や文化を保護したり継承したりするために自分たちが協力できることを考えたり選択・判断したりして、地域に対する誇りや持続可能な社会を担おうとする態度を育てていくことが大切である。
- (5) 内容(5)「県内の特色ある地域の様子」では、伝統的な技術を生かした地場産業が盛んな地域、国際交流に取り組んでいる地域及び地域の資源（伝統的な文化または自然環境）を保護・活用している地域から、各1事例を取り

上げる。学校のある地域の実態などを考慮し、適切な事例地を都内から選択することが大切である。

単元名	都道府県を調べよう 東京都の様子	配当 8時間	内容 (1) アの(ア)及び(イ)とイの(ア)
-----	------------------	--------	-------------------------

<主として「地理的環境と人々の生活」の区分>

1 単元の目標と観点別評価規準

(1) 単元の目標

東京都の様子について、我が国における東京都の位置、東京都全体の地形や主な産業の分布、交通網や主な都市の位置などに着目して、地図帳や各種資料で調べ、白地図などにまとめ、東京都の様子を捉え、東京都の地理的環境の特色を考え、表現することを通して、東京都の地理的環境の概要及び、47 都道府県の名称と位置を理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

(2) 単元の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①国内における東京都の位置、隣接する県との位置関係、都全体の地形や主な産業、交通網の様子や主な都市の位置などについて、地図帳や各種の資料などを活用して調べ、必要な情報を集め、読み取り、東京都の様子について理解している。 ②調べたことを白地図などにまとめ、東京都の地理的環境の概要及び、47 都道府県の名称と位置を理解している。	①東京都の位置、東京都全体の地形や主な産業の分布、交通網や主な都市の位置などに着目して、問いを見いだし、東京都の様子について考え、表現している。 ②日本全体における東京都の位置、東京都全体の地形の様子、産業の分布や交通網の広がりなどを関連付け、総合して、東京都の地理的環境の特色について考え、適切に表現している。	①東京都の様子について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

2 指導計画の作成に当たって

(1) 学習指導要領との関連

- ①学年の最初で取り扱われることが多い単元であり、その後の学習の基盤となる内容である。例えば「飲料水を供給する事業」の学習において、他県にある水源林やダムのある場所の地理的な位置を把握していることで、他県とのつながりに気付くことができる。地形や産業、交通や都市の位置などから、東京都の地理的環境の概要について十分に捉えられるようにしておくことが大切である。それにより、4年生の学習や社会科の学習のみならず、他教科等においても様々な学習場面で活用することができる。その後の単元の内容との関連をしっかりと踏まえて指導計画を立てるとともに、以後の単元において、学んだことを意図的に活用する場面を設定していくようにする。
- ②本単元では、中心資料として地図帳を積極的に活用することが求められる。その中で、3年生からの学習に引き続き、基礎的な地図帳の使い方（地図記号、等高線、索引、縮尺等）を身に付けさせ、さらに活用を広げていくことが大切である。また、国語科と連携して、47 都道府県を漢字で書けるように指導することとなった。

(2) 教材や資料の工夫

- ①地図帳、写真、立体地図模型を活用する。それにより、隣接する県、土地の高低、土地利用の様子などに着目させ、社会的事象の見方・考え方（位置や空間的な広がり、比較）を働かせながら、東京都の地形の概要について調べたり考えたりできるようにする。
- ②東京都のホームページを活用する。それにより産業の分布や交通網の広がりについて着目させ、社会的事象の見方・考え方（事象や人々の相互関係）を働かせながら、地形と土地利用や産業との関わりについて調べたり考えたりできるようにする。
- ③首都東京としての機能についても目を向けさせる。（官公庁や大使館、商業地、交通の集中等。）

(3) 学習展開や学習活動の工夫

- ①東京都の特徴を白地図に書き入れ、最後にそれらをミニガイドブックにまとめることを通して主体的な学習を促す。また、表紙に特徴を短い文で書かせるときには話し合いの活動を設定し、互いの考えを聞き合い、質問をしたり助言したりしながら、対話的に学びを深めていけるようにする。
- ②47 都道府県の学習では、日本地図を使って大まかに国土の様子を捉えられるようにする。その際、名称とともに、日本地図上の位置を説明させたり、クイズ形式で出題したりするなどして、子供が主体的に取り組めるように工夫をする。自身が選択した県などについてのクイズづくりをすることで、子供相互の対話を促し、楽しみながら学習を行うことができる。また、名称と位置を定着させるためには、繰り返し学習していくことが必要である。
- ③地図で地形の様子を読み取りながら、紙粘土等を使用して東京都の立体地図をつくると、実感をもって土地の様子を理解できるようにする上で効果的である。

(4) 問いの構成の工夫



(5) 評価の工夫

「つかむ」段階の第3時において、学習問題に対する予想を出し合い、学習計画を立てる場面で「主体的に学習に取り組む態度」の観点から評価する。

本単元は4年生社会科で最初に取り扱われることが多いと考える。まず、学習問題をつくった後、調べる計画を立てることを確認する。そして、学習問題について各自で予想し、それを交流し合いながら地形、土地利用、産業、交通などの視点から分類しながら、調べる内容を問いの形で明確にして学習計画を立てる。このような活動を通して、子供が自らの生活体験や既習を生かして、自分なりの予想を立てているか、学習問題の解決に向けた見通しをもっているかを、子供の記述や発言などから評価する。本単元で「主体的に学習に取り組む態度」については、この時間にしか評価場面を設定していないことを踏まえ、一人一人について確実に記録を残すとともに、評価を基に主体的な追究を促す支援を生かす。

「まとめる」段階の第7時において、調べたことを関連付けて東京都の特色を考える場面で「思考・判断・表現」の観点から評価する。東京都の地形や、産業の分布、交通網や主な都市の位置などを関連付けて、東京都の地理的概要の特色を考える活動を設定する。関連付けて考えるためには、地図を並べて子供に提示し、比較して考えられるようにしたり、教師が「地形と産業にはどのような関係がありますか。」「地形と交通の様子にはどのような関係がありますか。」と問い返したりして、社会的事象の見方・考え方を働かせて考えられるように支援する必要がある。このような手だてを取った上で、子供の記述や発言などから学習した内容を関連付けて考えているかを評価する。その際、調べたことを根拠にして自分の考えを表現しているかを重視する。根拠を明確にして適切に特色を考え、表現することができていれば「概ね満足できる」状況と捉えられる。

3 単元の指導計画 (8時間扱い)

過程	ねらい (○数字は第○時を表す)	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される子供の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点 ◎資料 ☆★評価【観点】)
つかむ	①日本における東京都の位置やまわりの県について調べ理解できるようにする。	○東京都における自分たちの生活する市区町村の位置や、これまで訪れたことのある市区町村の位置、様子等について話し合う。 ・わたしたちの板橋区は、東京都の東側にある。 ・たくさんの市区等がある。 ・島もある。 ◆東京都は日本のどのあたりにあるのだろう。 ○東京都の位置を地図帳で調べ、言葉で説明し合う。 ・東京都は関東地方にあり、太平洋に面している。 ・東京都は、関東地方の南西にある。 ◆東京都の周りには、何県があるのだろう。 ○東京都に隣接する県の名前や位置を調べる。 ・東京都の南には神奈川県がある。 ・東京都の西には山梨県がある。 ○東京都や隣接する県の大まかな地形の様子を調べる。 ・東京都の西や山梨県は山が多い。	◎地図帳 □東京都の市区町村を概観する。島嶼部があることも捉えさせる。 □東京都の位置を、八方位を用いて説明する。 □隣接県を東京都から見た方位で表す。隣接県と比較して東京都の地形を捉えさせる。 ☆発言や記述から「国内における東京都の位置、隣接する県との位置関係を理解しているか」を評価する。【知①】
	②東京都と他の都道府県の様子の違いから問題を見だし、学習問題をつくることができるようにする。	◆東京都と他の道府県には、どのような違いがあるのだろう。 ○東京都と他の都道府県の写真を比較し、気が付いたことを出し合う。 ・東京都にはたくさんの人がいる。 ・新潟県には、広い水田が広がっている。 ・沖縄県にはきれいな海がある。 ○東京都と他の道府県との比較から疑問を出し合い、学習問題をつくる。 ・東京都には自然があるのか。 ・東京都にはどんな場所があるのか。	◎東京都の様子が分かる写真(渋谷) ◎東京都以外の道府県(新潟県、沖縄県、北海道など)の写真 □東京都と他の道府県の様子の比較から、東京都の様子について問題意識を高める。 ☆発言や記述から「東京都全体の地形や主要産業の分布、交通網などに着目して問いを見いだしているか」を評価する。【思①】
	東京都はどのような様子なのだろう。		
	③学習問題について予想し、学習計画を立てることができるようにする。	○学習問題に対する予想を出し合う。 ・東京都には高い所も低い所もありそうだ。 ・東京都は人が多いので、住宅が多いのではないのか。 ・東京都にはたくさんの店や会社、工場などがあるのではないのか。 ・東京都にはたくさんの電車やバスが走っている。鉄道や道路が広がっているのではないのか。飛行機や船でも他地域とつながっていると思う。 ○学習問題に対する予想を分類し、学習計画を立てる。 ・東京都の地形はどのようになっているのか。 ・東京都のどこでどのような産業がさかんなのか。 ・東京都の交通網はどのようになっているのか。	◎様々な東京都の写真(檜原村、小笠原、浅草、羽田空港、新宿等) □子供の生活経験、資料や既習内容などを基に、根拠を示しながら予想を立てられるようにする。 □予想を地形や産業、交通網等の視点に分類し、学習計画にまとめる。 ★発言や記述から「学習問題の解決に向けた予想を基に学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。【態①】
しらべる	④東京都全体の地形の様子について調べ理解できるようにする。	◆東京都の地形の様子はどのようになっているのだろう。 ○東京都の地形の様子を調べ、伝え合う。 ・西から山地、丘陵地、台地、低地と東に向かって土地が低くなっている。 ・東京都には多摩川が流れていて、西から東に流れている。 ・島もたくさんある。小笠原は世界自然遺産に登録されている。 ○東京都の地形を白地図に書き表す。 ・東京都は西から東にかけて土地が低くなっていることが分かった。 ・島も南に広がっている。日本の東と南の端は東京都である。	◎東京都の地形及び広がりが見分かる地図、東京都の立体地図 □島嶼部まで含まれた地図を提示し、東京都の広がりを実感的に捉えられるようにする。 □立体地図や断面図、白地図に調べたことをまとめることを通して、西から東に土地の高さが低くなっていることを実感的に捉えられるようにする。 ☆発言や記述から「各種地図や資料から必要な情報を読み取り、都全体の地形について理解しているか」を評価する。【知①】

し ら べ	<p>⑤東京都の土地利用の様子等をもとに、産業の分布について調べ、理解できるようにする。</p>	<p>◆東京都は、どこでどのような産業がさかんなのだろう。 ○東京都の土地利用や主な産業について調べ、白地図にまとめる。 ・東京都の東側には商業地が広がっている。 ・東京都の西側には工場がある。 ○東京都の地形と土地利用や産業の関係について考え、話し合う。 ・低地には住宅地や商業地が広がっている。 ・丘陵地の畑には野菜がつけられている。 ・台地や丘陵地には工場が点在している。 ・山地には森林が広がっている。</p>	<p>◎東京都の土地の使われ方が分かる地図、東京都ホームページ</p> <p>◎東京都の地形が分かる地図 □既習の東京都の地形と関連付けて考えるように助言する。 ☆発言や記述から「土地利用図等から必要な情報を読み取り、東京都の主な産業の分布について理解しているか」を評価する。【知①】</p>
る	<p>⑥東京都の交通網の様子を調べ、理解できるようにする。</p>	<p>◆東京都の交通網はどのようになっているのだろうか。 ○東京都の交通網を調べ、白地図にまとめる。 ・中心部には交通が集中し、都庁（新宿区）や官庁（千代田区）、大使館（港区）などがある。 ・多摩地区では、立川、八王子、青梅、府中が地域の中心としての役割を果たしている。 ・23区には地下鉄が張り巡らされている。 ・空港や港もあり、島や他県、外国とつながっている。 ○東京都の産業分布や地形、交通網との関係について考え、話し合う。 ・線路がたくさん集まっているところにはお店が多い。 ・畑が多いところには、線路はあまりない。 ・山地や森林には道路や鉄道が少ない。 ・島は飛行機や船で結ばれている。</p>	<p>◎東京都の交通網の広がり分かる地図、JRの駅の利用者数、東京都ホームページ</p> <p>□交通と主要都市の関係に注目させ、主要都市に交通が集中していることに気付かせる。また、空港、港に着目させ、空と海の交通の広がりを捉えさせる。</p> <p>◎東京都の土地利用が分かる地図 □既習の東京都の土地利用や地形と関連付けて考えるように助言する。 ☆発言や記述から「資料から必要な情報を集め、読み取り、東京都の交通網の様子について理解しているか」を評価する。【知①】</p>
ま と め	<p>⑦調べたことを基に、東京都の地理的環境の特色について考え表現できるようにする。</p>	<p>◆東京都の様子には、どのような特色があるのだろうか。 ○東京都の特色を短い言葉でまとめる。 ・東京都にはたくさんの家やお店がある。 ・東京都には網目のように交通網が広がっている。 ・東京都の西側には山地で森林が広がっている。 ○東京都の地形、土地利用、交通網などの様子をミニガイドブックにまとめ、読み合う。 ・東京都の地形と産業や交通網には関係があると思った。 ・東京都には自分たちの住んでいる地域とは違った様子の場所があると思った。</p> <div data-bbox="469 1375 1011 1541" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>東京都は47都道府県の一つであり、地形は山地、丘陵地、台地、低地に分けられ、地形によって土地の使われ方が違う。交通網が整備され、他県とつながっている。</p> </div>	<p>◎東京都の地形及び、土地利用、交通網が分かる地図</p> <p>□既習内容を振り返ることで、東京都の様子を考えられるようにする。 ★ノートの記述や発言の内容から「東京都全体の地形の様子、産業の分布や交通網の広がりなどを関連付け、東京都の地理的環境の特色について考え、表現しているか」を評価する。【思②】</p> <p>□これまでに調べ、まとめてきた白地図を合わせ、タイトル及びまとめの解説を加えた表紙を付けてまとめさせる。 ★ミニガイドブックの記述から「調べたことを地図にまとめて、東京都の地理的環境の概要を理解しているか」を評価する。【知②】</p>
る	<p>⑧日本地図を使い47都道府県を調べ、理解できるようにする。</p>	<p>◆47都道府県はどこにあり、どのような特色があるのだろうか。 ○訪れたことのある都道府県の様子を伝え合う。 ○都道府県から選択をして、都道府県名クイズをつくる。 ・富士山がある県です。ぶどうや桃の生産が盛んです。→山梨県 ・二つの大きな半島があります。自動車工業の工場がたくさんあります。→愛知県 ○都道府県名クイズを出し合い、問題に出てきた都道府県の位置や特色を白地図に書き込む。</p>	<p>◎地図帳、白地図、日本各地の写真</p> <p>□旅行等の経験を交流し合い、地図で確かめながら関心を高め、クイズづくりにつなげる。 □地図帳を活用して有名な山や川などの地形や盛んな産業などを調べ、クイズにまとめさせる。 □47都道府県を漢字で書けるように、白地図作業を適時取り入れる。 ★白地図への記述や行動観察から「クイズを出し合ったり白地図にまとめたりして、47都道府県の名称と位置を理解しているか」を評価する。【知②】</p>

小単元名	水はどこから	配当 10時間	内容 (2) アの(ア)及び(イ)とイの(イ)
------	--------	---------	-------------------------

<主として「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」の区分>

1 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 小単元の目標

飲料水を供給する事業について、供給の仕組みや経路、都内外の人々の協力などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりしてまとめ、飲料水の供給のための事業の様子を捉え、その果たす役割を考え、表現することを通して、飲料水を供給する事業は、安全で安定的に供給できるように進められていることや、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解できるようにするとともに、学習問題を主体的に追究・解決し、学習したことを基に自分たちに協力できることを考えようとする態度を養う。

(2) 小単元の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①供給の仕組みや経路、都内外の人々の協力などについて、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして必要な情報を集め、読み取り、飲料水の供給のための事業の様子を理解している。 ②調べたことを白地図や図表、文などにまとめ、飲料水を供給する事業は、安全で安定的に供給できるように進められていることや、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解している。	①供給の仕組みや経路、都内外の人々の協力などに着目して、問いを見だし、飲料水の供給のための事業の様子について考え、表現している。 ②飲料水供給のための事業に見られる仕組みや人々の協力関係と地域の人々の健康や生活環境を関連付けて、その事業が果たす役割を考えたり、学習したことを基に、節水のために自分たちが協力できることを考えたり選択・判断したりして、適切に表現している。	①飲料水を供給する事業について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。 ②学習したことを基に、節水などについて、自分たちが協力できることを考えようとしている。

2 指導計画の作成に当たって

(1) 学習指導要領との関連

- ①本小単元は、内容(2)の「人々の健康や生活環境を支える事業について」に関する内容で構成している。その事例として、飲料水、電気、ガスを供給する事業の三つが挙げられているが、本小単元では、飲料水を供給する事業を取り上げている。
- ②内容の取扱い(1)エに示された「節水や節電など自分たちにできることを考えたり選択・判断したりできるよう配慮すること」については、「つなぐ」段階で、水を限りある大切な資源として捉え、自治体や公共施設、企業、家庭等における節水のための努力を調べるとともに、学習したことを生かして、子供たち自身が節水のためにどのような行動ができるかを考えられるように意図している。

(2) 教材や資料の工夫

- ①小単元の導入で、昭和39(1964)年の渇水を取り上げる。それを通して、飲料水を供給する事業と地域住民の健康な生活が強く関わっていることを実感できるようにする。また、現在は当時より人口が増加しているにもかかわらず、このような水不足が起こっていないことに気付かせ、水道事業が現在に至るまでどのように改善されてきたかに着目し、社会的事象の見方・考え方(時期や時間の経過、位置や空間的な働き)を働かせながら、浄水場・ダム建設や役割、他地域との協力、水源林の広がりや保全について調べたり考えたりできるようにする。
- ②現在、安全で安定的に飲料水を供給できるようになっているが、天候の影響で平成1994(平成6)年に渇水が起こったという事実から、水は限りある資源であり、節水を心がける必要があることを「つなぐ」段階で取り上げる。

(3) 学習展開や学習活動の工夫

- ①1964年の渇水後の年表や、東京都を中心とする関東近県の地図などを活用しながら、大量の水をいつでも使えるように、飲料水を供給する事業に携わる人々がどのような取組をしてきたか、一人一人が自分の予想をもち、学習計画を立てることで、主体的な学習が展開できるようにする。なお、オリンピック渇水時の新聞記事は、国土交通省関東地方整備局ホームページなどに画像としても掲載されている。

(URL:https://www.ktr.mlit.go.jp/river/bousai/river_bousai00000062.html)

- ②浄水場や東京都水の科学館等の見学、東京都水道局の事業である水道キャラバンや同局が作成する小学校社会科学習資料「わたしたちの水道」、同局ホームページ内のコンテンツである「キッズ・ページ」(URL:<https://www.waterworks.metro.tokyo.jp/kids/>)の活用など、具体的な調査活動や実際に事業にかかわる方々との対話、子供自らが資料を探したり選んだりして調べる活動を通して、供給の仕組みに着目し、主体的に調べること

ができるようにする。

- ③学んできたことを関連付けて総合し、飲料水が自分たちの健康な生活にとって必要不可欠の大切なものであることを考えられるように、飲料水（水道水）の入ったペットボトルのラベルに入れるキャッチコピーを考える活動を行う。そして、自分の考えたコピーや、考えた理由などをペアや少人数グループ等で交流し、お互いのラベルの共通点や相違点を比較することで、それぞれの考えを深められるようにする。
- ④「つなぐ」段階においては、1994（平成6）年の渇水や日本の年間降水量の変化を取り上げ、水が限りある資源であることへの意識を高める。そして、自治体や企業、家庭等における節水の取組を取り上げ、飲料水を供給する事業で学んだことを生かして、節水をするために自分たちが協力できることを考えたり選択・判断したりすることができるようにする。合わせて、電気、ガスなどのライフラインにも視点を広げて考えを深められるようにする。

(4) 問いの構成の工夫



(5) 評価の工夫

「まとめる」段階の第8時で「思考・判断・表現」の観点から評価する。本小單元のように「どのように」を追究する学習問題に対して、「学習問題について自分の考えをまとめましょう。」という投げかけでは、これまで調べたことを順序よく並べてまとめることになってしまい、「思考・判断・表現」の観点から十分に評価できない場合が多く見られる。

そこで、「たくさんのきれいな水をいつでも使えるようにするために、大切なものやことは何だろう。」と、学習問題について考えるための問いを投げかけ、自分の結論とその理由を書かせる。多様な考えが予想され、子供相互の対話を促すこともできる。そして、記述や発言の内容から、子供が調べた事実を基に、仕組みや関係機関、人々の協力、地域の広がりや時間的な経過、事業と地域の人々の生活などを関連付けながら飲料水を供給する事業の働きを考え、適切に表現しているかを評価する。具体的には、「わたしは、武蔵水路やダムの建設など、他県との協力がとても大切だと思う。それがなければ、都民が使う水道水をどんなときでも確保できないからである。」など、調べたことを根拠として考え、表現することができていれば、「おおむね満足できる状況」と捉えられる。

3 小単元の指導計画 (10時間扱い)

過程	ねらい (○数字は第○時を表す)	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される子供の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点 ◎資料 ☆★評価【観点】)
つ か む	①自分たちの生活では、健康で快適な生活を送るために、大量の飲料水が使用されていることに気付くことができるようにする。	◆みんなが健康で快適な生活を送るために、欠かせないものは何だろう。 ○生活の中で、毎日欠かさず家族全員が使うものについて話し合う。 ・水、電気、ガスなど ○学校生活で、水を使う場面や量について話し合う。 ・感染症から健康を守る手洗い ・水飲み ・給食 ・そうじ ・プール ◆わたしたちは生活の中で、どのくらい水道水を使っているのだろう。 ○表やグラフ等の資料を読み取りながら、水道水と生活とのつながりについて話し合う。 ・トイレ、風呂、食事、洗濯 ・一人当たり約230L ・いろいろな場面でたくさんの水道水を使っている。もし、なくなったら大変なことになる。	◎地域や家庭生活のイラスト等 □飲料水、電気、ガスなど、ライフラインの大切さに気付かせる。 ◎学校生活の写真、学校の水道水使用量 ◎家庭生活で水を使う場面と量 □使う場面の多さと使用量の大きさから生活との関連に関心が高める。 ☆発言や記述から「資料から必要な情報を集め、読み取り、人々の生活と水道水の関連の大きさを理解しているか」を評価する。【知①】
	②昔の渇水の状況を調べ、飲料水の確保の大切さから問題を見だし、学習問題をつくることができるようにする。	◆水道水が足りなくなることはあったのか。足りなくなるとわたしたちの生活はどうなるのだろう。 ○昭和39(1964)年オリンピック渇水時の様子や生活への影響について調べ、話し合う。 ・ダムが干上がっている。 ・3年にわたる渇水。 ・水を配っている。 ・食中毒なども起こる。 ・トイレや風呂も使えない。 ・店も休業。 ・健康な生活ができない。 仕事もできない。 ○話し合いや、現在の比較から学習問題をつくる。 ・今はこのような水不足はない。 ・何か対策や、人々の工夫や努力があるのでは、	□前時の振り返りを活用し、飲料水供給について問題意識を高める。 ◎昭和39(1964)年の渇水の様子が分かる写真・新聞 ○渇水が人々の生活や健康に多大な影響を与えたことに気付かせ、現在の比較から、その仕組みについて問題意識を高める。 ☆発言や記述から「以前の渇水時と日常の生活を比べながら、供給の仕組みや人々の協力などに着目して問いをいただいているか」を評価する。【思①】
だれが、どのようにして、たくさんのきれいな水をいつでも使えるようにしているのだろう。			
	③安全に安定的なことという視点から学習問題について予想し、学習計画を立てることができるようにする。	○水道が届くまでの大まかな流れについて調べ、分かったことや水道事業の年表を基に、どのようにして水不足が起きないようにしてきたかグループで話し合い、予想する。 ○予想を基に学習計画を立てる。(予想) → (調べる問い) ・雨の水をたくさん集められるようにしたのではないのか。 →水源林はどのような役割を果たしているのだろう。 ・ダムをたくさんつくって水をためたのではないのか。 ・他の川からも水道を引いたのではないのか。 →ダムや水路はどのような働きをしているのだろう。 ・水をきれいにする施設があるのではないのか。 →浄水場はどのようなことをしているのだろう。 ・水道局の人の工夫や努力があるのではないのか。 →水道局の人はどのような仕事をしているのだろう。	◎水道水の経路が大まかに分かるイラスト、地図帳、水道事業の年表等 □資料や既習内容などを基に、根拠を明確にして予想を立てられるようにする。 □予想を確かめるために何を調べたらよいか、資料等も活用しながら問いの形式で具体的に、学習計画表にまとめる。調べる順序は、内容や子供の考え、関心等を基に決める。 ★発言や記述、学習計画表から「学習問題の解決に向けた予想を基に学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。【態①】
し ら べ る	④水道水が供給される経路について資料を活用して調べ、水源林の役割を理解できるようにする。	◆わたしたちが使っている水道水は、どこから送られてくるのだろう。 ○資料を活用して水道水が家庭まで届く経路について調べる。 ・水源林→川→ダム→川→浄水場→給水所→家庭 ○資料から水源林の役割について話し合う。 ・水を蓄える「自然のダム」の役割をしている。 ・水源林が水をきれいにしていて。 ・水源林を守らないと、水不足になったり、水が汚れたり、洪水が起こりやすくなったりしてしまう。	◎水道水の届くまで、水源林の役割、水源林を守る人の話 □調べたことを白地図に書き込んでいき、空間的な広がりの中から飲料水を供給する事業を捉えられるようにする。 ☆発言や記述から「必要な情報を集め、水道水が届く経路や水源林の働きについて理解しているか」を評価する。【知①】

し ら べ る	<p>⑤利根川流域のダム の建設や武蔵水路 について調べ、都 内外の協力につ いて考え表現で できるようにする。</p>	<p>◆ダムや水路ほどのような働きをしているの だろう。 ○ダム建設や武蔵水路について資料や地図 を活用して調べ、それらの果たした役割 について考え、話し合う。 ・ダム、水路の位置（近県との協力） ・それに伴う給水量の変化（大きく増大） ・建設の様子（人々の苦労）</p>	<p>◎都の人口変化、武蔵水路の写真・地図、 東京都内外のダムの地図 ◎東京都の水道施設の建設の年表と給 水量の変化のグラフ ☆記述や発言から「調べた事実を基に、 東京都と近県の協力関係に着目して、 ダムや水路と水源の確保について考 えているか」を評価する。【思①】</p>
ま と め る	<p>⑧水道事業が地域 の人々の生活に果 たしてきた役割を 考え、理解でき るようにする。</p>	<p>◆たくさんのきれいな水をいつでも使える ようにするために、大切なものや、大切 なことは何だろう。 ○調べたことを基に、飲料水を安全で安 定して供給するために大切なことを考 え、話し合う。 ・水源林の保護が大切。全ての始まり であり、ここで蓄えられないと、一 気に流れてしまう。 ・ダムや水路など、近県との協力が 大切。これがなければ、雨が降ら ない時、大変なことになる。 ・浄水場が大切。ここで安全でおい しい水になる。 ・従事する人々の努力。 ・これらの仕組みや協力、努力があ るからわたしたちは健康な生活を送 ることができる。どれも大事。 ○学習してきたことを総合して、水 道水の入っているペットボトルのラ ベル（キャッチコピーとその解説） をつくる。 ・「健康や生活を支える水」、「安 心でいつでも使える」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>東京都では、他県と協力したり、計 画的に設備を整えたりしながら、安 定して安心できる水を使えるよう にしている。それにより、地域の 人々やわたしたちは、健康な生活 を送ることができる。</p> </div>	<p>□調べたことを基に、根拠を明確に して各自で考えをまとめ、グルー プ、全体で話し合い考えを深めら れるようにする。 □話し合いの終盤で「この中の一つ でも欠けたらどうなるか。」と問 いかけ、飲料水を供給する事業の 働きについて考えられるように する。 ★記述や発言から「学習したことを 基に、安全で安定して飲料水を供 給する仕組みや都内外の人々の協 力関係と人々の健康な生活と関 連付け、飲料水を供給する事業の 果たす役割を考え、表現している か」を評価する。【思②】 □学習したことを基に、「東京水」 ペットボトルに巻くラベルの言 葉を考えられるようにする。 ★ラベルの記述から「飲料水を供 給する事業は、安全で安定に供給 できるように進められていること や、地域の人々の健康な生活の 維持と向上に役立っていることを 理解しているか」を評価する。 【知②】</p>
つ な ぐ	<p>⑨水の使用について 自分の暮らしを振 り返り、水を大切 にするためにでき ることを考え表現 できるようにする。</p>	<p>○1994（平成6）年の渇水の様子につ いて話し合う。 ・今でも渇水は起こっている。 ・プールが使えなかった。取水制限 で生活に影響。 ・気候も大きく変動。節水が大切 ではないか。 ◆水を大切に使うために、自分たち にできることは何だろう。 ○自治体や企業、家庭等での節水の 取組を調べる。 ・施設による雨水の利用 ・節水 器具の開発、使用 ・家庭での取組 ・節水を呼びか ける PR ○自分たちにできることを話し 合う。 ・水道を使用する場面でのこまめ な蛇口開閉。 ・使った水の再利用。（とぎ汁を植 物にあげる。） ・他学年や家庭、保護者への PR ○自分の考えをノートにまとめる。</p>	<p>◎1994（平成6）年の渇水の様子（写 真、新聞記事等）、日本の年間降 水量の変化、東京都の渇水状況 （平成年間）、節水のための取 組をしている施設や商品、ポス ター ★記述や発言内容から「学習した ことを基に、節水などのために 自分たちに協力できることを考 えたり選択・判断したりして表 現しているか」を評価する。 【思②】 ★記述内容から「単元の学習を 振り返り、節水のために自分 たちが協力できることを考え ようとしているか」を評価する。 【態②】</p>
	<p>⑩電気やガスを供給 する事業について 調べ、節電等のた めに自分たちが できることを考 えようとする態 度を養う。</p>	<p>◆生活を支える電気やガスはどの ように送られてくるの だろう。 ○電気やガスが供給される経路 について調べ、水道事業と比 較してその共通点や相違点につ いて考える。 ○節電等のために自分たちに できることを話し合う。</p>	<p>※電気、ガスの供給経路 ★記述や発言の内容から「学習 したことを基に、節電などに ついて、自分たちが協力でき ることを考えようとしている か」を評価する。【態②】</p>

第2時の資料（つかむ）

◆水が足りなくなることあるのだろうか。足りなくなったらどうなるのだろうか。

時間的な経過に着目する。

資料 渇水の様子



(出典：水道局
「バケツで水をもらう子ども」)

資料 現在の水を飲む様子



(出典：水道局
「じゃ口から水を飲む子供たち」)

【指導上の留意点】

昭和39年の渇水の写真から水不足が起こったこと、それによって困ることを考えさせる。そのうえで、現在の簡単に飲み水が飲める写真を読み取り、時間的な経過と状況の変化から学習問題を作るようにする。

【学習問題】

水道局の人は、どのようにしてたくさんのきれいな水を使えるようにしているのだろうか。

第3時の資料（調べる）

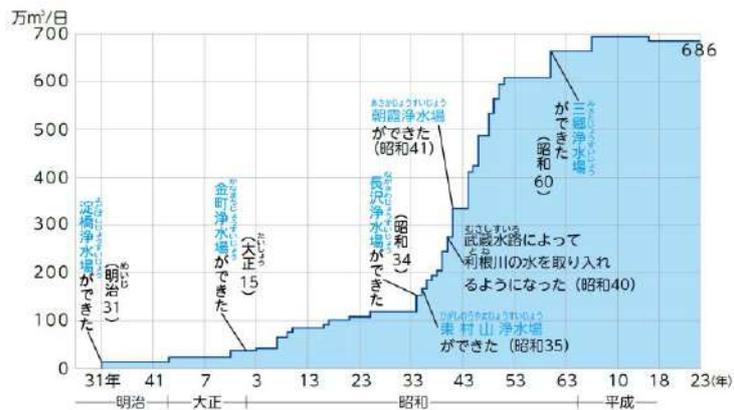
(出典：東京都水道局「わたしたちの水道」)
◆どのようにして使える水を増やしたのだろうか。

武蔵水路やダムなどの資料とダムの建設時期の年表を関連付けて都内外の協力について考える

資料 利根大げき



資料 ダムのマップ資料



資料 水道水をつくることのできる量の移り変わり

【指導上の留意点】

東京都内外のダムの位置や建設時期と武蔵水路による東京都内への水の供給を関連付けて調べ、人々の協力と自分たちの健康な生活について考えられるようにする。

第8時の資料（まとめる）

◆わたしたちの使っている水道水にどのようなキャッチコピーをつけたらよいのだろう。

作品例

たくさんの水 つくっているよ 浄水場
 水源林 緑のダムと いわれているよ
 浄水場 初めてできてから 120年
 水道水 安心安全 ありがとう
 協力して 作られてきた水 水道水

【指導上の留意点】

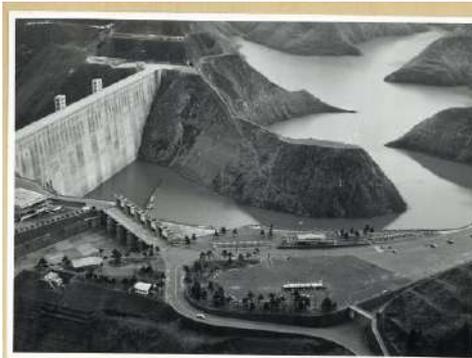
学習問題に対する自分の考えを「キャッチコピー」として短くまとめることで水道水が自分たちの生活に果たしていた役割を考えられるようにする。

ここまで学習してきたことを関連付け、総合して飲料水を供給する事業が果たす役割が分かるようにする。

第9時の資料（まとめる）

◆水を大切に使うためにできることは何だろう。

（出典：東京都水道局）



【指導上の留意点】

トイレを使わない、お風呂に入らないなどといった学習しなくても出るような意見にならないように、水不足の時の生活と関連付けたり、水がなかったらどのような生活になるのだろうといった発問をしたりするなど、切実感をもたせてから、考えさせたい。

渇水のダムと当時の新聞記事などを関連付けて自分事にとらえられるようにする。

第10時の資料（いかす）

◆生活に欠かせない電気やガスはどのように送られてくるのだろう。



【指導上の留意点】

水だけの指導に終始するのではなく、ガスや電気など生活に必要な不可欠なものも水と同じように最大限の配慮をしながら供給されていることを、安全、安定をキーワードにして抑えるようにする。

ガスも電気も水と同じところがたくさんあった。

私たちがいつでも使えるようにしてくれているんだね。

小単元名	くらしをささえる電気	配当 10時間	内容 (2) アの(ア)及び(ウ)とイの(ア)
------	------------	---------	-------------------------

<主として「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」の区分>

1 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 小単元の目標

電気を供給する事業について、供給の仕組みや経路、都内外の人々の協力などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりしてまとめ、電気の供給のための事業の様子を捉え、その果たす役割を考え、表現することを通して、電気を供給する事業は、安全で安定的に供給できるように進められていることや、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解できるようにするとともに、学習問題を主体的に追究・解決し、学習したことを基に自分たちに協力できることを考えようとする態度を養う。

(2) 小単元の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①電気の供給の仕組みや経路、都内外の人々の協力などについて、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして必要な情報を集め、読み取り、電気の供給のための事業の様子を理解している。</p> <p>②調べたことを白地図や図表、文などにまとめ、電気を供給する事業は、安全で安定的に供給できるように進められていることや、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解している。</p>	<p>①電気の供給の仕組みや経路、都内外の人々の協力などに着目して、問いを見だし、電気の供給のための事業の様子について考え、表現している。</p> <p>②電気の供給のための事業に見られる仕組みや人々の協力関係と地域の人々の健康や生活環境を関連付けて、その事業が果たす役割を考えたり、学習したことを基に、節電のために自分たちが協力できることを考えたり選択・判断したりして、適切に表現している。</p>	<p>①電気を供給する事業について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。</p> <p>②学習したことを基に、節電などについて、自分たちが協力できることを考えようとしている。</p>

2 指導計画の作成に当たって

(1) 学習指導要領との関連

- ①本小単元は、内容(2)の「人々の健康や生活環境を支える事業について」に関する内容で構成している。その事例として、飲料水、電気、ガスを供給する事業の三つが挙げられているが、本小単元では、電気を供給する事業を取り上げている。
- ②内容の取扱い(1)エに示された「節水や節電など自分たちにできることを考えたり選択・判断したりできるよう配慮すること」については、「つなぐ」段階で、電気を大切な資源と考え、発電に伴う環境への負荷や影響にも触れ、企業や自治体における節電の取組や、太陽光発電など再生可能エネルギーの活用等を取り上げて、自分の生活を見つめ直すことを通して、有効利用の大切さに気付き、自分たちにできることを考えられるようにする。

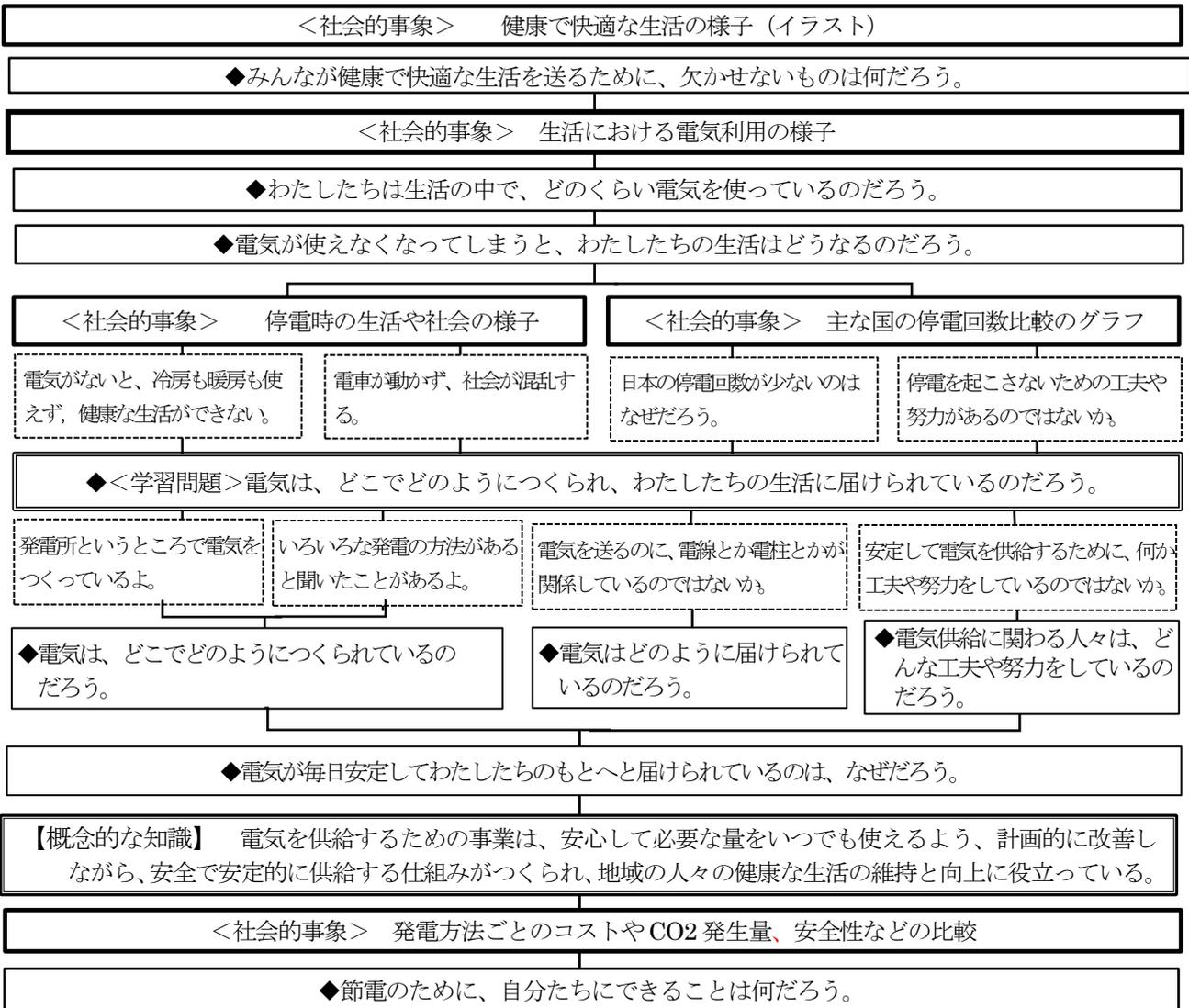
(2) 教材や資料の工夫

- ①「つかむ」段階で、日常生活での電気とのかかわりが分かるイラスト資料や停電時の様子、1年間の停電回数の国際比較のグラフを提示し、健康な生活と電気との関わりについて気付かせるとともに、諸外国と比べ日本の停電回数が少ない事実から、「電気の安定供給のために誰がどのような工夫や努力をしているのか。」という問いをもてるようにする。
- ②「つなぐ」段階では、発電方法ごとのCO₂発生量やコスト、安全性の比較資料などを提示することにより、発電するにあたって生活環境への負荷や影響があることに気付くとともに、これからの持続可能な社会に向けた発電方法の組み合わせについて考えたり、自分の生活を振り返って、節電のために自分にできることを考えたりすることができるようになる。

(3) 学習展開や学習活動の工夫

- ①子供の生活経験や生活の様子イラストなどを活用して、電気と自分の生活との関わりについて気付かせ、電気をいつでも安定的に使えるように、電気を供給する事業に携わる人々がどのような取組や努力をしているか子供一人一人が予想し、学習計画を立てることで、主体的な学習が展開できるようにする。
- ②発電所や変電所の見学、東京電力HPなどを活用し、電気の安定的な供給のために、「電気はどのようにしてつくられているのか。」「つくられた電気はどのように送られているのか。」「電気事業に携わっている人々の仕事」について調べるとともに、電気事業に携わっている人々が、どのような工夫や努力をして、どのような思いで働いているのかについて考えられるようにする。
- ③学習のまとめでは、学んできたことを関連付けて総合し、発電所から家庭まで、電気がどのように届けられているのかについて、経路図にまとめる。その際、それぞれの場所にはどのような仕組みや役割があり、また、そこで働く人々がどのような工夫や努力をして、どのような思いで仕事をしているのかについても表現できるようにする。

(4) 問いの構成の工夫



(5) 評価の工夫

「つかむ」段階では、「主な国の一年間の停電回数」の国際比較の資料から、日常生活で必要不可欠な電気が、国際的にみても安定的に供給されている事実をつかむ。その際、「なぜこんなにも安定的に電気を供給できるのか。」「何か工夫や努力があるのではないか。」など、子供の疑問や学習問題に対する予想を基に、「思考・判断・表現」の観点から評価を行う。また、学習計画を立てる場面においては、「主体的に学習に取り組む態度」の観点から評価する。子供が本時・前時の学びや生活経験など、根拠を明確にして学習問題に対する予想を立て、文章等にまとめ、その予想を確かめるために何を調べるかを明確にすることができれば「おおむね満足できる」状況と捉えられる。その際、一人一人が予想を立てることができるよう、子供の学びの状況を的確に把握し、既習事項や考える視点を想起させる助言をしたり、新たな資料を提示したりするなどの支援を行っていく。

「しらべる」段階では、「電気はどのようにつくられているのか。」「電気はどのように届けられているのか。」「電気供給事業に関わる人々はどんな工夫や努力をしているのか。」などの問いについて調べる中で、見学や調査活動時のメモやノートの記述、発言内容などを基に「知識・技能」の観点から評価する。また、電気がどのように届けられているのかを調べる際には、他県との連携や、関係機関との協力関係について考える活動で、「思考・判断・表現」の観点から評価する。

「まとめる」段階では、これまで学んできたことを基に、電気が安定的に供給されている理由について考える「問い」を提示して考え、話し合ったり、学習問題についてまとめたりする活動を設定する。そして、問いに対する考えを話し合う活動には「思考・判断・表現」の観点から、学習問題については「知識・技能」の観点から、記述や発言の内容を基に評価をする。

「つなぐ」段階では、電気事業を環境や安全の視点から見つめ直し、これまで学習したことを基に節電のために自分たちができることについて考える活動において、「思考・判断・表現」の観点から評価する。「電気は環境や安全に影響を与えながらつくられている。少しでもそれを小さくするために、こまめにスイッチを切ることを家族といっしょに行っていきたい。」など、理由を明確にして考えていけば、「おおむね満足できる」状況と捉えることができる。

3 小単元の指導計画 (10時間扱い)

過程	ねらい (○数字は第○時を表す)	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される子供の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点◎資料☆★評価【観点】)
つ か む	①自分たちは生活の中で、たくさんの電気を使用して生活していることに気付くことができるようにする。	◆みんなが健康で快適な生活を送るために、欠かせないものは何だろう。 ○生活の中で、毎日欠かさず家族全員が使うものについて話し合う。・水、電気、ガスなど ○家や学校生活で、電気を使う場面や使用量について話し合う。 ◆わたしたちは生活の中で、どのようなことにどのくらい電気を使っているのだろう。 ○資料を読み取りながら、電気と生活とのつながりについて話し合う。 ・エアコンはたくさん電気を使うと聞いたよ。 ・テレビやパソコンも電気を使う。 ・夜、照明器具をつけるときに使う。 ・もし電気がなくなったら、生活できない。	◎地域や家庭生活のイラスト等 □飲料水、電気、ガスなど、ライフラインの大切さに気付かせる。 ◎電力消費量のグラフ、家電製品の写真 □電気を使う場面の多さと使用量の大きさから、生活との関連について関心を高める。 ☆発言や記述から「資料から必要な情報を集め、読み取り、人々の生活と電気の関連の大きさを理解しているか」を評価する。【知①】
	②停電時の様子や一年間の停電回数の資料から問題を見だし、学習問題をつくることができるようにする。	◆もし停電などが起こり、電気が使えなくなってしまうと、わたしたちの生活はどうなるのだろう。 ○わたしたちの生活が、停電でどのように変化するか話し合う。 ・普段の生活が何もできなくなる。 ・健康な生活ができない。 ○停電回数の世界比較のグラフから、日本の電気供給の安定性を調べ、学習問題をつくる。 ・日本は世界に比べて、停電が少ない。ほとんどない。 ・なぜ日本は、停電が少ないのだろう。 ・安定して電気を届けるために何か工夫をしているのではないか。	◎停電の様子(写真)、東日本大震災時の計画停電(体験談) □前時の振り返りや写真資料、計画停電の体験談、子供の停電時の経験を基に考えさせる。 ◎停電回数の世界比較のグラフ ☆発言や記述から「停電時の様子と日常の様子を比較しながら、供給の仕組みや人々の協力などに着目して問いを見いだしているか」を評価する。【思①】
	電気は、どこでどのようにつくられ、わたしたちの生活に届けられているのだろう。	③学習問題について予想し、学習計画を立てることができるようにする。	◆電気はどのように届けられているのだろう。 ○発電所から家庭まで、電気がどのように供給されるのか、予想する。 ・発電所で電気がつくられている。電線を通ってくるのか。 ・中央給電指令所や変電所というところを通っている。 ○予想を基に学習計画を立てる。 ・発電所では、どのように電気をつくっているのだろう。 ・つくられた電気は、どのように家庭に届けられているのだろう。 ・電気供給に携わる人たちは、どのような工夫や努力をしているのだろう。
し ら べ る	④⑤発電所の仕組みや、働いている人々の工夫や努力について調べ、理解できるようにする。	◆発電所では、どのように電気をつくっているのだろう。 ○東京都に電気が送られる発電所の場所を調べ、白地図にまとめる。 ○発電所の仕組みや働きを調べる。 ・火力発電所・石炭、天然ガス、石油を燃やして発電機を回す。 ・原子力発電所・原子力を使って発電機を回す。 ・水力発電所・水の水力で発電機を回す。 ○発電所で働く人の話から、発電所の人々が大切にしていることを考える。 ・クリーンなエネルギーのLNG(液化天然ガス)を使っている。 ・二酸化炭素の発生を少なくする工夫をしている。 ・発電所の敷地には、約40万本の樹木が植えられている。 →環境のことを考えて、工夫して発電をしている。	◎発電所の場所 □空間的な広がりの中で発電の様子を捉え、他県との協力を気付くことができるようにする。 ◎発電所の仕組みが分かる資料 ◎発電所で働く人の話 □見学が望ましいが、難しい場合は、電力会社のHPなどのインターネットの資料を活用する。 □発電方法によって、原料が違うことにも触れるようにする。 ☆見学時のメモやノート等の記述から「必要な情報を集め、読み取り、発電所の働きや働いている人の工夫や努力について理解しているか」を評価する。【知①】

調 べ る	⑥電気がどのように家庭に届けられているかについて調べ、都内外の協力について考え表現できるようにする。	◆電気はどのように届けられているのだろう。 ○発電所から家庭までの経路を調べる。 ・発電所→変電所→家庭や工場、電車など ・電線を通して届けられている。 ・他の都道府県の発電所からも電気が届いている。 ・中央給電指令所や変電所は何をするところなのだろう。 ○中央給電指令所や変電所の仕組みや働きを調べる。 ・電気の需要や供給のバランスを取っている ・わたしたちが安全に電気を使えるように電圧を下げている。	◎東京電力パワーグリッドHP ◎中央給電指令所、変電所の仕組みや働きが分かる資料 ☆記述や発言から「調べた事実を基に、東京都と近隣の協力関係に着目して、給電指令所や変電所の役割や、電気の確保について考えているか」を評価する。【思①】
	⑦中央給電指令所や変電所で働く人、配電作業をしている人の工夫や努力について調べ、理解できるようにする。	◆電気供給に携わる人々は、安定して電気を供給するために、どんな工夫や努力をしているのだろう。 ○中央給電指令所や変電所で働いている人たちの工夫や努力を調べる。 ・発電所でつくられた電気は、中央給電指令所や変電所を通して、コンセントまで届いている。 ・中央給電指令所では、発電量を調整している。 ・電気は、消費量が供給量を上回ると停電してしまう。 ○配電作業をする人の仕事を調べ、電気供給事業に携わる人の思いについて考える。 ・24時間体制で働いている。 ・電線が切れたときは、夜中でも修理にかけつけている。 ・定期的に配電線のいたみがないか、検査をしている。 ・停電が起きないように、一生懸命気を付けている。	◎各施設で働いている人の話 □働いている人々の仕事の意味や果たしている役割について、生活と関連付けて考えられるようにする。 □働いている人の思いにも着目させ、共感的に理解できるようにする。 ☆発言やノート等の記述から「必要な情報を集め、読み取り、中央給電所や変電所などの施設で働く人々の工夫や努力について理解しているか」を評価する。【知①】
ま と め る	⑧電気事業が地域の人々の生活に果たしている役割を考え、表現し、人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解できるようにする。	◆電気が毎日安定してわたしたちのもとへと届けられているのは、なぜだろう。 ○これまで調べてきたことを基に、電気が安定して供給されている理由について考える。 ・発電所で24時間体制で発電し続けているから、いつでも電気を使えるようになっていた。 ・停電が起きないように、電線の点検をしたり、24時間体制で修理をしたりして努力をしていた。 ・電気が足りなくなることがないように、他の都道府県の発電所と連携したり、中央給電指令所で電気の量をコントロールしたりしていた。 ○学習問題に対して分かったことや考えたことをまとめる。 電気を供給する仕事をしている人たちは、事故が起きないように協力して発電をしたり、停電が起きないように配電線の検査をしたりして、わたしたちがいつでも安全に電気を使うことができるようにしている。毎日安心して電気を使えることは、わたしたちの健康で快適な生活に役立っている。	□電気が安定して供給されている理由について、これまでの学習から根拠を考えられるようにする。 ★ノートの記述や発言から「学習したことを基に、安全で安定的に電気を供給する仕組みがあることや、都内外の人々の協力関係と人々の健康な生活とを関連付け、電気を供給する事業の果たす役割を考え、表現しているか」を評価する。【思②】 □安全で安定した供給、関係機関の相互連携などを基に、電気を供給する事業の働きをまとめられるようにする。 ★記述から「電気を供給する事業は、安全で安定的に供給できるように進められていることや、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解しているか」を評価する。【知②】
	⑨電気の使い方について自分の暮らしを振り返り、電気を大切にするためにできることを考え表現できるようにする。	○これまでの発電方法やこれから注目されている発電方法などについて調べ、長所や短所に着目しながら比べる。 ・火力、原子力、水力、地熱、太陽光、風力、バイオマス発電 ・環境への影響 ・安全性 ・外国との関わり ◆節電のために、自分たちができることは何だろう。 ○自治体や企業、家庭等での節電の取組を調べる。 ・クールビズ、ウォームビズ ・節電器具の開発、使用 ・家庭での取組 ・太陽光の活用 ○自分たちができることを話し合い、考えをまとめる。 ・こまめにスイッチを切る。 ・エアコンなどの温度調節 ・他学年や家庭、保護者へのPR	◎発電方法ごとのCO2発生量やコスト、安全性等が比較できる資料 ★記述や発言内容から「学習したことを基に、節電のために自分たちに協力できることを考えたり選択・判断したりして表現しているか」を評価する。【思②】 ★記述内容から「小単元の学習を振り返り、節電のために自分たちに協力できることを考えようとしているか」を評価する。【態②】
つ な ぐ	⑩飲料水やガスを供給する事業について調べ、節水等のためにできることを考えようとする態度を養う。	◆生活を支える飲料水やガスは、どのように送られてくるのだろう。 ○飲料水やガスが供給される経路について調べ、電気供給事業と比較してその共通点や相違点について考える。 ○節水、省エネのために自分たちにできることを話し合う。	※飲料水、ガスの供給経路 ★記述や発言の内容から「学習したことを基に、節水などについて、自分たちに協力できることを考えようとしているか」を評価する。【態②】

小単元名	くらしをささえるガス	配当 10時間	内容 (2) アの(ア)及び(イ)とイの(イ)
------	------------	---------	-------------------------

<主として「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」の区分>

1 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 小単元の目標

ガスを供給する事業について、供給の仕組みや経路、都内外の人々の協力などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりしてまとめ、ガスの供給のための事業の様子を捉え、その果たす役割を考え、表現することを通して、安全で安定的に供給できるように進められていることや、地域の人々の快適な生活の維持と向上に役立っていることを理解できるようにするとともに、学習問題を主体的に追究・解決し、学習したことを基に自分たちに協力できることを考えようとする態度を養う。

(2) 小単元の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①ガスの供給の仕組みや経路、都内外の人々の協力などについて見学・調査したり地図などの資料で調べたりして必要な情報を集め、読み取り、ガスの供給のための事業の様子を理解している。 ②調べたことを白地図や図表、文などにまとめ、ガスを供給する事業は、安全で安定的に供給できるように進められていることや、地域の人々の快適な生活の維持と向上に役立っていることを理解している。	①ガスの供給の仕組みや経路、都内外の人々の協力などに着目して、問いを見だし、ガスの供給のための事業の様子について考え、表現している。 ②ガスの供給のための事業に見られる仕組みや人々の協力関係と地域の人々の快適な生活環境を関連付けて、ガスの供給のための事業が果たす役割を考えたり、学習したことを基に、省エネなどに向けて自分たちが協力できることを考えたり選択・判断したりして表現している。	①ガスを供給する事業について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。 ②学習したことを基に、省エネなどに向けて、自分たちが協力できることを考えようとしている。

2 指導計画の作成に当たって

(1) 学習指導要領との関連

- ①本小単元は、内容(2)の「人々の健康や生活環境を支える事業について」に関する内容で構成している。本指導計画では、ガスを供給する事業を中心に取り上げている。飲料水は、直接体内に取り込むため健康への影響が大きく、衛生面の改善など生活環境に関する影響が捉えやすい。しかし、健康な生活の観点から見ると、ガスは入浴、冷暖房等などに関連しているものの、その働きが捉えづらい。そこで、ガスがあることによって「快適な生活」が送れることを取り上げ、「健康」も含めて「人々の健康で快適な生活」として取り上げていくこととした。
- ②内容の取扱い(1)エに示された「節水や節電など自分たちができることを考えたり選択・判断したりできるよう配慮すること。」については、「つなぐ」段階で幅広く考えられるように意図している。

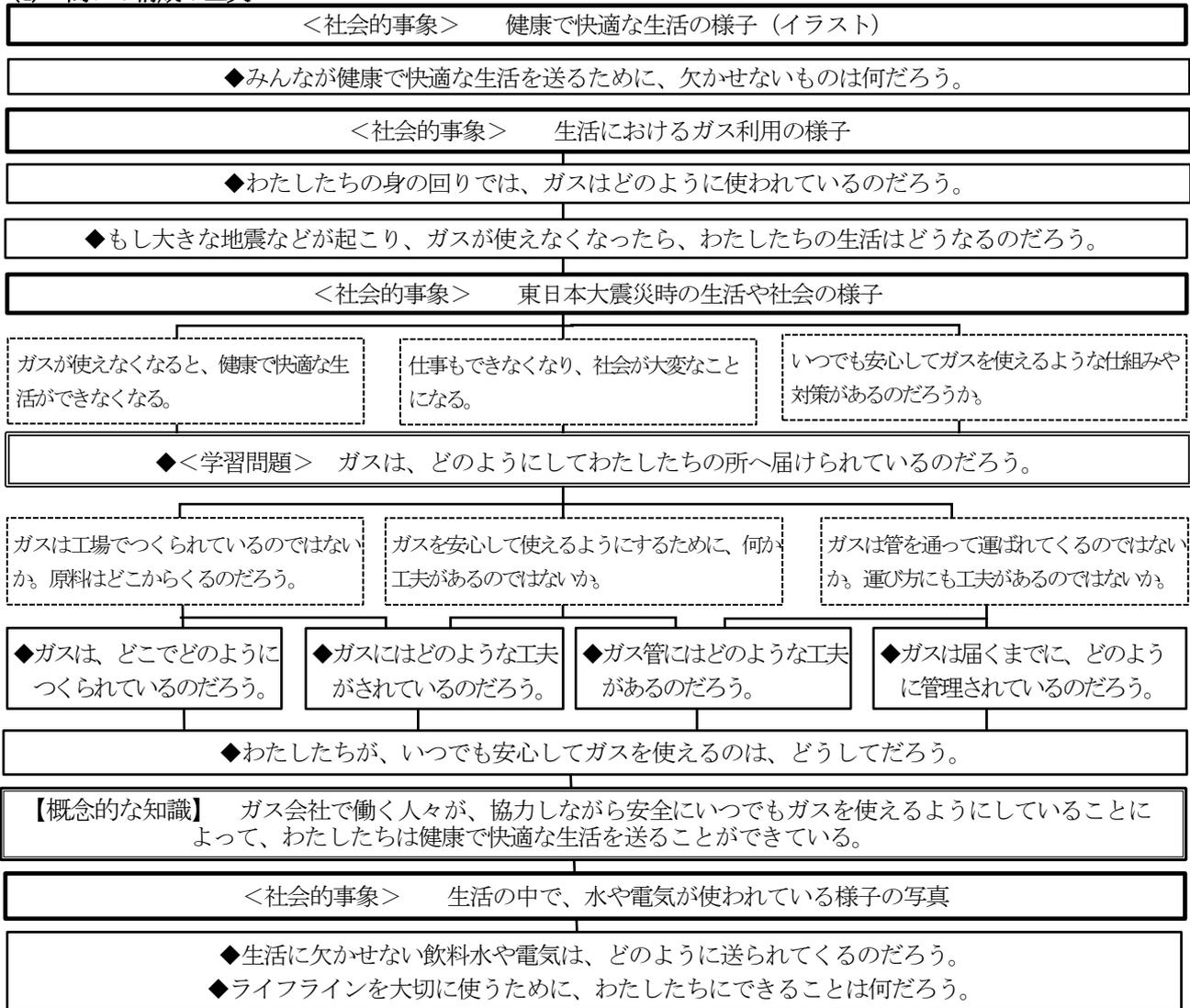
(2) 教材や資料の工夫

- ①日本ガス協会と日本教育新聞社が共同開発した「小学校社会科授業支援パッケージ」の動画資料を活用することで、子供の興味・関心を引き出す。「小学校社会科授業支援パッケージ」には、動画資料やワークシート、黒板掲示用カード等、様々な資料が用意されている。(日本教育新聞×日本ガス協会 単元「住みよいくらし」授業支援パッケージ <https://www.kyoiku-gas.com/top/index.html>)
- ②小単元の導入のオリエンテーションでは、家の中や学校の中の生活の様子をイメージできるようなイラストを提示し、普段の生活で毎日必ず使う飲料水・電気・ガスを取り上げる。これらのエネルギーやライフラインが、生活に必要不可欠であること、健康な生活に欠かせないものであることについて、自分の生活と関連付けながら考えられるようにする。
- ③現在、安全で安定的に供給できるようになっているが、ガスは限りある資源であり、ほとんどが国内で生産されていないため、限りあるエネルギーを大切に使うことにも着目させる。

(3) 学習展開や学習活動の工夫

- ①ガスの供給を「つくる」「運ぶ」「使う」ことについて予想を立てて学習し、主体的な学習が展開できるようにする。
- ②「がすてなーに」の見学や、ガス会社の出張授業の活用、理科室や家庭科室などの校内のガス設置個所を実際に見る活動等を通して、体験的な活動や具体的な調査活動を取り入れながら、ガス供給の様子について主体的に追究できるようにする。
- ③難解な用語は分かりやすく解説し、子供が理解できるようにする。
- ④「つなぐ」段階では、ガスを供給する事業で学んだことを生かして、ライフラインとしての飲料水や電気の供給についても取り上げる。

(4) 問いの構成の工夫



(5) 評価の工夫

「つかむ」段階では、まず、普段の生活の中で必要不可欠な、飲料水、ガス、電気について見つめ直す活動を行う。また、それらが使えなくなった時の状況を想像し、それらがわたしたちの健康な生活にとってなくてはならないものであることをつかむとともに、東日本大震災時にガスが使えず非常に大変だった様子と、現在ガスが安定的に供給されている様子を比較しながら、ガス供給事業の働きや、事業に携わっている人々の工夫や努力について、問いをもたせる。その際、子供のノートの記述や発言を丁寧に評価し、個に応じた指導の充実を図りながら、学習問題を自分の問いとして捉えられるようにするとともに、学習計画を立てる活動への指導に生かしていく。

「しらべる」段階では、ガス関連施設の見学や授業支援パッケージの動画、地域のガス管図などの各種資料を活用して調べていく。ガス供給事業の様子や供給事業に携わる人々の工夫や努力について考えたことなどを、毎時間、その時間の学習のまとめとして記述させることにより、「知識・技能」「思考・判断・表現」の観点から評価する。理解等が不十分と判断される場合には、ノートへのコメントや次時の振り返りの時間等で必要な指導を行い、確実な定着を図る。

「まとめる」段階では、ガス関連施設の役割やそこに携わる人々の工夫や協力関係等が分かるよう、ガス経路マップを作成し、交流し合う。その記述や発言内容から「思考・判断・表現」の観点について評価をする。調べた事実を関連付けたり自分たちの生活と関連付けたりして、ガスを供給する事業の働きについて考えることができれば、「おおむね満足できる」状況と捉えられる。そして、学習問題に対して分かったことや考えたことをまとめる活動において、その記述や発言の内容から、ガスを供給する事業の様子や働きについて理解できているか、「知識・技能」の観点について評価をする。

「つなぐ」段階では、他のライフライン（飲料水、電気）にも視野を広げ、ライフラインをこれからも使い続けていくためには何が大切かを考えさせたり、節水や省エネに向けて自分ができることを選択・判断させたりして、その記述や発言の内容から、「思考・判断・表現」や「主体的に学習に取り組む態度」について評価を行う。

3 小単元の指導計画 (10時間扱い)

過程	ねらい (○数字は第○時を表す)	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される子供の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点 ◎資料 ☆★評価【観点】)
つ か む	①生活の中でたくさんの飲料水、電気、ガスを使っており、それらが健康で快適な生活を送るために不可欠なものであることを理解できるようにする。	○生活の中で、毎日欠かさず家族全員が使うものについて話し合う。 ・風呂がないと清潔にできない。 ・台所のコンロは料理をつくるために必要。 ・暖房がないと、冬は寒くて過ごせない。 ・トイレがないと困る。 ◆みんなが健康で快適な生活を送るために、欠かせないものは何だろう。 ○それらの道具や設備を使うために何が必要か話し合う。 ・電気、ガス、水道などがなくて生活できない。 ・家の中のいろいろなところで使われている。	◎家の中の様子のイラストなど □生活に欠かせないライフラインに着目できるように発問を工夫する。 ◎家庭にあるガス器具や電化製品などの写真 ☆記述や発言から「生活経験や資料を基に、飲料水、電気、ガスは快適な生活を送るために不可欠なものであることを理解しているか」を評価する。【知①】
	②ガスの確保の大切さから問題を見だし、学習問題をつくることができるようにする。	◆わたしたちの身の回りでは、ガスはどのように使われているのだろうか。 ○家や学校では、ガスが様々な場面で毎日使われていることを調べる。 ・料理や風呂、冷暖房に使われている。 ・様々なところで、ガスは使われている。 ◆ガスが使えなくなったら、わたしたちの生活はどうなるのだろうか。 ○ガスが使えなくなったときに生活がどのようになるかを考える。 ・お風呂に入れないうち料理がつかれなくなる。 ・寒い日なども暖房が使えなくなってしまう。	◎授業支援パッケージ動画「都市ガスが使われているところ」 ◎学校のガス使用量 ◎東日本大震災時の生活の様子 ☆発言や記述から「日常と震災時の様子を比べながら、供給の仕組みや経路などに着目して、問いを見いだしているか」を評価する。 【思①】
	ガスは、どのようにしてわたしたちの所へ届けられているのだろうか。		
	③学習問題について予想し、学習計画を立てることができるようにする。	◆ガスはどのように届けられるのだろうか。 ○LNG ガスタンカーから家庭まで、どのようにガスが供給されているのか、予想する。 ・タンカーから、ガスホルダーに行くのではないか。 ・ガスメーターを家で見たことがある。 ○予想を基に学習計画を立てる。 ・ガスはどのようにつくられているのか。 ・どのように届けているのか。	◎授業支援パッケージ「都市ガスが家に届くまで」動画(0～1分) □ガスタンカーから家庭までの経路について予想できるようにする。 ★発言や記述、学習計画表から「学習問題の解決に向けた予想を基に学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。 【態①】
	④家庭に送られるガスが、どこで、どのようにつくられているのか調べ、理解できるようにする。	◆ガスはどこで、どのようにつくられているのだろうか。 ○液化天然ガス(LNG ガス)として、液体で届けられたガスが、どのように家庭で使えるガスになるようにつくられているのか調べる。 ・水のような形から、空気のような形になる。 ・たくさんのガスが使えるようになっていく。 ・LNG タンクは、地震にも耐えられるように頑丈なつくりになっている。	◎LNG ガスタンク、気化器の写真 ◎授業支援パッケージ「都市ガスが家に届くまで」 □ガスはほとんどを外国から輸入していることを捉えられるようにする。 ☆発言や記述から「必要な情報を集め、読み取り、ガスがつけられる様子について理解しているか」を評価する。【知①】
し ら べ る	⑤つくられたガスの工夫について調べ、理解できるようにする。	◆気体になったガスには、どのような工夫がされているのだろうか。 ○ガスのおいがするシートを使って、実際のガスのおいを体験する。 ・わざわざガスにおいが付けられている。 ○ガスの特徴を調べ、においを付ける必要性について考える。 ・目に見えないガスに気付くことができるようにするため。	◎ガスの特徴が分かる表(気体、においが無い、燃えるなど) ◎ガスにおいを付ける「付臭」の仕組みが分かる資料 ☆発言や記述から「必要な情報を集め、読み取り、つくられたガスの工夫について理解しているか」を評価する。【知①】
	⑥ガス管の工夫について調べ、理解できるようにする。	◆ガス管にはどのような工夫があるのだろうか。 ○資料からガス管の広がりについて調べる。 ・いつもは見えないけれど、道路の下にどこにでも届けられるように広がっている。 ○動画からガスの圧力の調整について調べる。 ・ガスは、送る強さを変えながら届いている。 ・ガスホルダーで、ガスが溜られている。	◎地域のガス管地図、地中のガス管図 ◎授業支援パッケージ動画「都市ガスが家に届くまで」(1分30秒～)、「ポリエチレン管」動画 □家庭に近付くにつれて、ガス管が細くなったり、災害の対策をして

し ら べ る	<p>⑦工場から家庭までガスが送られる様子について調べ、理解できるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ガス管の太さが家に近付くと変わっている。 ○ガス管がポリエチレン管になっている理由について調べる。 ・ガスがゆっくり届くように工夫されている。 ・ガス管は鉄みたいに固いものではない。 <p>◆ガスは届くまでに、どのように管理されているのだろう。</p> <p>○コントロールセンターの仕組みや、各家庭でのガスメーターの管理について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・24時間、コントロールセンターで見守っている。 ・ガス漏れが起きたときのために、緊急車で修理にきてくれる。 ○災害が起きたときの対策について調べる。 ・地震が起きたら、ガスメーターが止まってガスが出ないようになっている。 ・ガスが止まっても、すぐに使えるように工夫されている。 	<p>いたりすることを押さえる。</p> <p>☆記述や発言内容から「供給の仕組みや経路に着目して、ガスの供給事業の様子について理解しているか」を評価する。【知①】</p> <p>○コントロールセンターの写真</p> <p>○ガス会社で働く様子の動画</p> <p>□ガス会社のゲストティーチャーや動画の活用をする。</p> <p>○日本ガス協会授業支援パッケージ「大地震が起きたら・・・」動画</p> <p>○授業支援パッケージ「マイコンメーターの復帰方法」動画1分7秒</p> <p>☆発言や記述から「資料から必要な情報を集め、読み取り、工場から家庭までガスが安全に送られる工夫について理解しているか」を評価する。【知①】</p>
ま と め る	<p>⑧ガス事業が地域の人々の生活に果たしてきた役割を考え、理解できるようにする。</p>	<p>◆わたしたちが、いつでも安心してガスが使えるのは、どうしてだろう。</p> <p>○ガスが家庭に届くまでを、これまで調べたことを基に経路マップにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・液体から気体になっていることで、いつでも使えるようにしている。【安定】 ・においを付けることで、安全に使えるようにしている。【安全】 ・腐ったり折れたりしないように、柔らかい材料でガス管がつけられている。【安全】 ・毎日24時間管理されていて、いつでも使えるようにしている。【安定・安全】 ・地震などがあっても、ガスがマイコンメーターで自動的に止まる。【安全】 <p>○学習問題に対して分かったこと考えたことをまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>ガス会社で働く人々が、協力しながら安全にいつでもガスを使えるようにしていることによって、わたしたちは健康で快適な生活を送ることができている。</p> </div>	<p>○本時までの学習資料等</p> <p>□経路マップに、安全・安心、安定供給のキーワードにつながる、働く人の工夫や各施設の役割、協力関係等について記述するようにする。</p> <p>★経路マップの記述や発言から「ガス供給の仕組みや人々の協力関係と地域の人々の快適な生活環境を関連付けて、ガスの供給のための事業が果たす役割を考えているか」を評価する。【思②】</p> <p>★ノートの記述や発言から「ガスを供給する事業は、安全で安定的に供給できるように進められていることや、地域の人々の快適な生活の維持と向上に役立っていることを理解しているか」を評価する。【知②】</p>
つ な ぐ	<p>⑨⑩くらしをささえる事業について調べ、ガスとの共通点を考えるとともに、ライフラインを大切に使うために自分たちにできることを考えようとする態度を養う。</p>	<p>◆生活に欠かせない飲料水や電気は、どのように送られてくるのだろう。</p> <p>○ガスで学んだことを基に、ガス以外のライフラインの事業について調べ、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・24時間、いつでも使えるように管理されている。 ・ガス管と同じように、水道管や電線も繋がっていて、まちの中を通っている。 <p>◆ライフラインを大切に使うために、わたしたちにできることは何だろう。</p> <p>○撮影した家庭の様子写真を基に、節水や節電の仕方について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お風呂の温度を調節して、夏と冬で温度を変えたらよいのではないか。 ・水を流したままにしないようにしたい。 ・部屋を移動するときや、使わないときには、電気を消すように気を付ける。 	<p>○生活の中で、水や電気が使われている様子の写真</p> <p>□ガスでの既習事項を生かして、安全・安定的にわたしたちの元へ届けられていることに気付かせる。</p> <p>○電気や飲料水の供給事業についての資料</p> <p>○撮影した各家庭のライフラインに関係する写真</p> <p>□休日などに家庭内のライフラインに関わる器具の写真を撮影させ、興味・関心を高める。</p> <p>★ワークシートの記述や発言内容から「学習したことを基に、節水や節電のために自分たちが協力できることを考えたり選択・判断したりして表現しているか」を評価する。【思②】</p> <p>★記述や発言内容から「小単元の学習を振り返り、省エネなどに向けて自分たちができることを考えようとしているか」を評価する。【態②】</p>

小単元名	ごみのしよりと再利用	配当 10時間	内容 (2) アの(イ)及び(ウ)とイの(イ)
------	------------	---------	-------------------------

<主として「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」の区分>

1 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 小単元の目標

廃棄物を処理する事業について、処理の仕組みや再利用、都内外の人々の協力などに着目して、見学・調査したり地図などの資料を活用して調べたりしてまとめ、廃棄物を処理する仕組みや人々の協力関係と地域の良い生活環境を関連付けて、廃棄物処理の事業の様子を捉え、その果たす役割を考え、表現することを通して、廃棄物を処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていることや、地域の人々の生活環境の維持と向上を支えていることを理解できるようにするとともに、学習問題を主体的に追究・解決し、学習したことを基に、廃棄物の減量のために自分たちに協力できることを考えようとする態度を養う。

(2) 小単元の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①廃棄物処理の仕組みや再利用の様子、都内外の人々の協力などについて、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、廃棄物の処理のための事業の様子を理解している。 ②調べたことを関係図や文などにまとめ、廃棄物処理に関する事業は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていることや、生活環境の維持と向上を支えていることを理解している。	①廃棄物処理の仕組みや再利用の様子、都内外の人々の協力などに着目して、問いを見だし、廃棄物の処理のための事業の様子について考え、表現している。 ②廃棄物処理の仕組みや人々の協力関係と地域的生活環境の維持と向上を関連付けて、その事業が果たす役割を考えたり、学習したことを基に、廃棄物の減量化のために、自分たちが協力できることを考えたり選択・判断したりして、表現している。	①廃棄物を処理する事業について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。 ②学習したことを基に、地域の人々の健康や生活環境を守るため、地域社会の一員として、ごみの減量や水質を守ることに自分たちができようとしている。

2 指導計画の作成に当たって

(1) 学習指導要領との関連

- ①本小単元は、内容(2)の「人々の健康や生活環境を支える事業」に関する内容で構成している。その事例として本小単元では、ごみの処理と再利用を中心に上げている。
- ②内容の取扱い(1)オに示された「社会生活を営む上で大切な法やきまり」「自分たちにできることを考えたり選択・判断したりできるよう配慮する」については、「つなぐ」段階で、それまでに学習したことを基に、子供たち自身が法やきまりの意義について考えたり、ごみの分別や減量化について協力できることを話し合ったりするように意図している。

(2) 教材や資料の工夫

- ①小単元の導入で、過去に起きた様々なごみ問題の資料を提示する。それを通して、ごみの問題は自分たちにとって身近であり、毎日大量に出されるごみが処分されないと大変なことになるという問題意識をもたせ、社会的事象の見方・考え方(時期や時間の経過)を働かせながら、ごみ処理やその再利用に関わる事業における、改善の取組や問題解決のための人々の工夫や努力について調べたり考えたりできるようにする。

(写真資料：過去に東京で起きたごみ問題 [東京二十三区清掃一部事務組合 東京23区のごみ処理])

<https://www.union.tokyo23-seisou.lg.jp/shiro/nakattara/03.html>

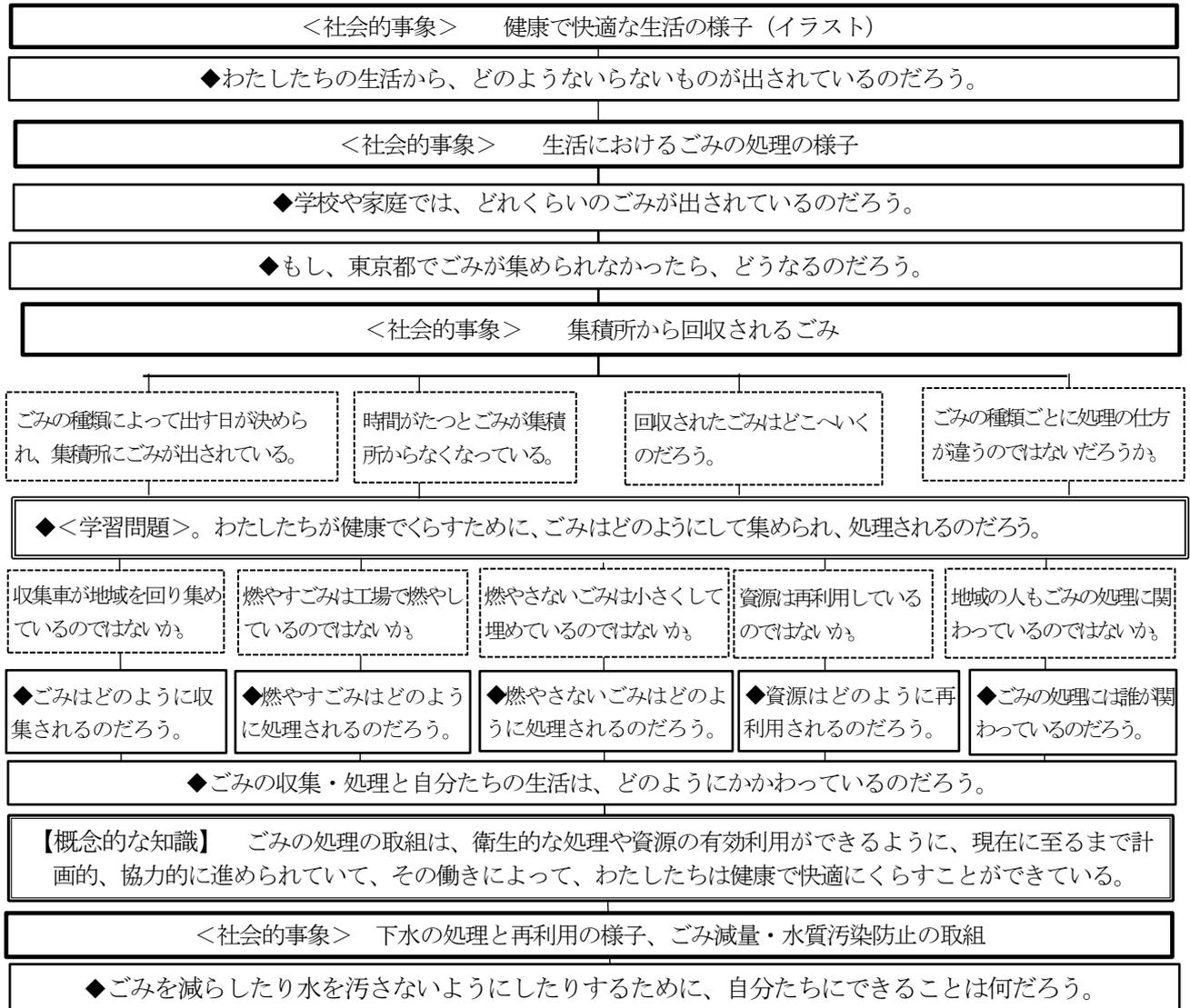
- ②「つなぐ」段階では下水の処理について取り上げる。下水の処理の仕組みを捉え、これまで学習してきたごみの処理との共通点を考えることで、どちらも衛生的な処理や資源の有効活用ができるよう進められていることを理解する。また、埋め立て処分場で処分できるごみの量には、限界があることを想起させることで、ごみの減量について考えるきっかけとなるようにする。そこから、ごみの減量や水質汚染防止の必要性を実感し、家庭や学校でこれまで取り組んでいることを振り返りながら、すすんで自分たちにできることを考えられるようにする。

(3) 学習展開や学習活動の工夫

- ①本小単元では、ごみを収集する人、清掃工場の人、埋め立て処分場の人、地域の人など、ごみの処理やその再利用に関わる様々な人々に聞き取りをする活動を設定する。その中で、資料の読み取りだけでは分からない人々の工夫や努力、思いや願いに触れるよう指導を工夫することで、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る。
- ②「しらべる」段階において、人々の協力関係を1時間ごとに関係図などにまとめていき、様々な事業所等で働く人の関係やごみ処理の流れ、自分たちの生活とのつながりなどについて整理したり、考えたりできるようにする。そして、「まとめる」段階では、それらを基に学習問題に対する考えを、表現できるようにする。

③「つかむ」段階と「つなぐ」段階において、ごみ処理だけではなく下水処理も扱うことで、ごみの処理や下水処理など、生活から出る廃棄物の処理をする事業が、人々の生活環境の維持と向上に大きな役割を果たしていることに気付かせる。また、「つなぐ」段階では、ごみの減量や水質汚染防止のために自分たちにできることを考え、話し合う活動を通して、それぞれの考えを深められるようにする。

(4) 問いの構成の工夫



(5) 評価の工夫

評価においては、評価したことを指導に生かしていくことが重要である。「しらべる」段階において、毎時間、ごみの処理の仕方について「ごみのゆくえマップ」にまとめる活動を行う。燃やすごみや燃やさないごみなどが、人々のどのような工夫によってどのように処理されているのかまとめていく。子供のノートや見学カードなどの記述と合わせて「ごみのゆくえマップ」を見取っていくことで、子供の理解の様子を捉えるとともに、理解が不十分な子供に対しては、それぞれのつまづきに応じた助言を行い、理解を深めていけるようにする。

「まとめる」段階においては、学習問題について、調べた事実を比較・総合・関連したり、人々の生活と関連付けたりして特色や意味、働きを考えることが重要である。本小単元においては、学習問題に対する自分の考えを書く際に事実の羅列に留まらないよう、「ごみの収集・処理と自分たちの生活は、どのようにかかわっているのだろう。」という問いを投げかける。そうすることで、ごみ処理の事業が果たす役割について調べ、自分たちの生活と関連付けながら考えられるようにする。その際、根拠や理由を明確にさせることが大切である。具体的には「ごみの収集・処理は、わたしたちが健康に生活する上で欠かせない大切な仕事である。これらの仕事が無ければ、家やまちにごみがあふれ、臭い匂いがしてたくさん害虫も発生する。また、どんどん資源が無駄になってしまうからである。」と、調べた事実を根拠に考えがまとめられていけば、「おおむね満足できる状況」と捉えられる。さらに「わたしたちもごみの処理と再利用に取り組む一人だと思ふ。なぜなら、分別をしっかりとしないと、その後、効果的に処理やリサイクルができないからである。」と、自分の生活と関連付けて考えていけば、「十分に満足できる状況」と捉えることができる。

3 小単元の指導計画 (10時間扱い)

過程	ねらい (○数字は第○時を表す)	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される子供の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点 ◎資料 ☆★評価【観点】)
つ か む	①自分たちの生活では、大量のごみが出ていることに気付くことができるようにする。	◆わたしたちの生活から、どのようないらぬものが出されているのだろう。 ○自分たちの生活から出される廃棄物について話し合う。 ・毎日、いろいろな種類のごみを出している。 ・トイレや風呂で使った水はどこへいくのだろう。 ◆学校や家庭では、どれくらいのごみが出されているのだろう。 ○学校や家庭で出されるごみの量や種類を調べ、量や種類、出し方について話し合う。 ・家でも学校でも多くの種類のごみが出されている。 ・出されたごみはどこへいくのだろう。	◎健康で快適な生活(イラスト) □家庭のプライバシーに配慮しながら、事前にごみ調べを行う。 ◎ごみ調べをした結果 ◎東京都で1日に出されるごみの量 ◎用務主事の話 ☆発言や記述から「資料から必要な情報を読み取り、人々の生活からごみや下水など大量の俳句物が出されていることを理解しているか」を評価する。【知①】
	②東京都の過去のごみ問題を捉え、ごみが処理されないときどのような問題が起きるか考え表現できるようにする。	◆もし、東京都でごみが集められなかったら、どうなるのだろう。 ○かつて起こった様々なごみの問題について調べ、ごみが収集されないとどのような問題が起きるか話し合う。 ・においや虫の問題が発生し、健康に暮らせない。 ・イベントの後にごみが残されていると、その地域に住んでいる人が安心して暮らせない。	◎過去のごみ問題(ごみ戦争)の写真や映像 ◎新聞社の縮刷版 ◎地域の集積所の看板 ☆発言や記述から「ごみの処理の事業と人々の健康や生活環境を関連付けて考え、表現しているか」を評価する。【思①】
	③ごみのゆくえを考えるを通して学習問題をつくり、学習計画を立てることができるようにする。	◆学校や家庭から出されたごみは、どこへいくのだろう。 ○ごみの収集・処理の様子について予想し、学習問題をつくる。 ・ごみの収集車が運ぶところを見たことがある。 ・ごみの種類ごとに行き先が違うのではないかと。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">わたしたちが健康でくらすために、ごみはどのようにして集められ、処理されるのだろう。</div> ○学習問題に対する予想を基に学習計画を立てる。 ・燃やすごみは工場で燃やしているのではないかと。 ・ペットボトルなどの資源は、どこかで再利用しているのではないかと。	◎地域の集積所の看板 ◎ごみ収集前後の集積所の写真 □写真資料を読み取る際、何に着目し何を比較するか助言する。 ☆発言や記述から「既習や予想を基に、ごみの処理の仕組みについて問いを見だし、表現しているか」を評価する。【思①】 ★発言や記述から「ごみの処理の事業について、予想や学習計画を立て、追究の見通しをもっていか」を評価する。【態①】
し ら べ る	④ごみの収集ルートや収集車について調べ、その様子を理解できるようにする。	◆ごみを収集する人たちは、たくさんのごみを残さず集めるために、どのような工夫や努力をしているのだろう。 ○ごみ収集ルートがどのように決められたのか調べたり、ごみ収集車を見学したりして、働く人たちの工夫や努力について調べる。 ・ごみ収集車は収集ルート事前に考えている。 ・ごみを収集する人たちは、安全に早く確実に収集できるよう工夫している。	◎ごみ収集ルート地図、集積所の看板、ごみ収集車の実物 □第4～8時にかけては毎時間、調べたことを「ごみのゆくえマップ」にまとめていく。 ☆発言や記述から「必要な情報を集め、読み取り、ごみの収集の様子を理解しているか」を評価する。【知①】
	⑤燃やすごみのゆくえについて調べ、その処理の様子を理解できるようにする。	◆燃やすごみはどのように処理されるのだろう。 ○燃やすごみのゆくえについて、映像やパンフレット、清掃工場の見学を通して調べ、「ごみのゆくえマップ」にまとめる。 ・燃やすごみは清掃工場に運ばれ燃やされている。 ・燃やすことで臭いや害虫の発生を防いでいる。	◎ごみ処理の映像資料、各市区町村のごみ処理のパンフレット ☆発言や記述から「必要な情報を集め、読み取り、燃やすごみの処理の仕方を理解しているか」を評価する。【知①】

	<p>⑥燃やさないごみや粗大ごみのゆくえについて調べ、その処理の様子や都内外の人々の協力を理解できるようにする。</p>	<p>◆燃やさないごみはどのように処理されるのだろう。 ○燃やさないごみや粗大ごみのゆくえについて、映像やパンフレット、施設の見学を通して調べ、「ごみのゆくえマップ」にまとめる。 ・燃やさないごみは資源を取り除いて埋め立てる。 ・粗大ごみは細かく砕いたり、中から資源を回収したりしている。</p>	<p>◎ごみ処理の映像資料、各市区町村のごみ処理のパンフレット ☆発言や記述から「必要な情報を集め、読み取り、燃やさないごみや粗大ごみの処理の様子、都内外の人々の協力を理解しているか」を評価する。【知①】</p>
	<p>⑦資源のゆくえについて調べ、その再利用の様子や都内外の人々の協力を理解できるようにする。</p>	<p>◆資源はどのように再利用されるのだろう。 ○資源のゆくえについて、資料の読み取りや施設見学を通して調べ、「ごみのゆくえマップ」にまとめる。 ・資源はガラスやペットボトル等、種類ごとに処理される。 ・リサイクル施設で再利用されるものもある。</p>	<p>◎自治体のごみ処理のパンフレット ☆発言や記述から「必要な情報を集め、読み取り、資源の処理や再利用の様子、都内外の人々の協力を理解しているか」を評価する。【知①】</p>
	<p>⑧地域の人々のごみの減量に対する取組を調べ、その働きを理解できるようにする。</p>	<p>◆収集員や清掃工場で働く人たち以外で、どのような人々がごみの処理に関わっているのだろう。 ○店舗や会社、家庭でのごみの減量の取組について、資料の読み取りやインタビューを通して調べる。 ・スーパーマーケットにはリサイクルステーションがある。 ・フリーマーケットでは、使わなくなったものを必要な人に渡すことでごみを減らしている。</p>	<p>◎地域の人たちの話 ◎店舗での資源回収の写真 □事前に家庭や地域で取組を見付けるように働きかける。 ☆発言や記述から「必要な情報を集め、読み取り、ごみの減量に取り組む地域の人々の働きについて理解しているか」を評価する。【知①】</p>
ま と め る	<p>⑨ごみの処理の事業が人々の生活に果たす役割を考え、理解できるようにする。</p>	<p>◆ごみの収集・処理と自分たちの生活は、どのようにかかわっているのだろう。 ○調べたことを基に、ごみの収集・処理と自分たちの生活との関わりについて考え、話し合う。 ・ごみの処理は様々な人々が協力して行っており、わたしたちの健康で安全な生活を守っている。 ・ごみは可能な限り再利用されている。また、東京都だけでなく、他の県の人々の協力によって行われている。 ○これまでの学習を基に、学習問題に対して分かったことや考えたことをまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・ごみの処理の取組は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるように、現在に至るまで計画的、協力的に進められていて、その働きによって、わたしたちは健康で快適に過ごすことができている。</p> </div>	<p>◎自分たちで作成した「ごみのゆくえマップ」、ごみの量と人口の変化のグラフ ☆発言や記述から「ごみの処理の仕組みや人々の協力関係と地域の生活環境の維持・向上に関連付け、その事業が果たす役割を考え、表現しているか」を評価する。【思②】 ★記述や発言から「ごみの処理に関する事業は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるように進められていることや、生活環境の維持と向上を支えていることを理解しているか」を評価する。【知②】</p>
つ な ぐ	<p>⑩下水の処理の事業をごみの処理の事業と関連付けて捉え、ごみの減量や水質汚染防止のために、自分たちにできることを考えようとする態度を養う。</p>	<p>◆下水の処理とわたしたちの生活は、どのようにかかわっているのだろう。 ○下水処理の様子について、資料やゲストティーチャーの話を通して調べ、下水の処理の大切さについて考える。 ◆ごみを減らしたり水を汚さないようにしたりするために、自分たちにできることは何だろう。 ○ごみの減量や水質汚染防止のために、自分たちにできることを考え、話し合う。 ・清掃工場の方が話していたように、分別をしっかりと、ごみを減らし資源を増やしていく。 ・下水管を守る人や環境を考え、油やごみを下水に流さないようにする。また、家の人にも伝えたい。</p>	<p>◎下水処理の流れ □ごみと下水処理が、ともに衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていることに気付かせる。 ◎埋め立て処分場の限界の資料 □根拠を明確にして考えさせる。 ★発言や記述から「学習したことを基に、ごみの削減や水を汚さないために、自分たちができることを考えたり選択・判断したりしているか」を評価する。【思②】 ★発言や記述から「学習したことを振り返り、地域社会の一員として、廃棄物の減量や資源の再利用に協力しようとしているか」を評価する。【態②】</p>

第2時の資料（つかむ）

◆もし東京でゴミや下水が処理されなかったらどうなるだろう。



資料 ゴミであふれた都内の公園
(出典：東京都環境局 HP)

廃棄物処理の様子について、時間の経過に着目する。

ゴミが処理されないと、わたしたちは健康に生活することができなくなってしまふんだね。今はこんなことはないよ。

くさそうだな。下水が処理されないと、川がよごれて、みんなが困ってしまうよ。

資料 生活排水で汚れた川
(出典：東京都環境局 HP)



【指導上の留意点】

ゴミや下水の処理が、人々の生活環境の維持と向上に役立っていることを理解できるようにする。また、現在の様子と比較し、廃棄物の処理事業の様子や仕組みへの関心を高める。

第3時の資料（つかむ）

◆学校や家から出されたゴミは、どこへいくのだろう。

<午前7時頃>

資料 地域のごみ集積所の写真

<午後2時頃>



ゴミが袋にも入れられて集積所にきちんと置かれているよ。



ゴミが収集されたね。集められたゴミは、誰がどのようにして処理するのだろう。

時間の経過に着目して、同じ場所の様子を比較する。

【指導上の留意点】

前時でのゴミ調べから生まれた「私たちは毎日大量のゴミを出している」という事実や驚きを踏まえ、集積所の資料を提示することで、ゴミ処理の仕組みやそれに携わる人々の働きに子供の問題意識を焦点化し、学習問題を立てられるようにする。また、ゴミの分別やゴミ出し等の生活経験も振り返らせながら、見通しをもつことができるようにする。

【学習問題】

わたしたちが健康でくらすために、ゴミはどのようにして集められ、しよりされるのだろう。

第4時の資料（しらべる）

◆ごみを収集する人々は、たくさんのごみを残さず集めるためにどのような工夫や努力をしているのだろう。



ごみ収集の経路や空間的な広がりに着目

【指導上の留意点】

「矢印はバックで入っていく」「点線は人が住んでいないのでとばす」という情報から、収集ルートがどのように決められるのかを予想させたり、友達と相談しながら考えさせたりして、児童がより効率的に収集するための工夫や努力について理解できるようにする。

資料 一筆書きのように書かれた収集ルート地図

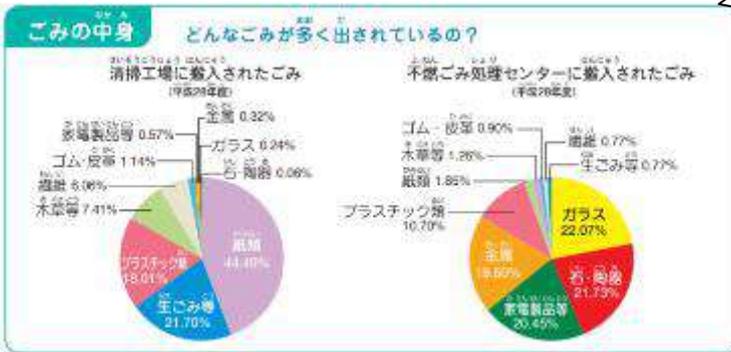
(出典：知っトク地図帳 NHK for school)

第9時の資料（まとめる）

◆ごみの収集・処理と自分たちの生活とどのように関わっているのだろう。

資料 ごみの現状調査

出典：(ごみれぼ 231kids 東京二十三区一部清掃事務組合)



燃やすごみに金属やガラスがまじっていたり、不燃ごみに紙や生ごみがまじっていたりするよ。ごみのきまりが守られていないね。

【指導上の留意点】

学習指導要領の内容の取扱いにあるように、ごみの出し方や生活排水の処理、資源の再利用に関する法や決まりを取り上げることで、自分たちが協力できることを考えたり選択・判断したりして、人々の生活環境の保全に関心を高めることができるようにする。

第10時の資料（いかす）

◆下水の処理はどのように行われ、私たちの生活とどのように関わっているのだろう。

資料 下水道管から

川や海までの流れ (出典：東京都下水道局 HP)

【指導上の留意点】

資料の読み取りから自分たちの暮らしと下水、自然環境が一つの管でつながっていることを実感させ、下水処理もごみ処理と同様に、自分たちの生活環境の維持と向上を支えていることを子供が理解できるようにする。

わたしたちが使った下水は、ごみと同じように人々の努力によってきれいに処理されているんだね。

下水道管から川や海までの流れ



小単元名	下水の処理と再利用	配当 10時間	内容 (2) アの(イ)及び(ウ)とイの(イ)
------	-----------	---------	-------------------------

<主として「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」の区分>

1 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 小単元の目標

廃棄物を処理する事業について、処理の仕組みや再利用、都内外の人々の協力などに着目して、見学・調査したり、地図などの資料を活用して調べたりしてまとめ、廃棄物の処理のための事業の様子を捉え、その事業が果たす役割を考え、表現することを通して、廃棄物を処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていることや、地域の人々の生活環境の維持と向上を支えていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、学習したことを基に、廃棄物の減量のために自分たちが協力できることを考えようとする態度を養う。

(2) 小単元の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①廃棄物の処理の仕組みや再利用の様子、都内外の人々の協力などについて、見学・調査したり、地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、廃棄物の処理のための事業の様子を理解している。 ②調べたことを、下水の流れ図にまとめ、廃棄物処理に関する事業は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるように進められていることや、生活環境の維持と向上を支えていることについて理解している。	①廃棄物処理の仕組みや再利用の様子、都内外の人々の協力などに着目して、問いを見だし、廃棄物の処理のための事業の様子について考え、表現している。 ②廃棄物処理の仕組みや人々の協力関係と地域の良い生活環境を関連付けて、その事業が果たす役割を考えたり、学習したことを基に、廃棄物の減量のために、自分たちが協力できることを考えたり選択・判断したりして、表現している。	①廃棄物を処理する事業について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。 ②学習したことを基に、地域の人々の健康や生活環境を守るため、地域社会の一員として、廃棄物の減量や水質を守ることに自分たちができていることを考えようとしている。

2 指導計画の作成に当たって

(1) 学習指導要領との関連

- ①本小単元は内容(2)の「人々の健康や生活環境を支える事業」に関する内容で構成した小単元である。事例としては、下水の処理と再利用を中心に取り上げている。「つかむ」場面で、生活の中で水を使う場面を振り返らせることで、毎日自分たちが水を大量に消費し、汚れた水を下水に流していることに気付かせるようにする。
- ②内容の取扱い(1)オに示された「社会生活を営む上で大切な法やきまり」「自分たちにできることを考えたり選択・判断したりできるよう配慮する」については、「つなぐ」段階で、それまでに学習したことを基に、子供たち自身が法やきまりの意義について考えたり、生活で使う水の汚れの軽減や使用量の減量化について協力できることを話し合ったりするように意図している。

(2) 教材や資料の工夫

- ①まず、小単元の導入で、生活の中で大量の水を下水として流していることを提示する。次に、下水処理の仕組みが整っておらず、直接汚水を川や海に流していた頃の河川の汚染や病気の発生等について、写真等の資料を提示する。それらの学習を通して、下水の処理は生活の中で不可欠のものであり、下水が適切に処理されないと、わたしたちの健康的で快適な生活がおびやかされるという問題意識をもたせる。そして、社会的事象の見方・考え方(時期や時間の経過、比較して考える)を働かせながら、下水の処理やその再利用に関わる事業における処理の仕組みや再利用、都内外の人々の協力などに着目して、下水の衛生的な処理や資源の有効利用、人々の工夫や努力について問いを見だし、調べたり考えたりできるようにする。具体的な資料については、東京都環境局ホームページ内の、写真集 記録「東京の公害」に掲載されている画像などが活用できる。なお、ここには水質汚染だけでなく、その他の公害についても画像が掲載されており、他の小単元でも活用することができる。

(<https://www.kankyo.metro.tokyo.lg.jp/data/photo/scenery/index.html>)

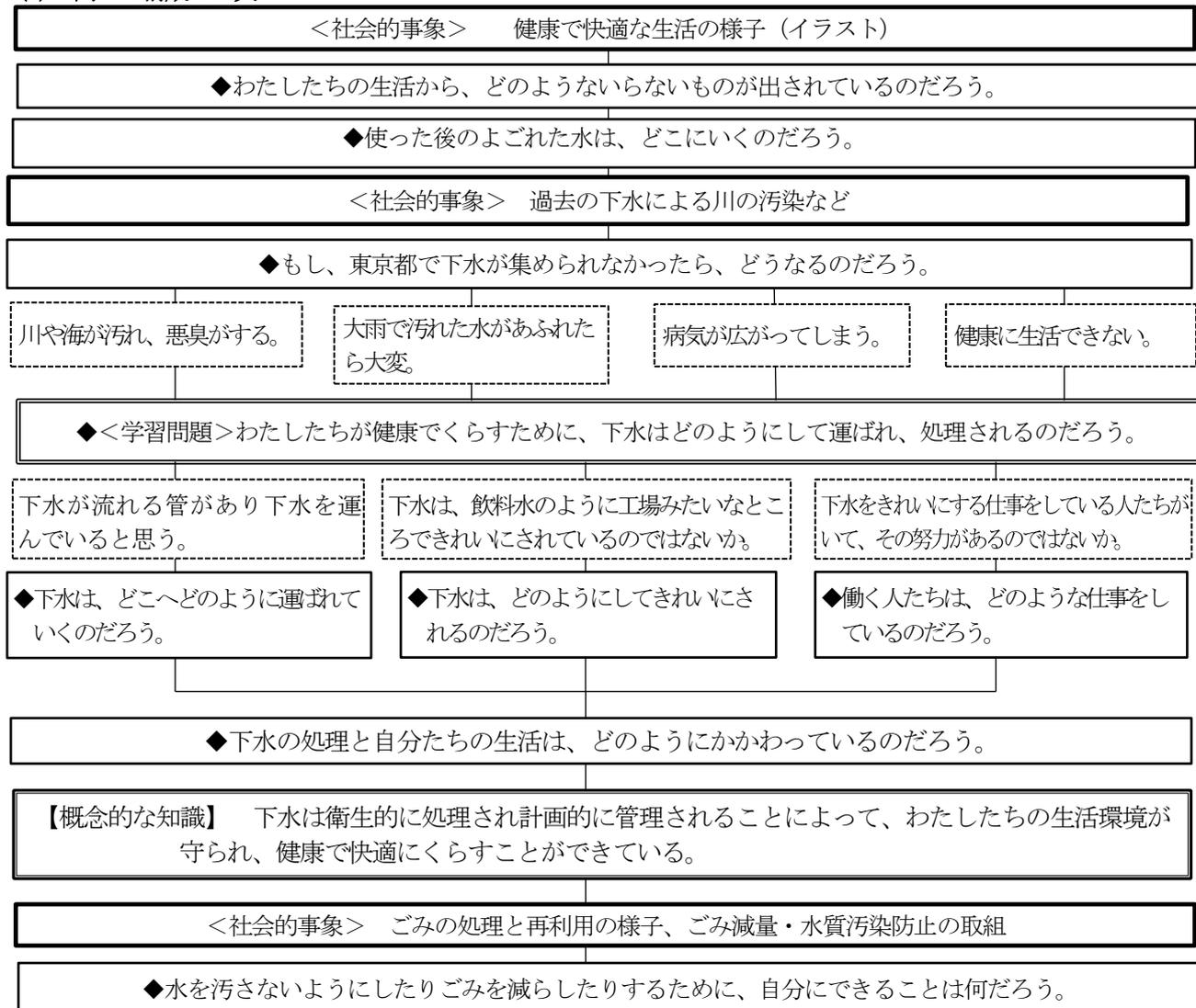
(3) 学習展開や学習活動の工夫

- ①「しらべる」段階において、下水道の配管や水再生センターの仕組み、働く人たちの協力関係などについて分かったことや考えたことを、1時間ごとに「汚れた水のゆくえ」図などに書き加えながらまとめていき、自分たちの使った水が計画的に処理されていることを捉えられるようにする。そして、「まとめる」段階ではそれを基に、学習問題に対する自分の考えを表現できるようにする。
- ②ごみの処理とは異なり、使った後の水を普段の生活の中で目にすることはない。「しらべる」段階で下水処理の仕組みや働く人たちの取組について、東京都下水道局の「でまえ授業」やWEBサイトの「下水道アドベンチャー」

を活用することで理解を深められるようにする。また、東京都下水道局が作成している、小学校社会科・総合的な学習の時間 学習資料「みんなの下水道 しゅみとはたらき」は、子供にとっても分かりやすく、内容も充実している。小単元の学習を通して活用していきたい。

- ③「つなぐ」段階において、これまで学習してきた下水処理の仕組みや再利用について学んだことを生かして、ごみの処理と再利用について調べ、廃棄物を処理する事業の働きについて、理解をより深められるようにする。そして、学習したことを基に、水の汚れを防ぐこととごみの減量の双方について、自分たちにできることを考える活動を設定し、実社会の課題の解決に主体的に取り組んでいこうとする意欲を高める。

(4) 問いの構成の工夫



(5) 評価の工夫

「まとめる」段階の第8時においては、「思考・判断・表現」と「知識・技能」の2観点から評価をする。

まず、調べたことを基に、下水を処理する事業と自分たちの健康な生活のつながりを考える活動において、「思考・判断・表現」を評価する。その際、「下水は、汚れた水と雨水がいっしょにならないようにしたり、微生物できれいにしたりするなど、人々の健康や安全を第一に考えて処理をされている。だからこそ、自分たちは、汚れた水をすぐに流すことができ、健康な生活を送ることができる。」など、調べたことを関連付け、根拠を明確にして考えをまとめることができれば「おおむね満足できる」状況と捉えられる。

続いて、学習問題に対する自分の考えをまとめる活動において、「知識・技能」の観点から評価する。その際、調べたことをただ羅列するのではなく、小単元の目標にある「衛生的な処理」と「資源の有効利用」、「生活環境の維持向上」を視点にして、関連付けたり総合したりしてまとめられているかを評価する。まとめる前に、「学習問題について大切なことを三つ挙げて、その理由を書こう。」などと投げかけてまとめさせることも考えられる。

なお、上の二つの活動は、これまで学習したことを基に、考え、まとめる活動であることから、「しらべる」段階で分かったことや考えたことをまとめてきた「汚れた水のゆくえ」図やノート、資料等を積極的に活用していきたい。

3 小単元の指導計画 (10時間扱い)

過程	ねらい (○数字は第○時を表す)	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される子供の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点 ○資料 ☆★評価【観点】)
つ か む	①自分たちの生活では、たくさんのお水が使われ、汚れたお水が大量に出されていることに気付く。	◆わたしたちの生活から、どのようなお水が出されているのだろう。 ○自分たちの生活から出される廃棄物について話し合う。 ・毎日、いろいろなごみを出している。 ・トイレや風呂で使ったお水はどこへいくのだろう。 ◆学校や家庭では、どれくらいのお水が使われているのだろう。 ○学校や家庭でお水を使う場面や量を調べ、使用後のお水の様子やゆくえんについて話し合う。 ・家でも学校でも大量にお水が使われている。 ・食器洗いや入浴、トイレなどで使ったお水はとても汚れている。そのお水はどこへいくのだろう。	◎健康で快適な生活(イラスト) □前小単元で飲料水を扱っていない場合は、家庭のプライバシーに配慮しながら、事前に水調べを行う。 ◎水道・排水口の写真、学校の水使用量 □使用したお水は汚れ、大部分が排水口等に流されることから、そのゆくえんについて問題意識を高める。 ☆発言や記述から「資料から必要な情報を読み取り、生活から大量の汚れたお水が出され、どこかで処理されていることを理解しているか」を評価する。【知①】
	②東京都の過去の下水問題を捉え、下水が処理されないどのような問題が起きるのか考える。	◆もし、東京都で下水が集められなかったら、どうなるのだろう。 ○かつて起こった様々な下水の問題について調べ、下水が適切に処理されないどのような問題が起きるか話し合う。 ・大雨も下水になり、道路があふれることもある。 ・川が汚れ悪臭がするし、悪い病気になってしまう。	◎過去の下水問題(川の汚染、写真・映像) ☆発言や記述から、「下水の処理の事業と人々の健康や生活環境を関連付けて考え、表現しているか」を評価する。【思①】
	③下水のゆくえんを考へることを通して学習問題をつくり、予想を基に、学習計画を立てる。	◆学校や家庭から出された下水は、どこへいくのだろう。 ○下水の処理の様子について予想し、学習問題をつくる。 ・下水管があり下水を運んでいると思う。 ・下水は、飲料水のように工場みたいなどころできれいにされているのではないかな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">わたしたちが健康でくらすために、下水はどのようにして運ばれ、処理されるのだろう。</div> ○学習問題に対する予想を基に学習計画を立てる。 ・下水は、どこへどのように運ばれるのだろう。 ・下水は、どのようにしてきれいにされるのだろう。	◎地域の様子(下水に関する施設等も含んだイラスト・写真) □資料を読み取る際、何に着目し何を比較するか助言する。 ★発言や記述から「予想を基に、下水の処理の仕組みについて問いを見だし、表現しているか」を評価する。【思①】 ★記述や発言から「下水の処理の事業について、予想や学習計画を立て、追究の見通しをもっているか」を評価する。【態①】
し ら べ る	④下水のゆくえんについて調べ、その様子を理解する。	◆下水は、どこへどのように運ばれていくのだろう。 ○下水のゆくえんについて、映像や写真等の資料を活用して調べ、「汚れたお水のゆくえん図」にまとめる。 ・台所等→汚水枡→下水道管→ポンプ所→水再生センター(※雨水は雨水枡から下水道管) ・下水道管は地下にある。 ・まち全体に網の目のように広がっている。 ・少し下り坂になっていて自然に流れる。	◎下水処理の流れ(東京都下水道局映像) ◎配水管や汚水ます、マンホール(写真) ◎町の中での下水道管の図 ☆発言や記述から「必要な情報を集め、読み取り、下水の処理の流れや下水道管の仕組みについて理解しているか」を評価する。【知①】
	⑤⑥水再生センターの下水の処理の仕組みを調べ、下水を安全かつ衛生的に処理していることを理解する。	◆下水は、どのようにしてきれいにされるのだろう。 ○水再生センターの下水処理の仕組みについて、資料から調べる。 ・ごみや砂は、広い水槽で沈めている。 ・微生物が下水の汚れを食べてくれる。 ・水がきれいになるまで約1日。 ○汚泥やきれいになったお水、雨水の活用について資料から調べ、「汚れたお水のゆくえん図」にまとめる。 ・汚泥は焼いて灰にしてセメントの原料にする。 ・きれいにしたお水は川や海に流す。一部は、もっときれいにした再生水として再利用する。 ・雨水は直接貯めて再利用されることもある。	◎水再生センターの場所、水をきれいにする仕組み等(東京都下水道局HP、ポタンとマリンの大冒険) □第4～第7時にかけては毎時間、調べたことを「汚れたお水のゆくえん図」にまとめていくようにする。 □空間的な広がりの中で捉えたり、浄水場と比較したりして理解を深められるようにする。 ☆発言や発言から「必要な情報を集め、読み取り、下水の処理や資源の再利用の仕組みについて理解しているか」を評価する。【知①】

	<p>⑦下水道局や水再生センターで働く人たちについて調べ、汚れた水をきれいにするために工夫や努力をしていることを理解する。</p>	<p>◆下水道局や水再生センターで働く人たちは、どのような仕事をしているのだろう。</p> <p>○下水道局で働く人たちの仕事について、資料を活用したり聞き取りをしたりして調べ、「汚れた水のゆくえ図」にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マンホールの調査や清掃をしている。 ・水再生センター…交代で24時間体制。年中無休で稼働している。 ・中央監視室で常に作業を管理し、水質検査も行っている。 	<p>◎下水道局で働く人の仕事、働く人の話</p> <p>□これまで調べたことの中から、人が行っていることを振り返り、働く人たちに関心を向け、その工夫や努力が捉えられるようにする。</p> <p>☆発言や記述から「必要な情報を集め、読み取り、下水道局や水再生センターで働く人たちの働きについて理解しているか」を評価する。【知①】</p>
<p>まとめ</p>	<p>⑧下水の処理の事業が人々の生活に果たす役割を考え、理解する。</p>	<p>◆下水の処理と自分たちの生活は、どのように関わっているのだろう。</p> <p>○調べたことを基に、下水の処理と自分たちの生活との関わりについて考え、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下水の処理の仕組みや再利用の仕組みがあるから、わたしたちは清潔な環境で、健康な生活を送ることができる。 ・下水道局で働く人たちの努力にも支えられている。 <p>○これまでの学習を基に、学習問題に対して分かったことや考えたことをまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>下水の処理の取組は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるように、現在に至るまで計画的、協力的に仕組みが整えられてきた。その働きによって、わたしたちは健康で快適に過ごすことができる。</p> </div>	<p>◎自分が作成した「汚れた水のゆくえ図」等</p> <p>★発言や記述から「下水の処理の仕組みや人々の協力関係と地域の良好な生活環境を関連付けて、その事業が果たす役割を考えているか」を評価する。【思②】</p> <p>★発言や記述から「下水の処理に関する事業は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるように進められていることや、生活環境の維持と向上を支えていることを理解しているか」を評価する。【知②】</p>
<p>つなぐ</p>	<p>⑨ごみの処理の仕方を下水の処理の仕方と比較しながら調べ、その働きについて考える。</p>	<p>◆ごみはどのように処理されているのだろう。</p> <p>○ごみの処理の様子について、資料やゲストティーチャーの話を通して調べ、ごみの処理の大切さについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・燃やすごみや燃やさないごみの処理の流れ、清掃工場、リサイクルセンター、最終処分場、資源の再利用等 ・下水の処理と似ている。サイクルができています。 ・ごみを収集する人たちや清掃工場働く人たちが、様々な工夫や努力をしている。 	<p>◎ごみ処理の流れ、清掃工場、リサイクルセンター、最終処分場及びその限界</p> <p>□下水の処理で学んだことを生かして、比較しながらごみの処理について調べ、ともに衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていることに気付かせる。</p> <p>★記述や発言から「ごみを処理する事業について、下水の処理の事業と比較しながら調べ、環境を守り、都内外の人々と協力して廃棄物を再利用していることについて考えているか」を評価する。【思②】</p>
	<p>⑩ごみの処理の事業を下水の処理の事業と関連付けて捉え、ごみの減量や水質汚染防止のために、自分たちにできることを考える。</p>	<p>◆水を汚さないようにしたりごみを減らしたりするために、自分たちにできることは何だろう。</p> <p>○企業や自治体、家庭の取組を調べる。</p> <p>○水質汚染防止やごみの減量のために、自分たちにできることを考え、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・油やごみを下水に流さない。無駄な水を使わない。家の人にも伝えて実践したい。 ・分別をしっかりして、ごみを減らし、資源を増やしていく。 <p>○周囲に協力を呼びかける標語づくりをする。</p>	<p>◎企業、自治体、家庭等の水質汚染防止やごみ減量の取組</p> <p>□根拠を明確にして考えさせる。</p> <p>★発言や記述から「ごみ減量や水を汚さないために、自分たちができることを考えたり選択・判断したりしているか」を評価する。【思②】</p> <p>★発言や記述から「地域社会の一員として、水質汚染防止や廃棄物の減量、資源の再利用に協力しようとしているか」を評価する。【態②】</p>

単元名	水害からくらしを守る	配当12時間	内容(3)アの(ア)及び(イ)とイの(ア)
-----	------------	--------	-----------------------

(主として「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」の区分)

1 単元の目標と観点別評価規準

(1) 単元の目標

自然災害から人々を守る活動について、過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、聞き取り調査をしたり地図や年表などの資料で調べたりしてまとめ、災害から人々を守る活動を捉え、その働きを考え、表現することを通して、地域の関係機関や人々は、自然災害に対し様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される自然災害に対し、様々な備えをしていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、学習したことを基に、地域社会の一員として自然災害から自分自身の安全を守り、自然災害への備えに取り組もうとする態度を養う。

(2) 単元の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などについて聞き取り調査をしたり地図や年表などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、災害から人々を守る活動を理解している。 ②調べたことを年表などにまとめ、地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解している。	①過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して問いを見だし、災害から人々を守る活動について考え、表現している。 ②自然災害が発生した際の被害状況と災害から人々を守る活動を関連付けて、それらの働きを考えたり、地域で起こり得る災害を想定して、自分たちにできることを考えたり選択・判断したりして、適切に表現している。	①自然災害から人々を守る活動について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。 ②学習したことを基に、地域社会の一員として、自然災害から自分自身の安全を守るために、自分たちにできることを考えようとしている。

2 指導計画の作成に当たって

(1) 学習指導要領との関連

- ①本単元は、内容(3)の「自然災害から人々を守る活動」に関する内容で構成した単元である。この内容は、主として「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」に区分されるものである。内容の取扱い(2)アに事例として、地震災害、津波災害、風水害、火山災害、雪害などが挙げられているが、東京都の過去の自然災害や地域の実態などを踏まえ、本指導計画では、水害を取り上げる。
- ②内容の取扱い(2)ウに示された「地域で起こり得る災害を想定し、日頃から必要な備えをするなど、自分たちにできることなどを考えたり選択・判断したりできるように配慮する」ことについて、「つなぐ」段階で、子供が地域の課題やその対策について学習したことを基に、自分自身の安全を守るためにできることを考えるように意図している。

(2) 教材や資料の工夫

- ①本単元では、自然災害は気象や地形の状況と深い関係があることを理解し、日頃から気象庁などからの情報や、防災情報、地域の地理的環境などに関心を持ち、災害が起きた時に自分の命を守ることやそのための備えを考えることを大切にしたい。「自分たちにできること」をより切実感や使命感をもって考えられるようにするために、子供の住む市区町村で起こった風水害、実際に被害にあわれた方の話などを教材化することにより、社会的事象を身近に感じることができるようになる。特に、ハザードマップや防災アプリは多くの市区町村が作成しているため、教材に取り入れやすい。

(杉並区「我が家の水害ハザードマップ」には、自宅から避難所経路や持ち出す物などを書き込む欄もある。

https://www.city.suginami.tokyo.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/013/470/220114hazardmap_ura.pdf)

- ②「しらべる」段階において、区・市役所や都庁の防災担当の方、副校長や地域の自主防災組織の方などの取組を教材にすることも効果的である。実際に社会で働く方から直接話を聞くことにより、実感的な理解や地域社会の一員としての自覚にもつながると考える。また、東京都、市区町村と初めから分けるのではなく、調べた後に整理をしながらまとめていくことも考えられる。子供の実態に即した学習展開を考えたい。

(3) 学習展開や学習活動の工夫

- ①導入時に年表を用いて、東京都における自然災害の発生状況を時間の経過から調べ、白地図に被害地や災害の様子などをまとめることで、自然災害を空間的な広がりで見ることが出来る。また、年表や地図などから、水害が繰り返し起こっていることに気付き、水害に対する問題意識を高め、主体的に追究できるようにする。
- ②「しらべる」段階において、調べて分かった事実や話し合っ考えたことなどを、「まとめる」段階で「水防の手引き」(パンフレット)などにまとめて、それを基に「つなぐ」段階において、自分にできることを考えるように

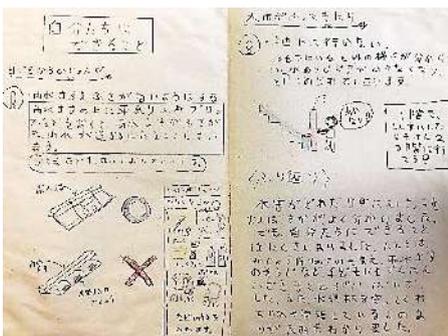
する。また、調べたことを関連図に表す活動を取り入れることにより、関係機関相互の協力や働きについて自分とのつながりを意識しながら考えられるようにする。

(4) 問いの構成の工夫

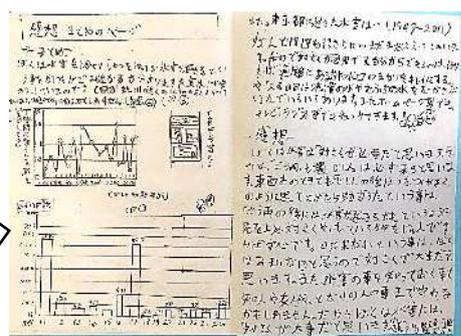
<社会的事象> 東京都の自然災害			
◆わたしたちがくらす東京都では、どのような自然災害が起きてきたのだろう。			
<社会的事象> 2019年台風19号の水害、2005年杉並区の水害			
◆水害から人々を守るために、だれがどのようなことをしたのだろう。			
気象庁から台風の情報が入り、区役所が防災を呼びかけている。	東京都から自衛隊に救助をお願いしている。	警察署や消防署、区役所など様々な機関が協力している。	大きな被害にならないように、普段から備えをしているのではないかな。
<社会的事象> 大雨の発生回数と浸水被害のグラフ			
◆水害の被害は、どのように変わっているのだろう。			
◆〈学習問題〉水害からくらしを守る人々は、どのような取組をしているのだろう。			
雨水をたくさん貯められる施設があるのではないかな。	地域の人が訓練などをして備えているのではないかな。	情報を流して、いつ水害が起きるかを、知らせているのではないかな。	
◆水害の被害を防ぐために、どのような施設があるのだろう。	◆地域の人々は水害の被害を防ぐために、どのような取組をしているのだろう。	◆水害から身を守るために、情報をどのように活用したらよいのだろう。	
◆わたしたちのくらしは、水害からどのように守られているのだろう。			
【概念的な知識】 自然災害に対し、様々な機関が協力して対処してきており、今後想定される災害に対しても、地域の人々のくらしを守るために、東京都では施設をつくったり、区では情報発信や啓発、訓練を行ったり、地域では訓練などをしたりするなど、互いに協力して備えている。			
<社会的事象> 最近起こっている風水害（台風による風水害、内水氾濫、近県の河川氾濫）			
◆水害からくらしを守るために、自分たちにどのようなことができるのだろう。			

(5) 評価の工夫

「つなぐ」段階で、学習したことを基に自分たちにできることを選択・判断する場面で、「思考・判断・表現」の観点から評価する。ここでは、単元で学習したことを基に「自分たちにできること」を考えられるようにすることが大切である。そこで、自分の考えをまとめる時に、なぜそのようなことを考えたのか、理由や根拠も合わせて書くように指示する。具体的には、以下のような反応であれば、「おおむね満足できる」状況と捉えられる。



身の回りの水防施設を調べると、雨水ますが家の前にあった。落ち葉でふさがれないように掃除をする。



大雨の降る確率が年々上がっている。「大雨の後は、水害が起きるかも。」と予想して、対策をとったり、避難グッズを準備したりしておきたい。

3 単元の指導計画 (12時間扱い)

過程	ねらい (○数字は第○時を表す)	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される子供の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点 ◎資料 ☆★評価【観点】)
つ	①都内における過去の自然災害について調べ、東京都では様々な自然災害が繰り返し起きていること、特に水害が多いことを理解できるようにする。	○自然災害について話し合う。 ・地震・津波・水害・噴火・大雪 ◆わたしたちがくらす東京都では、どのような自然災害が起きてきたのだろうか。 ○写真資料から、東京都内の自然災害の様子を調べ、気付いたことを話し合う。 ・東京都の多くの場所で自然災害が起きている。 ・地震は広い範囲で被害が大きい。 ・水害は大きな川の近くでなくても起きる。 ○自然災害年表から、東京都の自然災害の傾向を考え、話し合う。 ・水害が多く起きていて、最近も被害がある。 ・東京都にはたくさんの川が流れているから、水害が多いのではないかな。	◎自然災害のイラスト等 □東京都には、様々な自然災害が起きていることを、白地図などにまとめながら理解できるようにする。 ◎東京都の自然災害年表 □年表から水害による被害が特に多いことに気付き、水害の対処や備えに関心を高められるようにする。 ☆発言や記述から「必要な情報を集め、読み取り、東京都では、自然災害が様々な地域で繰り返し起きていて、人々のくらしに被害を与えていること理解しているか」を評価する。【知①】
か む	②過去に起きた水害に対する対処を調べ、理解できるようにする。	◆水害から人々を守るために、だれがどのようなことをしたのだろうか。 ○多摩川の水害の様子や対応について、資料を活用して調べる。 ・市役所、警察署、消防署、地域の消防団が、それぞれの立場で市民を守った。 ・災害が大きいと自衛隊が出動する。 ○関係機関がどのように関わり合っているかを考え、話し合う。 ・たくさんの機関が協力して市民を守った。	◎当時の新聞記事や映像資料 □関係機関が連携して救助に当たったことを関係図にまとめるなどして、理解できるようにする。 ☆発言や記述、関係図から「過去に起きた水害に対する対処や、関係機関の連携について理解しているか」を評価する。【知①】
	③水害の被害の変化から疑問を話し合い、学習問題をつくることができるようにする。	◆水害の被害は、どのように変わっているのだろうか。 ○東京都の大雨の回数と水害被害数のグラフを比べて、気付いたことを話し合う。 ○疑問や予想を基にして、学習問題をつくる。 ・大雨は多いのに被害は小さくなっている。何か取組がされているのではないかな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">水害からくらしを守る人々は、どのような取組をしているのだろうか。</div>	◎大雨の発生回数と浸水被害のグラフ □疑問や予想を基にして、学習問題をつくるようにする。 ☆発言や記述から「水害からくらしを守る人々の取組に着目して、問いを見いだしているか」を評価する。【思①】
	④学習問題の予想を基に、学習計画を立てることができるようにする。	○水害からくらしを守る人々は、どのような取組をしているのかをグループで話し合い、予想する。 ○予想を基に、学習計画を立てる。 (予想) → (調べる問い) ・東京都の人たちが、水をたくさん貯められる施設をつくったのではないかな。 →水害の被害を防ぐために、どのような施設があるのだろうか。 ・地域の人が訓練などをして備えているのではないかな。 →地域の人々は水害の被害を防ぐために、どのような取組をしているのだろうか。 ・情報を流して、いつ水害が起きるかを、知らせているのではないかな。 →水害から身を守るために、情報をどのように活用したらよいのだろうか。	□資料や既習内容などを基に、根拠を明確にして予想を立てられるようにする。 □予想を確かめるために、何を調べたらよいか、資料等も活用しながら問いの形式で具体的に、学習計画表にまとめる。調べる順序は、内容や子供の関心等を基に決める。 ★発言や記述、学習計画表から「学習問題の解決に向けた予想を基に学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。【態①】
し ら べ る	⑤⑥水害を防ぐための施設について調べ、施設が果たす役割を理解できるようにする。	◆水害の被害を防ぐために、どのような施設があるのだろうか。 ○水防施設について調べる。 ・川を真っ直ぐにしたり、コンクリートの壁を造ったりしている。 ・雨水を貯められる場所がたくさんある。 ○水防施設が果たす役割について考え、話し合う。 ・雨水を貯めるところをつくることで、川の水があふれるのを防いでいる。	◎水防施設の写真資料など □水防施設、護岸工事された川などが近くにあれば見学に行き、実感の伴った理解をできるようにする。 ☆発言や記述から「必要な情報を集め、読み取り、水防施設の働きについて理解しているか」を評価する。【知①】

し ら べ る	<p>⑦水害を防ぐための地域の取組について調べ、取組が果たす役割を理解できるようにする。</p>	<p>◆地域の人々は水害の被害を防ぐために、どのような取組をしているのだろうか。</p> <p>○学校の防災倉庫を見学する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災倉庫はどこに何があるかが、誰にでもすぐ分かるような工夫がされている。 <p>○地域の防災訓練について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々が協力して、地域を守るような仕組みがある。 <p>○地域の取組が果たす役割について考え、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々が訓練をしているから、いざというときに協力ができる。 ・地域の人の中に自分も入っているから、自分も何かしないといけない。 	<p>◎学校の防災倉庫</p> <p>◎副校長の話</p> <p>◎合同防災訓練や防災会議の様子</p> <p>□学校の防災倉庫や防災に関わる取組などを取り上げ、防災への備えや地域の取組を身近に捉えられるようにする。</p> <p>☆発言や記述から「必要な情報を集め、読み取り、地域の人々の防災訓練や防災会議などの活動について理解しているか」を評価する。</p> <p>【知①】</p>
	<p>⑧水害から身を守るための情報の活用について考え、話し合うことができるようにする。</p>	<p>◆水害から身を守るために、情報をどのように活用したらよいのだろうか。</p> <p>○どのような情報が役に立つのかを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の防災無線が大雨の時に鳴っていた。 ・テレビやインターネットで災害情報をよく流している。 <p>○情報をどのように活用していけばよいかを考え、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最近では、それぞれの地域の防災アプリがあるから、より詳しい災害情報が得られるようになっている。 	<p>◎気象庁などのホームページ</p> <p>◎市区町村のハザードマップ</p> <p>□自治体が配布するハザードマップや、ホームページ、防災アプリなどを資料として取り上げると、子供が「自分の身の守り方」という視点をもちやすい。</p> <p>☆発言や記述から「関係機関から発信されている情報を比較したり、関連付けたりして、安全を守るために自然災害が起きた時に、どのように情報を活用したらよいか考え、表現しているか」を評価する。【思①】</p>
ま と め る	<p>⑨⑩⑪学習を振り返り「水防の手引き」にまとめることを通して、水害から人々を守るためにどのようなことをしていたかを考え、理解できるようにする。</p>	<p>◆わたしたちのくらしは、水害からどのように守られているのだろうか。</p> <p>○水害から人々を守るための取組を「水防の手引き」(パンフレット)にまとめ、それぞれの役割や働き、協力について話し合う。</p> <p>○これまでの学習を基に、学習問題に対して分かったことや考えたことをまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>自然災害に対し、様々な機関が協力して対処してきており、今後想定される災害に対しても、地域の人々のくらしを守るために、東京都では施設をつくったり、区では情報発信や啓発、訓練を行ったり、地域では訓練などをしたりして、互いに協力して備えている。</p> </div>	<p>□関係機関や地域の取組を比較したり関連付けたりしながら、互いに協力して人々のくらしを守る役割を果たしていることを考え、文章や関係図などにまとめられるようにする。</p> <p>★「水防の手引き」の記述や発言内容から「自然災害における被害と災害から人々を守る活動を関連付けて、それらの働きを考え、表現しているか」を評価する。【思②】</p> <p>★発言や記述から「水害などの自然災害に対して、様々な機関が連携し、対処や備えをしていることを理解しているか」を評価する。【知②】</p>
つ な ぐ	<p>⑫水害からくらしを守るために、自分たちにできることを考えようとする態度を養う。</p>	<p>◆水害からくらしを守るために、自分たちにどのようなことができるのだろうか。</p> <p>○近年に起きている水害の様子を調べる。</p> <p>○自然災害から命を守るために、自分たちにできることを考え、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの水防施設を調べると、雨水ますが家の前にあった。落ち葉でふさがれないように掃除をしようと思う。 ・大雨の降る確率が年々上がっている。「大雨の後は、水害が起きるかも。」と予想して、対策をとったり、避難グッズを準備したりしておくといい。 <p>○自分たちの考えを発表し合い、自然災害に対する備えの意識を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京都や区役所、地域の人々は、それぞれの立場でできることをして、水害からわたしたちの身を守ってくれている。わたしもできることをして、自分の命や家族の命を守りたい。そして、もう少し大きくなったら、公助・共助にも関わっていきたい。 	<p>◎最近起きている風水害(台風による風水害、内水氾濫、近県の河川氾濫)の写真や新聞記事</p> <p>□水害が起きたら、どのような行動をとればいいのか、これまでの学習を基に考えられるように助言する。</p> <p>★記述や発言内容から「学習したことを基に、防災のために自分たちに協力できることを考えたり、選択・判断したりして表現しているか」を評価する。【思②】</p> <p>★記述や発言の内容から「学習したことを基に、防災について自分たちに協力できることを考えようとしているか」を評価する。【態②】</p>

第1時の資料 (つかむ)

◆私たちの東京都では、どのような自然災害が起こってきたのだろう。

時間的な経過と、空間的な広がりに着目する。

資料 妙正寺川の氾濫



(出典：東京都建設局 HP 「妙正寺川の氾濫による被害」)

資料 東京都の自然災害年表 (参考：東京都建設局 (東京都防災会議地域防災計画風水害編))

年	災害名	主な被災地	被害者数
1923	関東大震災	関東地方	約105,000人
1947	カスリーン台風	東海以北	1930人
1954	とうや丸台風	全国	1761人
1958	狩野川台風	近畿以东	1269人
1959	伊勢湾台風	全国	5098人
1972	台風	全国	447人
1982	台風	全国	439人
1986	伊豆大島噴火	伊豆大島	0人
1993	長雨	山陰以东	117人
2000	三宅島噴火	東京都	1人
2004	台風23号	全国	98人
2011	東日本大震災	東日本	21839人
2013	大雪	関東甲信以北	93人
2013	土砂災害	伊豆大島	40人

【指導上の留意点】
東京都における災害の年表を用いて、災害について調べる。約100年間に大雨、台風、火山噴火、地震など様々な災害が繰り返し起こっていることを捉えられるようにする。そして、発生場所を東京都の白地図にプロットし、空間的な広がりからも捉えられるようにする。

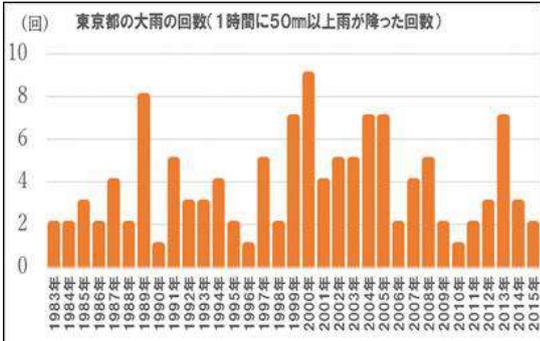
第3時の資料 (つかむ)

◆水害の被害は、どのように変わっているのだろう。

(参考：東京都建設局HP 「過去の水害記録～浸水実績図～」)

浸水被害を時間の経過に着目して捉える。

資料 東京都の大雨の回数

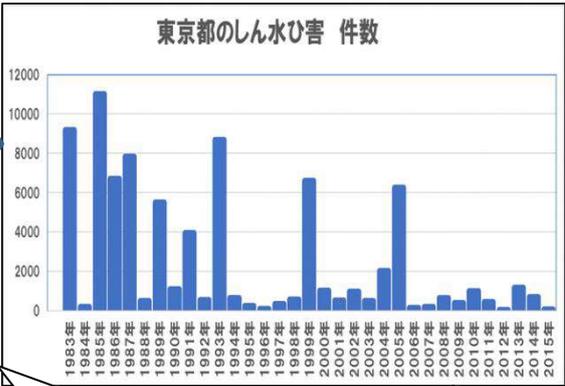


東京管区気象台より

大雨の回数が少しずつ増えているよ。

そうすると、浸水被害も増えているのではないかな。

資料 東京都の浸水被害件数



でも、浸水被害は年々減っている。

どうして大雨が増えていのに、水害は減っているのだろうか。

【指導上の留意点】
大雨発生率のグラフから、年々大雨が増えていることを共通理解した上で、浸水被害のグラフを提示して比べる。そこで大雨は増えているのに被害が減っているのはなぜなのか疑問を集約して学習問題をつくる。

【学習問題】
水害からくらしを守るために、人々はどのような取組をしているのだろうか。

第8時の資料（調べる）

◆東京都や杉並区では、水害が起きたときに、どのような備えをしているのだろう。

資料 水害に備える都や区の取組



消防団の活動

(出典：杉並区役所杉並区 HP
～地域の消防団や消防署による救助訓練～)

東京都と杉並区の合同訓練の様子

(出典：杉並区役所杉並区 HP～地域の消防団や消防署による救助訓練
東京都と杉並区の合同訓練～)



消防団の活動

(出典：杉並区役所杉並区 HP
～土のうの積み上げ～)

協力して会議や訓練を行っている姿から、人々の相互関係に着目して、都や区、地域の協力の様子を捉えられるようにする。

第10時の資料（まとめる）

○いろいろな人々の協力で初めて自分たちのくらしが成り立つ。

○人々の協力。

地下調整池の人々の協力。

地下調整池の人々は川の水の流入や排水の操作管理をし、川の水位が上がらないようにかんしている。



○公園の利用。

公園の広さや公園がたくさんあることを利用して、地下に一時的に水をためて、自分たちのくらしを守っている。公園を利用して、一時的に水をためておくところを公園貯留という。



○家庭の地下の利用。

水害からくらしを守るために家庭の地下を利用したものがある。これはなまった雨水を一か所に集め、ゆっくりと土の中にしみこませていく。



○考えたこと。

自分たちのくらしを守ってくれている人たちも、その人たちの暮らしを守らなければならないから、人々は助け合って水害からくらしを守っているのかなと考えた。

普段から気を付けて、用意をしていきたい。

人々は自然も活用しながら水害から暮らしを守っている。

【指導上の留意点】

学習問題に対する自分の考えを「パンフレット」の巻末にまとめ、それを基に話し合うことでそれぞれが考えをより深められるようにする。

第12時の資料（いかす）

◆自分たちにはどのようなことができるだろう。

資料 都市型水害の様子



浅草周辺が浸水したイメージ映像
(出典：国土交通省荒川下流河川事務所「荒川氾濫DVDより」)

川に近くない都会でも水害にあうことがあるんだ。

出かけた先の地形なども知っておくといいね。大雨のときは、すぐに情報を得て、避難に備えよう。

【指導上の留意点】

水害が起こっても安全に避難できるよう日頃からどのような備えをしておけばいいのか。大雨のときは、どのような行動をとればいいのか、今までに学習したことを想起させ、それを基にして具体的に考えられるようにする。

単元名	地震からくらしを守る	配当12時間	内容(3)アの(ア)及び(イ)とイの(ア)
-----	------------	--------	-----------------------

(主として「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」の区分)

1 単元の目標と観点別評価規準

(1) 単元の目標

自然災害から人々を守る活動について、過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、聞き取り調査をしたり地図や年表などの資料で調べたりしてまとめ、災害から人々を守る活動を捉え、その働きを考え、表現することを通して、地域の関係機関や人々は、自然災害に対し様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される自然災害に対し、様々な備えをしていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、学習したことを基に、地域社会の一員として自然災害から自分自身の安全を守り、自然災害への備えに取り組もうとする態度を養う。

(2) 単元の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などについて、聞き取り調査をしたり地図や年表などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、災害から人々を守る活動を理解している。 ②調べたことを年表などにまとめ、地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解している。	①過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して問いを見だし、災害から人々を守る活動について考え、表現している。 ②自然災害が発生した際の被害状況と災害から人々を守る活動を関連付けて、それらの働きを考えたり、地域で起こり得る災害を想定して、自分たちにできることを考えたり選択・判断したりして、適切に表現している。	①自然災害から人々を守る活動について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。 ②学習したことを基に、地域社会の一員として、自然災害から自分自身の安全を守るために、自分たちにできることを考えようとしている。

2 指導計画の作成に当たって

(1) 学習指導要領との関連

- ①本単元は、内容(3)の「自然災害から人々を守る活動」に関する内容で構成した単元である。この内容は、主として「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」に区分されるものであり、自然災害から人々を守る活動についての学習で身に付ける事項を示している。内容の取扱い(2)アに事例として、地震災害、津波災害、風水害、火山災害、雪害などが挙げられているが、本指導計画では、東京都で繰り返し起きていて、今後も大地震の発生が想定され、起きると広い範囲で甚大な被害が発生する地震を中心に取り上げる。
- ②内容の取扱い(2)ウに示された「地域で起こり得る災害を想定し、日頃から必要な備えをするなど、自分たちにできることを考えたり選択・判断したりできるように配慮する」ことについて、「つなぐ」段階で、子供が地域の課題やその対策について、聞き取りなどから学んだことを基に、自分自身の安全を守るためにできることを考えるように意図している。

(2) 教材や資料の工夫

- ①本単元の導入時に、都内で過去に起きた主な自然災害を取り上げ、様々な災害が繰り返し起きていることに気付くようにする。その際、昭和61(1986)年の大島三原山の噴火を取り上げる。当時東京都は、迅速に大島からの全島避難を実施し、島民は都内各地に設けられた避難所で生活することとなった。都内各地域で取り扱うことのできる事例であり、東京都や国の働きも捉えやすい事例と考える。ここで学習したことを生かし、今後の自然災害への対応や備えについて、社会的事象の見方・考え方(時期や時間の経過、位置や空間的な広がり)を働かせながら、関心をもって主体的に追究できるようにする。
- ②「しらべる」段階において、区・市役所や都庁の防災担当の方、副校長や地域の自主防災組織の方などの取組を教材として取り上げる。実際に社会で働く方から直接話を聞くことにより、自然災害から人々を守る活動について、社会的事象の見方・考え方(事象や人々の相互関係)を働かせながら、実感をもって調べたり考えたりできるようにする。また、各市区町村の地震被害シミュレーションなどを活用することで、より切実感をもって「自分たちにできること」を考えられるようにしたい。

(杉並区「地震被害シミュレーション【建物被害編】」)

<https://www.city.suginami.tokyo.jp/guide/kyukyu/jishinsoutei/1035447.html>

「地震被害シミュレーション【避難者予測・ライフライン被害編】

<https://www.city.suginami.tokyo.jp/guide/kyukyu/jishinsoutei/1044234.html>

(3) 学習展開や学習活動の工夫

- ① 「つかむ」段階において、過去の火山災害における関係機関の具体的な働きや協力の様子を取り上げる。その学習を生かして、地震災害についての学習問題をつくり、予想や学習計画を立てる活動を通して、子供一人一人が見通しをもち、主体的に追究できるようにする。
- ② 「しらべる」「まとめる」段階において、分かったことを関連図などに表す活動を取り入れ、関係機関相互の協力や、その働きについて、自分とのつながりを意識しながら考えられるようにする。また、それを基に、説明したり意見を交流したりするなど対話的な学習を通して、自分の考えを深められるようにする。
- ③ 「つなぐ」段階においては、切実感や危機感をもって自分にできることを考えられるよう、地域や区役所等で防災を担当される方の協力をいただき、訓練の参加者が少ない、情報を積極的に活用してくれないなど、実際における課題を子供たちに直接投げかけ、共に考える場面をつくっていきたい。

(4) 問いの構成の工夫



(5) 評価の工夫

「まとめる」段階において、調べたことを関連図にまとめる活動を設定し、「思考・判断・表現」の観点から評価する。子供に対して、関係機関や地域の取組を比較したり関連付けたり、かつての被害状況と地域の人々の生活を関連付けたりして、自然災害から人々を守る活動の働きを考えて図に表すように指示をするとともに、子供の実態によって具体的にどのように表したらよいのか、全員で確認してから始めるなどの支援を行う。その上で、それぞれの機関の配置や、矢印などの記号や言葉などを的確に読み取っているか、評価することが大切である。その際、配置や図、言葉の意図について細やかに子供に声を掛けるとよい。それにより、子供の考えを的確に捉えられるとともに、つまずきが見られた場合には、個に応じた支援を行うことができる。また、その図を子供が相互に説明する活動も合わせて設定する。それにより、子供一人一人が考えをさらに深めていけるようにするとともに、その発言内容や加除修正した内容も評価材料として活用する。

3 単元の指導計画 (全12時間)

過程	ねらい (○数字は第○時を表す)	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される子供の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点◎資料☆評価【観点】)
つ か む	①都内における過去の自然災害について調べ、東京都では様々な自然災害が繰り返し起きていることを理解できるようにする。	○自然災害について話し合う。 ・地震 ・津波 ・水害 ・噴火 ・大雪 ◆わたしたちがくらす東京都では、どのような自然災害が起きてきたのだろう。 ○写真資料から、東京都内の自然災害の様子を調べ、気付いたことを話し合う。 ・東京都の多くの場所で自然災害が起きている。 ・地震は広い範囲で被害が大きい。 ・様々な災害が繰り返し起きている。 ○自然災害年表から、東京都の自然災害の傾向を考え、話し合う。 ・水害が多く起きていて、最近も被害がある。たくさんの川が流れているから、水害が多いのではないか。 ・島では噴火も起きている。	◎自然災害のイラスト等 □東京都には、様々な自然災害が起きていることを、白地図などにまとめながら理解できるようにする。 ◎東京都の自然災害年表 □年表から東京都には様々な自然災害が起きてきたことに気付き、対処や備えへの関心を高められるようにする。 ☆発言や記述から「必要な情報を集め、読み取り、東京都では、様々な自然災害が繰り返し起きており、人々に被害を与えていること理解しているか」を評価する。【知①】
	②大島の噴火や全島避難の様子について調べ、様々な機関や人々が協力して支援をしていたことを理解できるようにする。	○三原山の位置や噴火による被害状況を調べる。 ◆噴火から人々を守るために、だれがどのようなことをしたのだろう。 ○避難に向けて協力した人たちの様子を調べる。 ・町役場、警察署、消防署、地域の消防団が協力して島民を守った。 ・被害が大きいと自衛隊が出動する。 ・島の人たちやその他の人たちも協力して避難を完了させた。 ○多くの人が様々な場所に分かれて避難生活を送っていたことを調べ、市区や都の働きについて考える。 ・都を中心に様々な機関が協力して、避難者の生活を支えている。	◎当時の新聞記事や映像資料、三原山噴火被害の写真や映像、避難生活の様子が分かる写真や映像資料、避難先を示した東京都の地図 □関係機関が連携して救助に当たったことを関係図にまとめるなどして、理解できるようにする。 ☆発言や記述、関係図から「必要な情報を集め、読み取り、過去に起きた火山の噴火に対する対処や関係機関の連携について理解しているか」を評価する。【知①】
	③大島の火山災害や自分たちの地域における災害に対する危険度などから疑問を話し合い、学習問題をつくるができるようにする。	◆わたしたちがくらす地域では、どのような自然災害の危険があるのだろう。 ○各種ハザードマップを見ながら、自分たちの地域における自然災害による被害について話し合う。 ・大地震が起こると震度5を超える大きな揺れがある。 ・浸水の心配がある地域も広がっている。 ・もし、災害が起きたらどうなるのだろう。 ○今後、大きな地震が起きる可能性があることを調べる。 ・学校でも地震に備えて避難訓練をしている。 ・地震は被害がとても大きいから、だれがどんなことをして、わたしたちを守ろうとしてくれているのか。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">地震からくらしを守る人々は、どのような取組をしているのだろう。</div>	◎地域の各種ハザードマップ □ハザードマップを読み取り、気付いたことや考えたことを交流し合い、地域には様々な自然災害の危険があることに気付くことにより、切実感を高めていく。そして、地震に焦点化して学習問題をつくる。 ☆発言、記述から「ハザードマップや大島火山災害の被害を結び付けて考え、地震からくらしを守る人々の取組に着目して問いを見いだしているか」を評価する。【思①】
	④学習問題の予想を基に、学習計画を立てることができるようにする。	○地震からくらしを守る人々は、どのような取組をしているのかをグループで話し合い、予想する。 ○予想を基に学習計画を立てる。 (予想) → (調べる問い) ・学校は避難所になっている。たくさんの人が避難するために、水や食料を準備しているのではないか。 →学校は地震に備えて、どのようなことをしているのだろう。 ・地域の人が防災訓練などをして備えているのではないか。 →地域の人々は地震の被害を防ぐために、どのような取組をしているのだろう。 ・区役所の人たちが、防災の呼びかけをしてくれているのではないか。 →自分の住んでいる区市町村や東京都では地震に備えて、どのような取組をしているのだろう。	□資料や既習内容などを基に、根拠を明確にして予想を立てられるようにする。 □予想を確かめるために、何を調べたらよいか、資料等も活用しながら問いの形式で具体的にして、学習計画表にまとめる。調べる順序は、内容や子供の関心等を基に決める。 □噴火への対応や、消防・警察の学習を想起する。 ★発言や記述、学習計画表から「学習問題の解決に向けた予想を基に、それを確かめるために調べることを明確にして学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。 【態①】

し ら べ る	<p>⑤⑥学校では、地震に備えてどのようなことをしているのか調べ、理解できるようにする。</p> <p>⑦地域では、地震に備えてどのようなことをしているのか調べ、理解できるようにする。</p> <p>⑧区役所では、地震に備えてどのようなことをしているのか調べ、理解できるようにする。</p> <p>⑨東京都では、地震に備えてどのようなことをしているのか調べ、理解できるようにする。</p>	<p>◆学校は地震に備えて、どのようなことをしているのだろうか。</p> <p>○校内の地震に備えた施設や設備を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災倉庫には、たくさんの人が避難しても大丈夫なように、食料や毛布など、様々なものを備えている。 <p>○学校の役割について副校長の話を知ったり、分からないことを質問したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練は法律で決まっている。 ・地域の方や区役所とも協力するのだな。 <p>○学校の備えが果たす役割について考え、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校は避難所になるから、地域の中心のような働きをしている。わたしも訓練には真剣に取り組みたい。 <p>◆地域の人々は地震に備えて、どのような取組をしているのだろうか。</p> <p>○地域の自主防災組織や防災会議などを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校で防災会議を行っている。 ・地域、学校、区役所が集まって話し合っている。 <p>○調べて分かったことから、考えたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な立場の人が集まることによって、いざというときに協力する仕組みがすぐに整うと思う。 <p>◆区役所では地震に備えて、どのような取組をしているのだろうか。</p> <p>○区役所の備えについて調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難所の開設は区役所の役割になっている。 ・防災アプリをつくり、防災を呼びかけている。 <p>○防災アプリなどの働きについて考え、話し合う。</p> <p>◆東京都では地震に備えて、どのような取組をしているのだろうか。</p> <p>○東京都の地震への備えを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京防災を作成して、都民に配布している。 ・地震に備え、看板やライフラインの整備などを行っている。 <p>○地震発生時の関係機関相互の協力体制を調べ、そこから考えたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京都は各市区町村、警察、消防などと協力している。災害が大きいと自衛隊にも要請を出す。 	<p>◎校舎内の地震対策設備設置図</p> <p>◎学校の防災倉庫</p> <p>◎副校長の話</p> <p>□な副校長の話や、学校の防災倉庫などを取り上げることで、防災施設や地域の取組を身近に捉えられるようにする。</p> <p>☆発言や記述から「必要な情報を集め、防災施設の働きについて理解しているか」を評価する。【知②】</p> <p>◎合同防災訓練や防災会議の様子</p> <p>◎地域の方の話</p> <p>☆発言や記述から「必要な情報を集め、地域の人々の防災訓練、防災会議などの取組について理解しているか」を評価する。【知②】</p> <p>◎区役所の方の話、区役所が発信している防災アプリやシミュレーション</p> <p>☆発言や記述から「必要な情報を集め、区役所の防災の取組や関係機関との協力について理解しているか」を評価する。【知②】</p> <p>◎都庁防災課の働きが分かる資料</p> <p>◎東京防災</p> <p>□東京都や区役所の働きをつなげられるようにする。</p> <p>☆発言や記述から「必要な情報を集め、東京都の防災の取組や関係機関との協力について理解しているか」を評価する。【知②】</p>
ま と め る	<p>⑩⑪関係機関や地域の取組のつながりや働きを考え、関係図に表すことを通して、災害から人々を守る活動について理解できるようにする。</p>	<p>◆わたしたちのくらしは、地震からどのように守られているのだろうか。</p> <p>○地震を防ぐために、どのような人が、どのようなことをしているのかを振り返り、関係図にまとめる。</p> <p>○これまでの学習を基に、学習問題に対して分かったことや考えたことをまとめる。</p> <p>大地震に対し、様々な機関が協力して対処してきており、今後想定される災害に対しても、地域の人々のくらしを守るために、東京都では施設をつくったり、区では情報発信や啓発、訓練を行ったり、地域では訓練などをして、互いに協力して備えている。</p>	<p>□災害から人々のくらしを守るために、様々な機関が関わっていることを関係図に書いて振り返る。</p> <p>★関係図の記述や発言内容から「大地震における被害と大地震から人々を守る活動を関連付けて、それらの働きを考え、表現しているか」を評価する。【思②】</p> <p>★発言や記述から「地震などの自然災害に対して、様々な機関が連携し、対処や備えをしていることを理解しているか」を評価する。【知②】</p>
つ な ぐ	<p>⑫学習したことを基に、自然災害に対して、自分たちにできることを考えようとする態度を養う。</p>	<p>◆自然災害からくらしを守るために、自分たちにどのようなことができるのだろうか。</p> <p>○現在の課題について、地域や役所の方の話を聞く。</p> <p>○自然災害から命を守るために、自分たちにできることを考え、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの防災施設を調べると、家の近くにも避難所の看板があった。もう一度、避難経路の確認をしよう。 ・日頃の対策を自分もとる。避難グッズを準備する。 <p>○考えを発表し、自然災害に対する備えの意識を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京都や区役所、地域の人々は、それぞれの立場でできることをして、わたしたちのことを守っている。わたしもできることをして、自分や家族の命を守りたい。そして、もう少し大きくなったら、共助にも関わっていきたい。 	<p>□地震が起きたら、どのような行動をとればいいのか、これまでの学習を基に考えられるように助言する。</p> <p>★記述や発言内容から「学習したことを基に、防災のために自分たちに協力できることを考えたり、選択・判断したりして表現しているか」を評価する。【思②】</p> <p>★記述や発言の内容から「学習したことを基に、防災について自分たちが協力できることを考えようとしているか」を評価する。【態②】</p>

小単元名	受け継がれる祭～武蔵府中くらやみ祭～	配当10時間	内容(4)アの(ア)及び(イ)とイの(ア)
------	--------------------	--------	-----------------------

<主として「歴史と人々の生活」の区分>

1 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 小単元の目標

都内で受け継がれる文化財や年中行事について、歴史的背景や現在に至る経過、保存や継承のための取組などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、年表や文などにまとめ、都内の文化財や年中行事の様子を捉え、人々の願いや努力を考え、表現することを通して、都内の文化財や年中行事は、地域の人々が受け継いできたことや、それらには地域の発展など人々の様々な願いが込められていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、学習したことを基に、地域の伝統や文化の保存や継承に関わって、自分たちができることを考えようとする態度を養う。

(2) 小単元の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①歴史的背景や現在に至るまでの経過、保存や継承のための取組などについて、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、都内の文化財や年中行事の様子を理解している。</p> <p>②調べたことを年表や文などにまとめ、都内の文化財や年中行事は、地域の人々が受け継いできたことや、それらには地域の発展など人々の様々な願いが込められていることを理解している。</p>	<p>①歴史的背景や現在に至るまでの経過、保存や継承のための取組などに着目して、問いを見だし、都内の文化財や年中行事について考え、表現している。</p> <p>②都内の文化財や年中行事を保存したり受け継いだりしている人々の工夫や努力とその地域の人々の願いを関連付けて、文化財や年中行事を受け継ぎ保存していることの意味を考えたり、学習したことを基に地域の伝統や文化の保存や継承に関わって自分たちができることを考えたり選択・判断したりして、適切に表現している。</p>	<p>①都内で受け継がれる文化財や年中行事について予想や学習計画を立て、学習問題を追究し、解決しようとしている。</p> <p>②学習したことを基に、地域の伝統や文化の保存や継承に関わって、自分たちができることを考えようとしている。</p>

2 指導計画の作成に当たって

(1) 学習指導要領との関連

- ①本小単元は、内容(4)の「県内の伝統や文化」に関する内容で構成している。都内の文化財や年中行事を調べる際には、都内の主な文化財や年中行事の名称や位置などが大まかに分かるようにすることが大切である。
- ②取り上げる事例については、見学・調査を通して、文化財や年中行事に込められた地域の人々の願いが具体的に理解できるよう配慮する。なお、自分たちの住む区市町村の文化財や年中行事を事例として取り上げても構わない。

(2) 教材や資料の工夫

- ①都内の代表的な年中行事として「武蔵府中くらやみ祭(府中市)」を取り上げる。武蔵国の国府祭を由来とし、約1100年前から始まった長い歴史をもつ祭である。現在も市内外から約70万人が参加し、都の無形民俗文化財に指定されている。東京都のよさを感じることができ、時間的・空間的・相互関係的に着目できる教材である。
- ②都内の文化財や年中行事の名称や位置については、地図やパンフレットなどを活用する。くらやみ祭については、副読本『わたしたちの東京都』、大國魂神社や府中市のHP、NHKなどの動画を教材にする。祭の歴史の長さ(グラフ)、年表、市外の人々の関わり(地図)、地域の人々のインタビュー資料などについて教師が作成することも効果的である。
- ③地域の伝統や文化の保存や継承に関わって、自分たちができることなどを考えたり選択・判断したりする活動については、自分たちの住んでいる区市町村の年中行事について教材化する。



東京都の主な年中行事 (地図)



祭の歴史の長さ (グラフ)



くらやみ祭に関わる人々 (地図)

(3) 学習展開や学習活動の工夫

- ① くらやみ祭の歴史の長さに着目し、時間的な経過の中で捉え問題意識を高め、学習問題を立てられようにする。そして、大祭委員会や万灯大会の写真を用いて予想をし、追究への見通しをもつことができるようにする。
- ② 大國魂神社や府中市郷土の森館への見学・調査が難しい場合は、祭の様子を動画で視聴したり、地域の人々のインタビュー動画から調べたりするなど工夫が必要である。
- ③ 「しらべる」段階で毎時間考えた「小見出し」を基に、「まとめる」段階で年表に整理し、説明する。年表に整理することで、長い歴史を通して多くの人々が工夫や努力してきたことを捉えられるようにする。
- ④ 「つなぐ」段階では、学習を振り返り、自分たちの住む地域の年中行事に関して、自分たちができることを考え、発表する。そこで、地域の方々にも聞いて価値付けていただき、社会参画の意識を高められるようにする。

(4) 問いの構成の工夫



(5) 評価の工夫

- ① 調べたことを年表に整理する場面で「思考・判断・表現」の観点で評価する。
第7時に、年表に調べたことをまとめた上で、「地域の人々は、なぜ、くらやみ祭を受け継いできたのだろう。」と発問し、自分の考えを年表に書き込むようにする。そこでの記述や話し合いでの発言内容から、地域の人々の工夫や努力と願いを関連付けて、くらやみ祭を受け継ぎ保存していることの意味を考えているかを評価する。
- ② 調べたことを基に学習問題を対する自分の考えをまとめる場面で「知識・技能」の観点で評価する。
第8時に、学習問題に対する自分の考えをまとめ、発表する。「長い歴史の中で市内外の多くの人々が受け継いできたこと」「それらには、地域を発展させようという願いが込められていること」を理解しているかを評価する。
- ③ 学習したことを基に、自分ができることを選択・判断したり、考えたりする場面で「思考・判断・表現」や「主体的に学習に取り組む態度」の観点で評価する。
第11時に、地域の年中行事への関わり方を考え、自分たちにできることを話し合い地域の人々に発表する際、「思考・判断・表現」について、ノート等の記述や発言の内容から、これまで学習した「くらやみ祭を保存・継承するための取組などを基に考えているか」を評価する。また、話し合い後、地域の年中行事を受け継ぐために大切なことを考える活動において、「主体的に学習に取り組む態度」の観点について、記述や発言内容から「地域の年中行事を保存・継承するために今の自分たち、あるいは将来の自分たちに具体的に何が出来るか」を考えているかを評価する。

3 小単元の指導計画 (10時間扱い)

過程	ねらい (○数字は第○時を表す)	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される子供の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点 ○資料 ☆★評価【観点】)
つ か む	①都内の主な文化財や年中行事の名称や位置を調べ、都内の文化財や年中行事が多くあることを理解できるようにする。	○自分たちの住む地域の文化財や年中行事を振り返る。 ◆東京都には、どのような文化財や年中行事があるのだろう。 ○都内の主な文化財や年中行事を調べ、白地図に位置と名称を書く。 ・都内には多くの文化財や年中行事がある。 ・くらやみ祭という不思議な名前の祭がある。	○文化財や年中行事のパンフレット ○東京都の白地図(地図帳) □自分が年中行事に参加したことなどを想起させる。 ☆記述などから「必要な情報を集め、読み取り、都内には文化財や年中行事が多くあることを理解しているか」を評価する。【知①】
	②くらやみ祭の歴史の長さについて着目して、問いを見だし、学習問題を考えることができるようにする。	◆武蔵府中くらやみ祭はどのような祭なのだろう。 ○くらやみ祭の様子を調べ、発表する。 ・大きな太鼓・神輿・山車・提灯がある。 ・法被を着て、烏帽子をかぶっている。 ・ニュースにも出るくらい、東京都で有名な祭だ。 ○くらやみ祭の歴史の長さを調べ、疑問を話し合い、学習問題を立てる。 ・くらやみ祭は1100年も続いていて、他の有名な年中行事よりも歴史が長い。いつ頃、始まったのだろう。 ・どうして、こんなに長く続いているのだろう。 ・地域の人が何か努力しているのではないかな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;">武蔵府中くらやみ祭は、どのようにして1100年間受け継がれてきたのだろう。</div>	○くらやみ祭の様子(動画・写真) ○年中行事の歴史の長さ(グラフ) □他の年中行事の歴史の長さを比較し、問いを見だすことができるようにする。 ☆発言や記述から、「くらやみ祭の歴史の長さに着目して、問いを見だしているか」を評価する。【思①】
	③地域の人々の働きに着目して、学習問題について予想し、学習計画を立てることができるようにする。	○資料を基に、学習問題について予想する。 ・受け継ぐために、話し合いをしているのではないかな。 ・参加者を増やす工夫(努力)をしているのではないかな。 ○予想を確かめるために何を調べたらよいか考え、学習計画を立てる。 ・いつ頃、どのように始まったか。(歴史的背景や現在に至る経緯) ・大祭委員会はどのような話し合いをしているのか。(保存や継承のための取組) ・地域の人々は、参加者を増やすためにどのような工夫をしているのか。(保存や継承のための取組)	○大祭委員会や万灯大会などの写真 □学習計画表にまとめ、見直しをもたせる。 ★発言や記述、学習計画表から「学習問題の解決に向けた予想をもとに学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。【態①】
し ら べ る	④歴史的背景や現在に至るまでの経過について調べ、くらやみ祭の起こりやなりたち、市内外の関わりを理解できるようにする。	◆いつ頃、どのように始まったか。 ○資料から、起こりやなりたちについて調べる。 ・都の文化財になっている大國魂神社の祭である。 ・平安時代に大國魂大神をはじめ、多くの神々や人々が幸せになれるように始まった祭である。 ・市外にいる神社の神様に向けての祭でもある。 ◆どのような人々がくらやみ祭に関わっているのか。 ○資料から、市内外の関わりについて調べる。 ・市内の人々だけでなく、市外の人々も関わっている。 ・伝統ある太鼓を守るなどの市内の人々と協力して祭を運営している。 ○調べたことを「小見出し」にまとめる。	○くらやみ祭の年表 ○府中郷土の森資料館館長の話 ○くらやみ祭に関わる人々(地図) ○講中の方の話 □大國魂神社が都の文化財になっていることに触れる。 ☆小見出しなどの記述から「必要な情報を集め、読み取り、くらやみ祭の起こりやなりたち、市内外の関わりについて理解しているか」を評価する。【知①】
	⑤受け継ぐための取組について調べ、くらやみ祭を運営する大祭委員会の役割を理解できるようにする。	◆大祭委員会はどのような話し合いをしているのか。 ○資料を比較し、大祭委員会がどのような話し合いをしているのか考える。 ・昔は、喧嘩など危険なことが起こり中止になった。 ・現在は、みんな同じ衣装で神輿を担いでいる。 ・祭のルールを話し合いで決めたのではないかな。 ○資料から、大祭委員会の役割を調べる。 ・白装束を着た人のみ神輿を担ぐことができるなどのルールを決めた。 ・みんなが安全で楽しい祭をするために、話し合いをしている。 ○調べたことを「小見出し」にまとめる。	○昭和30年頃と現在の祭の様子と写真と文章 ○大祭副委員長の方の話 ☆小見出しなどの記述から「必要な情報を集め、読み取り、くらやみ祭を運営する大祭委員会の役割を理解しているか」を評価する。【思①】

	<p>⑥受け継ぐための取組について調べ、くらやみ祭を盛り上げる青年大祭委員会の役割を理解できるようにする。</p>	<p>◆地域の人々は、参加者を増やすためにどのような工夫(努力)をしているのか。 ○資料から、参加者を増やすための工夫を調べる。 ・万灯大会は昭和54年から青年大祭委員会が開催した。 ・青年大祭委員会は、高校生以上になると入ることができる。多くの人は、子供の頃から祭に関わっていた。 ・万灯大会は、くらやみ祭を見に来る人によって人気の行事になっている。 ・各町会の万灯づくりが始まると、くらやみ祭に向けて町会が団結して、気持ちを高めていく姿が見られる。 ○調べたことを「小見出し」にまとめる。</p>	<p>◎万灯大会や子供神輿の写真 ◎くらやみ祭の年表 ☆小見出しなどの記述から「必要な情報を集め、読み取り、くらやみ祭を盛り上げる青年大祭委員会の役割を理解しているか」を評価する。 【知①】</p>
ま と め る	<p>⑦年表に調べたことを整理し、受け継ぐ人々の工夫や努力と地域の人々の願いを関連付け、くらやみ祭が長く続く意味を考え表現できるようにする。</p>	<p>○調べたことをまとめた「小見出し」を基に、年表に整理する。 ・平安時代から始まったくらやみ祭に多くの人々が関わっていた。 ・中止になる危機もあったが、安全で楽しい祭を続けるために地域の人々が努力をした。 ・現在も、地域の人々が参加者を増やすための工夫をして、くらやみ祭を盛り上げている。 ◆地域の人々は、なぜ、くらやみ祭を受け継いできたのだろうか。 ○受け継ぐ人々の工夫や努力と地域の人々の願いを関連付けて、くらやみ祭が長く続く意味を考える。 ・府中市の人々が昔からずっと受け継いできたから。 ・府中市の人々は、くらやみ祭を誇りに思っているから。 ・府中市を盛り上げたいと思っているから。</p>	<p>□年表に整理させることで、時間的な見方で、くらやみ祭の様子を捉えさせる。 ★年表の記述から「受け継ぐ人々の工夫や努力と地域の人々の願いを関連付けて、くらやみ祭が長く続く意味について考えているか」を評価する。 【思②】</p>
	<p>⑧学習問題に対する自分の考えをまとめ、くらやみ祭は、地域の人々が受け継いできたことや、それらには地域の発展へ願いが込められていることを理解できるようにする。</p>	<p>○学習問題について分かったことや調べたことをまとめ、話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>くらやみ祭は平安時代から始まり、大祭委員会や青年大祭委員会など多くの地域の人々が受け継いできた。それらには、府中市の長くから続くくらやみ祭を受け継いでいきたい、府中市を盛り上げていきたいという願いが込められている。</p> </div> <p>○学習を振り返り、地域の伝統や文化を保護したり継承したりする取組について、さらに調べるべきことを見いだす。 ・自分たちの住む地域には、くらやみ祭のような年中行事があるのか。</p>	<p>★学習問題に対する自分の考えの記述から「くらやみ祭は、地域の人々が受け継いできたことや、それらには地域の発展へ願いが込められていることを理解しているか」を評価する。【知②】</p>
つ な ぐ	<p>⑨⑩学習したことを基に、地域の年中行事について、自分たちにできることを考えようとする態度を養う。</p>	<p>◆自分たちの住む地域には、どのような年中行事があるのか。 ○地域の年中行事の様子を調べる。 ・自分たちの住む地域にも、昔から受け継がれている年中行事があった。 ・地域の人々の幸せを願って年中行事が行われている。 ・参加者が減っているなどの課題がある。 ◆自分たちの住む地域の年中行事のために、自分たちにできることは何だろう。 ○地域の年中行事を受け継ぐために自分たちにできることを考え、話し合い、分類する。 ・地域のお祭に参加したり協力したりしていきたい。 ・みんなが参加できる新しい行事を考えていきたい。 ・多くの人々が関わられるようにPRをしていきたい。 ・自分たちだけでなく、地域の人々と協力して取り組まなければならないこともある。 ○分類した内容を基に、地域の年中行事を受け継ぐために大切なことを考える。 ・くらやみ祭と同じように、自分たちの住む地域の年中行事は自分たちで受け継いでいかなければならない。</p>	<p>◎地域の年中行事の様子(写真・文章・年表など)や関わる人(GT) □「地域の人々と協力すること」「すぐにできること」「時間をかけて実現すること」など、分類することを通して、自分たちにできることを選択・判断させる。 □GTに向けて発表させ、価値付けてもらう。 ★記述や発言内容から「学習したことを基に、自分たちの地域の年中行事の保存や継承に関わって自分たちにできることを選択・判断して、適切に表現している。」を評価する。【思②】 ★記述や発言の内容から「学習したことを基に、自分たちの地域の年中行事の保存や継承に関わって、自分たちにできることを考えようとしている。」を評価する。【態②】</p>

小単元名	届けよう命の水～玉川兄弟と玉川上水の開発～	配当10時間	内容(4)アの(イ)及び(ウ)とイの(イ)
------	-----------------------	--------	-----------------------

<主として「歴史と人々の生活」の区分>

1 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 小単元の目標

地域の発展に尽くした玉川兄弟らについて、当時の世の中の課題や人々の願いなどに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、年表などにまとめ、地域の発展に尽くした先人の具体的事例を捉え、先人の働きを考え、表現することを通して、地域の発展に尽くした先人は、様々な苦心や努力により当時の生活の向上に貢献したことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

(2) 小単元の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①当時の世の中の課題や人々の願いなどについて、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして必要な情報を集め、読み取り、地域の発展に尽くした玉川兄弟らの業績を理解している。 ②調べたことを年表や思考ツール、文などにまとめ、玉川兄弟らは、様々な苦心や努力により当時の生活の向上に貢献したことを理解している。	①当時の世の中の課題や人々の願いなどに着目して、問いを見だし、玉川上水開削について考え、表現している。 ②玉川兄弟らの業績と、地域の発展や人々の生活の向上を関連付けて、先人の働きを考え、適切に表現している。	①地域の発展に尽くした玉川兄弟らの働きについて、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

2 指導計画の作成に当たって

(1) 学習指導要領との関連

①本小単元は、内容(4)「県内の伝統や文化、先人の働き」について関わる内容である。内容の取扱い(4)イでは、開発、教育、医療、文化、産業などの面で地域の発展や技術の開発に尽くした先人の具体的事例の中から、選択して取り上げるとされている。本小単元では、開発の事例として「玉川兄弟と玉川上水の開発」を取り上げる。水不足に悩まされることなく、健康に生活したいという願いは昔も今も変わらない。玉川兄弟らの苦心や努力により、玉川上水の開削が進められ、水不足が解消し江戸の人々の生活が向上するとともに、多くの分水がつくられ武蔵野台地が発展したこと、さらには、現在の上水道のもとになり、今も地域の人々の憩いの場としての役割も担っていることなど、先人の働きについて自分たちの願いや、現在の人々の生活ともつながりを意識しながら学習を展開できると考える。

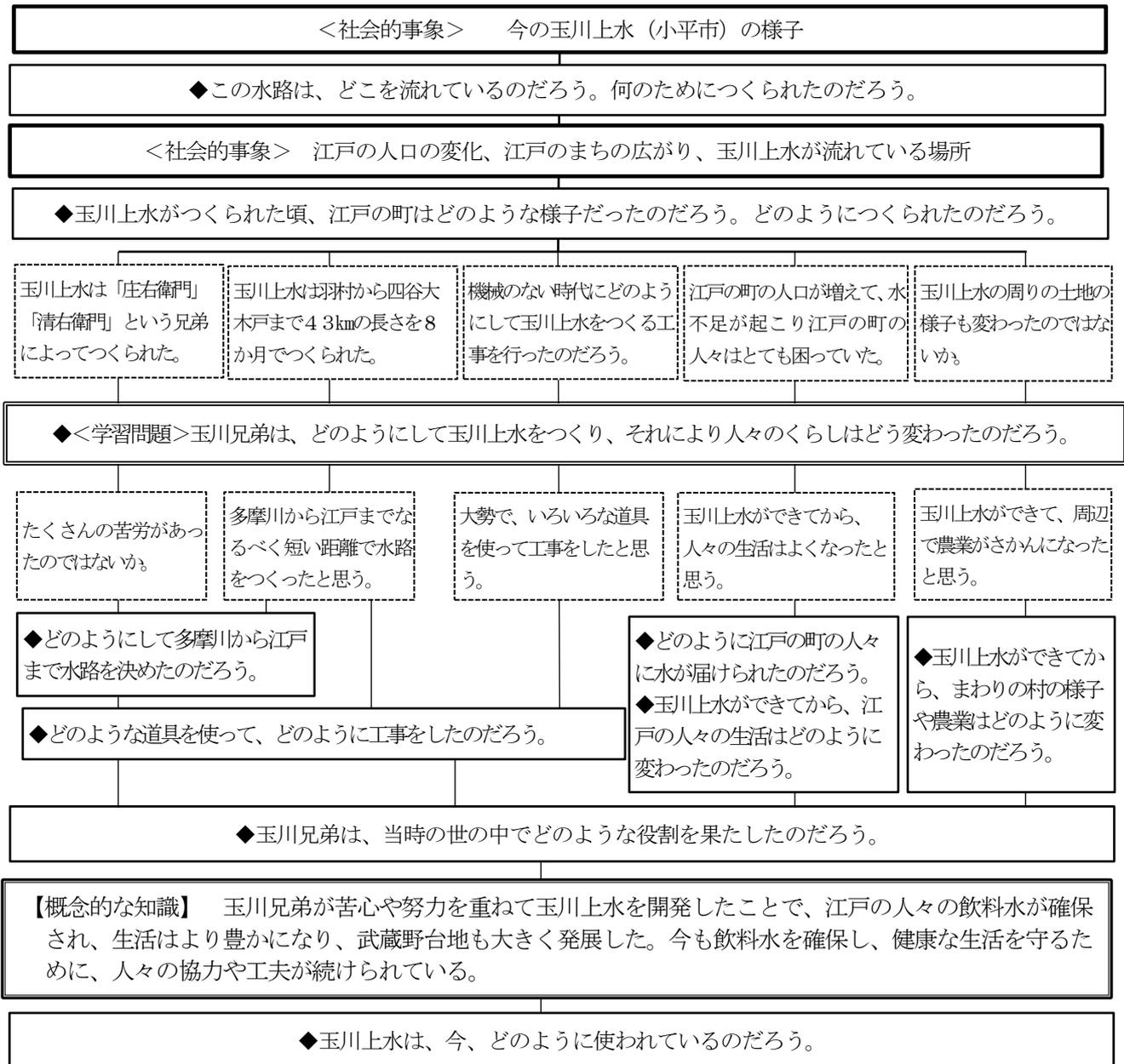
(2) 教材や資料の工夫

①江戸時代、江戸の人口急増による水不足に対応するために、玉川兄弟らは、どのようにして上水を造ったのかという問いをもつことができるようにする。そこで、現存する玉川上水や分水路の様子を取り上げ、自分たちの生活とのつながりや時間の経過に着目しながら、玉川兄弟らの業績について調べられるようにする。また、東西にのびる水路や江戸市中に網の目のように広がる配水路、各地に広がる分水路など、空間的な広がりにも着目して、調べられるようにする。
 ②玉川上水は明治から昭和にかけて、荒れ果てた時期があったものの人々の協力により、現在もなお一部が水道施設としての役割を果たしながら、地域の人々の憩いの場や環境保全としての役割も担っている。その事実を「まとめる」段階で取り上げ、地域社会の発展について考えられるようにする。

(3) 学習展開や学習活動の工夫

①玉川上水やその分水だけでなく、地域に昔につくられた上水路や用水路がある場合、「つかむ」段階で積極的に取り上げたい。自分たちの地域には先人の手で造られた水路があることや、今の水道のもとになっているものが残されていることなどを知ることは、玉川兄弟や玉川上水を心理的、地理的に身近に捉えるきっかけとなり、主体的に学習問題を考えたり予想や学習計画を立てたりすることにつながっていくと考える。
 ②「しらべる」段階では、玉川兄弟らの業績に着目し、玉川兄弟や当時の江戸の人々の立場に立って気持ちを考え、交流し合う活動を設定し、業績と生活の向上の関連について具体的、共感的に考えられるようにする。
 ③過去から現在に至るまで、水道事業がつながっていることを知り、地域社会の一員として、これからの地域の在り方についても考えられるように「まとめる」段階を展開する。

(4) 問いの構成の工夫について



(5) 評価の工夫について

本小単元では、「どのようにして玉川上水をつくったのか」「人々のくらしはどう変わったのか」について追究する。そこで、「しらべる」段階では、子供の子想を基にした「調べる問い」について丁寧に調べまとめさせる。そして、「まとめる」段階では、玉川上水ができたことによって、人々の生活がどのように変わったのか、社会的事象の見方や考え方を働かせて、学習問題に対する自分の考えをまとめられるようにする。その表現活動として、ここでは思考ツールを使って、これまでに調べたことをまとめる活動を設定した。そして、それを基に、キャッチフレーズを考えさせる。それらの記述内容や発言から、「思考・判断・表現」の観点について、子供が玉川兄弟の業績や苦労と江戸や武蔵野台地の人々の生活の向上や発展とを関連付けて、玉川兄弟の働きを考え表現することができているかを評価する。この他にも紙芝居づくりや当時の人々になったつもりで新聞を作ることも考えられる。少人数グループを作って、対話しながらキャッチフレーズを考えさせたり1つの作品を共同制作したりする活動も考えられる。

また、第10時には、現在も保存されている玉川上水を取り上げる。歴史に関する内容においては、現在の自分たちの生活と当時の人々の生活が乖離してしまうことが多い。そこで、「まとめる」段階で、現在も玉川上水が残されていて大切に保存していることを取り上げ、現在の生活は過去の様々な出来事が積み重なって受け継がれていることを考える。ここでは、「思考・判断・表現」の観点から評価する。個人で考えた後、少人数グループで話し合わせ、どう考えたのか発表し、評価につなげる。先人の業績と現代の社会を結びつけ、その働きを考えているかを評価する。

3 小単元の指導計画 (10時間扱い)

過程	ねらい (○数字第○時を表す)	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される子供の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点○資料☆★評価【観点】)
つかむ	①都内を流れる玉川上水や身近な分水路について観察し、玉川上水が江戸時代につくられたことや、当時の江戸の町の課題について理解できるようにする。	◆玉川上水(分水を含む)とは、どのようなものなのだろう。 ○地域にある用水路を観察して、気付いたことを出し合い用水の開発について関心をもつ。 ・人が掘ったなんて信じられない。とても大変そうだ。 ・私たちの地域には、300年以上前から今の水道の基になる玉川上水や分水路があった。 ・どこを流れているのか。なぜ、掘ったのか。 ◆玉川上水がつくられた頃、江戸の町はどのような様子だったのだろう。 ○江戸の人口急増の様子やそれに伴う課題について調べる。 ・人口が急増したことで水不足になった。 ・江戸の町の人々はとても困っただろう。	□「今の水道の基になっているものを見てみよう。」などと投げかけ、観察したり、写真を示したりする。 ○玉川上水や分水路の様子(観察、写真・動画) ○江戸の人口の変化(グラフ)、当時の江戸や生活の様子 □当時の様子を基に、吹き出しに当時の人の願いを書かせる。 ☆発言や記述から「玉川上水が江戸時代につくられたこと、当時の江戸の町の課題や人々の願いについて理解しているか」を評価する。 【知①】
む	②江戸のまちの人々のくらしの様子を調べ、玉川上水の開発について追究する学習問題をつくり、予想を基にそれを確かめる学習計画を立てることができるようにする。	◆玉川上水は誰が、何のために、どのようにしてつくったのだろう。 ○玉川上水のコースや長さについて調べ、玉川兄弟らの業績について、学習問題をつくる。 ・「庄右衛門」「清右衛門」の兄弟が玉川上水を造るのに関わり、「玉川兄弟」と呼ばれている。 ・羽村から千代田区に向かい約43km。 ・機械のない時代に8か月で掘ったのはすごい。 ・どんな道具を使ったのか、なぜこのコースにしたのか知りたい。	○玉川上水の水路(地図)、江戸の人口の変化、当時の江戸の様子(想像図) ☆発言や記述から「当時の世の中の課題や人々の願いなどに着目して、問いを見出し、玉川上水開削について考え、表現しているか」を評価する。【思①】
玉川兄弟は、どのようにして玉川上水をつくり、それにより人々のくらしはどう変わったのだろう。			
		○学習問題に対する予想を出し合い学習計画を立てる。 ・たくさんの苦労があったのではないか。 ・なるべく短い距離で水路をつくったと思う。 ・大勢で、いろいろな道具を使って工事をしたと思う。 →流路の決定の仕方、工事の方法 ・上水ができて江戸の人々の生活はよくなったと思う。 ・上水ができて、周辺で農業が盛んになったと思う。 →江戸の人々に水を配る工夫、玉川上水と江戸の人々のくらし、武蔵野台地の発展	□学習問題の予想を立てる際、後の資料の一部をヒントとして提示する。 ○東京都の地形図、道具や、木樋、ますの写真 ★発言や記述から「地域の発展に尽くした玉川兄弟らの働きについて予想し、それを基に学習計画を立て解決の見通しをもっているか」を評価する。【態①】
しらべ	③水路の決定の仕方について、郷土資料館を見学したり資料を活用したりして調べ、理解できるようにする。	◆どのようにして多摩川から江戸まで水路を決めたのだろう。 ○流路の決定について、資料を活用して調べる。 ・羽村～武蔵野台地～四谷大木戸 ・長さ43km、高低差92m ・測量の工夫 ○調べたことをもとに玉川兄弟や当時の人々の働きや思いについて話し合う。	○玉川上水の水路と周辺の地形・高低差、測量の様子、周辺の写真等 ☆発言や記述から「資料から必要な情報を集め、読み取り、玉川上水の水路の決定の様子について理解しているか」を評価する。 【知①】
る	④工事の様子について、郷土資料館を見学したり資料を活用したりして調べ、理解できるようにする。	◆どのような道具を使って、どのように工事をしたのだろう。 ○工事の様子について、資料を活用して調べる。 ・使用した道具 ・莫大な費用 ・分担して協力 ・工事の苦労(水喰土、固い岩盤) ○調べたことをもとに玉川兄弟や当時の人々の働きや思いについて話し合う。	○工事の様子や道具(想像図)、水喰土公園・まいまい井戸(写真)等 ☆発言や記述から「資料から必要な情報を集め、読み取り、工事の様子について理解しているか」を評価する。【知①】

し ら べ る	<p>⑤江戸における配水の様子について、郷土資料館を見学したり資料を活用したりして調べ、理解できるようにする。</p>	<p>◆どのように江戸の町の人々に水が届けられたのだろう。</p> <p>○江戸における配水の様子について、資料を活用して調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木の樋、ます、上水井戸 ・水が流れる仕組み <p>○調べたことをもとに玉川兄弟や当時の人々の働きや思いについて話し合う。</p>	<p>◎木の樋やます、上水が流れる仕組み、江戸の配水路図等</p> <p>☆発言や記述から「資料から必要な情報を集め、読み取り、工事の様子について理解しているか」を評価する。【知①】</p>
	<p>⑥上水の完成それを守る努力の様子から、江戸の人々の生活の変化について考え表現できるようにする。</p>	<p>◆玉川上水ができてから、江戸の人々の生活はどのように変わったのだろう。</p> <p>○玉川上水を守る努力について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水番屋、水番人 ・きれいな水を守る努力 <p>○上水完成後の人々の生活や思いについて考え、話し合う。</p>	<p>◎四谷大木戸の様子、水番人の仕事、玉川上水を詠んだ川柳等</p> <p>☆発言や記述から「水不足と水を守る努力、工事の苦労などを関連付け、人々の生活の向上を考え表現しているか」を評価する。【知①】</p>
ま と め る	<p>⑦⑧玉川上水の完成後に武蔵野台地に開かれた分水と田畑との関係について、資料を活用したり地域の人の話を聞いたりして調べ、理解できるようにする。</p>	<p>◆玉川上水ができてから、まわりの村の様子や農業はどのように変わったのだろう。</p> <p>○玉川上水が分水されたことについて調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たくさんの分水が、続けてつくられている。 <p>○分水の造営により村や産業がどのように変わったのか調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口が増え、新しい村ができた。新田(畑)が拓かれた。 ・今まで農業ができなかった土地でも農業ができるようになった。 <p>○分水の広がりや武蔵野の変化について話し合う。</p>	<p>◎分水を示す地図、年表</p> <p>□分水の造営を空間的な広がり、時間的な経過の中で捉えさせる。</p> <p>☆記述や発言から「資料から必要な情報を集め、読み取り、分水の広がりにより武蔵野台地が発展したことについて理解しているか」を評価する。【知①】</p> <p>☆記述や発言から「上水の完成と分水の広がり、周辺の変化を関連付けて、分水の広がりにより武蔵野台地が発展したことを考え表現しているか」を評価する。【思①】</p>
	<p>⑨玉川上水の開発や、玉川兄弟の苦心や苦労について思考ツールにまとめ、先人の働きについて考え、理解できるようにする。</p>	<p>◆玉川兄弟は、当時の世の中でどのような役割を果たしたのだろう。</p> <p>○調べたことや考えたことを玉川上水の地図にまとめ、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・玉川兄弟の努力があったからこそ江戸に暮らす人々の飲料水が確保できた。 ・玉川上水ができたことが武蔵野の発展にもつながった。 <p>○玉川上水にキャッチフレーズを考え、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・命の玉川上水 ・生活を変えた玉川上水 ・江戸の人々を救った玉川上水 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>・「東京都を発展させた玉川上水」 玉川兄弟が苦心や苦労を重ねて玉川上水を開発したことで、江戸の人々の飲料水が確保され、生活はより豊かになり、その分水により、武蔵野台地も大きく発展した。今も飲料水を確保し、健康な生活を守るために、人々の協力や工夫が続けられ</p> </div>	<p>◎これまでのノートや資料等、玉川上水の地図</p> <p>□玉川兄弟の苦心、社会の変化を玉川上水の地図にまとめ、それらを関連付けて兄弟の働きを考えられるようにする。</p> <p>★発言や記述内容から「玉川兄弟らの業績と、江戸や武蔵野の発展、人々の生活の向上を関連付けて、その働きを考え文章にまとめたり説明したりしているか」を評価する。【思②】</p> <p>□キャッチフレーズについては、根拠や理由についてもまとめさせる。</p> <p>★記述等の内容から「玉川兄弟らは、様々な苦心や努力により当時の生活の向上に貢献したことを理解しているか」を評価する。【知②】</p>
	<p>⑩玉川上水の開発から現在までの移り変わりを調べ、先人の働きについて、現在の社会や生活と関連付けて考え表現できるようにする。</p>	<p>◆玉川上水は、今どのように使われているのだろう。</p> <p>○現在の水道事業と比べ共通点について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きれいな水を届ける。自然の川を利用。 ・他地域の協力、水質の管理、広く多くの人々に。 <p>○浄水場の建設により荒れた後、地域の人々の運動により今も自分たちの生活を豊かにする役割を担っていることについて考え、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今では人々の憩いの場となり、緑豊かで環境保全の役割も果たしている。これからも大切にしていきたい。 <p>○単元の学習について振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考えや理解の深まりについて ・学び方について 	<p>□既習の飲料水供給事業を想起させ、自分たちの生活や現在の社会とのつながりについて視点もつことができるようにする。</p> <p>◎玉川上水のあゆみ年表</p> <p>◎荒廃した玉川上水の写真</p> <p>◎清流復活した玉川上水の写真</p> <p>★発言や記述の内容から「玉川兄弟の苦労や玉川上水の完成による当時の生活の向上と、現代の地域の人々の生活を関連付け、その働きを考え、適切に表現しているか」を評価する。【思②】</p>

小単元名	東京のまちを築いた人～後藤新平～	配当10時間	(4)アの(イ)及び(ウ)とイの(イ)
------	------------------	--------	---------------------

<主として「歴史と人々の生活」の区分>

1 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 小単元の目標

関東大震災から東京のまちを復興させた後藤新平について、当時の世の中の課題や人々の願いに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして年表などにまとめ、後藤新平らの業績を捉え、その働きを考え、表現することを通して、後藤新平らは様々な苦心や努力により当時の人々の生活の向上に貢献したことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

(2) 小単元の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①当時の世の中の課題や当時の人々の願いなどについて、見学・調査したり地図や年表などの資料を活用したりして必要な情報を集め、読み取り、後藤新平らの業績を理解している。 ②調べたことを年表や文などにまとめ、後藤新平らは様々な苦心や努力を重ねながら復興を進め、当時の人々の生活の向上に貢献したことを理解している。	①当時の世の中の課題や当時の人々の願いなどに着目して、問いを見だし、震災からの復興していく様子について考え、表現している。 ②後藤新平の業績と、当時の人々の願いや生活の向上を関連付けて、先人の働きを考え、適切に表現している。	①後藤新平らの働きについて、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

2 指導計画の作成に当たって

(1) 学習指導要領との関連

①本小単元は、内容(4)を基にした「県内の伝統や文化、先人の働き」に関わる内容で構成したものである。内容の取扱い(4)イでは、開発、教育、医療、文化、産業などの面で地域の発展や技術の開発に尽くした先人の具体的事例の中から、選択して取り上げるとされている。本小単元では、後藤新平を取り上げている。

後藤新平は、関東大震災により壊滅的な被害を受けた東京のまちを元に戻す「復旧」ではなく、より良い東京を造る「復興」を目指し、その事業を中心となって進めた人物である。さらにその業績は、防災に留まらず、衛生、景観、交通と多岐にわたり、東京において今後発生すると予想される都市の課題を解決し、発展させるために力を尽くした。そのまちづくりの考え方は、現代の東京やわたしたちの生活にも受け継がれていることから、先人の働きについて今の自分たち、未来の自分たちとのつながりを意識しながら学習を展開できると考える。

(2) 教材や資料の工夫

①小単元の導入で、震災直後のまちと復興したまちの様子を取り上げる。それを通して、7年間という短い期間で復興したことに対する驚きや実感をもって捉えられるようにするとともに、その経過について問題意識を深められるようにする。また、復興年表から復興計画の中心となった後藤新平の業績に着目し、社会的事象の見方・考え方(時期や時間の経過、位置や空間的な広がり)を働かせながら、地域の復興小学校や復興公園、橋や道路など、復興時の建造物について調べたり考えたりできるようにする。

②震災に強く、衛生で近代的な都市づくりを目指した後藤の考えは、環状道路や広い道路の建造、耐火建築の建造など、今もなお、東京のまちづくりに受け継がれている事実を「まとめる」段階で取り上げ、現在の社会や生活と結び付けながら地域社会の発展についても考えられるようにする。

(3) 学習展開や学習活動の工夫

①復興年表や震災前と復興後の東京の様子の写真を活用しながら、後藤新平らがどのようなまちを目指して、復興が進められたのか、また、短期間で復興を成し遂げるまで、どのような苦心や努力があったのか、一人一人が自分の予想をもち、学習計画を立てることで、主体的な学習が展開できるようにする。

②地域の復興小学校や復興公園、橋や道路など、復興時の建造物などを積極的に取り上げる。また、社会科見学等と関連を図り、自分たちの地域における関東大震災の被害を取り上げることで、具体的な調査活動や実際に事業にかかわる方々との対話、子供自らが資料を探したり選んだりして調べる活動を通して、先人の苦心や努力に着目し、主体的に調べることができるようにする。

③学んできたことを関連付けて総合し、短期間で復興を遂げた先人たちの苦心や努力を考えられるように、震災の被害にあった人々や後藤新平や復興に携わる人々の立場に立って気持ちを考え、交流し合う活動を設定する。そして、

後藤新平らの業績と生活の向上の関連について具体的に考えを深められるようにする。

- ④「まとめる」段階において後藤新平の都市計画が現代にも生かされていることを取り上げることで、東京に暮らす一人としてこれからの地域の発展について考えることができるようにする。

(4) 問いの工夫



(5) 評価の工夫

「まとめる」段階において、調べたことを基に学習問題に対する考えをまとめる場面で「思考・判断・表現」の観点で評価する。本小單元のように「どのような」を追究する学習問題に対して、「学習問題について自分の考えをまとめよう」という投げかけでは、これまで調べたことを順序よく並べてまとめることになってしまい、「思考・判断・表現」の観点から十分に評価できない場合が多く見られる。

そこで、学習問題についてまとめる前に、「後藤新平は、どのような思いをもち、どのような東京のまちをつくっていったのだろう。」と投げかけ、後藤新平が復興祭に生きていたら、市民に向けてどのような演説をしたのか、演説の原稿を考える活動を設定する。それを通して、後藤らの業績相互を総合したり、当時の人々の生活の向上と関連付けたりして、その働きや思いについて考えられるようにする。その際、細やかに机間指導を行い、子供の学びの状況を的確に把握し、個に応じた支援を行うことが重要である。考えることが難しい子供については、「私が目指したのは次のような町です。」「私が復興で目指したのは『・・・・なまち』です。そのために、・・・・や・・・・をしました。」など、リード文や文型を提示して書き方を示すなどの支援をしていくことも重要である。

そして、原稿内容や子供の発表に対する発言の内容を基に評価していく。具体的には、「地震や火災に強いまち、そして、前よりも健康に生活できるまちを目指して復興を進めてきました。例えば・・・・であります。」「財源や、人々の理解を得るなど大変なこともありました。震災ですべてを失った人々や、焼け野原となった東京のまちを、少しでも早く立て直すことができるよう全力を尽くしました。」など、震災からどのような復興を目指したのか、その具体例を挙げながらまとめていたり、苦労や苦心と人々の生活と関連付けて考えたりすることができていれば「おおむね満足できる」状況と捉えることができる。

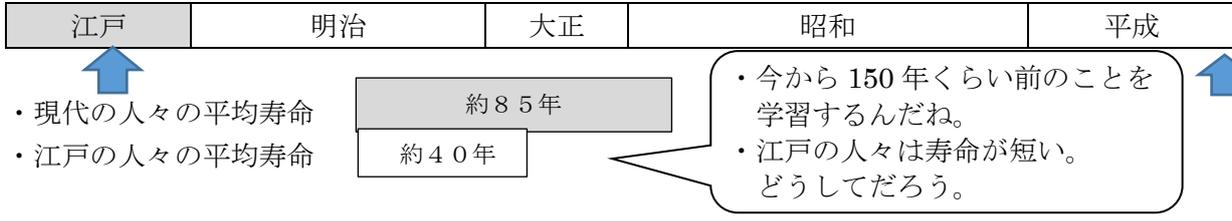
3 小単元の指導計画 (10時間扱い)

過程	ねらい (○数字は第○時を表す)	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される子供の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点◎資料☆評価【観点】)
つ か む	①関東大震災による被害の様子を調べ、東京が大きな被害にあったことを理解できるようにする。	◆関東大震災では、どのような被害があったのだろうか。 ○関東大震災による被害の様子について調べる。 ・建物が倒れている。 ・街に煙が出ている。 ・何もなくなっている。 ・多くの人が怪我をした。 ・東京が大きな被害にあった。 ○関東大震災の被害の様子から、震災後の市民の気持ちや生活の様子、願いを吹き出しに書き話し合う。 ・また大地震がくるのではないかと怖くて眠れない。 ・今後の生活をなんとかしてほしい。 ・地震に強いまちを造ってほしい。	◎関東大震災の写真・被害者数グラフ、火災の広がり、文書資料等 □数、広がり、写真などから被害の甚大さを捉えさせる。 □人々の思いを吹き出し等にまとめる。 ☆発言や記述から「必要な情報を集め、読み取り、関東大震災で東京都や人々の生活が大きな被害を受けたことを理解しているか」を評価する。【知①】
	②震災後と復興後の写真を比較し、気付いたことを話し合うことを通して、疑問に思ったことから学習問題をつくるようにする。	◆震災後の焼け野原から、東京はどのように復興したのだろうか。 ○震災後と復興後の写真を比較し、どのように復興したのか、気付いたことを話し合う。 ・倒壊した建物が新たに建てられている。道路も整備されている。 ・7年で復興している。 ・人々は大変な思いをしただろう。 ○後藤新平が中心となり、復興が進めたことを知り、疑問に思ったことから、学習問題を立てる。 ・後藤新平は東京を復興させるために、どのようなことをしたのか。なぜ復旧ではなく、復興なのか。 ・どうしてこんなに早く進められたのか。 ・どんな東京のまちを目指したのか。	□前時の吹き出しを活用し、復興に対する人々の思いについて問題意識を高める。 □震災後と復興後の写真を比較することで、まちの変化に気付かせる。 ◎震災後と復興後の写真 ◎復興年表と後藤新平の写真 ◎後藤新平の人物年表と人物紹介映像 ◎復興計画会議の写真 ☆発言や記述から、「震災の被害や当時の人々の願いなどに着目して、問いを見いだしているか」を評価する。【思①】
	③復旧ではなく、復興という視点から学習問題について予想し、学習計画を立てることができるようにする。	○復興までの大まかな流れについて調べ、わかったことや復興年表を基に、どのようにして復旧ではなく復興してきたのかグループで話し合い、予想する。 ○予想をもとに学習の計画を立てる。(予想) → (調べる問い) ・道路の道を前より使いやすようにしたのではないかと。 →どのような思いで道路整備を行ったのだろうか。 ・橋や公園が以前のものより頑丈にしたのではないかと。 →どのようなことを考えて橋や公園を造ったのだろうか。 ・地震に強いまちをつくらうとしたのではないかと。 →どのようなことを考えて下水道や建物の整備を行ったのだろうか。 →どのような願いを込めて小学校を復興したのだろうか。	◎震災後と復興後の写真、復興年表と後藤新平の写真・人物年表、復興計画会議の写真等 □資料や既習内容などを基に、根拠を明確にして予想を立てられるようにする。 □予想を確かめるために何を調べたらよいか、資料等も活用しながら問いの形式で具体的にし、学習計画表にまとめる。調べる順序は、内容や子供の関心等を基に決める。 ★発言や記述、学習計画表から「学習問題の解決に向けた予想をもとに学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。【態①】
し ら べ る	④道路整備、区画整理について調べ、その様子や後藤新平らの考え方を理解できるようにする。	◆後藤新平らは、どのような思いで道路整備を行ったのだろうか。 ○震災前と復興後の道路の写真を比較し、復興の様子を調べる。 ・昔は道路が狭いが、復興後は広く真っ直ぐな道が増えた。 ・震災前は家が密集していたが、復興後は区画が決まっている。 ○道路を整備しようとした後藤らの思いを考える。 ○永田秀次郎の演説を読み、多くの反対にあったことを捉え、当時の後藤らの苦労について考えたことを話し合う。	◎区画整理前と後の向島の様子、区画整理について東京市民に訴えた永田秀次郎の演説、復興後にできた道路(昭和通り) □写真の比較により気付いたことと演説の内容を関連付けて、道路整備の様子を捉えられるようにする。 ☆発言や記述から「必要な情報を集め、道路や区画整理の様子やその後藤新平らの考え方について理解しているか」を評価する。【知①】

し ら べ る	⑤橋や公園の整備について調べ、その様子や後藤新平らの考え方を理解できるようにする。	◆後藤新平らはどのようなことを考えて橋や公園をつくったのだろう。 ○橋の被害状況から気付いたことを話し合う。 ○昔の橋と現在に残る橋の写真を比べ、どのような思いで橋を造り直したのかを考える。 ○地震や火災が起きた時に、多くの人が避難できる公園を造ろうとした後藤新平らの思いを考える。 ・火災や地震が起きた時に多くの人が避難できる。	◎震災直後の永代橋、今の永代橋、今の隅田公園等 ☆発言や記述から「必要な情報を集め、橋や公園の整備の様子やそれを進めた後藤新平らの考え方について理解しているか」を評価する。 【知①】
	⑥下水道の整備について調べ、その様子や後藤新平らの考え方を理解できるようにする。	◆後藤新平らは、どのようなことを考えて下水道や建物の整備を行ったのだろう。 ○道路の地下の模型から、下水道が地下に整備されたことを知る。 ・早く下水道や建物などを整備しないとイケない。 ○同潤会上野下アパートの写真や資料から後藤新平らの働きを知る。 ・昔に比べて高い建物になり、今の生活と変わらない。	◎雨水がたまり水びたしになった様子（下水道整備前） ◎道路の地下の模型 ◎同潤会上野下アパートの写真や資料 ☆記述や発言から「必要な情報を集め、下水道整備の様子やそれを進めた後藤新平らの考え方について理解しているか」を評価する。 【知①】
	⑦復興小学校の建設について調べ、その様子や後藤新平らの考え方を理解できるようにする。	◆後藤新平らは、どのような願いを込めて小学校を復興したのだろう。 ○震災で東京にあった196校の小学校が被害にあったことを知り、後藤新平らはどのような学校を造ろうとしたのかを考える。 ○佐野利器の協力の基、建設した復興小学校の工夫から後藤新平らがどんな小学校を建設しようとしたかを考える。	◎復興小学校と小公園 ◎坂本小学校の当時の水洗トイレ ☆記述や発言から「必要な情報を集め、復興小学校建設の様子やそれを進めた後藤新平らの考え方について理解しているか」を評価する。 【知①】
ま と め る	⑧後藤新平らの業績と、当時の人々の願いが実現し、生活の安定と向上が図られたことを関連付けて後藤らの働きを考え、演説の原稿に表現できるようにする。	◆後藤新平は、どのような思いをもち、どのような東京のまちをつくっていったのだろう。 ○もし後藤新平が復興祭に生きていたら、市民に向けてどのような演説をしたか、演説原稿にまとめる。 ○グループで交流し合い、修正し、発表し合う。 ・帝都復興は、多くの人から反対があったことは事実です。ですが、この事業は今を生きる市民の、そしてこれからを担う子供たちための復興です。その一役を任されたことを嬉しく思います。どうか、この東京のまちをこれからも大切に、誰もがくらしやすいまちにしてください。	◎帝都復興祭の様子 □調べた事実を関連付けたり、総合したりして、どのような東京のまちを目標としたのか、そのための苦労等について、後藤の立場に立ってまとめられるようにする。 ★記述や発言内容から「後藤新平らの業績や考えと、当時の人々の願いや生活の安定と向上を関連付けて後藤らの働きについて考え、演説の原稿に表現しているか」を評価する。 【思②】
	⑨関東大震災の復興における後藤新平らの働きについて、理解できるようにする。	◆後藤新平らは、どのようにして東京のまちを復興させたのだろう。 ○学習してきたことを基に学習問題に対して分かったことや考えたことをまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">関東大震災から7年、反対もあったが後藤新平らは協力し、苦労を重ねてそれを乗り越えていった。それは、市民のために強く衛生的で美しいよりよい東京のまちをつくった。</div> ○復興への道のりをキャッチフレーズにまとめ、話し合う。 ・「復興のエキスパート、後藤新平」 ・「全ては100年後の未来に向けて、後藤新平」	□調べたことを基に、根拠を明確にして各自で考えをまとめ、グループ、全体で話し合い考えを深められるようにする。 ★学習問題のまとめやキャッチコピーの記述から「後藤新平らは様々な苦心や努力を重ねながら復興を進め、よりよい東京をめざし、当時の人々の生活の向上に貢献したことを理解しているか」を評価する。 【知②】
	⑩後藤新平らの働きについて、現在の東京のまちづくりの視点から考え表現できるようにする。	◆後藤新平の業績や考えは、今にどのように受け継がれているのだろう。 ○現在に残る復興の業績を振り返る。 ○後藤新平の道路計画、現在の道路を比べて話し合う。 ・今の道路も後藤新平の考えた道路計画と似ている。 ・中心から広がる道路と、それらをつなぐ丸い道路がある。 ・後藤らの業績や考えは、今の社会や生活にも受け継がれている。	◎後藤新平の写真、新平が考えていた道路計画、今の東京の道路計画 ★記述や発言の内容から「後藤新平らの苦労や東京の復興と、現在の東京のまちづくりを関連付け、後藤らの働きを考え、適切に表現しているか」を評価する。 【思②】

第1時の資料(つかむ)

資料 江戸時代から平成までの等尺年表と江戸時代と平成の平均寿命の比較図



◆江戸の人々は、どのように天然痘とたたかったのだろうか。



資料 疱瘡神社 (小金井市)



資料 源為朝 浮世絵
出典: Science Window



資料 天然痘対策の絵

出典: 静岡みきのくち保存研究会HP

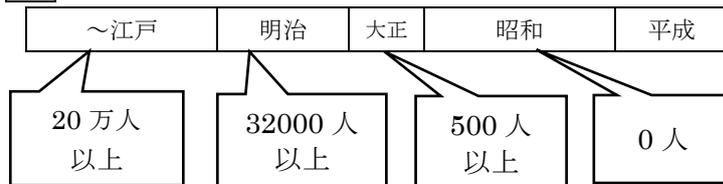
江戸時代の人々の平均寿命や人々の対策、当時の人々の願いと自分たちとの共通点に着目する。

- ・天然痘は恐ろしい病気だけど、治療法や予防法がない時は、神様に祈るしかなかった。
- ・効かないかもしれないけど、今でも病気の時、同じような気持ちになるよ。

第2時の資料(つかむ)

◆なぜ、天然痘患者が減っているのだろうか。

資料 天然痘で亡くなった人数の推移(年間) …等尺年表活用



自分だったら牛種痘をうつうたない?(名札で自分がどちらか意思表示)

時間の経過とともに、天然痘が減少していること、そこに伊東玄朴がかかわっていることに着目する。



資料 伊東玄朴肖像画

(出典: Wikipedia)

- ・どうして天然痘にかかる患者は0人になったのだろうか。
- ・伊東玄朴は、天然痘から江戸の人々を守るためにどのようなことをしたのだろうか。

【学習問題】

伊東玄朴たちは、天然痘から江戸の人々をどのようにして救ったのだろうか。

小単元名	染め物のさかんな新宿区	配当 10時間	内容 (5) アの(ア)及び(イ)とイの(ア)
------	-------------	---------	-------------------------

<主として「地理的環境と人々の生活」の区分>

1 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 小単元の目標

染め物産業の盛んな新宿区の様子について、盛んな地域の位置や自然環境、染め物産業に携わる人々の活動や歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、地図帳や各種資料を活用して調べて、白地図などにまとめ、地域の様子を捉え、その特色を考え、表現することを通して、様々な立場の人々と協力し、特色ある町づくりや染め物産業の発展に努めていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

(2) 小単元の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①新宿区の位置や自然環境、染め物産業に携わる人々の活動や歴史的背景、人々の協力関係などについて地図帳や各種資料を活用して調べ、必要な情報を集め、読み取り、染め物産業が盛んな新宿区の様子を理解している。 ②調べたことを白地図や文章などにまとめ、染め物産業に携わる人々が協力し、特色ある街づくりや染め物産業の発展に努めていることを理解している。	①新宿区の位置や自然環境、染め物産業に携わる人々の活動や歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、問いを見だし、染め物産業が盛んな新宿区の様子について考え表現している。 ②地域の人々の活動や染め物産業と地域の発展を関連付けたり、自分たちの住む地域と比較したりして、染め物産業の盛んな新宿区の特色を考え、適切に表現している。	①新宿区でさかんな染め物産業について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

2 指導計画の作成に当たって

(1) 学習指導要領との関連

①本小単元は、内容(5)の「地理的環境と人々の生活」に関する内容で構成した小単元である。本内容については、内容の取扱い(4)アにおいて、伝統的な技術を生かした地場産業が盛んな地域、国際交流に取り組んでいる地域及び地域の資源を保護・活用している地域を取り上げることとされている。本指導計画では、地場産業の事例として、東京都で伝統的な染め物産業が盛んな地域である新宿区を中心に取り上げる。染め物産業は自然環境との関連が強いとともに、分業により多くの職人が協力をして着物等を作っている。また、新宿区は、行政や地域など、様々な立場の人々が協力して、染め物産業を未来に受け継いでいくための取組がなされており、その特色を捉える上で効果的であると考えられる。

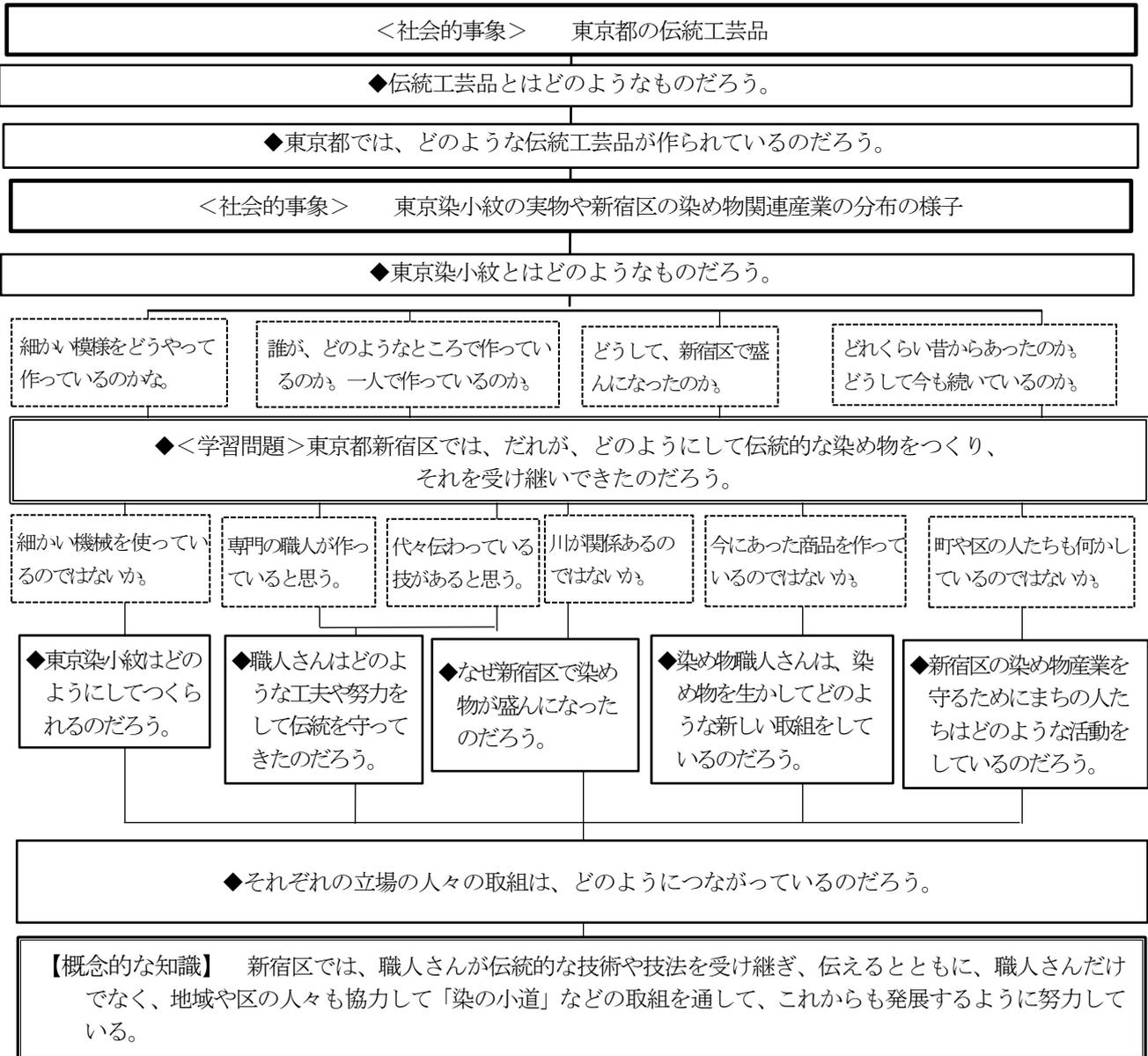
(2) 教材や資料の工夫

- ①小単元の導入で、東京都における伝統工芸品を空間的な広がりの中で概観し、東京都にも多くの伝統的な技術や産業が受け継がれていることに気付かせる。そして、新宿区の染め物産業から東京染小紋を中心に上げ、社会的事象の見方・考え方を働かせて学習問題をつくり、新宿区における染め物産業の成り立ち、技術や技法の伝承、自然環境の条件、人々の協力による町づくりの取組について、調べたり考えたりできるようにする。
- ②伝統的な染め物産業を生かした町づくりの様子を捉えられるように、様々な立場の人々が取り組むイベント「染めの小道」を教材として取り上げる。
- ③伝統工芸品やそれを作る伝統的な産業は子供にとって身近であるとは言いがたい。その良さや技術、工夫を具体的に捉えられるように、「つかむ」段階や「調べる」段階において、可能な範囲で実物を用意して直接子供が触れられるようにしたい。保護者に協力を依頼するのも一つの方法である。

(3) 学習展開や学習活動の工夫

- ①「つかむ」段階において、東京都内の伝統的な地場産業の製品を調べ、それを東京都の白地図にまとめる活動を設定する。それを通して、社会的事象の見方・考え方を働かせ、東京都全体に広がっていることや、分布に偏りがあることに気付かせ、その理由や地域の様子に関心をもたせる。また、その際、伝統工芸品の実物や現地の様子を捉えられる写真なども用意できるとよい。
- ②全国伝統的工芸品の東京染小紋・東京手描友禅、東京都伝統工芸品の江戸更紗など、新宿区の染め物産業に携わる人々が協力し合ってその伝統を守り、現代に生かし、まちづくりや地域の発展に結び付けていることを基に、「まとめる」段階で地場産業に対する自分のこれからの関わり方について考える活動を設定する。

(4) 問いの構成の工夫



(5) 評価の工夫～「まとめる」段階における評価の工夫と評価の実際～

調べたことを基に学習問題に対する考えをまとめる場面で「思考・判断・表現」の観点で評価する。

本小單元のように「どのように」を追究する学習問題に対して、「学習問題について自分の考えをまとめましょう」という投げかけでは、これまで調べたことを順序よく並べてまとめることに止まってしまい、「思考・判断・表現」の観点から十分に評価できなかったり、中心概念のように概念的な知識に深まるまでに至らなかつたりする場面が多く見られる。

そこで、「(4) 問いの構成の工夫」にあるように、学習問題について考えるための問いを投げかける。そして、自分の結論とともに、その理由をしっかりと書かせる。結論だけでなく理由も多様であることが予想されるため、子供相互の対話的な活動も促すことができる。

そして、対話の部分も含め、子供が調べた事実を関連付けながら、位置や自然環境、染め物産業に携わる人々の活動や歴史的背景、人々の協力関係などに着目し、地理的環境と人々の生活を関連付けながら染め物の盛んな地域の特色を、考えたことを記述や発言などから評価していく。

実際の評価においては、基になる事実を明確にしているか、誰と誰のつながりを考えているかに気を付けて評価していく。例えば、「技術が弟子に受け継がれていくように、昔の職人さんと今の職人さんはつながっていると思う」「職人さんや区、町の人たちが協力して『染めの小道』を開いて、染め物や町を盛り上げている。職人さんや区、町の人もつながっている」「職人さんが作った染め物を今の私たちも使っている。自分たちも職人さんにつながっている。さらに昔の職人さんともつながっている」など、にまとめている記述については「おおむね満足できる」状況にあると捉えられる。さらに複数の考えを書いたり、多様な視点からつながりを考えたりしている場合は「十分に満足できる」状況として評価することができる。

3 小単元の指導計画（10時間扱い）

過程	ねらい (○数字は第○時を表す)	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される子供の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点○資料★評価【観点】)
つ か む	①②東京都の伝統工芸品について資料を活用して調べ、東京都には多くの伝統工芸品があることを理解できるようにする。	○東京都の様々な地域の様子を見て話し合う。 ◆伝統工芸品とはどのようなものだろう。 ○伝統工芸品の実物や写真を見たり、資料を読んだりして調べる。 ・昔っぽい。 ・きれいな模様。 ・今も使っている。 ・日常生活で使われる物、製造過程の主要部分が手作り、伝統的技術または技法によって製造、伝統的に使用されてきた原材料、一定の地域で産地を形成。 ◆東京都では、どこで、どのような伝統工芸品が作られているのだろう。 ○東京都の伝統工芸品を白地図にまとめ、気付いたことを話し合う。 ・東京都のいろいろな所で様々な物をつくっている。 ・台東区にはたくさんさんの工芸品がある。 ・新宿区には染め物に関する工芸品が多い。	○伝統工芸品(実物、写真)、伝統工芸品とは(文章) □実物から伝統品のよさや特徴を感じられるようにする。 ○東京都伝統工芸品指定制度(一覧票)、東京都伝統工芸品(一覧表) ○東京都地図、白地図 □東京都には多くの伝統工芸品があることや、地域ごとに伝統工芸品の特徴があることに気付かせる。 ☆発言や記述から「資料を読み取って白地図にまとめ、東京都には多くの伝統工芸品があることを理解しているか」を評価する。【知①】
	③新宿区に東京都指定伝統工芸品の東京染小紋が現在も残っていることを知り、学習問題をつくり、学習計画を立てることができるようにする。	○オリンピック・パラリンピック公式プレミアムグッズのスクarfを見て、気付いたことを発表し合う。 ・ポスターと同じ柄だ。 ・布だから多摩織の八王子かな。 ◆東京染小紋とは、どのようなものだろう。 ○東京染小紋の実物を見て気付いたことや思ったことを発表する。 ・遠くから見ると無地に見える。 ・近くで見ると細かい模様がたくさんある。 ○新宿区の染め物関連産業の分布を調べ、気付いたことを発表し合い、学習問題をつくる。 <div data-bbox="287 1075 1021 1164" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 東京都新宿区では、だれが、どのようにして伝統的な染め物をつくり、それを受け継いでまちづくりをしているのだろう。 </div> ○予想を話し合い、学習計画を立てる。 ・東京染小紋はどのようにして作られるのかな。 ・職人さんたちはどのような工夫や努力をして伝統を守ってきたのかな。 ・なぜ、新宿で染め物が盛んになったのだろう。	○東京染小紋の実物や写真 ○染め物工房の分布図 ○現在の新宿区の染工場(分布図) □スクarfも東京都伝統工芸品であることを伝える。また、但し書きから東京染小紋であることを捉えさせる。 □工場分布図から神田川沿いで染め物づくりが盛んだったことに気付かせる。 ☆発言や記述から、「新宿区の自然環境や染め物産業に携わる人々の活動に着目して問いを見いだしているか」を評価する。【思①】 ★発言や記述、学習計画表から「学習問題の解決に向けた予想をもとに学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。【態①】
し ら べ る	④染め物がどのように作られているか、道具や手順を調べ、理解できるようにする。	○染小紋づくりに使われる道具の写真を見て気付いたことを発表し合う。 ◆東京染小紋はどのようにしてつくられるのだろう。 ・細かい作業や力を必要とする作業もある。 ・刷毛がたくさんある。 ・昔は川を使って水洗いをしていた。 ・生地がとても長い、板に張られた生地はしわ一つない。 ○作業工程や、内容を調べて考えたことについて話し合う。[職人の技術が特に必要な工程はどこだろう。] ・型紙の模様がとても細かいので練習がたくさん必要なのではないか。 ・13mもあるものは一人ではできないので、職人さん同士で息を合わせないといけないと思う。	○型紙、白生地(実物)、刷毛、染料(写真)、作業工程(写真、動画) □細かく分業されており、高度な技術を受け継いでいることが分かるようにする。 □作業工程を調べることで、職人の工夫や努力へ視点が向くようにする。 □型紙や白生地から他地域とのつながりに気付かせる ☆発言や記述から「必要な情報を集め、染め物のつくり方について理解しているか」を評価する。【知①】
	⑤染め物職人さんたちの工夫や努力、思いについて調べ、理解できるようにする。	◆職人さんたちはどのような工夫や努力をして伝統を守ってきたのだろう。 ○染め物をつくるための工夫や努力を予想する。 ・長い時間をかけて修行しているんだと思う。 ・使う人のことを考えて丁寧に仕事をしていると思う。 ○職人の染め物に対する思い、染め物を作るための工夫や努力を資料から調べる。[職人たちは、どのような思いで伝統を守ってきたのだろう。] ・一人前になるために10年以上かかる。	○職人さんの思い(文章資料) ○前時の資料 □受け継がれてきた技術と、職人の思いを関連付けて考えるように助言する。 □前時までの資料を活用しながら話し合うことで、根拠をもつことができるようにする。 ☆発言や記述から「必要な情報を集

		<ul style="list-style-type: none"> ・注文通りの色ができるまで何度も試す。 ・自分たちの仕事に誇りをもってやっているから、大変なことでも大丈夫なんだね。 	<p>め、染め物職人の伝統をつないでいく思いについて理解しているか」を評価する。【知①】</p>
し ら べ る	<p>⑥新宿区の地理、歴史的な特色から、染め物が盛んになったわけを考え表現できるようにする。</p>	<p>◆なぜ新宿区で染め物が盛んになったのだろう。</p> <p>○染め物工場分布図や水洗いをしている写真から、新宿区で染め物が盛んになったわけを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川沿いに工場が多い。 ・染め物には水が必要だった。 ・神田川や妙正寺川など水がたくさんあった。 <p>○大正から昭和の新宿区における染め物工場の数を比較し、新宿区で染め物盛んになったわけを考える。</p> <p>○新宿区に染色業者が移ってきたこと、その理由を調べ、落合で染め物が盛んになったわけをまとめる。 [なぜ、新宿区に染色業者が移ってきたのだろう。]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きれいで豊富な水がたくさんあったから。 ・大きな地震の影響で人の動きがあったから。 	<p>◎染め物工場分布図(分布図)、</p> <p>◎水洗いの様子(写真)</p> <p>◎染屋の移転 (文章資料)</p> <p>□関連産業の職人やほかの染め物の仕事についても触れることで、落合の染め物への関心を向けられるようにする。</p> <p>☆記述や発言から「調べた事実を基に、染め物づくりの工程と関連付けて、染め物が盛んになった理由について考え、適切に表現しているか」を評価する。【思①】</p>
ま と め る	<p>⑦職人さんの染め物を生かした新たな取組を調べ、伝統を受け継ぎながら、時代に合わせた取組を行っていることを理解できるようにする。</p>	<p>○新宿区の染め物工場数の移り変わりを調べ、考えたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんどん減ってきている。 <p>◆染め物職人さんは、染め物を生かしてどのような新しい取組をしているのだろう。</p> <p>○若い後継者の活動を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・染め物を使った若い人たち向けのものがあるよ。 ・イベントなどを開いて、染め物のよさを伝えようとしているよ。 <p>○若い後継者の思いや願いを知り、分かったことや考えたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔と同じものを作るのではなく、今の時代に合わせて新しいものを作るの面白いことだと思う。 ・日本の文化を海外に広げていくことも今の時代に合っていると思う。 	<p>◎新宿区における染め物工場推移表(昭和～平成)</p> <p>◎染め物を使ったアクセサリ</p> <p>◎染め物職人の話 (文書資料)</p> <p>□工房数が減っていることから、若い後継者たちの活動に目を向けられるようにする。</p> <p>□日本だけでなく、世界各国で作品展を行うなど、空間的な広がりを考えさせるようにする。</p> <p>☆発言や記述から「必要な情報を集め、職人が伝統を受け継ぎながら時代に合わせた新たな取組を行っていることについて理解しているか」を評価する。【知①】</p>
	<p>⑧染め物産業を守るために、どのような取組をしているのか調べ、理解できるようにする。</p>	<p>◆新宿区の染め物産業を守るためにまちの人たちはどのような活動をしているのだろう。</p> <p>○地域でどのような取組をしているのか調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高田馬場では職人による水元の実演をしているよ。 ・新宿区の落合では「染の小道」というまち全体を染め物でかざるイベントをしているよ。 <p>○「染の小道」では、誰が、どのような活動をしているのか調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人が実行委員として活動している。 ・落合のことをとても大切に考えている。 ・落合のまちを盛り上げて、つくり手の人たちのために活動しているんだ。 	<p>◎染の小道 (ポスター)、かかわっている人の思い (文章資料)</p> <p>□職人さんたちが染め物の良さを広めようと努力している様子を知り、染め物の未来に目を向けられるようにする。</p> <p>☆発言や記述から「必要な情報を集め、地域の様々な立場の人々が協力してまちを盛り上げようとしていることについて理解しているか」を評価する。【知①】</p>
	<p>⑨⑩学習したことを関連付けたり、自分たちの地域と比べてたりして、伝統的な染め物産業が盛んな新宿区の特色について考え表現することを通して、新宿区では人々が協力して、特色あるまちづくりや染め物産業の発展に努めていることを理解できるようにする。</p>	<p>◆それぞれの立場の人々の取組は、どのようにつながっているのだろう。</p> <p>○これまでの学習を振り返り、様々なつながりについて考え、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職人相互、職人と区や町の人、職人と自分たち等 <p>○学習問題に対して追究してきたことを基に、染め物の盛んな新宿区の特色やまちづくりの様子をまとめる。</p> <p>新宿区では、職人さんが伝統的な技術や技法を受け継ぎ、伝えるとともに、職人さんだけでなく、地域や区の人々も協力して「染の小道」などの取り組みを通して、これからも発展するように取り組んでいる。</p> <p>○新宿区の染め物業をより多くの人に伝えるために、PRしたいことを考え、ポスター等にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝統的な染め物の技術や製品の素晴らしさを伝えたい。 ・伝統を生かし、協力して行っている「染の小道」を伝えたい。 	<p>◎これまでの資料</p> <p>□学習問題に迫るための問いを教師から投げかける。</p> <p>★ノートの記述や発言内容などから「学習したことを基に染め物産業が盛んな新宿区について考え表現しているか」を評価する。【思②】</p> <p>□ポスターの他にキャッチコピーなども考えられる。どちらにおいても、その言葉にした理由や詳細などについても文章でまとめさせる。</p> <p>★ノートや作品の記述から「染め物産業に携わる人々が協力し、まちづくりやまちの発展に努めていることを理解しているか」を評価する。【知②】</p>

小単元名	伝統的なガラス産業のさかんな 墨田区・江東区・江戸川区	配当 10 時間	内容 (5) アの(ア)及び(イ)とイの(ア)
------	--------------------------------	----------	-------------------------

<主として「地理的環境と人々の生活」の区分>

1 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 小単元の目標

伝統的なガラス産業の盛んな墨田区周辺の区の様子について、盛んな地域の位置や自然環境、ガラス産業に携わる人々の活動や歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、地図帳や各種資料を活用して調べて、白地図などにまとめ、地域の様子を捉え、その特色を考え、表現することを通して、様々な立場の人々と協力し、特色あるまちづくりやガラス産業の発展に努めていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

(2) 小単元の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①墨田区、江東区、江戸川区の位置や自然環境、ガラス産業に携わる人々の活動や歴史的背景、人々の協力関係などについて、地図帳や各種資料を活用して調べ、必要な情報を集め、読み取り、ガラス産業が盛んな墨田区周辺の様子を理解している。 ②調べたことを白地図や文章などにまとめ、ガラス産業に携わる人々が協力し、特色あるまちづくりやガラス産業の発展に努めていることを理解している。	①墨田区周辺の位置や自然環境、ガラス産業に携わる人々の活動や歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、問いを見いだし、ガラス産業が盛んな墨田区周辺について考え表現している。 ②地域の人々の活動やガラス産業と地域の発展を関連付けたり、自分たちの住む地域と比較したりして、ガラス産業の盛んな墨田区周辺の特色を考え、適切に表現している。	①墨田区周辺で盛んなガラス産業について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

2 指導計画の作成に当たって

(1) 学習指導要領との関連

①本小単元は、内容(5)の「地理的環境と人々の生活」に関する内容で構成した小単元である。本内容については、内容の取扱い(4)アにおいて、伝統的な技術を生かした地場産業が盛んな地域、国際交流に取り組んでいる地域及び地域の資源を保護・活用している地域を取り上げることとされている。本指導計画では、地場産業の事例として、東京都でも伝統的なガラス産業が盛んである墨田区、江東区、江戸川区周辺を取り上げる。ガラス産業は工房の立地が歴史的背景、自然環境との関連があり、職人が協力してガラス製品等を作っている。また、墨田区周辺は、行政や地域など、様々な立場の人々が協力して、ガラス産業を未来に受け継いでいくための取組がなされており、その特色を捉える上で効果的であると考え。なお、平成14(2002)年には手作りの硝子器が東京都の伝統工芸品「江戸硝子」として都知事より指定、平成26(2014)年11月には「江戸硝子」が国の伝統的工芸品に指定された。

(2) 教材や資料の工夫

①小単元の導入で、東京都における伝統工芸品を空間的な広がりの中で概観し、東京都にも多くの伝統的な技術や産業が受け継がれていることに気付かせる。そして、墨田区周辺のガラス産業から江戸硝子を中心に上げ、社会的事象の見方・考え方を働かせて学習問題をつくり、墨田区周辺におけるガラス産業の成り立ち、技術や技法の伝承、自然環境などの条件、人々の協力によるまちづくりの取組について、調べたり考えたりできるようにする。
 ②伝統的なガラス産業を生かしたまちづくりの様子を捉えられるように、様々な立場の人々が取り組むイベント「すみだガラス市」(毎年4月・10月の開催、平成4年より開催)を教材として取り上げる。
 ③伝統工芸品やそれを作る伝統的な産業は子供にとって身近であるとは言いがたい。そのよさや技術、工夫を具体的に捉えられるように、「つかむ」段階や「しらべる」段階において、可能な範囲で実物を用意して直接子供が触れられるようにしたい。

(3) 学習展開や学習活動の工夫

①「つかむ」段階において、東京都内の伝統的な地場産業の製品を調べ、それを東京都の白地図にまとめる活動を設定する。それを通して、社会的事象の見方・考え方を働かせ、東京都全体に広がっていることや、分布に偏りがあることに気付かせ、その理由や地域の様子に関心をもたせる。また、その際、伝統工芸品の実物や現地の様子を具体的に捉えられる写真なども用意できるとよい。
 ②「しらべる」段階の後半では、「すみだガラス市」や「職人展」などのイベントを取り上げて調べ、日本の伝統的工芸品の江戸硝子・江戸切子など墨田区周辺のガラス産業に携わる人々が協力し合ってその伝統を守り、現代に生かし、町づくりや地域の発展に結び付けていることを具体的に理解できるようにする。

(4) 問いの構成の工夫について



(5) 評価の工夫について

小単元の導入である「つかむ」段階で、「主体的に学ぶ態度」の観点で評価する。

本小単元の導入では、江戸硝子の実物や写真を見せる。豊富な色や形、模様ガラス製品を見せると、子供は「どのようにしてつくっているのか」に関心をもつことは予想される。しかし、伝統を受け継いできていることに考えが及ぶ子供は少ない。そこで、現代の江戸硝子を見せた後に江戸時代につくられた江戸硝子の写真を見せて比較することで、江戸硝子が長い間材料や技法を大きく変えずに受け継がれてきたことを実感できるようにする。そのような過程を経て、職人が伝統を受け継いできていること、今後も受け継いでいこうとしていることへの視点をもっているかを、学習問題の予想や学習計画を立てるときに子供の発言や記述から評価する。

本小単元では、「どのようにしてガラス製品をつくっているのだろう」「それを受け継いでどのようにまちづくりをしているのだろう」の2つの内容について追究する。一度に学習を進めてしまうと、「まとめる」場面において、前半の「どのようにしてガラス製品をつくっているのだろう」にのみ視点が集中し、ガラス製品のつくり方のまとめのみになってしまうことが考えられる。そこで、第6時にこれまで調べてきたことを振り返り、簡単にまとめる活動を設定する。その上で、ガラス工房の減少に着目させ、「ガラス産業」をどのように受け継ぎ、まちづくりにいかしているのか問題意識を高める。この活動における子供の学びの様子を「主体的に学習に取り組む態度」における学習調整の側面から評価する。そして、第7・8時で、それを受け継ぐ職人の努力や、様々な立場の人々が協力したまちづくりの様子について取り上げ、空間的な広がり、相互の関係など、社会的事象の見方や考え方を働かせ、「どのように（伝統を）受けついでまちづくりをしているのか」追究していく。

「まとめる」段階の第9・10時では、「しらべる」段階で分かったことを基に関係図にまとめたり、キャッチフレーズをつくらしたりする活動を行う。その際、その言葉にした理由や根拠も記述させ、互いに説明し合うようにする。その記述や説明の内容などから「思考・判断・表現」の観点について評価をする。

3 小単元の指導計画（8時間扱い）

過程	ねらい (○数字は第○時を表す)	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される子供の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点 ◎資料 ☆★評価【観点】)
つかむ	①②東京都の伝統工芸品について資料を活用して調べ、東京都には多くの伝統工芸品があることを理解できるようにする。	○伝統工芸品の実物や写真を見て、何かを予想する。 ◆伝統工芸品とはどのようなものだろう。 ・昔っばい。 ・昔からつくられているもの。 ・きれいな模様がある。 ◆東京都では、どこで、どのような伝統工芸品がつけられているのだろう。 ○東京都の伝統工芸品を白地図にまとめ、気付いたことを話し合う。 ・東京都のいろいろな所で様々なものをつくっている。 ・台東区にはたくさんの工芸品がある。 ・自分の住んでいる区にも伝統工芸品がある。	◎伝統工芸品(実物、写真)、伝統工芸品とは(文章)、東京都伝統工芸品指定制度(一覧表)や東京都伝統工芸品(一覧表) ◎東京都地図、白地図 □東京都には多くの伝統工芸品があることに気付かせる。 ☆発言や記述から「必要な情報を集め、読み取り、東京都には多くの伝統工芸品があることを理解しているか」を評価する。【知①】
	③墨田区やその周辺に東京都指定伝統工芸品の江戸硝子が現在も残っていることに気づき、学習問題をつくり、学習計画を立てることができるようにする。	◆江戸硝子とは、どのようなものだろう。 ○江戸硝子の実物を見て気付いたことや思ったことを発表し合う。 ・形や模様がきれい。 ・いろいろな種類のものがある。 ・光が当たるときらきら光って見える。 ○墨田区とその周辺のガラス関連産業の分布を調べ、気付いたことを発表し合い、学習問題をつくる。 ・どんな材料か。 どうやって形をつくるのか。 ・作るのが難しそう。 ・なぜ墨田区周辺に多いのか。 ・なぜ、長い間、作られ続けてきたのか。	◎江戸硝子(実物・写真) ◎墨田区・江東区・江戸川区周辺のガラス工房の分布図 □江戸硝子は、江戸時代からつくられている伝統的なガラス製品であることを伝える。 玉川上水などを想起させたり、紙テープなどを示したりして、時間的な経過を捉えられるようにする。 □工房分布図から隅田川や中川沿いでガラス製品づくりが盛んだったことに気付かせる。
	東京都の墨田区やその周辺では、だれが、どのようにして伝統的なガラス製品をつくり、それを受け継いでまちづくりをしているのだろう。	○予想を話し合い、学習計画を立てる。 ・江戸時代からある原料ではほぼ同じ手法で作っているのではないか。→原料、作り方 ・長い間修業した職人がひとつひとつ手作りで作っているのではないか。→作り方、道具、技術 ・海に近いところで作られているのではないか。→歴史的背景、自然条件 ・江戸ガラスの良さを伝える取組をしているのではないか。→取組	☆発言や記述から、「隅田川や中川周辺の自然環境やガラス産業に携わる人々の活動に着目して問いを見いだしているか」を評価する。【思①】 ★発言や記述から「学習問題の解決に向けた予想をもとに学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。【態①】
しらべる	④江戸硝子がどのようにつくられているか、道具や手順を調べ、理解できるようにする。	○江戸硝子づくりの材料や道具の写真を見て気付いたことを発表し合う。 ・砂が材料なんてびっくりした。 ・長い棒はどのように使うのだろう。 ◆江戸硝子は、どのようにしてつくられるのだろう。 ・砂を溶かすのか。 ・どうやって形をつくるのか。 ○作業工程、内容を調べ、考えたことを話し合う。 ・かまの中はとて熱そうで、つくるのが大変そうだ。 ・同じ形をつくるのは難しそうだ。	◎珪砂、溶解炉、吹き竿(写真)、 ◎作業工程(写真・動画) □作業ごとに職人がいて、高度な技術を受けついでいることが分かるようにする。 □作業工程を調べることで、職人の工夫や努力へ視点が向くようにする。 ☆発言や記述から「必要な情報を集め、読み取り、ガラス製品の原料やつくる手順、道具などについて理解しているか」を評価する。【知①】
	⑤ガラス職人たちの工夫や努力、思いについて調べ、理解できるようにする。	◆職人さんは、どのような工夫や努力をして伝統を守ってきたのだろう。 ○ガラス製品をつくるための工夫や努力を予想する。 ・長い時間をかけて修業しているのだと思う。 ・使う人のことを考えて丁寧に仕事をしていると思う。 ○職人の江戸硝子に対する思い、江戸硝子をつくるための工夫や努力を資料から調べる。 ・一人前になるまで10年以上。 ・同じ大きさや厚さになるように努力。 ・24時間体制で作業している。	◎職人の思い(文章、映像) □受け継がれてきた技術と、職人の思いを関連付けて考えるように助言する。 □前時までの資料を活用しながら話し合うことで、根拠をもつことができるようにする。 ☆発言や記述から「必要な情報を集め、ガラス職人の伝統をつないでいく思いについて理解しているか」を評価する。【知①】

し ら べ る	⑥地理的、歴史的な特色から、ガラス製品づくりが盛んになったわけを考え表現できるようにする。	◆どのようにして墨田区とその周辺でガラス製品づくりがさかんになったのだろう。 ○墨田区周辺の川沿いでガラス製品づくりが盛んになった理由を資料から調べる。 ・ガラスの材料が船で隅田川や中川を通して運ばれていた。 ○ガラス工房の数を比較する。 ・工房の数が減ってきている。このままではなくなってしまうのではないか。 ○これまでの学びを振り返り、学習問題に対してこれから調べる内容について話し合う。	◎ガラス工房の分布図、江戸硝子の歴史(年表)、工房の数の変化(グラフ) □前時までの江戸ガラス製造の工程を振り返らせ、それと関連付けながら盛んになった理由を考えられるようにする。 ☆発言や記述から「ガラス作りの様子と、地理的条件や歴史的な背景を関連付け、墨田区周辺で江戸ガラスが盛んになった理由を考え、表現しているか」を評価する。 【思①】 ★発言や記述から「これまでの追究を見つめ直し、学習問題の解決に向けて今後調べていくことを明確にすることができたか」を評価する。【態①】
	⑦職人たちの新たな取組を調べ、理解できるようにする。	◆職人さんは、伝統を受け継ぐためにどのような取組をしているのだろう。 ○江戸ガラス作りを盛んにするため、職人の新たな取組を調べる。 ・アクセサリーをつくって、お客さんを増やしている。 ・大学生と連携して新しい製品を開発している。 ○職人の思いや願いを知り、分かったことや考えたことを話し合う。 ・多くの人に江戸硝子を知ってほしいし、伝統が続いてほしいと思っているのだと思う。	◎前時の資料 ◎スピーカーやアクセサリーの写真 ◎工房で働く人の話(文章) ☆記述や発言から「調べた事実とガラス産業に携わる人々の活動を関連付けて伝統を受け継いでいることについて考え、適切に表現しているか」を評価する。 【思①】
	⑧ガラス産業を守るために、どのような取組をしているのか調べ、理解できるようにする。	◆墨田区とその周辺のガラス産業を守るために、まちの人々は、どのような取組をしているのだろう。 ○地域でどのような取組をしているのか調べる。 ・すみだガラス市 ・職人展 ○これらのイベントでは、どのような人々が、どのような活動をしているのか調べる。 ・区役所の人 ・地域の人 ・職人	◎ガラス市・職人展の写真、関わっている人の思い(聞き取り、文章資料) ☆発言や記述から「必要な情報を集め、読み取り、ガラス産業に携わる人々が協力し、まちづくりやまちの発展に努めていることを理解しているか」を評価する。 【知①】
ま と め る	⑨⑩調べたことを基に考え、学習問題についてまとめたり、キャッチフレーズにまとめたりして、特色あるまちづくりの様子を理解している。	◆墨田区周辺のまちづくりには、どのような特色があるのだろう。 ○江戸ガラスづくりに関わる墨田区周辺のまちづくりについて、調べたことを関係図にまとめ話し合う。 ・すばらしい技術や製品を受け継ぎ、広く発信して、未来につなげようとしている。 ・様々な立場の人々が努力し協力している。 ○墨田区周辺のまちづくりについて分かったことや考えたことをまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">東京都の墨田区とその周辺では、職人が伝統的な技術を受け継ぎ伝えるとともに、職人だけでなく、地域やまちの人々も協力してガラス産業を守るための取組を通して、これからも発展するように取り組んでいる。</div> ○墨田区周辺のガラス産業についてPRしたいことをキャッチフレーズと解説文にまとめる。 ・世界中 たった一つの 江戸硝子 ・いっしょに 集中するよ ガラスふき ・でんとうを 未来へつなぐ 江戸硝子 ○単元の学習について振り返る。 ・学んだ内容について ・学び方について	◎これまでの資料 □これまで学習したことをカード化し、それらの関わりやつながりを矢印や言葉で結びながら、自分たちの地域のまちづくりと比較をしたり、ガラス産業とまちづくりを関連付けたりして考えられるようにする。 ★関係図やキャッチフレーズ、ノートの記述や発言内容などから「調べたことを関連付けたり、自分たちの地域と比較したりして、ガラス産業の盛んな墨田区周辺の特色について考え表現しているか」を評価する。 【思②】 ★記述や発言の内容から「ガラス産業に携わる人々が協力し、特色あるまちづくりやガラス産業の発展に努めていることを理解しているか」を評価する。【知②】 □キャッチフレーズを考えた理由について解説文にまとめさせる。

小単元名	豊かな自然環境を守り生かす小笠原	配当 10時間	内容(5)アの(ア)及び(イ)とイの(ア)
------	------------------	---------	-----------------------

<主として「地理的環境と人々の生活」の区分>

1 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 小単元の目標

豊かな自然環境を守り生かしている小笠原村について、位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、地図帳や各種の資料で調べ、白地図などにまとめ、地域の様子を捉え、それらの特色を考え、表現することを通して、小笠原村では、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解できるようにするとともに、学習問題を主体的に追究・解決しようとする態度を養う。

(2) 小単元の観点別評価

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①小笠原村の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などについて、地図帳や各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、小笠原村の様子を理解している。 ②調べたことをガイドマップなどにまとめ、小笠原村では、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解している。	①小笠原村の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、問いを見だし、小笠原村の様子について考え、表現している。 ②小笠原村の人々の活動や産業と小笠原村の発展を関連付けたり、自分たちの住んでいる地域と比較したりして、小笠原村の特色を考え、適切に表現している。	①小笠原村の様子について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

2 指導計画の作成に当たって

(1) 学習指導要領との関連

- ①本小単元は、内容(5)「県内の特色ある地域の様子」に関する内容で構成しており、その中の「地域の資源を保護・活用している地域(自然環境・伝統的な文化)」に該当する小単元である。「小笠原」(自然環境)、「八丈島」(自然環境)、「浅草」(伝統的な文化)などからの選択が考えられる。なお、いずれか一つを取り上げて学習すればよい。
- ②内容の取扱い(4)アの解説に「世界遺産に登録されている地域(中略)などを取り上げることも考えられる」と新たに記述されたこと踏まえ、本指導計画においては、平成23年6月、東京都で初めて世界自然遺産に登録された東京都小笠原村を取り上げている。

(2) 教材や資料の工夫

- ①小笠原村は、子供にとって身近な地域ではない。おそらく、行ったことがある子供はいないであろう。そこで、興味・関心を高めるために「観光PR動画」(小笠原観光局)を活用し、その豊かさに自然に出合わせ、興味・関心を高めたい。また、一度も陸続きにならなかったことがなく、固有種や他の地域ではあまり見られない動植物が生息する。そこに生息する「動植物の写真」をカラーで提示することで、子供の理解を深めることが大切である。
- ②小笠原村は、東京港から約1000km離れている。位置や広がりをも具体的に捉えられるように、日本全体を捉えられる日本全図や地図帳を活用する。
- ③小笠原村では、豊かな自然を活用するだけでなく、保護することにも力を入れている。そのため、小笠原村で作成された「小笠原ルールブック」(小笠原村公式サイト)を扱うことで、自然を保護しながら観光業などを行っていることを理解させたい。

(3) 学習展開や学習活動の工夫

- ①「つかむ」段階では、小笠原村の位置や自然環境、人々の活動や産業などに着目して学習問題をつくり、それに対する予想を基に学習計画を立て、子供が主体的に追究できるようにしていくことが大切である。そこで、ポスター等を提示し世界自然遺産に登録されていることを捉えさせるとともに、動画やパンフレット等を活用し、その豊かな自然に驚きをもって出合わせ、位置や自然環境、人々の活動について問いをもつことができるようにする。
- ②「しらべる」段階では、小笠原村の自然を生かしたまちづくりを具体的に追究する。子供の発達段階を考慮し、調べる内容を産業別に分けるのではなく、海の自然と陸の自然に分けた授業デザインにした。また、自然を保護するまちづくりについては、島民、観光客、行政など様々な立場の人々が協力して取り組んでいることを追究できる授業デザインにした。その他、オンラインでの聞き取りなど、ICT機器も積極的に活用していきたい。
- ③「まとめる」段階では、ガイドマップを作成する。ガイドマップには、学習したことを基にして、それらに関連付けたり総合したりして小笠原村の自然の豊かさや保護に関するキャッチフレーズなどを考え、表紙やタイトルとして書かせるようにする。

(4) 問いの構成の工夫

<社会的事象> 小笠原村の自然豊かな様子			
◆ここは、どこだろう。どんなところだろう。			
◆小笠原には、どのような自然があるのだろう。			
<社会的事象> 固有種、小笠原は1回も陸続きになったことがないこと、世界自然遺産に登録			
小笠原村は、東京23区から約1000キロメートル離れている。	小笠原村には、珍しい生き物が、たくさんいて、世界自然遺産に登録されている。	小笠原村の人々は、自然を大切にしているのではないかと。	自然を生かして、観光の仕事をしているのではないかと。
◆<学習問題>小笠原村の人々は、豊かな自然の中でどのような産業や取組をしているのだろう。			
海の自然を生かしていると思う。	陸の自然を生かしていると思う。	だれかが自然を守る活動をしていると思う。	だれかが自然の大切さを教えていると思う。
◆小笠原村では、海の自然を生かしてどのような産業や取組をしているのだろう。	◆小笠原村では、陸の自然を生かしてどのような産業や取組をしているのだろう。	◆小笠原村では、豊かな自然をどのように守っているのだろう。	◆小笠原村では、豊かな自然を守る活動をどのように広げているのだろう。
◆小笠原村の人々は、豊かな自然の中で、どのようにまちづくりをしているのだろう。			
【概念的な知識】 小笠原村では、他の地域ではあまり見られない生き物や固有種などの豊かな自然を使って、ドルフィンスイムや森ツアー、ナイトツアー、魚をとったり果物を育てたりしている。つまり、みんなで協力しながら、小笠原の良さを観光客に伝えたり、ルールを作って自然を守ったりしながら、小笠原の自然を守り生かす観光を中心としたまちづくりをしている。			

(5) 評価の工夫

『学びのあしあと』（1ページポートフォリオ：下図参照）を活用し、単元全体を通して評価を行うようにする。子供には、学習問題を解決するために学習計画を立てたり、学びを振り返り修正したりして、学びの自己調整を行うなど、主体的に追究するために活用させる。また、教師は、子供のつまずきを早期に発見し、適切な支援・指導を行うようにする。子供の記述は、記録に残す評価にも活用することができる。

4年社会科 学びのあしあと 『自然をまもり生かす小笠原村』 番号 名前

学習時間	学習時間に対する予想	学習時間に対する自分の意見
	▶	▶

◆よりかえり比べへのステップ

	学習計画					まとめ
おもしろ	/					
つまず						

3 小単元の指導計画と評価計画 (10時間扱い)

過程	ねらい (○数字は第○時を表す)	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される子供の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点 ○資料 ☆★評価【観点】)
つ か	①小笠原村に興味・関心をもち、位置や気候などを調べ、小笠原村の概要を理解する。	○小笠原村観光 PR 動画を見て、1 番気になる疑問を出し合う。 ◆ここは、どこだろう。 ○小笠原村であることを知り、地図帳で小笠原村の位置を調べ、次に知りたいことを出し合う。 ◆小笠原村はどんなところだろう。 ○小笠原村の気候、交通手段、観光客を調べる。 ・平均気温が高く、暖かい気候。 ・東京から約 1000 km 離れていて、船で 24 時間かかる。 ・観光客は、平成 22 年から平成 24 年に増えている。	◎小笠原村観光 PR (動画) ◎地図帳 ◎観光客 (グラフ) ◎小笠原村の雨温図 (グラフ) ◎おがさわら丸の時刻表 (図) □自分の地域との違いを考えさせる。 ☆発言や記述から「小笠原村の位置や自然環境について、地図帳や各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、小笠原村の位置や様子を理解しているか」を評価する。【知①】
む	②固有種や他地域ではあまり見られない動植物を調べ、学習問題をつくる。	◆小笠原村には、どのような自然があるのだろう。 ○小笠原村の固有の動植物について調べる。 ・小笠原村は一度も陸続きになったことのない島なので、ここにしかない珍しい生き物がたくさんいる。 ○このような自然や動植物の中で、小笠原村の人々はどうのような産業を行っていくらしているのか話し合う。 ・自然を生かして観光の仕事がさかんなのではないか。 ・自然を大切に暮らしているのではないか。 ○疑問や調べたいことを整理して、学習問題をつくる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">小笠原村の人々は、豊かな自然の中でどのような産業や取組をしているのだろう。</div>	◎小笠原村の生き物 (図) ◎小笠原村と世界自然遺産 (図) □小笠原村の地理的環境、気候、生物などをしっかりおさえてから、学習問題をつくらせる。 ☆発言や記述から「小笠原村の自然環境や人々の活動などに着目して学習問題をつくっているか」を評価する。【思①】
	③学習問題に対する予想を考え、学習計画を立てる。	○学習問題に対する予想を話し合う。 ・海や山の自然を生かしたまちづくりをしていると思う。 ・自然を守りながらまちづくりをしていると思う。 ○予想を確かめるための学習計画を立てる。 第 4 時：海を自然を生かした取組や産業 第 5 時：山の自然を生かした取組や産業 第 6 時：自然を保護する取組 第 7・8 時：自然と共に生きる取り組み	◎小笠原の生き物 (図) □既習を活用して予想させ、予想を確かめるための学習計画を立てさせる。 ★発言や記述から「小笠原村について、学習問題に対する予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。【態①】
し ら べ	④小笠原村の海の自然を生かした産業について調べ、小笠原村は、海の自然を活用するとともに、自然を守る取組をしていることを理解できるようにする。	◆小笠原村では、海の自然を生かしてどのような産業や取組をしているのだろう。 ○小笠原村の海の自然を生かした仕事を調べる。 ・ダイビング、ドルフィンスイム、魚をとったりしている。 ○どんなことを大切に仕事をしているか考える。 ・ルールを作り、自然を守りながら仕事をしている。 ○学習の振り返りを書く。 ・小笠原村では、小笠原村の良さを観光客に伝えたり、ルールを作って自然を守ったりしながら、ドルフィンスイムやダイビング、魚をとって売ったりしている。つまり、みんなで協力しながら、海の自然を守り生かした取組や産業をしている。	◎ドルフィンスイム、 ◎ダイビング (図)、魚をとる (図) □SDGs (11, 14) と関連させながら取組の様子を捉えられるようにする。(以下、関連項目のみ表示。) □活用するだけでなく、保護していることもおさえさせる。 ☆発言や記述から「各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、豊かな海の自然を保護活用した取組や産業をしていることを理解しているか」を評価する。【知①】
る	⑤小笠原村の陸の自然を生かした産業について調べ、小笠原村は、陸の自然を活用するとともに、自然を守る取組をしていることを理解できるようにする。	◆小笠原村では、陸の自然を生かしてどのような産業や取組をしているのだろう。 ○小笠原村の陸の自然を生かした仕事を調べる。 ・森ツアー、ナイトツアー、南国の果物を育てたりしている。 ○どんなことを大切に仕事をしているかを考える。 ・ルールを作り、自然を守りながら仕事をしている。 ○これまでの学習を振り返り、学習計画を見直す。 ・小笠原村では、村のよさを観光客に伝えたり、自然を守るルールを作ったりしながら、森ツアーやナイトツアーを行ったり、果物を作って売ったりしている。つまり、	◎森ツアー、ナイトツアー (図) ◎果物を作る (図) □SDGs (11, 15) □活用するだけでなく、保護していることもおさえさせる。 ☆発言や記述から「各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、豊かな陸の自然を保護活用した取組や産業をし

し		<p>みんなで協力しながら、陸の自然を守り生かした取組や産業をしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小笠原の人々は海や陸の自然を観光などに生かしていた。守るルールもある。しかし、それだけなのか。島の人たちの守る努力を詳しく調べたい。 	<p>ていることを理解しているか」を評価する。【知①】</p> <p>★発言や記述から「これまでの学習を振り返り、さらに調べるべきことなどを見いだそうとしているか」を評価する。【態①】</p>
ら	<p>⑥小笠原村の自然保護の取組を調べ、自然を保護・活用したまちづくりをしていることを理解できるようにする。</p>	<p>◆小笠原村では、豊かな自然をどのように守っているの だろう。</p> <p>○小笠原村の自然を保護する取組を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルールを作ったり、外来種の駆除を行ったりしている。 ・小笠原村だけではなく、東京都や国と協力している。 <p>○なぜ、固有種を守っているのか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小笠原の大切な自然だから。他にはない自然だから。 <p>○学習の振り返りを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小笠原村では、住民だけでなく、国・東京都と協力しながら、外来種の駆除をして、固有種を大切に守っている。つまり、みんなで協力しながら、自然を守り生かしたまちづくりをしている。 	<p>○自然を守るための取組 (図)</p> <p>○外来種駆除 (図)</p> <p>○弟島のトンボ (図)</p> <p>□村だけでなく、都や国と協力していることもおさせさせる。</p> <p>□SDG s (11、14、15)</p> <p>☆発言や記述から「各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、自然を保護活用したまちづくりをしていることを理解しているか」を評価する。【知①】</p>
る	<p>⑦⑧小笠原村の自然保護活動を広げる取組を調べ、自然を保護活用したまちづくりをしていることを理解する。</p>	<p>◆小笠原村では、豊かな自然を守る活動をどのように広げているの だろう。</p> <p>○現在行われている小笠原村の自然保護の取組を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都レンジャーが小学校で自然について小学生に教える。 ・外来種駆除ボランティアを全国から集めている。 <p>○これまで行われてきた自然保護の取組について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以前から自然保護の活動が行われてきた。 ・世界自然遺産登録を通してさらに充実してきた。 <p>○なぜ、自然保護活動の取組を広げているのか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小笠原村の自然をいつまでも大切に守り続けたいから。 <p>○学習の振り返りを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小笠原村では、ルールブックを作成したり、小学校で都レンジャーによる環境教育を行ったり、環境を守るためのボランティア活動をしている。つまり、みんなで協力しながら、自然を守り生かしたまちづくりをしている。 	<p>○小笠原ルールブック (図)</p> <p>○小学校の環境教育 (図)</p> <p>○外来種駆除ボランティア (図)</p> <p>□小笠原村の人々と観光客がこれからも小笠原の自然と共に生きていくことの大切さに触れさせる。</p> <p>□SDG s (4、11、14、15)</p> <p>☆発言や記述から「各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、自然を保護活用したまちづくりをしていることを理解しているか」を評価する。【知①】</p>
ま と め る	<p>⑨⑩調べたことや考えたことをガイドマップにまとめ、小笠原村では、人々が協力的、自然を守り生かしてまちづくりや観光や農水産業の発展に努めていることを理解できるようにする。</p>	<p>◆小笠原村の人々は、豊かな自然の中で、どのようにまちづくりをしているの だろう。</p> <p>○調べたことをガイドマップにまとめ、交流し合う。(タイトルの例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自然と共にくらす島～世界遺産：小笠原～」 <p>小笠原の人々は、自然を守りながら自然を環境や農水産業に活用している。自然を生かすのではなく、「自然と共に」という言葉がぴったりだと思った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「豊かな自然をいつまでも残す島～世界遺産：小笠原」 <p>自然を守るルールを自分たちで作り、守っていくなど、豊かな自然をこれからもずっと守っていきながら、自然を生かしていこうとしているから。</p> <p>○学習問題に対して分かったことや考えたことをまとめる。(ガイドマップ編集後記)</p> <p>小笠原村では、他の地域ではあまり見られない生き物や固有種などの豊かな自然や温かい気候を生かし観光や、豊かな海や温かい気候などを生かした農水産業をさかんに行おうとしている。また、独自ルールをつくり自然を守る取組にも力を入れている。つまり、小笠原村の人々は、観光客も含め、みんなで協力しながら豊かな自然を守り生かすまちづくりを進めている。</p>	<p>□ガイドマップには小笠原村の観光を生かしたまちづくりをPRすることができるように内容を選択させる。また、その様子を表すタイトルを短い言葉で書くとともに、その解説文を書き加えさせる。</p> <p>□SDG s (11、14、15)</p> <p>★発言やガイドマップの記述から「小笠原村の人々の産業や活動と島の発展を関連付けたり、自分たちの住んでいる地域と比較したりして、小笠原村の位置や自然環境、産業等、小笠原村の特色を考え、適切に表現しているか」を評価する。【思②】</p> <p>★発言や記述から「小笠原では、人々が協力的、豊かな自然を生かしながら特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解しているか」を評価する。【知②】</p>

第1時の資料(つかむ)

◆小笠原はどこにあり、どのような様子なのだろう。

小笠原の概要について空間的な広がりや時間の経過に着目する。

資料 心、動く島。小笠原(動画)

あ、イルカだ。きれいな海だな!!
泳いでみたいな。

見たことのない島だな。
東京のどこなんだろう。

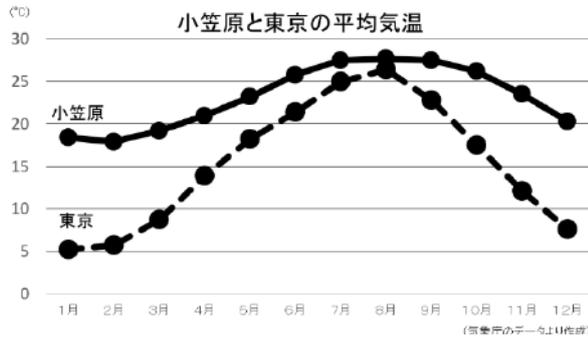


【指導上の留意点】

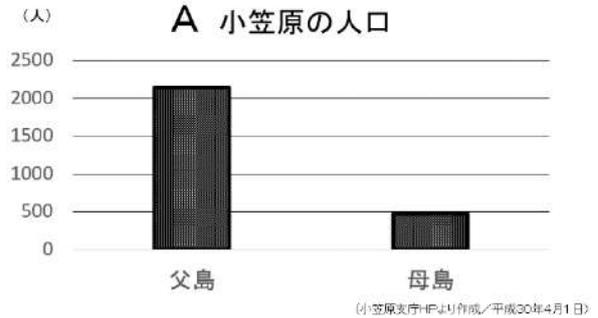
約1000km離れている小笠原を身近なものに感じさせたい。そのために、インパクトの強い動画を活用する。自然の豊かさは、動画を見ることですぐに感じることができる。

(出典:小笠原村観光局HP)

資料 小笠原と東京の平均気温



資料 小笠原の人口

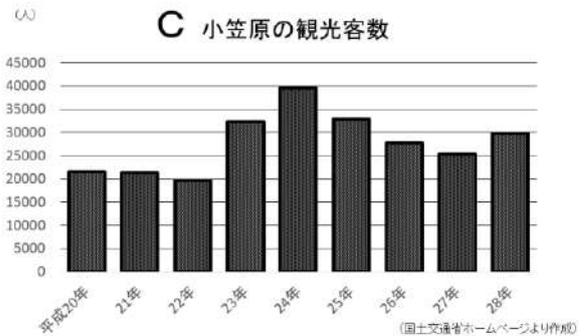


資料 おが丸の時こく表

資料 おが丸の時こく表 (小笠原海運ホームページより作成)

日	東京発	父島着	父島発	東京着
2月14日(木)	11:00			
15日(金)		11:00		
16日(土)				
17日(日)				
小笠原の港				
18日(月)			15:30	
19日(火)				15:30
20日(水)	11:00			
21日(木)		11:00		
22日(金)				
小笠原の港				
23日(土)				
24日(日)			15:30	
25日(月)				15:30

資料 小笠原の観光客数



【学習問題】

小笠原の人々は、豊かな自然の中でどのような産業や取組をしているのだろう。

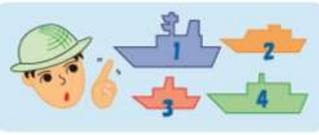
第5時の資料（調べる）

◆小笠原の人ほどどのように観光の仕事をしているのだろう。

資料 森ツアーの自主ルール

《ドルフィンスイム 自主ルール》

①1つのイルカの群れと遊べるのは、4つの船まで



②2つの船で1つのイルカの群れと遊ぶときは、海に入れる回数は、それぞれ5回まで



（出展：小笠原ルールブック）

【指導上の留意点】

小笠原では、ドルフィンスイムや森ツアー、ナイトツアーをやっているという事実のみを調べるのではなく、自主ルールも調べさせることで、小笠原に住む人の小笠原や仕事に対する思いも考えさせる。

イルカに負担をかけないようにルールを決めて、仕事をしているんだね。

いつまでも小笠原の豊かな自然が続くといいな。イルカと泳いでみたい。

小笠原の豊かな自然と、小笠原の観光で働く人や観光客など、人々との相互関係に着目して捉える。

資料 海ツアーに参加した人のお話

海ツアーに参加した人のお話

イルカと泳ぐことを楽しみにしていました。ツアーの日は、お天気にも恵まれ、波もないおだやかな海でした。船長さんの見事な船の運転で、船の上からでも、イルカを近くで見ることができました。海に入ってみると、とてもかわいいイルカと、たくさん遊ぶことができました。イルカと目が合った時は、とてもうれしくなりました。

資料 森ツアーの自主ルール

《自然観察 自主ルール》

①森は、決まった道（自然観察路）を歩く



（出展：小笠原ルールブック）

夜も小笠原の自然を生かした仕事をしているんだね。

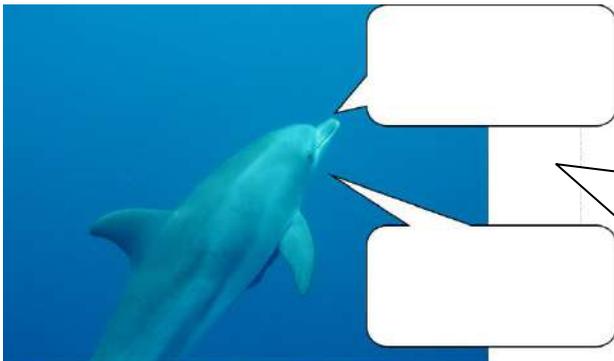
資料 小笠原のナイトツアー



第9・10時の資料（まとめる）

◆小笠原村の人々は、豊かな自然の中で、どのようなまちづくりをめざしているのだろう。

資料 ガイドマップ



【指導上の留意点】

「しらべる」段階で調べた情報を関連させて、学習問題に対する自分の考えを書かせる。また、子供一人一人の小笠原に対する思いを書かせることも大切である。

小笠原の人々は、小笠原の豊かな自然環境を生かしながら、観光や農業、漁業などを行うとともに、自主ルールをつくったり自然を守る活動をしたりするなど、互いに協力して自然を守り生かしたまちづくりを進めている。

小単元名	豊かな自然環境を守り生かす八丈島	配当	10時間	内容(5)アの(ア)及び(イ)及びイの(ア)
------	------------------	----	------	------------------------

<主として「地理的環境と人々の生活」の区分>

1 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 小単元の目標

豊かな自然環境を守り生かしている八丈町の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、地図帳や各種の資料で調べ、白地図などにまとめ、地域の様子を捉え、それらの特色を考え、表現することを通して、八丈町では、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解できるようにするとともに、学習問題を主体的に追究・解決しようとする態度を養う。

(2) 小単元の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①八丈町の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などについて、地図帳や各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、八丈町の様子を理解している。 ②調べたことをガイドマップなどにまとめ、八丈町では、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解している。	①八丈町の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、問いを見だし、八丈町の様子について考え表現している。 ②八丈町の人々の活動や産業と八丈町の発展を関連付けたり、自分たちの住んでいる地域と比較したりして、八丈町の特色を考え、適切に表現している。	①八丈町の様子について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

2 指導計画の作成に当たって

(1) 学習指導要領との関連

- ①本小単元は、内容(5)「県内の特色ある地域の様子」に関する内容で構成しており、その中の「地域の資源を保護・活用している地域(自然環境・伝統的な文化)」に該当する小単元である。「八丈島」(自然環境)、「小笠原」(自然環境)、「浅草」(伝統的な文化)などからの選択が考えられる。なお、いずれか一つを取り上げて学習すればよい。
- ②内容の取扱い(4)アの解説に「海辺などの豊かな自然を守りながら(中略)保護・活用している地域」と記述されていることを踏まえ、本指導計画においては、総面積の92%の区域が富士箱根伊豆国立公園に指定されている豊かな東京都八丈町を取り上げている。

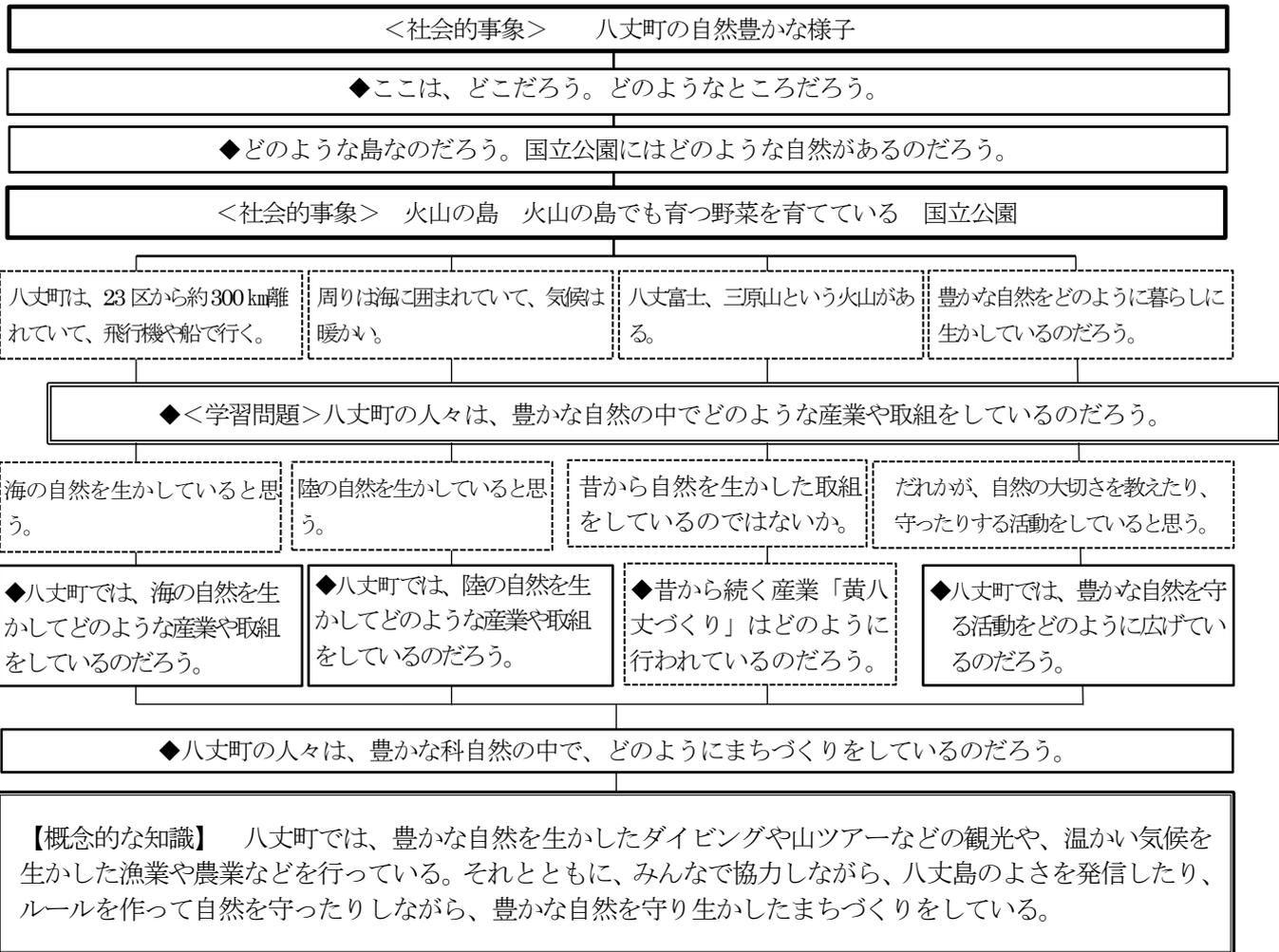
(2) 教材や資料の工夫

- ①八丈町は、東京都の子供にとって、身近な地域とは言えないと考えられる。しかし、東京都産の食材として明日葉やトビウオ、ムロアジなどを給食で活用している学校も少なくないであろう。学習の時期と学校給食を関連させて取り上げ、身近に感じられるようにしたい。また、フェニックスロベニーなど、代表的な農産物の実物を提示することなども、八丈島を身近に感じさせ、関心を高める上で効果的であると考え。あわせて、「観光PR動画」(八丈支庁公式サイト)を活用し、その豊かさに自然に出合わせ、興味・関心を高めたい。
- ②八丈町は、東京港から約300km離れている。位置や広がりをも具体的に捉えられるように、日本全図や地図帳を活用する。
- ③八丈町では、豊かな自然を活用するだけでなく、保護することにも力を入れている。そのため、八丈町で作成された「保護計画と利用計画」(八丈支庁公式サイト)を扱うことで、自然を保護しながら観光業などを行っていることを理解させたい。

(3) 学習展開や学習活動の工夫

- ①「つかむ」段階では、八丈町の位置や自然環境、人々の活動や産業などに着目して学習問題をつくり、それに対する予想を基に学習計画を立て、子供が主体的に追究できるようにしていくことが大切である。そこで、ポスター等を提示し国立公園に指定されていることを捉えさせるとともに、動画やパンフレット等を活用し、その豊かな自然に驚きをもって出合わせ、位置や自然環境、人々の活動について問いをもつことができるようにする。
- ②「しらべる」段階では、八丈町の自然を生かしたまちづくりを具体的に追究する。子供の発達段階を考慮し、調べる内容を産業別に分けるのではなく、海の自然と陸の自然に分けた授業デザインにした。また、自然を保護するまちづくりについては、島民、観光客、行政など様々な立場の人々が協力して取り組んでいることを追究できる授業デザインにした。その他、オンラインでの聞き取りなど、ICT機器も積極的に活用していきたい。なお、その際は事前の依頼や打合せを丁寧に行っておく。
- ③「まとめる」段階では、ガイドマップを作成する。ガイドブックには、八丈町の自然豊かさや保護に関するキャッチフレーズなどを学習したことを基にして考え、表現できるようにしたい。

(4) 問いの構成の工夫

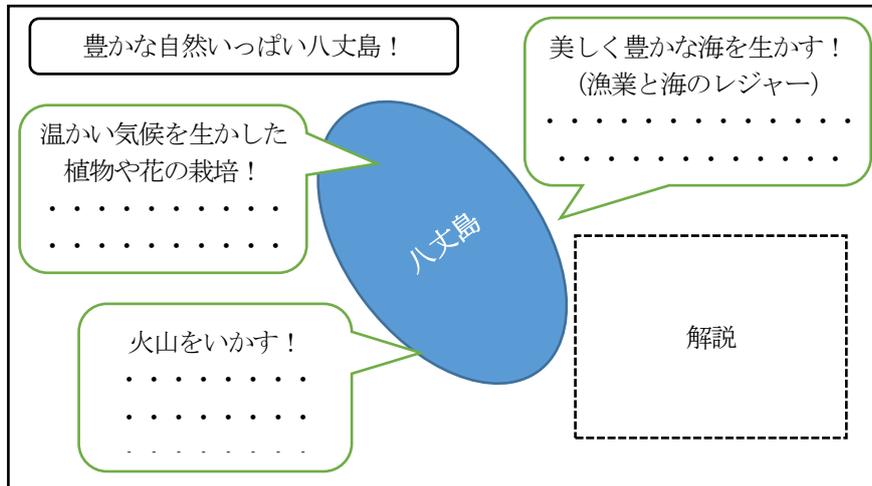


(5) 評価の工夫

「まとめる」段階においては、八丈島のガイドマップづくりの活動を通して、「思考・判断・表現」の観点から表をする。「八丈町の人々の活動や産業と八丈町的发展を関連付けたり、自分たちの住んでいる地域と比較したりして、八丈町の特色を考え、適切に表現しているか」を的確に評価できるようにするために「八丈島における自然を保護・活用している事例」とともに、その特色を短い言葉で表す「タイトル」及びその解説文を書き込むように確認をする。実際の評価については、ガイドマップにおける記述や、その後の対話的な活動における発言などから、自然環境の保護・活用の視点から適切な事例を選択してまとめているか、その取組を進める人々の願いや努力、協力関係等について適切にまとめられているか、調べた内容を関連付けたり、自分たちの住む地域と比較したりしながら八丈島の特色を考えタイトルや解説文に評価しているか、などを視点にして評価していく。

すべての子供が、これまでの学習で分かったことや考えたことを振り返りながらガイドマップにまとめられるように、活動中、教師は細やかに子供の作成の様子を把握し、個に応じた指導・支援を行っていくことが肝要である。その際、教師から子供に質問をしたり、子供から説明してもらったりすることも、子供の考えを明確にしたり、深めたりする上で効果的である。

レイアウト例▶



3 小単元の指導計画と評価計画 (10時間扱い)

過程	ねらい (○数字は第○時を表す)	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される子供の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点 ◎資料 ☆★評価【観点】)
つ	①八丈町に興味・関心をもち、位置や気候などを調べ、八丈町の概要を理解できるようにする。	○八丈町観光PR動画を見て、1番気になる疑問を出し合う。 ◆ここは、どこだろう。 ○八丈町であることを知り、地図帳で八丈町の位置を調べ、次に知りたいことを出し合う。 ◆八丈町はどのようなところだろう。 ○八丈町の気候、交通手段、観光客を調べる。 ・冬暖かい気候。 ・東京から約300km離れていて、飛行機と船で行ける。 ・観光客は、平成15年から増えている。	◎八丈町観光PR(動画) ◎地図帳 ◎観光客(グラフ) ◎八丈町の雨温図(グラフ) ◎橋丸の時刻表(図) □自分の地域との違いを考える。 ☆発言や記述から「八丈町の位置や自然環境について、地図帳や各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、八丈町の様子を理解しているか」を評価する。【知①】
む	②固有種や他地域ではあまり見られない動植物を調べ、学習問題をつくることができるようにする。	◆八丈町にはどのような自然があるのだろう。 ○八丈町の自然について調べる。 ・火山の島。火山の土でも育つ野菜を育てている。 ・島のほとんどが国立公園に指定されている。 ○このような自然や動植物の中で、八丈町ではどのようなまちづくりをしているのか話し合う。 ・自然を生かした仕事をしているのではないかと。 ・自然を守っているのではないかと。 ○疑問や調べたいことを整理して、学習問題をつくる。	◎三原山、あしたば(写真) ◎国立公園の看板(写真) □八丈町の地理的環境、気候、生物などをしっかりおさえさせてから、学習問題をつくらせる。 ☆発言や記述から「八丈町の自然環境や人々の活動などに着目して学習問題をつくっているか」を評価する。 【思①】
	③学習問題に対する予想を考え、学習計画を立てることができるようにする。	○学習問題に対する予想を話し合う。 ・海や山の自然を生かした産業をしていると思う。 ・自然を守りながらまちづくりをしていると思う。 ○予想を確かめるための学習計画を立てる。 第4時：海を自然を生かした取組や産業 第5時：山の自然を生かした取組や産業 第6・7・8時：自然と共に生きる取り組み	◎八丈島の自然(図) □既習を活用して予想させ、予想を確かめるための学習計画を立てられるようにする。 ★発言や記述から「八丈町について、学習問題に対する予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。【態①】
し	④八丈町の海の自然を生かした産業について調べ、小笠原村は、海の自然を活用するとともに、自然を守る取組をしていることを理解できるようにする。	◆八丈町では、海の自然を生かしてどのような産業や取組をしているのだろう。 ○八丈町の海の自然を生かした仕事を調べる。 ・ダイビング、魚をとったりしている。 ○どんなことを大切に仕事をしているか考える。 ・ルールを作り、自然を守りながら仕事をしている。 ○学習の振り返りを書く。 ・八丈町では、八丈町の良さを観光客に伝えたり、ルールを作って自然を守ったりしながら、ダイビング、魚をとって売ったりしている。つまり、みんなで協力しながら、海の自然を守り生かした取組や産業をしている。	◎ダイビング(図)、漁をとる(図) □オンラインを活用した漁師さんへの聞き取りや校内の栄養士などと連携など、具体的に追究できるようにする。 □SDGs(11、14)とも関連させながら取組の様子を捉えられるようにする。(以下、関連項目のみ表示。) □活用するだけでなく、保護していることもおさえさせる。 ☆発言や記述から「各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、自然を保護活用しながら産業をしていることを理解しているか」を評価する。【知①】
ら	⑤八丈町の陸の自然を生かした産業について調べ、小笠原村は、陸の自然を活用するとともに、自然を守る取組をしていることを理解できるようにする。	◆八丈町では、陸の自然を生かしてどのような産業や取組をしているのだろう。 ○八丈町の山の自然を生かした仕事を調べる。 ・火山の自然を生かした山ツアーや温泉、温暖な気候を生かした南国の果物や植物を育てたりしている。 ○どんなことを大切に仕事をしているかを考える。 ・ルールを作り、自然を守りながら仕事をしている。	◎山ツアー(図)、温泉(図) ◎果物栽培(図)、ロベ(図) □SDGs(11、15) □活用するだけでなく、保護していることもおさえさせる。 □農家の方や観光協会の方など、オンラインを活用して聞き取りを行うなど、具体的に追究できるようにする。

し ら		<p>○これまでの学習を振り返り、学習計画を見直す。 ・八丈町では、八丈町の良さを観光客に伝えたり、ルールを作って自然を守ったりしながら、山ツアーや温泉、果物や植物を作って売ったりしている。つまり、みんなで協力しながら、陸の自然を守り生かした取組や産業をしている。 ・自然を活用していることは分かった。しかし、活用するだけでは自然が壊れるのではないか。守る取組もきっとしているはずだ。それを調べたい。</p>	<p>☆発言や記述から「各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、豊かな自然を保護活用した産業や取組をしていることを理解しているか」を評価する。【知①】 ★発言や記述から「これまでの学習を振り返り、さらに調べるべきことなどを見いだそうとしているか」を評価する。【態①】</p>
べ る	<p>⑥八丈島で江戸時代から続く黄八丈について調べ、八丈の人々は昔から豊かな自然を活用して生活してきたことを理解できるようにする。</p>	<p>◆昔から続く産業「黄八丈づくり」はどのようにしているのだろう。 ○黄八丈について調べる。 ・どのような織物か。 ・原料や作り方 ・島の自然とのかかわり ○島の人々が黄八丈を大切にしていることについて考える。 ○学習の振り返りを書く。 ・八丈町では、漁協女性部の人たちが島の魚を加工して給食に出したり、出前授業をして島の大切な自然を伝えたりしている。つまり、島の自然を守りながら八丈町の自然のよさを伝えている。</p>	<p>○黄八丈の織物（写真、実物）、原料や作り方に関する資料 □島の人々の生活と島の自然とのつながりを時間的な経過からも捉えられるようにする。 □SDG s（4、11、14、15） ☆発言や記述から「各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、黄八丈など、八丈島の人々は昔から自然を生かした産業を行って暮らしてきたことを理解しているか」を評価する。【知①】</p>
	<p>⑦⑧八丈町の自然保護活動を広げる取組を調べ、自然を保護活用したまちづくりをしていることを理解できるようにする。 ～漁協女性部～</p>	<p>◆八丈町では、小笠原の自然を守る活動をどのように広げているのだろう。 ○八丈町の自然保護の取組を広げる活動を調べる。 ・島の魚を無駄にしないようにミンチに加工し、小学校の給食に出している。 ・漁協女性部が出前授業をし、自然の大切さを伝えている。 ・観光協会が自然保護の様々な発信をしている。ホテルも自然保護の取組をしている。 =ゲストティーチャーを活用した活動例= ○八丈島の自然についてゲストティーチャー（漁協女性部）と調べる。 ○今日の給食の献立を栄養士と調べる。 ・八丈島のムロアジのハンバーグ ○なぜ、島の魚を大切にしているのかゲストティーチャー（漁協女性部）と考える。</p>	<p>○ゲストティーチャー等の話（八丈島漁協女性部、八丈島の方、校内栄養士）、「保護計画と利用計画」（八丈支庁公式サイト） □漁協女性部の出前授業やオンライン等で聞き取りを行う場合、できるだけ早めに依頼し、事前の打ち合わせをしっかりと行っていく。漁協の他に町役場や観光協会などとの連携も考えられる。 □給食に八丈島の魚を出してもらおうよう、事前に栄養士と打ち合わせをしておく。 □SDG s（4、11、14、15） ☆発言や記述から「各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、様々な立場の人々が協力し、自然を保護活用したまちづくりをしていることを理解しているか」を評価する。【知①】</p>
ま と め る	<p>⑨⑩調べたことをガイドマップにまとめ、学習問題に対する自分の考えを表現できるようにする。</p>	<p>◆八丈町の人々は、豊かな自然の中で、どのようにまちづくりをしているのだろう。 ○調べたことをガイドマップにまとめる。 ・「太陽・海・山を楽しむ・生かす・守る八丈島」温暖な気候を生かした植物の栽培が盛んで、島に花があふれている。また、豊かな海を生かした観光や水産業も盛ん、火山を生かした観光も盛んである。そして、様々な立場の人が協力してよりよい町にしようとしているから。 ○学習問題に対する自分の考えをまとめる。 （編集後記） 八丈町では、豊かな自然を生かしたダイビングや山ツアーなどの観光や、温かい気候を生かした漁業や農業などを行っている。それとともに、みんなで協力しながら、八丈島のよさを発信したり、ルールを作って自然を守ったりしながら、豊かな自然を守り生かしたまちづくりをしている。</p>	<p>□ガイドマップには八丈町の観光を生かしたまちづくりをPRすることができるように内容を選択させる。必ずタイトルと解説文を加えさせる。 □SDG s（11、14、15） ★発言やガイドマップの記述から「八丈町の人々の産業や活動と島の発展を関連付けたり、自分たちの住んでいる地域と比較したりして、八丈町の位置や自然環境、産業等、八丈町の特色を考え、適切に表現しているか」を評価する。【思②】 ★発言や記述から「八丈町では、人々が協力し、豊かな自然を生かしながら特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解しているか」を評価する。【知②】</p>

小単元名	江戸の文化を伝える浅草	配当10時間	内容(5)アの(ア)及び(イ)とイの(ア)
------	-------------	--------	-----------------------

<主として「地理的環境と人々の生活」の区分>

1 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 小単元の目標

伝統的な文化を保護・活用している浅草について、その位置、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、地図帳や各種の資料で調べ、白地図などにまとめ、浅草の様子を捉え、それらの特色を考え、表現することを通して、浅草では、歴史ある建造物やまち並み、祭りなどの地域の伝統的な文化を受け継ぎながら、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解できるようにするとともに、学習問題を主体的に追究・解決しようとする態度を養う。

(2) 小単元の観点別評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①浅草の位置や人々の活動の歴史的背景、人々の協力関係などについて、地図帳や各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、浅草の様子を理解している。	①浅草の位置、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、問いを見だし、浅草の地域の様子について考え、表現している。	①浅草の様子について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことをガイドマップや文章などにまとめ、浅草では、地域の伝統文化を受け継ぎながら、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解している。	②浅草の人々の活動や産業と地域の発展を関連付けたり、自分たちの住む地域と比較したりして、浅草の特色を考え、適切に表現している。	

2 指導計画の作成に当たって

(1) 学習指導要領との関連

- ①本小単元は、内容(5)の「県内の特色ある地域の様子」に関する内容における、「地域の資源を保護・活用している地域」の事例として構成した小単元である。その中でも、本指導計画は、伝統的な文化を保護・活用している事例として台東区浅草を取り上げている。自然環境を保護・活用する小笠原や八丈島なども含めて、それらの中からいずれかを選択して取り上げる。事例地選択の際には、自分たちの地域の様子と比較しながら、それらの特色を捉えられるように配慮する。
- ②伝統的な文化を保護・活用している地域を取り上げる際には、県内の文化財や行事を保護・継承している人々の努力を扱う内容(4)「県内の伝統や文化」の学習との違いに配慮する。

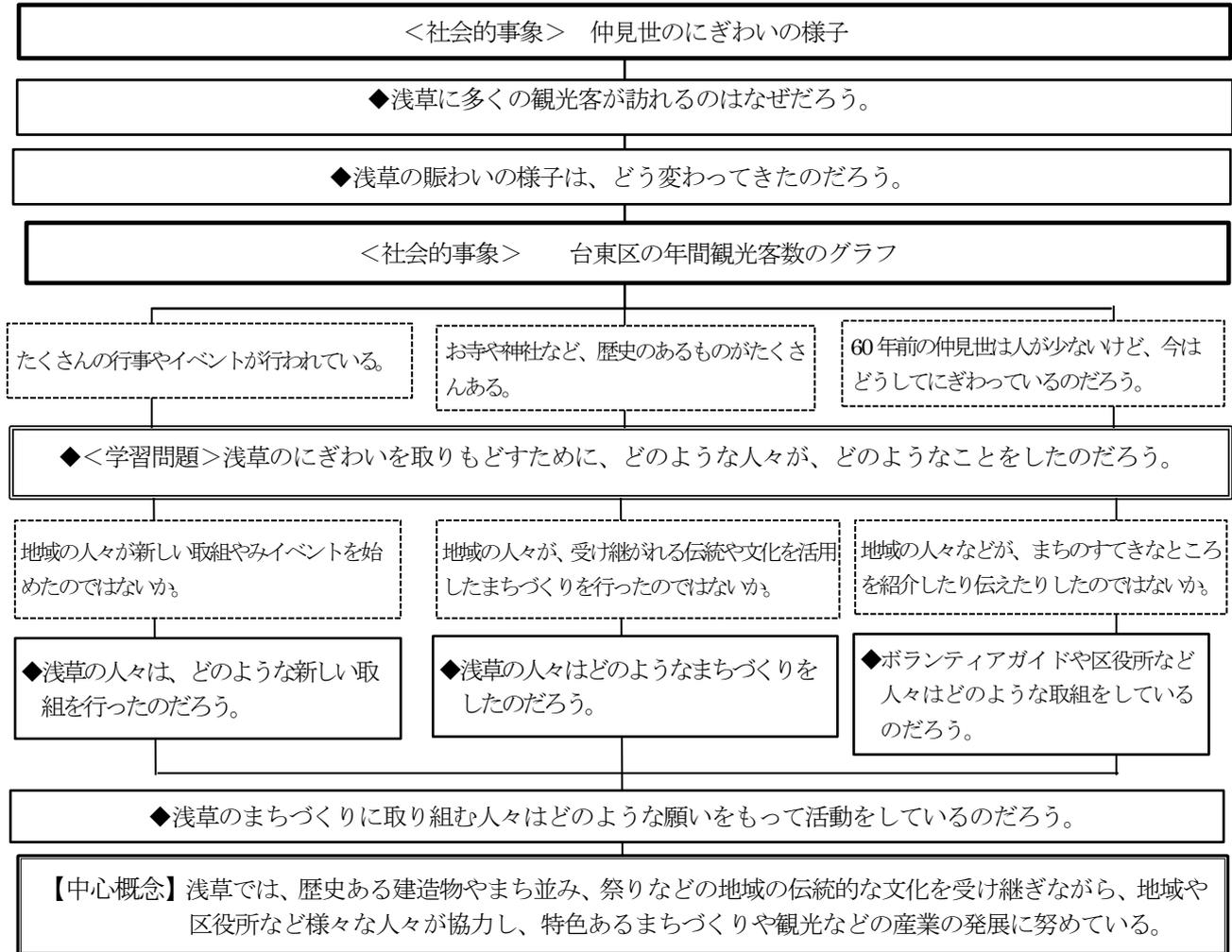
(2) 教材や資料の工夫

東京都台東区は、平成30年度の統計で、外国人950万人以上を含む年間5500万人以上の観光客が訪れる、日本でも屈指の観光地である。その中でも特に浅草は、そのシンボリックな地域であり、浅草寺や仲見世通りを中心とする歴史的建造物や町並み、江戸三大祭りの一つである三社祭を始め、昔から受け継がれる数々の祭りや年中行事、人情味あふれる下町情緒は、他地域にはない大きな魅力であり観光資源となっている。しかし、このような浅草でも、1960年代には、新宿や渋谷などの新しい街に人々が流れてしまうこともあった。そのような状況の中、地域の人々、区役所など様々な立場の人々が協力をして、浅草の伝統的な文化を生かしながら、手作りの案内板の設置や、サンバカーニバルなどの新たな取組、商店街の整備などを積極的に進め、地域の再興に取り組んだ。その結果が今の賑わいにつながっているのである。浅草の町並みや年中行事、賑わいの様子や、台東区を訪れる観光客数の変化から、そこで活動する人々に着目をさせ、その働きや協力関係について主体的に追究できるようにしたい。

(3) 学習展開や学習活動の工夫

- ①「つかむ」段階では、歴史的な建造物や年中行事、その賑わいなどから現在の浅草の様子を捉えさせるとともに、賑わいが消えた時の様子と比較しながら、地域の人々が、どのようにして賑わいを取り戻したのか疑問をもたせ、学習問題をつくる。そして、予想を基に学習計画を立て、児童が主体的に追究できるようにする。
- ②「しらべる」段階では、受け継がれる文化財や年中行事、地域の人々の取組について主体的に調べられるように、パンフレットや、地域の人々のインタビュー資料、インターネットも活用していきたい。具体的な追究活動として、観光ボランティアガイドを利用した社会科見学を年間計画に位置付けておくと、より効果的である。
- ③「まとめる」段階では浅草の見所とそこに込められた人々の努力や思いをガイドマップにまとめ、それを交流し合う。東京都民の一人として、受け継がれる伝統的な文化の素晴らしさに関するキャッチフレーズなどを学習したことを基にして考えられるようにしたい。

(4) 問いの構成の工夫



(5) 評価の工夫

「つかむ」段階では、社会的事象から問いを見だし学習問題をつくる場面で「思考・判断・表現」を、学習問題に対する予想を基に学習計画を立てる場面で「主体的に学習に取り組む態度」を評価していく。

本小单元においては、第2時に昭和初期、1960年代、現在の浅草の様子（写真）を比較し、その賑わいの変化に疑問をもたせ、第1時で学習した浅草の歴史的な建造物を含む町の様子や伝統的な年中行事など様々なイベントなどに着目しながら、問いを見だし学習問題をつくる。その活動において、児童の思考を的確に捉えることができるように、3枚の写真を比較して気付いたこと、一度賑わいがなくなったときからどのように取り戻してきたのか自分なりに考えたことをノート等にしっかりと書かせることが大切である。実際には、「浅草には、三社祭や花火大会など1年中、様々な行事が行われている。浅草の人々は、それをもっと盛り上げ、多くの観光客が来てくれるようにしたのではないか。」「浅草には、歴史的な建造物や行事がたくさんある。外国の人にもアピールをして賑わいを取り戻したのではないか。」などの記述があれば「おおむね満足できる状況」と捉えることができる。ここでこの疑問や考えが、その後の追究にもつながっていくため、一人ひとりが自分なりの考えをもつことができるように、学びの状況において丁寧に第1時の内容や既習事項を振り返らせるなどの支援を行う。

第3時では、学習問題に対して予想を基に学習計画を立てる。その際、第2時とともに、都内に受け継がれる文化財や年中行事の学習を振り返らせる。そして、地域の人々の働きに着目して予想をし、追究の見通しをもてるようにしたい。

実際の評価については、「くらやみ祭でも様々な人々が協力して受け継いできた。また、伝統的な行事だけでなく、サンバカーニバルなど新しいイベントもある。浅草の人々だけでなく、区役所やお店の人など、様々な立場の人々が協力をして、新しいイベントや取組を行っているのではないか。」と予想を立て、「『どのような人々が、どのような新しいイベントをしているのか』調べる」など、根拠を明確にして予想を立て、調べる内容を明確にすることができていれば、「おおむね満足できる状況」と捉えられる。

3 小単元の指導計画と評価計画 (10時間扱い)

過程	ねらい (○数字は第○時を表す)	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される子供の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点○資料☆★評価【観点】)
つかむ	①浅草の様子に関心をもち、その位置や町の様子など理解する。	○浅草の写真から気付いたことを話し合い、どこのみちか予想する。 ・雷門は有名で、ニュースなどでも見たことがある。 ・仲見世は昔風のお店が並んでいる。 ○浅草の位置や、観光客数を調べる。 ◆浅草に多くの観光客が訪れるのはなぜだろう。 ○浅草の文化財や、年中行事を調べる。 ・浅草寺や浅草神社など文化財が多い。年間通じて行事。	◎写真(雷門、仲見世、三社祭) ◎台東区の年間観光客数グラフ ◎地図帳、浅草の年中行事、文化財 □自分の地域との違いを考える。 ☆発言や記述から「浅草の位置や町の様子などについて、地図帳や各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、浅草の様子を理解しているか」を評価する。【知①】
	②昔と今の浅草を比べ、町の賑わいの変化から学習問題をつくる。	◆浅草の賑わいの様子は、どう変わったのだろうか。 ○昭和初期、1960年代、現在の浅草仲見世の賑わいの様子を比べ気付いたことを話し合う。 ・昔からたくさんの人が訪れ賑わっていたのに、なぜ、約60年前、賑わいがなかったのか。 ・約60年前消えた賑わいが、なぜ戻ってきたのか。 ○話し合ったことをもとに学習問題をつくる。	◎浅草仲見世の写真(昭和初期、1960年代、現在) □渋谷や新宿など新しい街に賑わいが移ったことを補説。賑わいがどのように戻ったのか疑問を高める。 ☆発言や記述から「昔と今の浅草の賑わいの変化などに着目して学習問題をつくらせているか」を評価する。【思①】
浅草のにぎわいを取りもどすために、どのような人々が、どのようなことをしたのだろうか。			
	③学習問題についての予想を基に、学習計画を立てる。	○学習問題に対して、これまで学習したことや、現在の町並みや、イベントなどの写真をもとに予想し、学習計画を立てる。 (予想) → (調べる問い) ・地域の人々が、新しい取組を始めたのではないか。 →浅草のまちの人々は、どのような新しい取組を始めたのだろうか。 ・地域の人々が、昔から受け継がれる伝統や文化を守り活用したのではないか。 →浅草のまちの人々は、受け継がれる江戸の文化や伝統をどのようにまちづくりに生かしたのだろうか。 ・まちの人々が、まちのすてきなところを紹介したり伝えたりしたのではないか。 →ボランティアガイドなどの人々はどのような取組をしているのだろうか。	◎写真(サンバカーニバル、伝法院通り、ボランティアガイド等) □伝統や文化、新しいもの、活動している人々に着目して、予想を立てるよう助言する。 ★発言や記述から「現在の浅草の様子や既習事項を想起して、学習問題に対する予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。【態①】
しらべる	④賑わいを取り戻すための新しい取組について調べ、理解する。	◆浅草のまちの人々は、どのような新しい取組を始めたのだろうか。 ○新しい取組や、その中心となった浅草おかみさん会：富永さんの努力や思いについて資料を活用して調べる。 ・手作り案内板が作られている。 ・サンバカーニバルは新しく始められたイベントだ。 ・二階建てバスを呼んで、人が集まりたいと思えるようにしている。	◎イベントや新しい取組の年表と写真、パンフレット等 ◎浅草おかみさん会：富永さんの話 ○新しい取組の基にある思いや願いに着目させる。 ☆発言や記述から「各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、まちの賑わいを取り戻すために新しい取組をしていることを理解しているか」を評価する。【知①】
	⑤⑥江戸の文化や伝統を生かしたまちづくりの取組について調べ、その様子を理解する。	◆浅草のまちの人々は、受け継がれる江戸の文化や伝統をどのようにまちづくりに生かしたのだろうか。 ○浅草のまちの人々は、江戸の文化や伝統をどのようにまちづくりに生かしているのか、資料を活用して調べる。	◎年中行事の様子、行事の歴史、パンフレット等、伝法院通りの今と昔の写真 □浅草の人々の思いや願いを吹き出しに表現する。 □可能であれば第7時とあわせ、見学やオンライン等での聞き取りなどを行えるようにする。

し ら べ る		<ul style="list-style-type: none"> ・商店街の建物が、同じ雰囲気のものにそそえられている。 ・芝居小屋が復活している。 ○これまでの学習を振り返り、学習計画を見直す。 ・浅草の人々は、昔から受け継ぐものを生かしながら、新しい取組をしてきた。 ・それだけでは、昔から受け継いだ文化財や年中行事などの文化や伝統が失われてしまうかもしれない。それらを守る取組をきつとしていると思う。その努力を調べたい。 	<p>☆発言や記述から「各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、江戸の文化や伝統を生かした取組やまちづくりをしていることを理解しているか」を評価する。【知①】</p> <p>★発言や記述から「これまでの学習を振り返り、さらに調べるべきことなどを見いだそうとしているか」を評価する。【態①】</p>
	⑦浅草の人々は、どのように江戸の文化財や伝統行事を守ってきたのか調べ、その様子を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ◆浅草のまちの人々は、文化財や伝統行事をどのように守ってきたのだろう。 ○文化財や伝統行事の歴史を、資料を活用して調べる。 ・隅田川花火大会が再開されている。 ・年中行事を支える人たちが協力している。 ・地域の人々や区役所なども協力して、文化財を守ったり、保存したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○伝統行事や文化財の歴史 ○パンフレット等 □長い間、人々の努力により、行事や文化財が受け継がれ、今があることに気付かせる。 ☆発言や記述から「各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、江戸の文化財や伝統行事を活用したまちづくりをしていることを理解しているか」を評価する。【知①】
	⑧ボランティアガイドや区役所の人々はどのような取組をしているのか調べ、人々の協力について考える。	<ul style="list-style-type: none"> ◆ボランティアガイドや区役所などの人々はどのような取組をしているのだろう。 ○ボランティアの人々の活動や区役所の協力の様子について、資料を活用して調べる。 ・地域の浅草のよさを伝えるボランティアガイドを行っている。 ・区役所もパンフレットやポスターなどPR。行事やイベントなどにも協力している。 ・外国から来る観光客の人たちのために、いろいろな国の言葉で書かれたパンフレットを用意。 ・ボランティアや区役所の人々も、まちの人々と協力して取り組んでいる。 ・浅草文化観光センターが建てられて、観光客の人に町の魅力を伝えるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○浅草文化観光セーの概要 ○台東区観光課の人の話 ○台東区作成のパンフレット等 □区役所と地域の人々との連携、協力に気付くことができるようにする。 ☆発言や記述から「各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、区役所や台東区の人々は協力しながら浅草のよさを伝える取組をしていることを理解しているか」を評価する。【知①】
ま と め る	⑨⑩調べたことをガイドマップ等にまとめ、学習問題について考え、浅草の特色あるまちづくりなどについて理解している。	<ul style="list-style-type: none"> ◆浅草のまちづくりに取り組む人々はどのような願いをもって活動をしているのだろう。 ○浅草のまちづくりの特色やよさ、取り組む人々の思いについて話し合う。 ・受け継がれた伝統・文化を活用。新しい取組。 ・様々な立場の人々が協力。自分たちのまちを盛り上げたいという強い思いをもっている。 ○ガイドマップのタイトルを考える。 ・江戸が今も残るまち ・歴史と新しさを感じるまち ○調べたことをもとに、浅草のまちづくりの取組やまちの見所をガイドマップにまとめ、交流し合う。 ○学習問題について、分かったことや考えたことを編集後記にまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>・浅草では、地域や区役所の人など、様々な人々が協力して、伝統的な文化を受け継ぎ、活用しながら、多くの観光客が訪れるまちづくりを進めている。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> □自分たちの地域や既習の地域と比較して考えるように促す。 □調べたことを関連付けて考えるように助言する。 ★発言やタイトルの記述から「浅草の人々の活動や産業と地域の発展を関連付けたり、自分たちの地域と比較したりして浅草の特色を考え、適切に表現しているか」を評価する。【思②】 □文化財や年中行事等の特色やよさを、人々の取組や思いと関連付けて、マップに書き込むよう助言する。 □ガイドマップの編集後記として学習問題について自分の考えをまとめさせる。 ★ガイドマップ等の記述から「浅草では、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解しているか」を評価する。【知②】

小単元名	世界とつながる大田区	配当 10時間	内容(5)アの(ア)及び(イ)とイの(ア)
------	------------	---------	-----------------------

<主として「地理的環境と人々の生活」の区分>

1 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 小単元の目標

国際交流に取り組んでいる大田区について、位置や国際交流活動及びその背景、関係機関の人々の協力関係などに着目して、地図帳や各種の資料、ホームページなどで調べ、文章に記述したり新聞などにまとめたりして地域の様子を捉え、大田区の特徴を考え、表現することを通して、大田区では人々が協力し、国際都市をめざしたまちづくりをしていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

(2) 小単元の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①大田区の位置、国際交流活動及びその背景、人々の協力関係などについて、地図帳や各種の資料などで調べて、必要な情報を集め、読み取り、国際交流に取り組んでいる大田区の様子を理解している。	①大田区の位置や国際交流活動の背景、人々の協力関係などに着目して問いを見出し、大田区では人々が協力し国際都市を目指したまちづくりに努めていることについて、考え表現している。	①国際交流に取り組む大田区について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを文章に記述したり、新聞などにまとめたりして、大田区では、人々が協力し国際都市を目指したまちづくりをしていることを理解している。	②地域の人々の活動や交流の様子を関連付けたり、自分たちの住む地域と比較したりして、国際交流に取り組んでいる大田区の特徴を考え、適切に表現している。	

2 指導計画の作成にあたって

(1) 学習指導要領との関連

- ①本小単元は、内容(5)「県内の特色ある地域の様子」に関する内容における「国際交流に取り組んでいる地域」の事例として、東京国際空港(羽田空港)の再国際化をきっかけに「国際都市おおた」を宣言し、特色ある対応や交流活動を進めている大田区を取り上げて構成した。東京都の地図を活用して大田区の位置を確認し、国際交流活動の背景や関係機関の人々の協力関係に着目して調べるようにする。
- ②内容の取扱い(4)ウにおいて、国際交流に取り組んでいる地域を取り上げる際は、「我が国や外国には国旗があることを理解し、それを尊重する態度を養うように配慮する」とある。東京国際空港は、現在18の国や地域と定期運航便で結ばれている。地図帳や地球儀を活用して国や地域の位置を確認するとともに、それらの国や地域の旗を示して指導する。

(2) 教材や資料の工夫

- ①「つかむ」段階で、東京国際空港と外国とのつながりが分かる資料や東京国際空港の国際線乗降客数、大田区の在住外国人数の統計資料を提示し、社会的事象の見方・考え方(位置や空間的な広がり、時期や時間の経過)を働かせながら、大田区の人々が外国人と共に過ごすことのできるまちづくりの必要性を捉え、その取組について調べることに関心をもつことができるようにする。
- ②大田区の地域住民が外国人と共に実施した防災訓練と「国際都市おおた宣言」から、「人々の協力関係」に着目して学習問題をつくり、行政を中心とした外国人と共生するための取組の様子やその意味を捉えることができるようにする。

(「国際都市おおた宣言」(概要)…おもてなしの翼を広げ 世界中の人々を歓迎しよう(中略)、ふれあいの翼を広げ 多様な文化を分かち合おう(中略)、みらいの翼を広げ 豊かな明日をともにつくりよう(後略) 平成29年3月12日)

(3) 学習展開や学習活動の工夫

- ①外国人の増加に対応した大田区の取組について、「外国人旅行者」「在住外国人」の2つに分けて調べるとともに、NGOやボランティア団体、地域住民、地域に住む外国人等の協力を調べることを通して、関係する人々の協力関係を多角的に考えられるようにする。
- ②「まとめる」段階では、「外国人旅行者」に対する観光振興や「在住外国人」に対する多文化共生のためのそれぞれの立場の人たちの取組などを整理して新聞に表現し、学習問題に対して分かったことや考えたことをまとめる。また、作成した新聞を活用して、国際交流を進めている大田区の特徴について、自分の考えを説明し合う活動を設定し、対話を通して各自の考えを深められるようにする。

(4) 問いの構成の工夫について



(5) 評価の工夫

「つかむ」段階では、東京都全体を概観しながら身近な地域と外国人との関わりについて調べ、理解する。その際、生活経験と外国人数のグラフの推移を関連付けながら事実を押さえることができているかについて見取り、知識・技能について記録に残す評価を行う。そして、学習問題をつかった後、学習問題に対する各自の予想や、それを確かめるために調べる内容を考える活動において「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の観点から記録に残す評価をする。それにより、子供一人一人の学びの見通しを把握してその後の指導に生かしたり、その後に振り返りにおいて、この記録と関連付けながら適切に評価、支援をしたりすることができる。

「しらべる」段階では、学習計画に即して、区や住民、関係機関の取組や相互関係について追究していく。その際、外国人の支援に関する取組を調べ終えたところで、これまでの追究を振り返る活動を設定する。具体的には、クラス全体で、学習問題の解決に向けて明らかになったことや未解決なこと、今後大切にしたいことや付け加えたいことなどを話し合う。その際の発言や記述から「主体的に学習に取り組む態度」について評価する。学習問題を意識しながら自分の追究を振り返ることができたか、また、学習問題解決に向けて自分の学びを調整しているかなどを評価する。

「まとめる」段階では、学習問題について考えたことを、新聞にまとめる活動を行う。その際に、調べた事実を羅列するのではなく、事実相互を関連付けたり、学習問題に対する予想を振り返ったりして、自分が住んでいる地域と比較したりしながら記述しまとめているかについて評価する。

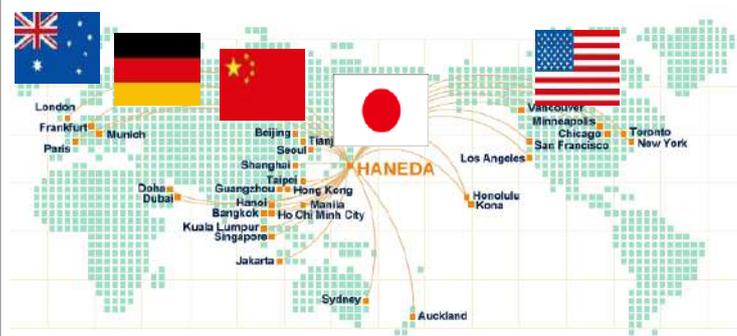
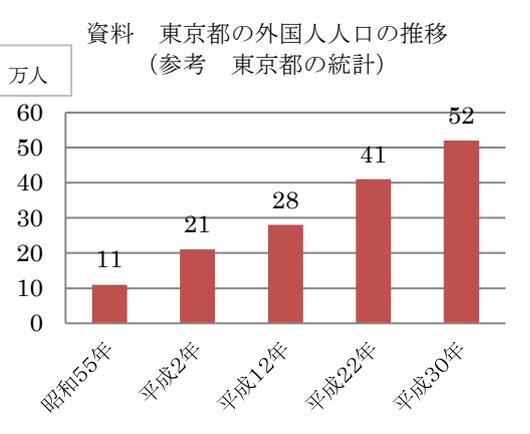
3 小単元の指導計画（10時間扱い）

過程	ねらい (○数字は第○時を表す)	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される子供の反応(・)	教師の指導と評価 (□留意点◎資料☆★評価【観点】)
つ か む	①東京都に住む外国人の数や共に生活する様子について調べ、東京都では外国人の人々と共に生活していることや、都内の外国人人数が増加し続けていることを理解できるようにする。	○都内で外国人の人々で出会った経験等について話し合う。 ◆東京都にいる外国人の人々の数は、どのように変わっているのだろう。 ○東京都を訪れたり在住したりしている外国人の数やその変化を調べる。 ・在住は約55万人。約40年間で5倍に増加。 ○外国人の人々が働いている様子の写真を見て、仕事や生活などの様々な問題に直面する例について話し合う。 ・言葉が通じない時があるのではないか。 ・習慣が違って困ることがあるのではないか。 ○外国人人口が増えていることの背景等について話し合う。 ・日本の人口減少。日本で仕事をしに来る。 ・なにか外国人と協力して取り組んでいることがあるかもしれない。	◎都内で観光や生活、仕事をしている外国人の写真、都内在住の外国人数の推のグラフ □都内で外国の方に出会った経験や、関わった経験を想起させ、交流や生活について関心や問題意識を高める。 ☆発言や記述から「必要な情報を集め、読み取り、東京都に住む外国人数の推移を読み取り、東京都では、多くの外国人の人々が共に生活していることを理解しているか」を評価する。【知①】
	②東京国際空港の様子について調べ、同空港が世界とつながる玄関口であり、大田区には外国人が多く暮らしていることを理解できるようにする。	○世界とつながる玄関口である東京国際空港(大田区)の写真を見て、知っていることを話し合う。 ・とても大きな空港で、お店やレストランがある。 ・日本各地とつながる。外国ともつながっている。 ◆大田区は、どのように外国とつながっているのだろう。 ○大田区や東京国際空港の位置、東京国際空港が平成22年に再国際化されたことを調べる。 ○大田区に住んでいる外国人の数や国籍別内訳を調べる。	◎空港の写真 □国旗について指導する。 ◎東京国際空港とつながる国々、大田区の外国人人口のグラフ ☆発言や記述から「必要な情報を集め、読み取り、空港の役割や大田区に住む外国人が多いことを理解しているか」を評価する。【知①】
	③「国際都市おおた宣言」を出した大田区のまちづくりについて、学習問題をつくり、学習計画を立てることができるようにする。	◆大田区では、なぜ外国人向けの防災訓練を行ったのだろう。 ○外国人向けの防災訓練の様子や、行っている理由について話し合う。 ・たくさんの外国人が参加。大田区にはたくさんの外国人が暮らしているからだと思う。 ・日本は自然災害が多い。日本で暮らすには防災について知ることと、関わりをつくるのが大切。 ○国際都市おおた宣言「おもてなし・ふれあい・未来」について調べ、大田区の人々の取組について、学習問題をつくる。	◎外国人向けに行った防災訓練の写真 ◎大田区に住む外国人の話 ◎国際都市おおた宣言 ☆発言や記述から「大田区の位置や国際交流活動の背景、人々の協力関係などに着目して問いを見いだしているか」を評価する。【思①】
		大田区の人々は、国際都市をめざして、どのようにまちづくりを進めているのだろう。	
		○学習問題について予想して、話し合う。 ・羽田にくる外国人旅行者のために、「おもてなし」をしていると思う。 ・在住外国人のために、「ふれあい」の機会をつくっていると思う。 ・大田区の特徴であるものづくりを生かした国際交流もあるのではないか。 ・国際都市を目指しているから、海外の都市との交流もあると思う ○予想を基に、学習計画を立てる。 ・外国人旅行者のために、大田区ではどんな「おもてなし」の取組をしているのだろう。 ・在住外国人のために、大田区ではどんな「ふれあい」の取組をしているのだろう。 ・「未来につながるものづくりの技術」とは、どのようなものなのだろう ・外国の都市とどのような交流をしているのだろう。	□国際都市おおた宣言にある3つの翼に即して予想を立てるように助言する。 □外国人については、旅行者と在住外国人に分けて考えるように助言する。 ★発言や記述から「国際交流に取り組む大田区のまちづくりについて予想を基に学習計画を立て、追究の見通しをもっているか。」を評価する。【態①】

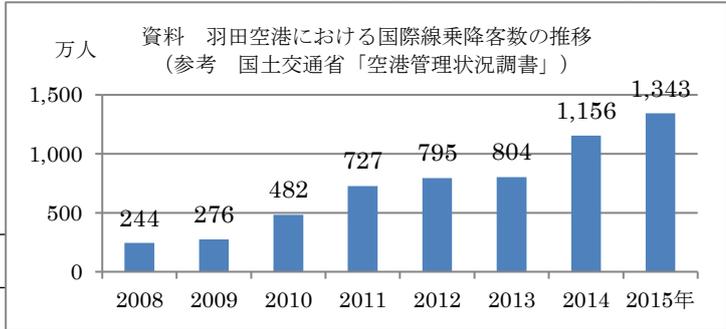
し ら	④外国人旅行者が安心して観光をしたり過ごしたりできる取組を行い訪問者が多いまちにしようとしていることを調べ、理解できるようにする。	◆外国人旅行者のために、大田区では、どのような「おもてなし」の取組をしているのだろう。 ○大田区や地域住民の取組を調べる。 ・観光情報センター ・ウェルカムショップ ・特区民泊施設 ○区、地域住民、外国人旅行者の関係をまとめる。 ・区と住民が協力して外国人旅行者の「おもてなし」をしている。	◎大田区多文化共生実態調査の結果 ◎観光情報センター、ウェルカムショップ、外国語での道案内表示、民泊施設の写真、民泊を利用した外国人の話 ☆発言や記述から「必要な情報を集め、読み取り、大田区では区と住民が協力して、様々な取組を行っていることを理解しているか」を評価する。【知①】
べ る	⑤⑥在住外国人が安心して生活できるようにするための取組を調べ、関係機関の連携を捉え、国際都市おおた協会の役割を調べ、理解できるようにする。	◆在住外国人のために、大田区では、どのような「ふれあい」の取組をしているのだろう。 ○大田区多文化共生推進センターの取組を調べる。 ・多言語による相談窓口 (mics おおた) を開いている。 ・学校からの手紙を読むための保護者向け教室の開催している。 ○国際都市おおた協会の取組を調べる。 ・「空の日」というイベントで、他文化交流カフェという会話を楽しめる場所が設けられている。 ・「ジャパンデイ」というイベントで、日本文化を体験できる。 ・多文化交流イベント。 ・来～るおおた大使。 ○これまでの追究を振り返り、今後の学習計画について話し合う。	◎多言語相談窓口や学校からの手紙を読むための保護者向け教室の写真、国際都市おおた協会・各イベントのHPや各担当者の話、「来～るおおた大使」の国別人数のグラフ ☆発言や記述から「必要な情報を集め、読み取り、大田区では区役所や関係機関の人々が、様々な取組をして外国人の生活を支えていることを理解しているか」を評価する。【知①】 ★発言や記述から「自分の学習を振り返り、今後の学習計画を見直しているか」を評価する。【態①】
	⑦ものづくりの技術を生かして世界とつながり、地域を発展させようとしていることを調べ、理解できるようにする。	◆「未来につながるものづくりの技術」とは、どのようなものなのだろう。 ○大田区の町工場のものづくりについて調べる。 ・熟練した高い技術をもつ。 ・仲間まわしという方法で、注文された特殊なものを短期間で作り上げることができる。 ○「ものづくりの力で未来をつくる」とは、どのような意味か調べ、話し合う。 ・世界の人々に役立つものを通る。 ・海外の人々と協力してものづくりをする。 ○大田区のものづくり支援の取組を調べる。	◎町工場の分布図や写真 ◎都内の工場数のベスト5 ◎仲間まわしネットワーク ◎見本市や商談会の写真 ☆発言や記述から「必要な情報を集め、読み取り、大田区・町工場・海外企業が連携協力した製品作りを通して、地域を発展させようとしていることを理解しているか」を評価する。【知①】
	⑧姉妹都市や友好都市との交流を調べ、理解する。	◆大田区は、外国の都市とどのような交流をしているのだろう。 ○中国北京市朝陽区、アメリカ合衆国セーラム市、ドイツブレーメン市との交流を調べる ・卓球交歓大会 ・中学生海外派遣 ・市民団体の茶道体験	◎世界地図、市民団の団長の話 ☆発言や記述から「必要な情報を集め、読み取り、姉妹都市や友好都市との交流の意義について理解しているか」を評価する。【知①】
ま と め る	⑨⑩国際都市をめざす大田区のまちづくりの取組について新聞にまとめ、その特色を考え、大田区では人々が協力し、国際都市をめざすまちづくりをしていることを理解できるようにする。	◆大田区の人々は、外国の人々と共によりよく過ごすために、どのようなまちづくりを進めているのだろう。 ○自分たちの地域での国際交流の取組について調べる。 ○調べてきたことを関連付けて、国際都市をめざしている大田区の人々のまちづくりの特色について話し合う。 ○大田区の国際都市をめざしたまちづくりについて新聞にまとめ、説明し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">大田区では、外国人と共に過ごすために、区、NGO やボランティア団体、地域の人が協力して国際交流を進め、国際都市をめざしたまちづくりをしている。</div> ・地域の特色やよさを生かした大田区の取組はすばらしいと思う。自分も地域の外国の方と交流をしていきたい。	◎自分の地域の現状の資料 <input type="checkbox"/> 自分たちの地域と比較したり、調べたことを関連付け、まとめたりしながら、大田区のまちづくりの特色を考えられるようにする。 <input type="checkbox"/> 板書でまとめ方のポイントを例示する。 ★発言や記述から「大田区の活動や交流の様子を関連付けたり、自分が住んでいる地域と比較したりして、国際交流に取組んでいる大田区の特色を考え、適切に表現しているか」を評価する。【思②】 ★発言や新聞の記述から「調べたことたりして、大田区では、人々が協力し国際都市を目指したまちづくりをしていることを理解しているか」を評価する。【知②】

第1・2時の資料（つかむ）

◆ 東京都の外国人の人口はどんなになっているのだろう。 資料 就航都市一覧（羽田空港旅客ターミナルHP）

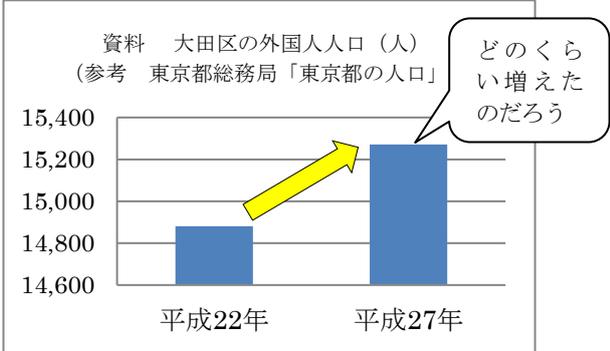


東京都の外国人人口の推移や羽田空港の航空路の広がりに着目する。

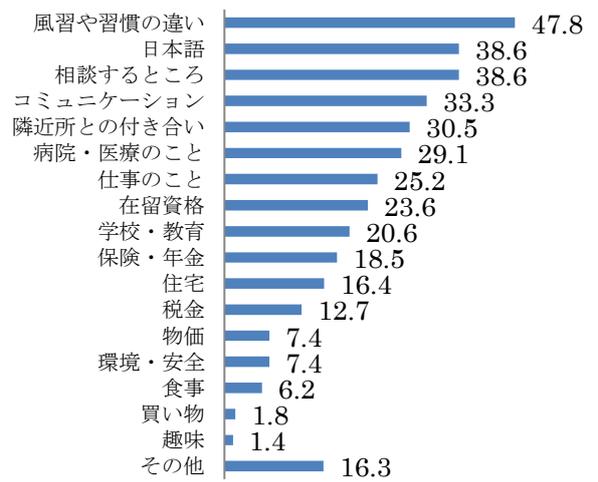


第2・3時の資料（つかむ）

◆ 大田区にはどのくらいの外国人がいるのだろう



資料 外国人が生活で困ることは何だと思いますか。(日本人にアンケート)
参考 平成26年度大田区多文化共生実態調査 %



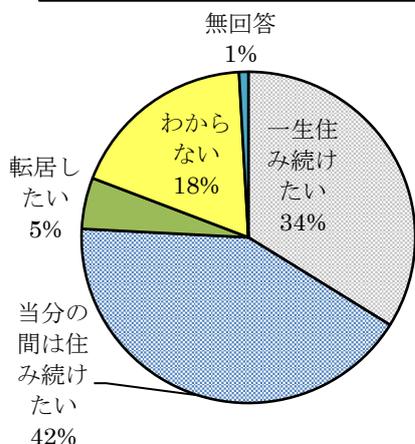
【指導上の留意点】
防災訓練の写真と実態調査の結果から、増える外国人と共に過ごす大田区の人々の取組や気持ちを予想し、学習問題をつくる。

【学習問題】
大田区の人々は、国さい都市をめざして、どのようにまちづくりを進めているのだろう。

第4～8時の資料（調べる）

◆大田区の人々はどのような取組をしているのだろう。 平成26年度大田区多文化共生実態調査

資料「大田区に住み続けたいと思いますか。」（外国人にアンケート）



資料「大田区多文化共生実態調査」(外国人にアンケート)

- ・住まいを探したり、住んだ後で困ったことがありますか。(入居を断られる33.5%、保証人が見つからない22.8%)
- ・病院に利用する際に困ったことや不満に思ったことがありますか。(症状を伝えられない22.8%・どの病院に行けばいいのか分からない19.2%)
- ・大田区役所に対してどのようなサービスを望みますか。(子どもの教育支援34.9%、行政情報の多言語33.0%)
- ・地震などの災害が起きた時、あなたは何が心配ですか。
(家族の無事71.1%、避難場所が分からない32.6%)

第9時の資料（まとめる）

◆大田区の人々は、外国の人々と共によりよく過ごすために、どのようなまちづくりを進めているのだろう。

資料【OTAふれあいフェスタ（大田区HP）】



【特区民泊の利用】

ホテルだけでは対応できない外国人宿泊客に対し一般の住宅地に滞在し、日本の生活や文化をより身近に感じることができる仕組み（大田区が国から特別に認められている。）

A 外国人旅行者への対応

- 大田区・地域住民の取組
- ・特区民泊の利用
- ・大田区ウェルカムショップ

【大田区ウェルカムショップ】

外国人旅行者等の受け入れに積極的又は今後受け入れる意思がある店舗・施設で、区から提供する支援メニューを活用して、外国人旅行者等に接客、サービス提供等を実施する店舗・施設。

【指導上の留意点】

大田区の学習に終わらず、自分たちの住んでいる区市町村と比較しながら、東京都の特色をとらえることができるようにする。

B 在住外国人への対応

- 大田区・国際都市おおた協会の取組
- ・実態調査(※上記資料参照)
- ・「OTAふれあいフェスタ」の開催
- ・防災訓練
- ・各種相談、通訳・翻訳
- ・日本語教室の開催
- ・各国際交流団体の活動支援
- ・来～る大田区大使の指名
- ・「くらしガイド」外国語版の配布

【まとめ】

大田区では、外国人と共に過ごすために、区、NGOやボランティア団体、地域の人が協力して国際交流を進め、国際都市を目指したまちづくりをしている。
→大田区は、平成29年3月に「国際都市おおた宣言」をした。

【お願い】 大田区への取材集中が予想されるため、「大田区報」やHP等の資料をご活用ください。

小単元名	世界とつながる八王子市	配当 10時間	内容 (5) アの(ア)及び(イ)とイの(イ)
------	-------------	---------	-------------------------

<主として「地理的環境と人々の生活」の区分>

1 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 小単元の目標

国際交流に取り組んでいる八王子市について、位置や、国際交流活動及びその背景、人々の協力関係などに着目して、地図帳や各種の資料、ホームページなどで調べ、文章に記述したり、新聞などにまとめたりして地域の様子を捉え、八王子市の特色を考え、表現することを通して、八王子市では人々が協力し、多文化共生社会をめざしたまちづくりをしていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

(2) 小単元の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①八王子市の位置、国際交流活動及びその背景、人々の協力関係などについて、地図帳や各種の資料などで調べて、必要な情報を集め、読み取り、国際交流に取り組んでいる八王子市の様子を理解している。 ②調べたことを文章に記述したり、新聞などにまとめたりして、八王子市では人々が協力し多文化共生社会をめざしたまちづくりをしていることを理解している。	①八王子市の位置や国際交流活動の背景、人々の協力関係などに着目して問いを見だし、八王子市の様子について、考え表現している。 ②地域の人々の活動と交流の様子を関連付けたり、自分たちの住む地域と比較したりして、国際交流に取り組んでいる八王子市の特色を考え、適切に表現している。	①国際交流に取り組む八王子市について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。

2 指導計画の作成に当たって

(1) 学習指導要領との関連

- ①本小単元は、内容(5)「県内の特色ある地域の様子」に関する内容において、「国際交流に取り組んでいる地域」の事例として、大学や日本語学校への留学生の割合が高く、外国人市民の人口が増加しており、多文化共生のまちづくりをめざし、特色ある対応や交流活動を進めている八王子市を取り上げた。
- ②内容の取扱い(4)ウで示された「我が国や外国には国旗があることを理解し、それを尊重する態度を養うよう配慮する」ことについては、外国を取り上げる際、地図や地球儀を活用して国の位置を確認するとともに、それらの国旗を示して指導する。

(2) 教材や資料の工夫

- ①「つかむ」段階では、八王子国際フェスティバルや八王子まつりでの交流の様子や、八王子市内の外国人人口の推移を提示し、社会的な見方・考え方(位置や空間的な広がり、時期や時間の経過)を働かせながら、外国人と共に過ごすためのまちづくりについて関心をもつことができるようにする。
 - ②八王子市の地域住民が外国人と共に実施した防災訓練と「八王子市多文化共生推進プラン」に記述されている推進施策3本の柱(①コミュニケーション支援の充実 ②生活支援の充実 ③多文化共生の理解を深める)から学習問題をつくり、「人々の協力関係」に着目して、行政を中心とした外国人と共生するための取組の様子やその意味を捉えることができるようにする。
- ▶八王子市役所ホームページ 多文化共生推進課のページから「八王子市多文化共生推進プラン」をダウンロード可能。他に「ともに、このまちで。」というパンフレットにも八王子市の取組が掲載されている。

『八王子市多文化共生推進プラン』

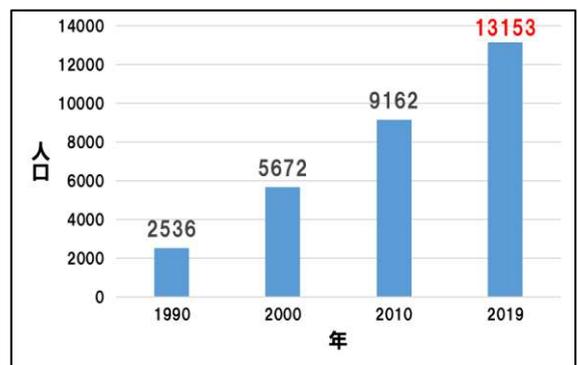
https://www.city.hachioji.tokyo.jp/kurashi/shimin/004/002/tabunkayouseisuisinpuran/p023108_d/fil/planrevision.pdf

『ともに、このまちで。』

https://www.city.hachioji.tokyo.jp/kurashi/shimin/004/kokusaikyoikupuroguramu/p025563_d/fil/tabunkamph.pdf

(3) 学習展開や学習活動の工夫

- ①「しらべる」段階の1、2時間目では、多文化共生社会を目指して八王子市や関係団体がどのような取組をしているか調べていく。その後「教育」、「文化」、「スポーツ」の分野において市民がどのように外国人と交流しているか



▲八王子市の外国人人口の推移

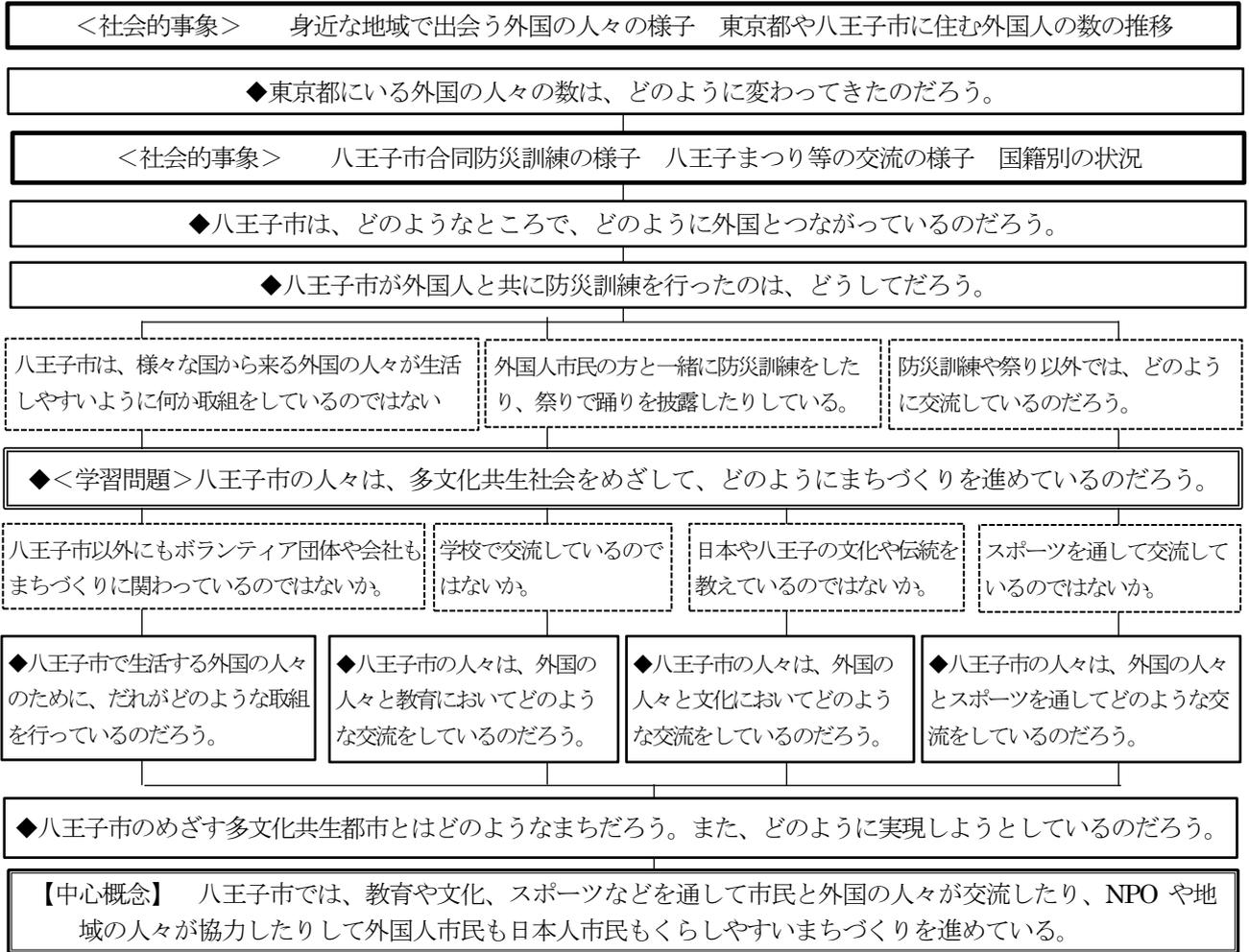
をさらに調べていく。その際、3分野とも「八王子市から外国に出向いて行っている活動」と「八王子市内で行われている活動」の2つの観点から調べていくことで、市や地域住民、NPO、地域に住む外国人等の協力関係や双方向の取組をしていることを多角的に考えられるようにする。

②「まとめる」段階では、

観光振興や多文化共生をめざす様々な立場の人たちの取組を文章や図で整理して新聞にまとめるとともに、学習問題に対する自分の考えをもつことができるようにする。

分野	八王子→外国	外国→八王子
教育	八王子市国際交流フレンド (台湾・高雄市訪問)	留学生 (小中学校へのゲストティーチャー)
文化	高雄ランタンフェスティバル参加	八王子まつり参加
スポーツ	青少年バスケットボール交流	クライミング世界大会

(4) 問いの構成の工夫



(5) 評価の工夫

「まとめる」段階では、調べたことを基に学習問題について分かったことや考えたことを新聞にまとめる場面で「思考・判断・表現」と「知識・技能」の観点で評価する。八王子市のまちづくりにおける特色については、八王子市や関係団体の関連だけでなく、自分たちの住む地域のまちづくりとも比較させたい。そこで、新聞にまとめる前に「自分たちの住んでいるまちの多文化共生社会への取組」を知る時間を設けることで共通点や相違点を見つけ、八王子市と自分たちの住んでいるまちの取組を比較できるようにする。

その上で、新聞記事の記述内容（見出しや文章、図など）から「思考・判断・表現」の観点である「調べた事実を関連付けたり、自分たちの住む地域と比較したりしながら国際交流に取組む八王子市のまちづくりの特色を考えているか」を評価する。

また、紙面に「編集後記」欄を設け、学習問題に対するまとめを記述させ、その内容から「知識・技能」の観点について「八王子市では人々が協力し多文化共生社会をめざしたまちづくりをしていることを理解しているか」を評価する。その際、どのような事実に基づき、そのことを考えたのか、根拠や具体例を挙げてまとめるように助言し、一人ひとりの理解の状況を的確に捉えられるようにする。

3 小単元の指導計画 (10時間扱い)

過程	ねらい ○数字は第○時を表す)	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される子供の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点○資料☆★評価【観点】)
つ か	①東京都に住む外国人の数や共に生活する様子について調べ、東京都では外国人の人々と共に生活していることや、都内の外国人が増加し続けていることを理解できるようにする。	○都内で外国人の人々と出会った経験等について話し合う。 ◆東京都にいる外国人の数、どのように変わっているのだろう。 ○東京都を訪れたり在住したりしている外国人の数やその変化を調べる。 ・在住は約55万人。約40年間で5倍に増加。 ○外国人の人々が働いている様子の写真を見て、仕事や生活などの様々な問題に直面する例について話し合う。 ・言葉が通じなくて困ることがありそう。 ○外国人人口が増えている背景等について話し合う。 ・日本の人口減少。日本で仕事をしに来る。 ・なにか外国人と協力して取り組んでいることがあるかもしれない。	○都内で観光や生活、仕事をしている外国人の写真、都内在住の外国人数の推のグラフ □都内で外国の方に出会った経験や、関わった経験を想起させ、交流や生活について関心や問題意識を高める。 ☆発言や記述から「必要な情報を集め、読み取り、東京都に住む外国人数の推移を読み取り、東京都では、多くの外国人の人々が共に生活していることを理解しているか」を評価する。【知①】
	②八王子市に住む外国人数や推移を調べ、その様子を理解する。	○国際交流フェスティバルや八王子まつりの写真を見て、気付いたことを話し合う。 ・日本の祭で外国人の人々が歌や踊りを披露している。 ◆八王子市は、どのようなところで、どのように外国とつながっているのだろう。 ○八王子市の概要や、市内に住む外国人数の推移を調べる。 ・東京都の西側に位置し、山が多い。 ・八王子市内には大学がたくさんある。 ・八王子市に住む外国人の数は年々増えている。 ・4つの都市と海外友好交流都市の関係にある。 ○八王子市がどのように外国とつながっているか予想する。 ・観光だけでなく、仕事の面でもつながっていると思う。 ・海外友好都市に住む人たちと交流している。	○国際交流フェスティバルや八王子まつりの様子、東京都の地図、八王子市に住む外国人数の変化のグラフ、市内在住外国人の国籍別の割合、市内の大学分布図、海外友好交流都市、世界地図 ☆発言や記述から「必要な情報を集め、読み取り、八王子市に住む外国人が大きく増えていることを理解しているか」を評価する。【知①】
む	③多文化共生をめざす八王子市のまちづくりについて学習問題をつくり、学習計画を立てる。	○外国人が参加した防災訓練の写真から気付いたことを発表する。 ◆八王子市が外国人と共に防災訓練を行ったのはどうしてだろう。 ○外国人市民にも防災訓練への参加を呼びかけたことについて話し合う。 ・外国人の人々も八王子市の一員であり、八王子市に住み続けようとしているから ○八王子市多文化共生推進プランの施策3本の柱を読み、八王子市のまちづくりの様子について学習問題をつくる。 ・共同防災訓練もこのプランと関係がありそうだ。 ・日本も外国の人も認め合い、助け合うまちをめざしている。八王子市は、どのようなことをしているのか。	○防災訓練の様子 ○八王子市多文化共生推進プラン □推進プランは必要な部分を抜粋したり難しい言葉は解説したりする。 ☆発言や記述から「八王子市の位置や国際交流活動の背景、人々の協力関係などに着目して問いを見いだしているか」を評価する。【思①】
		八王子市の人々は、多文化共生社会をめざして、どのようにまちづくりを進めているのだろう。 ○学習問題について予想をし、それを基に学習計画を立てる。 ・八王子市以外にもボランティア団体や会社もまちづくりに関わっているのではないかな。→取り組む人々 ・学校で交流しているのではないかな。→教育 ・日本や八王子の文化や伝統を教えているのではないかな。→文化 ・スポーツを通して交流しているのではないかな。→スポーツ	★発言や記述から「国際交流に取り組む八王子市について、予想や学習計画を立て、追究の見通しをもっているか」を評価する。【態①】
し ら べ る	④在住外国人が安心して生活できるようにするための八王子市役所の取組を調べ、理解できるようにする。	◆八王子市では、外国人の人々のために、どのような取組をしているのだろう。 ○資料を読み取り八王子市の取組について調べる。 ・多言語の広報やハザードマップを発行して、情報を伝えている。 ○それぞれの取り組みの目的を話し合う。 ・外国人の人々が安心して八王子市に住めるため。	○多言語で発行されている広報やハザードマップ、多言語のメール配信サービス、外国人サポートデスク ☆発言や記述から「必要な情報を集め、読み取り、国際交流において八王子市役所が取り組んでいることを理解しているか」を評価する。【知①】

し ら	<p>⑤在住外国人が安心して生活できるようにするための関係機関の取組を調べ、関係諸機関の連携の様子について考え表現できるようにする。</p>	<p>◆市役所以外に外国の人々のために、だれが、どのような取組をしているのだろうか。</p> <p>○資料を読み取り、八王子市役所以外に外国の人々のために活動している団体があるのか、またどのような取組をしているか調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・八王子国際協会では、外国の人々の相談このっている。 ・八王子にほんごの会では、外国の人々に日本語を教えている。 <p>○八王子市と各団体の役割や関係について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市と関係の団体が協力して外国の人々が王子市に住みやすくなるような取組をしている。 <p>○これまでの追究を振り返り、今後の学習計画について話し合う。</p>	<p>◎八王子国際協会の取組</p> <p>◎八王子にほんごの会の取組</p> <p>□提示する資料の中に八王子市のHPで各団体の活動を紹介していることを入れ、関係機関が連携していることを捉えさせる。</p> <p>☆発言や記述から「八王子市と関係機関の取組を比較したり、関連付けたりしながらそれぞれの役割や連携の様子を考え、表現しているか」を評価する。【思①】</p> <p>★発言や記述から「自分の学習を振り返り、今後の学習計画を見直しているか」を評価する。【態①】</p>
べ る	<p>⑥八王子市の人々が教育において、どのように交流し多文化共生社会を目指しているかを調べ、理解できるようにする。</p>	<p>◆八王子市の人々は、教育において外国の人々とどのような交流をしているのだろうか。</p> <p>○教育における交流について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外友好交流都市の高雄市の学校に訪問して一緒に授業を受けたり、給食を食べたりしている。 ・留学生が八王子市内の小学校を訪問し自国の言葉や文化を伝えている。 <p>○それぞれの交流の共通点を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際にそれぞれの国へ行き、一緒に活動している。それによりお互いの仲を深めることができる。 	<p>◎八王子国際交流フレンド</p> <p>◎留学生の小学校へのゲストティーチャー</p> <p>□双方向のやりとりであることを捉えさせる。</p> <p>☆発言や記述から「必要な情報を集め、読み取り、八王子市では教育において外国との相互交流を行っていることを理解しているか」を評価する。【知①】</p>
	<p>⑦八王子市の人々が文化において、どのように交流し多文化共生社会を目指しているかを調べ、理解できるようにする。</p>	<p>◆八王子市の人々は、文化において外国の人々とどのような交流をしているのだろうか。</p> <p>○文化における交流について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外友好交流都市の高雄市の高雄ランタンフェスティバルに参加し、日本の踊りを披露している。 ・八王子まつりで、台湾の民族舞踊を披露している。 <p>○それぞれの交流の共通点を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの国のお祭りに参加し、自分たちの国の伝統的な踊りを見せることでお互いの仲を深めている。 	<p>◎高雄ランタンフェスティバル</p> <p>◎八王子まつり</p> <p>□双方向のやりとりであることを捉えさせる。</p> <p>☆発言や記述から「必要な情報を集め、読み取り、八王子市では文化においても外国との相互交流に取り組んでいることを理解しているか」を評価する。【知①】</p>
	<p>⑧八王子市の人々がスポーツにおいて、どのように交流し多文化共生社会を目指しているかを調べ、理解できるようにする。</p>	<p>◆八王子市の人々は、スポーツにおいて外国の人々とどのような交流をしているのだろうか。</p> <p>○スポーツにおける交流について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バスケットボールの試合をしたり、お菓子を一緒に作ったりして交流している。 ・大会期間中に「浴衣着付け体験」などを開き、会場内で日本や八王子の伝統を伝えている。 <p>○それぞれの交流の共通点を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一緒にスポーツをしたり、体験活動をしたりして、お互いが楽しめる工夫をしている。 	<p>◎青少年バスケットボール交流</p> <p>◎クライミング世界大会</p> <p>□双方向のやりとりであることを捉えさせる。</p> <p>☆発言や記述から「必要な情報を集め、読み取り、八王子市ではスポーツにおいても外国との相互交流に取り組んでいる八王子市の様子を理解しているか」を評価する。【知①】</p>
ま と め る	<p>⑨⑩調べてきたことを新聞にまとめることを通して、多文化共生を目指す八王子市と関係機関の協力連携について考え、八王子市は人々が協力してまちづくりを進めていることを理解できるようにする。</p>	<p>◆八王子市のめざす多文化共生都市とはどのようなまちだろう。また、どのように実現しようとしているのだろうか。</p> <p>○自分たちの住む地域の取組を調べる。</p> <p>○自分たちの住む地域の取組と比較しながら、八王子市のめざす多文化共生社会やその取組について話し合う。</p> <p>○学習してきたことを図や文章にして新聞にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「編集後記」の欄を設け、学習問題に対する自分のまとめと、考えを書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>八王子市では、教育や文化を通して市民と外国人市民が交流したり、NPOや地域の人々が協力したりして外国人市民も日本人市民も暮らしやすいまちづくりを進めている。私たちの住むまちでも、〇〇においては同じ内容の取組をしていた。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な人たちが様々な面で助け合ったり、理解し合ったりしているところがすばらしいと思った。自分も、地域の外国の方と交流をしていきたい。 <p>○完成した新聞を読み合い、感想を伝え合う。</p>	<p>◎自分たちの住む地域の取組</p> <p>★新聞の記述内容から「地域での活動状況と人々の取組を関連付けたり、自分たちの住む地域と比較したりして、国際交流に取り組んでいる八王子市の特色を考え、適切に表現しているか」を評価する。【思②】</p> <p>★新聞の記述内容から「八王子市では人々が協力し多文化共生社会をめざしたまちづくりをしていることを理解しているか」を評価する。【知②】</p>

東京都小学校社会科研究会

社会科指導計画（第一次 平成30年2月発行）

作成委員名簿

会 長	月岡 正明（世田谷区立等々力小学校長）
委員長	吉村 潔（世田谷区立烏山北小学校長）
副委員長	吉藤 玲子（台東区立忍岡小学校長）
副会長	駒野真理子（葛飾区立柴又小学校長） 不破 純一（小金井市立東小学校長）

● 3年部会 ●

職層	名 前	所属校
校長	佐藤 民男	中野区立美鳩小学校
校長	柿崎 洋一	日の出町立平井小学校
校長	奥澤 弘子	江戸川区立大杉第二小学校
指導教諭	田辺留美子	葛飾区立上小松小学校
主幹教諭	和知奈穂子	世田谷区立三軒茶屋小学校
主任教諭	池田 豊一	多摩市立多摩第二小学校
主任教諭	梅木真由美	中野区立中野本郷小学校
主任教諭	大野 拓哉	武蔵村山市立第九小学校
主任教諭	川崎 義人	中央区立明石小学校
主任教諭	三木田 誠	杉並区立沓掛小学校
主任教諭	渡辺 智史	板橋区立志村第一小学校

● 4年部会 ●

職層	名 前	所属校
校長	和田 幹夫	豊島区立池袋第三小学校
校長	杉渕 尚	中野区立新井小学校
校長	佐藤 門太	清瀬市立清瀬第八学校
副校長	神尾 健彦	日の出町立平井小学校
副校長	吉野 元也	大田区立糞谷小学校
主幹教諭	桑畑 大樹	品川区立城南小学校
主幹教諭	射水 博子	大田区立洗足池小学校
主任教諭	木本 武志	板橋区立板橋第十小学校
教諭	内藤 俊介	小金井市立小金井第一小学校
教諭	長久保良太	江東区立南陽小学校

● 5年部会 ●

職層	名 前	所属校
校長	石井 正広	町田市立大蔵小学校
校長	斎藤幸之介	港区立芝小学校
校長	加藤 雅弘	足立区立中川小学校
校長	村松 良臣	北区立豊川小学校
校長	小澤 伸生	杉並区立井荻小学校
指導教諭	横田 富信	世田谷区立経堂小学校
主任教諭	岩森 一弥	北区立王子第三小学校
主任教諭	三浦 哲	杉並区立新泉和泉小学校
主任教諭	笠原 駿	中野区立江古田小学校
主任教諭	佐藤 智彦	世田谷区立経堂小学校
主任教諭	草薨堅太郎	世田谷区立瀬田小学校
教諭	寺本 大一	文京区立本郷小学校

● 6年部会 ●

職層	名 前	所属校
校長	浅野 正道	あきる野市立草花小学校
校長	星崎 誠	足立区立亀田小学校
校長	三好 浩一	町田市立藤の台小学校
主幹教諭	田内 利美	世田谷区立北沢小学校
主幹教諭	川嶋 美武	千代田区立和泉小学校
主幹教諭	野間啓二郎	江東区立豊洲北小学校
主任教諭	櫻井 正義	東久留米市立本村小学校
主任教諭	小甲 圭悟	世田谷区立等々力小学校
主任教諭	大滝 淳子	中野区立桃園小学校
主任教諭	山家 哲雄	世田谷区立三宿小学校
教諭	桑島 孝博	板橋区立下赤塚小学校

（※ 所属や職名等は、発行当時のものです。）

東京都小学校社会科研究会

社会科指導計画（第二次 平成31年2月発行）

作成委員名簿

会 長	吉村 潔（世田谷区立烏山北小学校長）
委員長	吉藤 玲子（台東区立忍岡小学校長）
副委員長	和田 幹夫（豊島区立池袋第三小学校長）
副会長	不破 淳一（小金井市立東小学校長）
	和田 敏郎（江戸川区立本一色小学校長）

● 3年部会 ●

職層	名 前	所属校
校長	佐藤 民男	中野区立美鳩小学校
校長	柿崎 洋一	日の出町立平井小学校
主幹教諭	和知奈穂子	中野区立新井小学校
主任教諭	梅木真由美	中野区立中野本郷小学校

● 4年部会 ●

職層	名 前	所属校
校長	矢部 洋一	品川区立小山台小学校
主幹教諭	栗原由紀子	小平市立小平第六小学校
主幹教諭	田内 利美	世田谷区立等々力小学校
主幹教諭	桑畑 大樹	世田谷区立瀬田小学校
主任教諭	木本 武志	板橋区立板橋第十小学校
主任教諭	山家 哲雄	世田谷区立三宿小学校
主任教諭	桑島 孝博	板橋区立下赤塚小学校
教諭	岡本 祥歩	杉並区立荻窪小学校

● 5年部会 ●

職層	名 前	所属校
校長	石井 正広	新宿区立四谷小学校
校長	村松 良臣	北区立豊川小学校
主任教諭	三浦 哲	杉並区立新泉和泉小学校
主任教諭	寺本 大一	文京区立本郷小学校

● 6年部会 ●

職層	名 前	所属校
校長	浅野 正道	あきる野市立草花小学校
校長	中嶋 太	青梅市立第五小学校
主幹教諭	川嶋 美武	千代田区立和泉小学校
主任教諭	小甲 圭悟	世田谷区立等々力小学校

（※ 所属や職名等は、発行当時のものです。）

東京都小学校社会科研究会

社会科指導計画（第三次 令和2年2月発行）

作成委員名簿

会 長	吉村 潔（世田谷区立烏山北小学校長）
委員長	吉藤 玲子（台東区立忍岡小学校長）
副委員長	和田 幹夫（板橋区立高島第六小学校長）
副会長	和田 敏郎（江戸川区立本一色小学校長）
	森 清隆（青梅市立霞台小学校長）

● 3年部会 ●

職層	名 前	所属校
校長	佐藤 民男	中野区立美鳩小学校
校長	柿崎 洋一	日の出町立平井小学校
主幹教諭	和知奈穂子	中野区立新井小学校
主任教諭	梅木真由美	中野区立中野本郷小学校

● 4年部会 ●

職層	名 前	所属校
校長	相原 雄三	文京区立関口台町小学校
校長	新貝 朗	江東区立第二辰巳小学校
校長	増田 亮	小金井市立小金井第三小学校
校長	内井 利樹	府中市立府中第十小学校
主幹教諭	栗原由紀子	小平市立小平第六小学校
主任教諭	木本 武志	中野区立新井小学校
主任教諭	山家 哲雄	世田谷区立烏山北小学校
主任教諭	名取 慶	世田谷区立烏山北小学校
主幹教諭	桑畑 大樹	世田谷区立瀬田小学校
主任教諭	遠藤 拓朗	中野区立塔山小学校

● 5年部会 ●

職層	名 前	所属校
校長	石井 正広	新宿区立四谷小学校
校長	村松 良臣	北区立豊川小学校
指導教諭	寺本 大一	文京区立本郷小学校
主任教諭	三浦 哲	杉並区立新泉和泉小学校

● 6年部会 ●

職層	名 前	所属校
校長	中嶋 太	青梅市立第五小学校
校長	小須田哲史	東大和市立第九小学校
指導教諭	横田 富信	世田谷区立経堂小学校
主任教諭	小甲 圭悟	世田谷区立等々力小学校

（※ 所属や職名等は、発行当時のものです。）

東京都小学校社会科研究会
社会科指導計画（第四次 令和4年2月発行）
作成委員名簿

会 長 吉藤 玲子（台東区立忍岡小学校長）
 委員長 和田 幹夫（板橋区立上板橋第四小学校長）
 副委員長 浅野 正道（小金井市立小金井第一小学校長） 石井 正広（新宿区立四谷小学校長）
 副会長 西脇 裕高（杉並区立荻窪小学校長）
 役 員 森 清隆（府中市立府中第三小学校長） 奥澤 弘子（江戸川区立大杉第二小学校長）
 亀山 桂子（三鷹市立羽沢小学校長） 不破 淳一（小金井市立本町小学校長）
 赤尾 眞司（練馬区立石神井東小学校長） 和田 敏郎（江戸川区立本一色小学校長）
 加藤 雅弘（足立区立皿沼小学校長） 佐藤 民男（中野区立美鳩小学校長）
 寺本 喜和（調布市立上ノ原小学校長）

● 3年部会 ●

職層	名 前	所属校
校 長	向井 一郎	墨田区立立花吾孺の森小学校
校 長	木下健太郎	町田市立南成瀬小学校
主幹教諭	田辺留美子	葛飾区立上小松小学校
主幹教諭	大野 拓哉	武蔵村山市立第九小学校
主任教諭	近藤 直大	荒川区立ひぐらし小学校
主任教諭	北形 好子	清瀬市立清瀬第三小学校
教 諭	小場 俊夫	目黒区立八雲小学校
教 諭	長坂光一郎	世田谷区立烏山小学校
教 諭	清田 昌弘	中野区立美鳩小学校
教 諭	山野邊雅人	東久留米市立第九小学校

● 4年部会 ●

職層	名 前	所属校
校 長	新貝 朗	江東区立第二辰巳小学校
校 長	児玉 大祐	中央区立日本橋小学校
校 長	神尾 健彦	青梅市立今井小学校
主幹教諭	楠 暁	台東区立忍岡小学校
主幹教諭	桑島 孝博	板橋区立下赤塚小学校
主幹教諭	高橋 陵	足立区立栗原小学校
主任教諭	小松 里美	新宿区立四谷小学校
主任教諭	柿沼 志保	江東区立第二辰巳小学校
主任教諭	吉岡 泰志	世田谷区立経堂小学校
主任教諭	名取 慶	世田谷区立烏山北小学校
主任教諭	渡辺 大介	世田谷区立烏山北小学校
主任教諭	樋口のぞみ	北区立王子小学校
主任教諭	笠原 駿	小金井市立小金井第一小学校
主任教諭	荒井 秀人	小金井市立小金井第一小学校
教 諭	福島 翔太	品川区立中延小学校
教 諭	塚田 祥歩	杉並区立荻窪小学校

● 5年部会 ●

職層	名 前	所属校
校 長	内井 利樹	府中市立府中第十小学校
校 長	栗林 大輔	世田谷区立明正小学校
主幹教諭	沢畑 慶介	江東区立越中島小学校
主幹教諭	草薨堅太郎	世田谷区立瀬田小学校
指導教諭	寺本 大一	文京区立本郷小学校
主任教諭	杉本 季穂	大田区立赤松小学校
主任教諭	小田 克哉	世田谷区立赤堤小学校
主任教諭	渡辺 大介	世田谷区立烏山北小学校
主任教諭	後藤 亮	渋谷区立代々木山谷小学校
主任教諭	三浦 哲	杉並区立桃井第四小学校
主任教諭	染谷 恭平	調布市立杉森小学校
教 諭	平岡秀太郎	大田区立雪谷小学校

● 6年部会 ●

職層	名 前	所属校
校 長	中嶋 太	西東京市立碧山小学校
校 長	島川 浩一	練馬区立大泉第二小学校
校 長	芝田 智昭	荒川区立尾久西小学校
主幹教諭	高橋 宏和	足立区立西伊興小学校
指導教諭	嵐 元秀	練馬区立大泉第二小学校
主任教諭	山口 孝	千代田区立番町小学校
主任教諭	内藤 良英	太田区立西六郷小学校
主任教諭	山家 哲雄	世田谷区立烏山北小学校
主任教諭	下楠菌達也	杉並区立荻窪小学校
主任教諭	小甲 圭吾	北区立王子小学校
主任教諭	鈴木 雄士	練馬区立石神井東小学校
主任教諭	仲 純平	西東京市立東伏見小学校
教 諭	鈴木 芳実	世田谷区立多聞小学校
教 諭	西村 悠樹	練馬区立大泉小学校

(※ 所属や職名等は、発行当時のものです。)

東京都小学校社会科研究会
社会科指導計画（第五次 令和5年11月発行）

改訂委員名簿

会 長	和田 幹夫（板橋区立上板橋第四小学校長）
委員長	浅野 正道（小金井市立小金井第一小学校長）
委 員	木下健太郎（町田市立南成瀬小学校長 ※令和4年度）
	神尾 健彦（青梅市立今井小学校長）
	内井 利樹（府中市立小柳小学校長）
	島川 浩一（練馬区立大泉第二小学校長）